

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	環境特講A	1学期	1	2	
	SPL102F 休講	1年			
	環境特講B (現代社会とエシカル消費)	1学期	1	2	1
	SPL202F 大平 剛	1年			
	環境都市としての北九州	2学期	1	2	2
	ENV001F 日高 京子 他	1年			
	生命と環境	1学期	1	2	3
	BIO100F 日高 京子 他	1年			
	環境問題概論	1学期	1	2	4
	ENV100F 廣川 祐司	1年			
	未来を創る環境技術	1学期	1	2	5
	ENV003F 上江洲 一也 他	1年			
	動物のみかた	2学期	1	2	6
	ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	1年			
自然学のまなざし	1学期	1	2	7	
ENV002F 竹川 大介 他	1年				
生命科学入門	2学期	1	2	8	
BIO200F 日高 京子	1年				
環境ESD入門	2学期	1	2	9	
ENV102F 石川 敬之	1年				
■世界(地球)科目	世界(地球)特講A(テロリズム論)	1学期	1	2	10
	SPL103F 戸蔭 仁司	1年			
	世界(地球)特講B	2学期	1	2	
	SPL203F 休講	1年			
	韓国の社会と文化	2学期	1	2	11
	ARE010F 休講	1年			
国際学入門	2学期	1	2	12	
IRL110F 伊野 憲治	1年				
安全保障論	2学期	1	2	13	
PLS111F 戸蔭 仁司	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	現代の国際情勢 IRL003F 北 美幸 他	1学期	1	2	14
	1年				
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	15
	1年				
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	16
	1年				
	近代史入門 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	17
	1年				
	Japanese Culture and Society ARE221F ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	18
	2年				
English Speaking Cultures and Societies ARE231F ローズマリー・リーダー	2学期	2	2	19	
2年					
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	20	
2年					
可能性としての歴史 HIS200F 藤田 俊	1学期	2	2	21	
2年					
■知の技法科目	アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) GES102F 中尾 泰士	2学期	1	2	22
	1年				
	アカデミック・スキルズII GES102F 休講 (浅羽 修丈)	2学期	1	2	
	1年				
	アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	23
	1年				
	アカデミック・スキルズII (安全保障を哲学する) GES102F 休講	2学期	1	2	
	1年				
アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) GES102F 永末 康介	2学期	1	2	24	
1年					
アカデミック・スキルズII (教養を磨く『新聞のちから』) GES102F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介	2学期	1	2		
1年					
アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対 GES102F 高木 駿	2学期	1	2	25	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	知の技法特講A SPL104F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	知の技法特講B SPL204F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	26
	1年				
	法への誘い LAW001F 中村 英樹 他	2学期	1	2	27
	1年				
	コンピュータリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	28
	1年				
データ分析 INF201F 浅羽 修丈	1学期/2学期	2	2	29	
2年					
データ分析 INF201F 佐藤 貴之	2学期	2	2	30	
2年					
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	31
	群1 - 1				
	アカデミック・スキルズI GES101F 永末 康介	1学期	1	2	32
	群1 - 2				
	アカデミック・スキルズI GES101F 永末 康介	1学期	1	2	33
	群1 - 3				
	アカデミック・スキルズI GES101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	34
	1学期未修得者再履				
	知の創造特講A SPL105F 休講	1学期	1	2	
	1年				
知の創造特講B (戦後の日本経済) SPL205F 土井 徹平	2学期	1	2	35	
1年					
社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	36	
1年					
ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	37	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	現代人のこころ PSY003F 松本 亜紀 他	1学期	1	2	38
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	39
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	40
	1年				
	社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	41
	1年				
	文化を読む LIT001F 真鍋 昌賢 他	1学期	1	2	42
	1年				
	芸術と人間 PHR006F 真武 真喜子	2学期	1	2	43
	1年				
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	44
	1年				
情報表現 INF230F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	45	
1年					
倫理思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	46	
1年					
言語・認知・コミュニケーション LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	47	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蔭 仁司	2学期	2	2	48	
2年					
■共生と協働科目	共生と協働特講A SPL106F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	共生と協働特講B SPL206F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	49
1年					
人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	50	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	ジェンダー論 GEN001F カ武 由美	1学期	1	2	51
		1年			
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	52
		1年			
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	53
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	54
		1年			
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	55
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	56
		1年			
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	57
		2年			
	基盤演習I (防衛セミナー) GES201F 休講 (戸蒔 仁司)	1学期	2	2	
		2年			
	基盤演習I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	58
		2年			
	基盤演習I GES201F 休講 (浅羽 修丈)	1学期	2	2	
		2年			
基盤演習I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	59	
	2年				
基盤演習II (文化論セミナー) GES202F 休講 (神原 ゆうこ)	2学期	2	2		
	2年				
基盤演習II (防衛セミナー) GES202F 休講 (戸蒔 仁司)	集中	2	2		
	2年				
基盤演習II GES202F 休講 (浅羽 修丈)	2学期	2	2		
	2年				
基盤演習II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	60	
	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	基盤力応用 (地域課題解決のためのICT活用) GES301F 浅羽 修丈	2学期	3	2	61
		3年			
	基盤力応用 (政治的暴力<応用編>) GES301F 戸蒔 仁司	2学期	3	2	62
		3年			
■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講A (税理士による租税講座) SPL107F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	63
		1年			
	ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) SPL207F 友松 史子	集中	1	2	64
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	65
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	66
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	67
		1年			
	メンタル・ヘルス PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	68
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	69
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	70
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	71
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	72
		1年			
フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	73	
	1年				
フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	74	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	75	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	76
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	77
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	78
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 梨羽 茂	1学期	1	1	79
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	80
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 下釜 純子	1学期	1	1	81
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	82
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	83
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	84
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	85
		1年			
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	86	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 仲里 清	2学期	1	1	87	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	88	
	1年				
世界での学び方 CAR001F 二宮 正人 他	1学期/2学期	1	2	89	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	90	
	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	企業・団体の課題解決 CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	91
		2年			
■地域科目	地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) ■日本新聞社、基盤教育センター 稲月正、外国語学部 中野博文	1学期	1	2	92
		1年			
	地域特講B (Innovation and Regional Development) SPL201F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	2	93
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	94
		1年			
	地域の社会と経済 ECN170F 李 錦東	1学期	1	2	95
		1年			
	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	96
		1年			
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期	1	2	97
		1年			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	1	2	98
		1年			
	地域と国際 RDE003F 吉村 英俊	1学期	1	2	99
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	100
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 休講	1学期	1	2	101
		1年			
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	102
		2年			
	まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	103
		2年			
	まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	104
		3年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (律政群 1 - A) ENG101F 伊藤 晃	1学期	1	1	105
		律政群 1 - A			

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (律政群 1-B)		1学期	1	1	103
	ENG101F	葛西 宏信	律政群 1 - B			
	Communicative English I (律政群 1-C)		1学期	1	1	104
	ENG101F	永末 康介	律政群 1 - C			
	Communicative English I (律政群 1-D)		1学期	1	1	105
	ENG101F	船方 浩子	律政群 1 - D			
	Communicative English I (律政群 1-E)		1学期	1	1	106
	ENG101F	木梨 安子	律政群 1 - E			
	Communicative English I (律政群 1-F)		1学期	1	1	107
	ENG101F	團迫 雅彦	律政群 1 - F			
	Communicative English I (律政群 1-G)		1学期	1	1	108
	ENG101F	伊藤 晃	律政群 1 - G			
	Communicative English I (律政群 1-H)		1学期	1	1	109
	ENG101F	船方 浩子	律政群 1 - H			
	Communicative English I (律政群 1-I)		1学期	1	1	110
	ENG101F	酒井 秀子	律政群 1 - I			
	Communicative English II (律政群 1-A)		2学期	1	1	111
ENG111F	相原 信彦	律政群 1 - A				
Communicative English II (律政群 1-B)		2学期	1	1	112	
ENG111F	永末 康介	律政群 1 - B				
Communicative English II (律政群 1-C)		2学期	1	1	113	
ENG111F	葛西 宏信	律政群 1 - C				
Communicative English II (律政群 1-D)		2学期	1	1	114	
ENG111F	伊藤 晃	律政群 1 - D				
Communicative English II (律政群 1-E)		2学期	1	1	115	
ENG111F	伊藤 晃	律政群 1 - E				
Communicative English II (律政群 1-F)		2学期	1	1	116	
ENG111F	船方 浩子	律政群 1 - F				
Communicative English II (律政群 1-G)		2学期	1	1	117	
ENG111F	團迫 雅彦	律政群 1 - G				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English II (律政群 1-H) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	118
		律政群 1 - H			
	Communicative English II (律政群 1-I) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	119
		律政群 1 - I			
	Communicative English III (律政群 1-E) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	120
		律政群 1 - E			
	Communicative English III (律政群 1-F) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	121
		律政群 1 - F			
	Communicative English III (律政群 1-G) ENG102F クリステイン・マイスター	1学期	1	1	122
		律政群 1 - G			
	Communicative English III (律政群 1-H) ENG102F マーニー・セイティ	1学期	1	1	123
		律政群 1 - H			
	Communicative English III (律政群 1-I) ENG102F ジェイムズ・ヒックス	1学期	1	1	124
		律政群 1 - I			
	Communicative English III (律政群 1-A) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	125
		律政群 1 - A			
Communicative English III (律政群 1-B) ENG102F アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	126	
	律政群 1 - B				
Communicative English III (律政群 1-C) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	127	
	律政群 1 - C				
Communicative English III (律政群 1-D) ENG102F マーニー・セイティ	1学期	1	1	128	
	律政群 1 - D				
Communicative English IV (律政群 1-E) ENG112F ダニー・ミン	2学期	1	1	129	
	律政群 1 - E				
Communicative English IV (律政群 1-F) ENG112F タッド・ジェイ・レオナルド	2学期	1	1	130	
	律政群 1 - F				
Communicative English IV (律政群 1-G) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	131	
	律政群 1 - G				
Communicative English IV (律政群 1-H) ENG112F ケネス・ギブソン	2学期	1	1	132	
	律政群 1 - H				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English IV (律政群 1-I) ENG112F マーニー・セイテイ	2学期	1	1	133
		律政群 1 - I			
	Communicative English IV (律政群 1-A) ENG112F マーニー・セイテイ	2学期	1	1	134
		律政群 1 - A			
	Communicative English IV (律政群 1-B) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	135
		律政群 1 - B			
	Communicative English IV (律政群 1-C) ENG112F ダニー・ミン	2学期	1	1	136
		律政群 1 - C			
	Communicative English IV (律政群 1-D) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	137
		律政群 1 - D			
	Communicative English V (律政群 2 C-E) ENG201F 大塚 由美子	1学期	2	1	138
		律政群 2 C - E			
	Communicative English V (律政群 2 C-F) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	139
		律政群 2 C - F			
	Communicative English V (律政群 2 C-G) ENG201F 船方 浩子	1学期	2	1	140
		律政群 2 C - G			
	Communicative English V (律政群 2 C-A) ENG201F 漆原 朗子	1学期	2	1	141
	律政群 2 C - A				
Communicative English V (律政群 2 C-B) ENG201F 三宅 啓子	1学期	2	1	142	
	律政群 2 C - B				
Communicative English V (律政群 2 C-C) ENG201F 酒井 秀子	1学期	2	1	143	
	律政群 2 C - C				
Communicative English V (律政群 2 C-D) ENG201F 十時 康	1学期	2	1	144	
	律政群 2 C - D				
Communicative English VI (律政群 2 C-E) ENG211F 安丸 雅子	2学期	2	1	145	
	律政群 2 C - E				
Communicative English VI (律政群 2 C-F) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	146	
	律政群 2 C - F				
Communicative English VI (律政群 2 C-G) ENG211F 酒井 秀子	2学期	2	1	147	
	律政群 2 C - G				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VI (律政群 2 C-A) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	148
		律政群 2 C - A			
	Communicative English VI (律政群 2 C-B) ENG211F 漆原 朗子	2学期	2	1	149
		律政群 2 C - B			
	Communicative English VI (律政群 2 C-C) ENG211F 十時 康	2学期	2	1	150
		律政群 2 C - C			
	Communicative English VI (律政群 2 C-D) ENG211F 木梨 安子	2学期	2	1	151
		律政群 2 C - D			
	Communicative English VII (律政群 2 C-A) ENG202F マーニー・セイティ	1学期	2	1	152
		律政群 2 C - A			
	Communicative English VII (律政群 2 C-B) ENG202F ポール・ガラフ・スティーレル	1学期	2	1	153
		律政群 2 C - B			
	Communicative English VII (律政群 2 C-C) ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	154
		律政群 2 C - C			
	Communicative English VII (律政群 2 C-D) ENG202F マイケル・バーグ	1学期	2	1	155
		律政群 2 C - D			
	Communicative English VII (律政群 2 C-E) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	156
		律政群 2 C - E			
	Communicative English VII (律政群 2 C-F) ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	157
		律政群 2 C - F			
Communicative English VII (律政群 2 C-G) ENG202F ロバート・マーフィ	1学期	2	1	158	
	律政群 2 C - G				
Communicative English VIII (律政群 2 C-A) ENG212F 村田 希巳子	2学期	2	1	159	
	律政群 2 C - A				
Communicative English VIII (律政群 2 C-B) ENG212F 十時 康	2学期	2	1	160	
	律政群 2 C - B				
Communicative English VIII (律政群 2 C-C) ENG212F 三宅 啓子	2学期	2	1	161	
	律政群 2 C - C				
Communicative English VIII (律政群 2 C-D) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	162	
	律政群 2 C - D				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VIII (律政群 2 C-E)	2学期	2	1	163
	ENG212F 酒井 秀子	律政群 2 C - E			
	備考				
	Communicative English VIII (律政群 2 C-F)	2学期	2	1	164
	ENG212F 三宅 啓子	律政群 2 C - F			
	備考				
	Communicative English VIII (律政群 2 C-G)	2学期	2	1	165
	ENG212F 薬師寺 元子	律政群 2 C - G			
	備考				
■第二外国語	中国語I (1 - a)	1学期	1	1	166
	CHN101F 有働 彰子	済営人律政群 1年			
	備考				
	中国語I (1 - b)	1学期	1	1	167
	CHN101F 板谷 俊生	済営人律政群 1年			
	備考				
	中国語II (1 - a)	2学期	1	1	168
	CHN111F 有働 彰子	済営人律政群 1年			
	備考				
	中国語II (1 - b)	2学期	1	1	169
	CHN111F 板谷 俊生	済営人律政群 1年			
	備考				
	中国語III (1 - a)	1学期	1	1	170
	CHN102F 艾文婷	済営人律政群 1年			
	備考				
	中国語III (1 - b)	1学期	1	1	171
	CHN102F 于 佳	済営人律政群 1年			
	備考				
中国語IV (1 - a)	2学期	1	1	172	
CHN112F 艾文婷	済営人律政群 1年				
備考					
中国語IV (1 - b)	2学期	1	1	173	
CHN112F 于 佳	済営人律政群 1年				
備考					
中国語V	1学期	2	1	174	
CHN201F 有働 彰子	英済営人律政群 2年				
備考					
中国語VI	2学期	2	1	175	
CHN211F 有働 彰子	英済営人律政群 2年				
備考					
中国語VII	1学期	2	1	176	
CHN202F 黄 健	英済営人律政群 2年				
備考					
中国語VIII	2学期	2	1	177	
CHN212F 黄 健	英済営人律政群 2年				
備考					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I (1 - a) KRN101F 呉 香善	1学期	1	1	178
		済営律政群 1年			
	朝鮮語I (1 - b) KRN101F 金 光子	1学期	1	1	179
		済営律政群 1年			
	朝鮮語II (1 - a) KRN111F 呉 香善	2学期	1	1	180
		済営律政群 1年			
	朝鮮語II (1 - b) KRN111F 金 光子	2学期	1	1	181
		済営律政群 1年			
	朝鮮語III (1 - a) KRN102F 金 光子	1学期	1	1	182
		済営律政群 1年			
	朝鮮語III (1 - b) KRN102F 崔 相振	1学期	1	1	183
		済営律政群 1年			
	朝鮮語IV (1 - a) KRN112F 金 光子	2学期	1	1	184
		済営律政群 1年			
	朝鮮語IV (1 - b) KRN112F 呉 珠熙	2学期	1	1	185
		済営律政群 1年			
朝鮮語V KRN201F 安 滯珠	1学期	2	1	186	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VI KRN211F 安 滯珠	2学期	2	1	187	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VII KRN202F 安 滯珠	1学期	2	1	188	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VIII KRN212F 安 滯珠	2学期	2	1	189	
	済営比人律政群 2年				
■専門教育科目 ■実習科目	指導の実習I RDE180M 内田 晃 他		1	2	190
		1年			
	指導の実習II RDE181M 内田 晃 他		1	2	191
	1年				
地域創生実習I (猪倉) RDE182M 岩本 晃典	1学期	1	1	192	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実習I (キタプロ)	1学期	1	1	193
	RDE182M 岩本 晃典	1年			
	地域創生実習I (北スマ)	1学期	1	1	194
	RDE182M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習I (スクボラ)	1学期	1	1	195
	RDE182M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習I (ESDプロモート)	1学期	1	1	196
	RDE182M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習I (コミュニティ)	1学期	1	1	197
	RDE182M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習I (広報)	1学期	1	1	198
	RDE182M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習I (小倉)	1学期	1	1	199
	RDE182M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習I (ボン・ジョーノ)	1学期	1	1	200
	RDE182M 岩本 晃典	1年			
	地域創生実習I (キッズ)	1学期	1	1	201
	RDE182M 佐藤 文音	1年			
	地域創生実習I (健康スポーツ)	1学期	1	1	202
	RDE182M 佐藤 文音	1年			
地域創生実習I (プロスポーツ)	1学期	1	1	203	
RDE182M 佐藤 文音	1年				
地域創生実習I (421Lab.)	1学期	1	1	204	
RDE182M 石川 敬之	1年				
地域創生実習II (猪倉)	2学期	1	1	205	
RDE183M 岩本 晃典	1年				
地域創生実習II (キタプロ)	2学期	1	1	206	
RDE183M 岩本 晃典	1年				
地域創生実習II (北スマ)	2学期	1	1	207	
RDE183M 勅使河原 航	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実習II (スクボラ) RDE183M 勅使河原 航	2学期	1	1	208
		1年			
	地域創生実習II (ESDプロモート) RDE183M 下田 泰奈	2学期	1	1	209
		1年			
	地域創生実習II (コミュニティ) RDE183M 勅使河原 航	2学期	1	1	210
		1年			
	地域創生実習II (広報) RDE183M 下田 泰奈	2学期	1	1	211
		1年			
	地域創生実習II (小倉) RDE183M 下田 泰奈	2学期	1	1	212
		1年			
	地域創生実習II (ボン・ジョーノ) RDE183M 岩本 晃典	2学期	1	1	213
		1年			
	地域創生実習II (キッズ) RDE183M 佐藤 文音	2学期	1	1	214
		1年			
	地域創生実習II (健康スポーツ) RDE183M 佐藤 文音	2学期	1	1	215
		1年			
	地域創生実習II (プロスポーツ) RDE183M 佐藤 文音	2学期	1	1	216
		1年			
	地域創生実習II (421Lab.) RDE183M 石川 敬之	2学期	1	1	217
		1年			
地域創生実習III (猪倉) RDE280M 岩本 晃典	1学期	2	1	218	
	2年				
地域創生実習III (キタプロ) RDE280M 岩本 晃典	1学期	2	1	219	
	2年				
地域創生実習III (北スマ) RDE280M 勅使河原 航	1学期	2	1	220	
	2年				
地域創生実習III (スクボラ) RDE280M 勅使河原 航	1学期	2	1	221	
	2年				
地域創生実習III (ESDプロモート) RDE280M 下田 泰奈	1学期	2	1	222	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1学期	2	1	
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実習Ⅲ (コミュニティ) RDE280M 勅使河原 航	1学期	2	1	223
		2年			
	地域創生実習Ⅲ (広報) RDE280M 下田 泰奈	1学期	2	1	224
		2年			
	地域創生実習Ⅲ (小倉) RDE280M 下田 泰奈	1学期	2	1	225
		2年			
	地域創生実習Ⅲ (ボン・ジョーノ) RDE280M 岩本 晃典	1学期	2	1	226
		2年			
	地域創生実習Ⅲ (キッズ) RDE280M 佐藤 文音	1学期	2	1	227
		2年			
	地域創生実習Ⅲ (健康スポーツ) RDE280M 佐藤 文音	1学期	2	1	228
		2年			
	地域創生実習Ⅲ (プロスポーツ) RDE280M 佐藤 文音	1学期	2	1	229
		2年			
	地域創生実習Ⅲ (421Lab.) RDE280M 石川 敬之	1学期	2	1	230
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (猪倉) RDE281M 岩本 晃典	2学期	2	1	231
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (キタプロ) RDE281M 岩本 晃典	2学期	2	1	232
		2年			
地域創生実習Ⅳ (北スマ) RDE281M 勅使河原 航	2学期	2	1	233	
	2年				
地域創生実習Ⅳ (スクボラ) RDE281M 勅使河原 航	2学期	2	1	234	
	2年				
地域創生実習Ⅳ (ESDプロモート) RDE281M 下田 泰奈	2学期	2	1	235	
	2年				
地域創生実習Ⅳ (コミュニティ) RDE281M 勅使河原 航	2学期	2	1	236	
	2年				
地域創生実習Ⅳ (広報) RDE281M 下田 泰奈	2学期	2	1	237	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実習Ⅳ (小倉) RDE281M 下田 泰奈	2学期	2	1	238
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (ボン・ジョーノ) RDE281M 岩本 晃典	2学期	2	1	239
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (キッズ) RDE281M 佐藤 文音	2学期	2	1	240
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (健康スポーツ) RDE281M 佐藤 文音	2学期	2	1	241
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (プロスポーツ) RDE281M 佐藤 文音	2学期	2	1	242
		2年			
	地域創生実習Ⅳ (421Lab.) RDE281M 石川 敬之	2学期	2	1	243
		2年			
	地域創生実践Ⅰ RDE282M 休講	1学期	2	1	
		2年			
	地域創生実践Ⅰ RDE282M 稲月 正	1学期	2	1	244
		2年			
	地域創生実践Ⅰ RDE282M 内田 晃	1学期	2	1	245
		2年			
地域創生実践Ⅰ RDE282M 片岡 寛之	1学期	2	1	246	
	2年				
地域創生実践Ⅰ RDE282M 小林 敏樹	1学期	2	1	247	
	2年				
地域創生実践Ⅰ RDE282M 佐藤 貴之	1学期	2	1	248	
	2年				
地域創生実践Ⅰ RDE282M 徳永 政夫	1学期	2	1	249	
	2年				
地域創生実践Ⅰ RDE282M 西田 心平	1学期	2	1	250	
	2年				
地域創生実践Ⅰ RDE282M 廣川 祐司	1学期	2	1	251	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実践I RDE282M 深谷 裕	1学期	2	1	252
		2年			
	地域創生実践I RDE282M 眞鍋 和博	1学期	2	1	253
		2年			
	地域創生実践I RDE282M 南 博	1学期	2	1	254
		2年			
	地域創生実践II RDE283M 休講	2学期	2	1	
		2年			
	地域創生実践II RDE283M 稲月 正	2学期	2	1	255
		2年			
	地域創生実践II RDE283M 内田 晃	2学期	2	1	256
		2年			
	地域創生実践II RDE283M 片岡 寛之	2学期	2	1	257
		2年			
	地域創生実践II RDE283M 小林 敏樹	2学期	2	1	258
		2年			
	地域創生実践II RDE283M 佐藤 貴之	2学期	2	1	259
		2年			
	地域創生実践II RDE283M 徳永 政夫	2学期	2	1	260
		2年			
地域創生実践II RDE283M 西田 心平	2学期	2	1	261	
	2年				
地域創生実践II RDE283M 廣川 祐司	2学期	2	1	262	
	2年				
地域創生実践II RDE283M 深谷 裕	2学期	2	1	263	
	2年				
地域創生実践II RDE283M 眞鍋 和博	2学期	2	1	264	
	2年				
地域創生実践II RDE283M 南 博	2学期	2	1	265	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実践Ⅲ		3	2	
	RDE380M 休講	3年			
	地域創生実践Ⅲ		3	2	266
	RDE380M 稲月 正	3年			
	地域創生実践Ⅲ		3	2	267
	RDE380M 内田 晃	3年			
	地域創生実践Ⅲ		3	2	268
	RDE380M 片岡 寛之	3年			
	地域創生実践Ⅲ		3	2	269
	RDE380M 小林 敏樹	3年			
	地域創生実践Ⅲ		3	2	270
	RDE380M 佐藤 貴之	3年			
	地域創生実践Ⅲ		3	2	271
	RDE380M 徳永 政夫	3年			
	地域創生実践Ⅲ		3	2	272
	RDE380M 西田 心平	3年			
	地域創生実践Ⅲ		3	2	273
	RDE380M 廣川 祐司	3年			
	地域創生実践Ⅲ		3	2	274
	RDE380M 深谷 裕	3年			
地域創生実践Ⅲ		3	2	275	
RDE380M 眞鍋 和博	3年				
地域創生実践Ⅲ		3	2	276	
RDE380M 南 博	3年				
地域創生実践Ⅳ		3	2		
RDE381M 休講	3年				
地域創生実践Ⅳ		3	2	277	
RDE381M 稲月 正	3年				
地域創生実践Ⅳ		3	2	278	
RDE381M 内田 晃	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■実習科目	地域創生実践Ⅳ RDE381M 片岡 寛之		3	2	279	
		3年				
	地域創生実践Ⅳ RDE381M 小林 敏樹		3	2	280	
		3年				
	地域創生実践Ⅳ RDE381M 佐藤 貴之		3	2	281	
		3年				
	地域創生実践Ⅳ RDE381M 徳永 政夫		3	2	282	
		3年				
	地域創生実践Ⅳ RDE381M 西田 心平		3	2	283	
		3年				
	地域創生実践Ⅳ RDE381M 廣川 祐司		3	2	284	
		3年				
	地域創生実践Ⅳ RDE381M 深谷 裕		3	2	285	
		3年				
	地域創生実践Ⅳ RDE381M 眞鍋 和博		3	2	286	
		3年				
	地域創生実践Ⅳ RDE381M 南 博		3	2	287	
		3年				
	障害者スポーツ実習Ⅰ HSS280M 山本 浩二		1学期	2	1	288
		2年				
障害者スポーツ実習Ⅱ HSS281M 山本 浩二		2学期	2	1	289	
	2年					
障害者スポーツ実習Ⅲ HSS380M 山本 浩二			3	2	290	
	3年					
障害者スポーツ実習Ⅳ HSS381M 山本 浩二			3	2	291	
	3年					
相談援助実習 SOW380M 寺田 千栄子 他		集中	3	6	292	
	3年					
相談援助実習 SOW380M 未開講		集中	3	8		
	3年					

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生実習指導I (猪倉)	1学期	1	2	293
	RDE110M 岩本 晃典	1年			
	地域創生実習指導I (キタプロ)	1学期	1	2	294
	RDE110M 岩本 晃典	1年			
	地域創生実習指導I (北スマ)	1学期	1	2	295
	RDE110M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習指導I (スクボラ)	1学期	1	2	296
	RDE110M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習指導I (ESDプロモート)	1学期	1	2	297
	RDE110M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習指導I (コミュニティ)	1学期	1	2	298
	RDE110M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習指導I (広報)	1学期	1	2	299
	RDE110M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習指導I (小倉)	1学期	1	2	300
	RDE110M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習指導I (ボン・ジョーノ)	1学期	1	2	301
	RDE110M 岩本 晃典	1年			
	地域創生実習指導I (キッズ)	1学期	1	2	302
	RDE110M 佐藤 文音	1年			
地域創生実習指導I (健康スポーツ)	1学期	1	2	303	
RDE110M 佐藤 文音	1年				
地域創生実習指導I (プロスポーツ)	1学期	1	2	304	
RDE110M 佐藤 文音	1年				
地域創生実習指導I (421Lab.)	1学期	1	2	305	
RDE110M 石川 敬之	1年				
地域創生実習指導II (猪倉)	2学期	1	2	306	
RDE111M 岩本 晃典	1年				
地域創生実習指導II (キタプロ)	2学期	1	2	307	
RDE111M 岩本 晃典	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生実習指導II (北スマ)	2学期	1	2	308
	RDE111M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習指導II (スクボラ)	2学期	1	2	309
	RDE111M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習指導II (ESDプロモート)	2学期	1	2	310
	RDE111M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習指導II (コミュニティ)	2学期	1	2	311
	RDE111M 勅使河原 航	1年			
	地域創生実習指導II (広報)	2学期	1	2	312
	RDE111M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習指導II (小倉)	2学期	1	2	313
	RDE111M 下田 泰奈	1年			
	地域創生実習指導II (ボン・ジョーノ)	2学期	1	2	314
	RDE111M 岩本 晃典	1年			
	地域創生実習指導II (キッズ)	2学期	1	2	315
	RDE111M 佐藤 文音	1年			
	地域創生実習指導II (健康スポーツ)	2学期	1	2	316
	RDE111M 佐藤 文音	1年			
	地域創生実習指導II (プロスポーツ)	2学期	1	2	317
	RDE111M 佐藤 文音	1年			
地域創生実習指導II (421Lab.)	2学期	1	2	318	
RDE111M 石川 敬之	1年				
地域創生実習指導III (猪倉)	1学期	2	2	319	
RDE210M 岩本 晃典	2年				
地域創生実習指導III (キタブロ)	1学期	2	2	320	
RDE210M 岩本 晃典	2年				
地域創生実習指導III (北スマ)	1学期	2	2	321	
RDE210M 勅使河原 航	2年				
地域創生実習指導III (スクボラ)	1学期	2	2	322	
RDE210M 勅使河原 航	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1学期	2	2	
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生実習指導III (ESDプロモート) RDE210M 下田 泰奈	1学期	2	2	323
		2年			
	地域創生実習指導III (コミュニティ) RDE210M 勅使河原 航	1学期	2	2	324
		2年			
	地域創生実習指導III (広報) RDE210M 下田 泰奈	1学期	2	2	325
		2年			
	地域創生実習指導III (小倉) RDE210M 下田 泰奈	1学期	2	2	326
		2年			
	地域創生実習指導III (ボン・ ジョーノ) RDE210M 岩本 晃典	1学期	2	2	327
		2年			
	地域創生実習指導III (キッズ) RDE210M 佐藤 文音	1学期	2	2	328
		2年			
	地域創生実習指導III (健康スポーツ) RDE210M 佐藤 文音	1学期	2	2	329
		2年			
	地域創生実習指導III (プロスポーツ) RDE210M 佐藤 文音	1学期	2	2	330
		2年			
	地域創生実習指導III (421Lab.) RDE210M 石川 敬之	1学期	2	2	331
		2年			
	地域創生実習指導IV (猪倉) RDE211M 岩本 晃典	2学期	2	2	332
		2年			
地域創生実習指導IV (キタプロ) RDE211M 岩本 晃典	2学期	2	2	333	
	2年				
地域創生実習指導IV (北スマ) RDE211M 勅使河原 航	2学期	2	2	334	
	2年				
地域創生実習指導IV (スクボラ) RDE211M 勅使河原 航	2学期	2	2	335	
	2年				
地域創生実習指導IV (ESDプロモート) RDE211M 下田 泰奈	2学期	2	2	336	
	2年				
地域創生実習指導IV (コミュニティ) RDE211M 勅使河原 航	2学期	2	2	337	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生実習指導IV (広報) RDE211M 下田 泰奈	2学期	2	2	338
		2年			
	地域創生実習指導IV (小倉) RDE211M 下田 泰奈	2学期	2	2	339
		2年			
	地域創生実習指導IV (ボン・ジョーノ) RDE211M 岩本 晃典	2学期	2	2	340
		2年			
	地域創生実習指導IV (キッズ) RDE211M 佐藤 文音	2学期	2	2	341
		2年			
	地域創生実習指導IV (健康スポーツ) RDE211M 佐藤 文音	2学期	2	2	342
		2年			
	地域創生実習指導IV (プロスポーツ) RDE211M 佐藤 文音	2学期	2	2	343
		2年			
	地域創生実習指導IV (421Lab.) RDE211M 石川 敬之	2学期	2	2	344
		2年			
	地域創生演習I SEM211M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生演習I SEM211M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生演習I SEM211M 佐藤 貴之	1学期	2	2	345
		2年			
地域創生演習I SEM211M 眞鍋 和博	1学期	2	2	346	
	2年				
地域創生演習I SEM211M 内田 晃	1学期	2	2	347	
	2年				
地域創生演習I SEM211M 小林 敏樹	1学期	2	2	348	
	2年				
地域創生演習I SEM211M 片岡 寛之	1学期	2	2	349	
	2年				
地域創生演習I SEM211M 西田 心平	1学期	2	2	350	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生演習I SEM211M 廣川 祐司	1学期	2	2	351
		2年			
	地域創生演習I SEM211M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生演習I SEM211M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生演習I SEM211M 山本 浩二	1学期	2	2	352
		2年			
	地域創生演習I SEM211M 稲月 正	1学期	2	2	353
		2年			
	地域創生演習I SEM211M 南 博	1学期	2	2	354
		2年			
	地域創生演習I SEM211M 深谷 裕	1学期	2	2	355
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 佐藤 貴之	2学期	2	2	356
		2年			
地域創生演習II SEM212M 眞鍋 和博	2学期	2	2	357	
	2年				
地域創生演習II SEM212M 内田 晃	2学期	2	2	358	
	2年				
地域創生演習II SEM212M 小林 敏樹	2学期	2	2	359	
	2年				
地域創生演習II SEM212M 片岡 寛之	2学期	2	2	360	
	2年				
地域創生演習II SEM212M 西田 心平	2学期	2	2	361	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生演習II SEM212M 廣川 祐司	2学期	2	2	362
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 山本 浩二	2学期	2	2	363
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 稲月 正	2学期	2	2	364
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 南 博	2学期	2	2	365
		2年			
	地域創生演習II SEM212M 深谷 裕	2学期	2	2	366
		2年			
	地域創生演習III SEM311M	1学期	3	2	
		3年			
	地域創生演習III SEM311M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	地域創生演習III SEM311M 佐藤 貴之	1学期	3	2	367
		3年			
地域創生演習III SEM311M 眞鍋 和博	1学期	3	2	368	
	3年				
地域創生演習III SEM311M 内田 晃	1学期	3	2	369	
	3年				
地域創生演習III SEM311M 休講	1学期	3	2		
	3年				
地域創生演習III SEM311M 徳永 政夫	1学期	3	2	370	
	3年				
地域創生演習III SEM311M 山本 浩二	1学期	3	2	371	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	
	SEM311M 休講	3年			
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	372
	SEM311M 小林 敏樹	3年			
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	373
	SEM311M 片岡 寛之	3年			
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	374
	SEM311M 西田 心平	3年			
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	375
	SEM311M 廣川 祐司	3年			
	なし (地域創生演習Ⅲ (チャレンジプログラム))	1学期	3	2	
	SEM311M 閉講	3年			
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	376
	SEM311M 稲月 正	3年			
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	377
	SEM311M 南 博	3年			
	地域創生演習Ⅲ	1学期	3	2	378
	SEM311M 深谷 裕	3年			
	地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	
	SEM312M	3年			
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2		
SEM312M 休講	3年				
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	379	
SEM312M 佐藤 貴之	3年				
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	380	
SEM312M 眞鍋 和博	3年				
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2	381	
SEM312M 内田 晃	3年				
地域創生演習Ⅳ	2学期	3	2		
SEM312M 休講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生演習Ⅳ SEM312M 徳永 政夫	2学期	3	2	382
		3年			
	地域創生演習Ⅳ SEM312M 山本 浩二	2学期	3	2	383
		3年			
	地域創生演習Ⅳ SEM312M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	地域創生演習Ⅳ SEM312M 小林 敏樹	2学期	3	2	384
		3年			
	地域創生演習Ⅳ SEM312M 片岡 寛之	2学期	3	2	385
		3年			
	地域創生演習Ⅳ SEM312M 西田 心平	2学期	3	2	386
		3年			
	地域創生演習Ⅳ SEM312M 廣川 祐司	2学期	3	2	387
		3年			
	なし (地域創生演習Ⅳ (チャレンジプログラム)) SEM312M 閉講	2学期	3	2	
		3年			
	地域創生演習Ⅳ SEM312M 稲月 正	2学期	3	2	388
		3年			
	地域創生演習Ⅳ SEM312M 南 博	2学期	3	2	389
		3年			
地域創生演習Ⅳ SEM312M 深谷 裕	2学期	3	2	390	
	3年				
地域創生総合演習Ⅰ SEM411M	1学期	4	2		
	4年				
地域創生総合演習Ⅰ SEM411M 休講	1学期	4	2		
	4年				
地域創生総合演習Ⅰ SEM411M 佐藤 貴之	1学期	4	2		
	4年				
地域創生総合演習Ⅰ SEM411M 眞鍋 和博	1学期	4	2		
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生総合演習I SEM411M 内田 晃	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 休講	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 徳永 政夫	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 山本 浩二	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 小林 敏樹	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 休講	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 坂本 毅啓	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 片岡 寛之	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 西田 心平	1学期	4	2	4年
	地域創生総合演習I SEM411M 廣川 祐司	1学期	4	2	4年
なし (地域創生総合演習I (チャレンジプログラム)) SEM411M 片岡 寛之	1学期	4	2	4年	
地域創生総合演習I SEM411M 未開講	1学期	4	2	4年	
地域創生総合演習I SEM411M 未開講	1学期	4	2	4年	
地域創生総合演習I SEM411M 未開講	1学期	4	2	4年	
地域創生総合演習II SEM412M	2学期	4	2	4年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年
	SEM412M 休講				
	地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年
	SEM412M 佐藤 貴之				
	地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年
	SEM412M 眞鍋 和博				
	地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年
	SEM412M 内田 晃				
	地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年
	SEM412M 休講				
	地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年
	SEM412M 徳永 政夫				
	地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年
	SEM412M 山本 浩二				
	地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年
	SEM412M 小林 敏樹				
	地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年
	SEM412M 休講				
地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年	
SEM412M 坂本 毅啓					
地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年	
SEM412M 片岡 寛之					
地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年	
SEM412M 西田 心平					
地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年	
SEM412M 廣川 祐司					
なし (地域創生総合演習II)	2学期	4	2	4年	
SEM412M 片岡 寛之					
地域創生総合演習II	2学期	4	2	4年	
SEM412M 未開講					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目	地域創生総合演習II SEM412M 未開講	2学期	4	2	
		4年			
	地域創生総合演習II SEM412M 未開講	2学期	4	2	
		4年			
	相談援助演習I SOW260M 坂本 毅啓	1学期	2	2	391
		2年			
	相談援助演習II SOW261M 坂本 毅啓	2学期	2	2	392
		2年			
	相談援助演習III SOW360M 夜のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
	相談援助演習IV SOW361M 夜のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
	相談援助演習V SOW460M 夜のみ開講科目	1学期	4	2	
		4年			
	卒業論文 STH410M 休講		4	4	
		4年			
	卒業論文 STH410M 佐藤 貴之		4	4	
		4年			
	卒業論文 STH410M 眞鍋 和博		4	4	
		4年			
卒業論文 STH410M 内田 晃		4	4		
	4年				
卒業論文 STH410M 休講		4	4		
	4年				
卒業論文 STH410M 徳永 政夫		4	4		
	4年				
卒業論文 STH410M 山本 浩二		4	4		
	4年				
卒業論文 STH410M 片岡 寛之		4	4		
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習科目	卒業論文		4	4	
	STH410M 西田 心平	4年			
	卒業論文		4	4	
	STH410M 廣川 祐司	4年			
	なし(卒業論文(チャレンジプログラム))		4	4	
	STH410M 休講	4年			
	卒業論文		4	4	
STH410M 未開講	4年				
卒業論文		4	4		
STH410M 未開講	4年				
卒業論文(チャレンジプログラム)		4	4		
STH410M 閉講	4年				
■地域創生科目	地域創生論1(まちづくりマネジメント)	1学期	1	2	393
	RDE100M 片岡 寛之	1年			
	地域創生論2(スポーツ指導論)	1学期	1	2	394
	RDE101M 徳永 政夫	1年			
	地域創生論3(福祉環境デザイン論)	1学期	1	2	
	RDE102M 休講	1年			
	地域創生論4(まちづくり実践論)	1学期	1	2	395
	RDE103M 南 博	1年			
	地域創生論5(教育社会学)	1学期	1	2	396
	RDE104M 眞鍋 和博	1年			
	地域創生論6(ボランティア活動論)	1学期	1	2	397
	RDE105M 西田 心平	1年			
	地域創生論7	1学期	1	2	
RDE106M 休講	1年				
地域創生論8	2学期	1	2		
RDE112M 休講	1年				
地域創生論9(都市・地域マネジメント論)	2学期	1	2	398	
RDE113M 小林 敏樹	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■地域創生科目	地域創生論10 (地域文化論) RDE114M 休講	2学期	1	2	399
		1年			
	地域創生論11 (ゲーミフィケーション) RDE115M 佐藤 貴之	2学期	1	2	400
		1年			
	地域創生論12 (都市社会学) RDE116M 稲月 正	2学期	1	2	401
		1年			
	地域創生論13 (キャリア学概論) RDE117M 見館 好隆	2学期	1	2	402
		1年			
	地域創生論14 RDE118M 休講	2学期	1	2	402
		1年			
	コミュニティスポーツ論 HSS120M 山本 浩二	1学期	1	2	403
		1年			
	現代社会と福祉 1 SOW100M 休講	1学期	1	2	404
		1年			
相談援助の基盤と専門職 1 SOW160M 休講	2学期	1	2	405	
	1年				
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW120M 休講	2学期	1	2	403	
	1年				
■地域創生スキル科目	地域創生スキル1 (地域調査論) RDE200M 小林 敏樹	1学期	2	2	403
		2年			
	地域創生スキル2 (フィールドワーク論) RDE201M 廣川 祐司	1学期	2	2	404
		2年			
	地域創生スキル3 (プロジェクトマネジメント) RDE202M 休講	1学期	2	2	405
		2年			
	地域創生スキル4 (クリエイティブシンキング) RDE203M 見館 好隆	1学期	2	2	405
		2年			
	地域創生スキル5 RDE204M 休講	1学期	2	2	405
		2年			
地域創生スキル6 RDE205M 休講	1学期	2	2	405	
	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■地域創生スキル科目	地域創生スキル7 RDE206M 休講	1学期	2	2	406
		2年			
	地域創生スキル8 (スポーツ・ボランティア指導論) RDE212M 徳永 政夫	2学期	2	2	407
		2年			
	地域創生スキル9 (地域経営実践論) RDE213M 片岡 寛之	2学期	2	2	408
		2年			
	地域創生スキル10 (キャリア形成論) RDE214M 眞鍋 和博	1学期	2	2	409
		2年			
	地域創生スキル11 (地域コーディネート論) RDE215M 西田 心平	2学期	2	2	410
		2年			
	地域創生スキル12 (リハビリテーション論) RDE216M 休講	2学期	2	2	411
		2年			
	地域創生スキル13 RDE217M 休講	2学期	2	2	412
		2年			
地域創生スキル14 RDE218M 休講	2学期	2	2	413	
	2年				
相談援助の基盤と専門職 2 SOW161M 休講	1学期	2	2	414	
	2年				
■専門科目	ファシリテーション RDE207M 原水 敦	1学期	2	2	410
		2年			
	地域創生特講 1 RDE290M 閉講	1学期	2	2	411
		2年			
	地域創生特講 1 RDE290M 休講	1学期	2	2	412
		2年			
	地域創生特講 1 (観光事業概論) RDE290M 見館 好隆	2学期	2	2	413
		2年			
	地域創生特講 2 (海外スタディツアー) RDE291M 見館・内田	集中	2	2	414
		2年			
地域創生特講 2 (マレーシア・プトラ大学との交流) RDE291M 内田・徳永	集中	2	2	415	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■専門科目	地域創生特講 2 (なし・旧カリのみ)	1学期	2	2	
	RDE291M 閉講	2年			
	地域創生特講 3 (伴走型支援の学びとインターンシップ 1)	1学期	2	2	413
	RDE292M 坂本・稲月	2年			
	地域創生特講 3 (チャレンジプログラム)	1学期	2	2	414
	RDE292M 片岡 寛之	2年			
	地域創生特講 4 (伴走型支援の学びとインターンシップ 2)	2学期	2	2	415
	RDE293M 坂本・稲月	2年			
	地域創生特講 4 (チャレンジプログラム)	2学期	2	2	416
	RDE293M 片岡 寛之	2年			
	障害者スポーツ指導論	2学期	1	2	417
	HSS121M 小手川 郁人	1年			
	障害者スポーツ各論	2学期	2	2	418
	HSS220M 小手川 郁人	2年			
	現代社会と福祉 2	2学期	1	2	
	SOW101M 休講	1年			
	コミュニティワーク論		2	2	
	SOW210M 休講	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1		2	2	
	SOW220M 休講	2年			
高齢者に対する支援と介護保険制度 2		2	2		
SOW221M 休講	2年				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度		2	2		
SOW222M 休講	2年				
相談援助の理論と方法 1		2	2		
SOW262M 休講	2年				
相談援助の理論と方法 2		2	2		
SOW263M 休講	2年				
相談援助の理論と方法 3		2	2		
SOW264M 休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	相談援助の理論と方法 4		2	2	2年
	SOW264M 未開講				
	社会保障論 1	1学期	2	2	2年
	SOW140M 休講				
	社会保障論 2	2学期	2	2	2年
	SOW240M 休講				
	低所得者に対する支援と生活保護制度		2	2	2年
	SOW241M 休講				
	人体の構造と機能及び疾病		2	2	2年
	SOW230M 休講				
	保健医療サービス		2	2	2年
	SOW231M 休講				
	福祉行財政と福祉計画	1学期	2	2	2年
	SOW242M 休講				
	福祉サービスの組織と経営	2学期	2	2	2年
	SOW251M 休講				
	権利擁護と成年後見制度	1学期	2	2	2年
	SOW250M 休講				
	就労支援サービス	2学期	2	2	2年
	SOW243M 休講				
司法福祉論	2学期	2	2	2年	
SOW244M 休講					
相談援助実習指導I		3	2	3年	
SOW381M 夜のみ開講科目					
相談援助実習指導II	2学期	3	1	3年	
SOW382M 夜のみ開講科目					
スクール(学校)ソーシャルワーク論	2学期	3	2	3年	
SOW362M 寺田 千栄子					
スクール(学校)ソーシャルワーク演習	1学期	4	2	4年	
SOW461M 寺田 千栄子					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導 SOW480M 寺田 千栄子	1学期	4	1	419
		4年			
	スクール(学校)ソーシャルワーク実習 SOW481M 寺田 千栄子	集中	4	3	419
		4年			
	精神保健の課題と支援 SOW330M 梶原 浩介	1学期	3	2	419
		3年			
	マクロ経済学入門 ECN112M 後藤 尚久	1学期	1	2	419
		1年			
	マクロ経済学入門 ECN112M 前林 紀孝	1学期	1	2	419
		1年			
	ミクロ経済学I ECN113M 休講	2学期	1	2	419
		1年			
	ミクロ経済学II ECN210M 休講	1学期	2	2	419
		2年			
	金融論 ECN222M 休講	1学期	2	2	419
		2年			
	金融論特講 ECN223M 休講	2学期	2	2	419
		2年			
	地域経済 ECN232M 田村 大樹	1学期	2	2	420
		2年			
地域経済特講 ECN233M 田村 大樹	2学期	2	2	421	
	2年				
経済地理学 ECN230M 休講	1学期	2	2	421	
	2年				
経済地理学特講 ECN231M 休講	2学期	2	2	421	
	2年				
北九州経済分析 ECN235M 城戸 宏史	1学期	2	2	422	
	2年				
北九州経済分析特講 ECN236M 休講	2学期	2	2	422	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	地域政策	2学期	2	2	423
	ECN234M 松永 裕己	2年			
	財政学	1学期	3	2	424
	ECN320M 前林 紀孝	3年			
	財政学特講	2学期	3	2	425
	ECN321M 前林 紀孝	3年			
	環境経済学	2学期	3	2	
	ECN328M 休講	3年			
	簿記論	1学期	1	2	426
	ACC110M 小野 慎一郎	1年			
	簿記論	1学期	1	2	
	ACC110M 休講	1年			
	簿記論	1学期	1	2	
	ACC110M 休講	1年			
	数学	1学期	1	2	427
	MTH100M 吉田 祐治	1年			
	情報科学入門	2学期	1	2	428
	INF100M 池田 欽一	1年			
	情報科学入門	2学期	1	2	429
	INF100M 三宅 芳博	1年			
情報科学入門	2学期	1	2	430	
INF100M 隈本 覚	1年				
情報科学入門	2学期	1	2	431	
INF100M 隈本 覚	1年				
経営学入門	1学期	1	2	432	
BUS100M 丸子 敬仁	1年				
経営学入門	1学期	1	2	433	
BUS100M 丸子 敬仁	1年				
経営管理論	2学期	1	2	434	
BUS110M 浦野 恭平	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	経営管理論 BUS110M 休講	2学期	1	2	435
		1年			
	ファイナンス入門 BUS111M 未定	2学期	1	2	435
		1年			
	ファイナンス入門 BUS111M 未定	2学期	1	2	435
		1年			
	会計学入門 ACC111M 未定	2学期	1	2	435
		1年			
	会計学入門 ACC111M 森脇 敏雄	2学期	1	2	436
		1年			
	経営統計I MTH150M 村原 英樹	2学期	1	2	437
		1年			
	経営統計II MTH250M 休講	1学期	2	2	438
		2年			
	経営統計II MTH250M 齋藤 朗宏	1学期	2	2	438
		2年			
	財務会計論I ACC210M 西澤 健次	1学期	2	2	439
		2年			
	財務会計論II ACC211M 西澤 健次	2学期	2	2	440
		2年			
マーケティングI BUS230M 柳 純	1学期	2	2	441	
	2年				
マーケティングII BUS231M 柳 純	2学期	2	2	442	
	2年				
経営組織論 BUS210M 山下 剛	1学期	2	2	443	
	2年				
経営戦略論 BUS211M 浦野 恭平	2学期	2	2	444	
	2年				
人的資源管理論 BUS310M 丸子 敬仁	1学期	3	2	445	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	中小企業論 BUS313M 吉村 英俊	1学期	3	2	446
		3年			
	経営分析 ACC400M 西澤 健次	1学期	3	2	447
		3年			
	フィールドワーク基礎論 ANT100M 命婦 恭子	1学期	1	2	448
		1年			
	心理学概論 PSY100M 休講 他	2学期	1	2	
		1年			
	教育心理学 PSY120M 山下 智也	2学期	1	2	449
		1年			
	対人心理学 PSY211M 田島 司	1学期	2	2	450
		2年			
	臨床心理学 PSY230M 田中 信利	1学期	2	2	451
		2年			
	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	452
		2年			
	スポーツ心理学 HSS221M 柴原 健太郎	1学期	2	2	453
		2年			
	身体適応論 HSS231M 高西 敏正	1学期	2	2	454
		2年			
トレーニング論 HSS223M 梨羽 茂	1学期	2	2	455	
	2年				
教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	456	
	2年				
カウンセリング論 PSY231M 田中 信利	2学期	2	2	457	
	2年				
スポーツ産業論 HSS222M 内田 満	1学期	2	2	458	
	2年				
健康科学 HSS230M 高西 敏正	2学期	2	2	459	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	身体コミュニケーション論 HSS200M 柴原 健太郎	2学期	2	2	460
		2年			
	法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1	2	461
		1年			
	日本国憲法原論 LAW120M 中村 英樹	1学期	1	2	462
		1年			
	民法入門 LAW160M 休講	1学期	1	2	
		1年			
	憲法人権論 LAW220M 棟形 康平	2学期	1	2	463
		1年			
	刑法総論 LAW230M 大杉 一之		1	4	464
		1年			
	社会法総論 LAW140M 津田 小百合	2学期	1	2	465
		1年			
	親族法 LAW265M 小野 憲昭	2学期	1	2	466
		1年			
	物権法 LAW260M 清水 裕一郎	1学期	2	2	467
		2年			
	行政法総論 LAW222M 近藤 卓也		2	4	468
		2年			
行政争訟法 LAW223M 堀澤 明生	2学期	2	2	469	
	2年				
知的財産法 LAW341M 小川 明子	集中	3	2	470	
	3年				
NPO論 PLC114M 檜原 真二 他	1学期	1	2	471	
	1年				
政治過程論 PLS210M 上條 諒貴	2学期	1	2	472	
	1年				
都市環境論 PLC111M 三宅 博之	1学期	1	2	473	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	都市経済論 PLC113M 田代 洋久	2学期	1	2	474
		1年			
	公共政策論 PLC211M 植原 真二	1学期	2	2	475
		2年			
	地方自治論 PAD211M 森 裕亮	1学期	2	2	476
		2年			
	福祉政策論 PLC217M 狭間 直樹	1学期	2	2	477
		2年			
	政策過程論 PLC212M 申 東愛	1学期	1	2	478
		2年			
	公共経営論 PAD212M 狭間 直樹	2学期	2	2	479
		2年			
	特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	480
		2年			
教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	481	
	2年				
生徒指導論 EDU262M 楠 凡之	2学期	2	2	482	
	2年				
チャレンジプログラム1 RDE382M 片岡 寛之		3	2	483	
	3年				
チャレンジプログラム2 RDE383M 片岡 寛之		3	2	484	
	3年				
■自由科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	485
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	486
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	487
		1年			
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	488	
	1年				
生命科学入門 BIO200F 休講	2学期	1	2		
	1年				
■世界(地球)科目	国際学入門 IRL110F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	489
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 北 美幸 他	1学期	1	2	490
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
近代史入門 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	491	
	1年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	492	
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 休講	2学期	2	2		
	2年				
■知の技法科目	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	493
		1年			
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 中尾 泰士	2学期	1	2	494
		1学期未修得者再履			
■知の技法科目	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	495
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	496
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	497
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	498
	1年				
	文化を読む LIT001F 休講	1学期	1	2	
	1年				
現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2		
1年					
倫理思想史 PHR005F 休講	2学期	1	2		
1年					
戦争論 PLS210F 休講	2学期	2	2		
2年					
■共生と協働科目	異文化理解の基礎 ANT110F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	人権論 SOC004F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	499
	1年				
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	500
	1年				
障がい学 SOW001F 閉講	1学期	1	2		
1年					
共生社会論 SOW200F 閉講	2学期	2	2		
2年					

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	メンタル・ヘルス PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	501
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	502
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 山本 浩二	2学期	1	1	503
		1年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	ビジネス英語I (群1年) ENG131F ジェイムズ・ヒックス	1学期	1	1	504
		群1年			
	ビジネス英語II (群1年) ENG132F ジェイムズ・ヒックス	2学期	1	1	505
		群1年			
■専門教育科目 ■実習科目	指導的実習I RDE180M 休講		1	2	
		1年			
	指導的実習II RDE181M 休講		1	2	
		1年			
	相談援助実習 SOW380M 休講	集中	3	6	
		3年			
■演習科目	地域創生総合演習I SEM411M 休講	1学期	4	2	
		4年			
	地域創生総合演習I SEM411M 小林 敏樹	1学期	4	2	
		4年			
	地域創生総合演習I SEM411M 坂本 毅啓	1学期	4	2	
		4年			
	地域創生総合演習II SEM412M 休講	2学期	4	2	
		4年			
	地域創生総合演習II SEM412M 小林 敏樹	2学期	4	2	
		4年			
	地域創生総合演習II SEM412M 深谷 裕	2学期	4	2	
		4年			
	地域創生総合演習II SEM412M 坂本 毅啓	2学期	4	2	
		4年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習科目	相談援助演習Ⅰ	1学期	2	2	
	SOW260M 休講	2年			
	相談援助演習Ⅱ	2学期	2	2	
	SOW261M 休講	2年			
	相談援助演習Ⅲ	1学期	3	2	506
	SOW360M 坂本 毅啓	3年			
	相談援助演習Ⅳ	2学期	3	2	507
	SOW361M 坂本 毅啓	3年			
	相談援助演習Ⅴ	1学期	4	2	
	SOW460M 深谷 裕	4年			
	相談援助演習Ⅴ	1学期	4	2	
	SOW460M 坂本 毅啓	4年			
	卒業論文		4	4	
	STH410M 寺田 千栄子	4年			
卒業論文		4	4		
STH410M 小林 敏樹	4年				
卒業論文		4	4		
STH410M 深谷 裕	4年				
卒業論文		4	4		
STH410M 坂本 毅啓	4年				
■地域創生科目	地域創生論2 (スポーツ指導論)	1学期	1	2	
	RDE101M 休講	1年			
	地域創生論3 (福祉環境デザイン論)	1学期	1	2	508
	RDE102M 内田 晃	1年			
	地域創生論4 (まちづくり実践論)	1学期	1	2	
	RDE103M 休講	1年			
地域創生論5 (教育社会学)	1学期	1	2		
RDE104M 休講	1年				
地域創生論6 (ボランティア活動論)	1学期	1	2		
RDE105M 休講	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■地域創生科目	地域創生論7 RDE106M 休講	1学期	1	2	1年
	地域創生論8 RDE112M 休講	2学期	1	2	1年
	地域創生論9 (都市・地域マネジメント論) RDE113M 休講	2学期	1	2	1年
	地域創生論10 (地域文化論) RDE114M 廣川 祐司	2学期	1	2	1年
	地域創生論11 (ゲーミフィケーション) RDE115M 休講	2学期	1	2	1年
	地域創生論12 (都市社会学) RDE116M 休講	2学期	1	2	1年
	地域創生論13 (キャリア学概論) RDE117M 休講	2学期	1	2	1年
地域創生論14 RDE118M 休講	2学期	1	2	1年	
コミュニティスポーツ論 HSS120M 休講	1学期	1	2	1年	
現代社会と福祉1 SOW100M 深谷 裕	1学期	1	2	1年	
相談援助の基盤と専門職1 SOW160M 坂本 毅啓	2学期	1	2	1年	
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW120M 寺田 千栄子	2学期	1	2	1年	
■地域創生スキル科目	地域創生スキル1 (地域調査論) RDE200M 休講	1学期	2	2	2年
	地域創生スキル2 (フィールドワーク論) RDE201M 休講	1学期	2	2	2年
	地域創生スキル3 (プロジェクトマネジメント) RDE202M 佐藤 貴之	1学期	2	2	2年

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■地域創生スキル科目	地域創生スキル4 (クリエイティブシンキング) RDE203M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル5 RDE204M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル6 RDE205M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル7 RDE206M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル8 (スポーツ・ボランティア指導論) RDE212M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル9 (地域経営実践論) RDE213M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル10 (キャリア形成論) RDE214M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生スキル11 (地域コーディネート論) RDE215M 休講	2学期	2	2	
		2年			
地域創生スキル12 (リハビリテーション論) RDE216M 山本 浩二	2学期	2	2	514	
	2年				
地域創生スキル13 RDE217M 休講	2学期	2	2		
	2年				
地域創生スキル14 RDE218M 休講	2学期	2	2		
	2年				
相談援助の基盤と専門職 2 SOW161M 坂本 毅啓	1学期	2	2	515	
	2年				
社会調査の基礎 SOW290M 稲月 正	1学期	2	2	516	
	2年				
■専門科目	ファシリテーション RDE207M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生特講 1 RDE290M 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	地域創生特講 2 RDE291M 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	地域創生特講 3 RDE292M 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生特講 4 RDE293M 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	障害者スポーツ指導論 HSS121M 昼のみ開講科目		1	2	
		1年			
	障害者スポーツ各論 HSS220M 昼のみ開講科目		2	2	
		2年			
	現代社会と福祉 2 SOW101M 河嶋 静代	2学期	1	2	517
		1年			
	コミュニティワーク論 SOW210M 岡本 政孝	1学期	2	2	518
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 石塚 優	1学期	2	2	519
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 石塚 優	2学期	2	2	520
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 高崎 陽子	1学期	2	2	521
		2年			
相談援助の理論と方法 1 SOW262M 高崎 陽子	2学期	2	2	522	
	2年				
相談援助の理論と方法 2 SOW263M 工藤 歩	2学期	2	2	523	
	2年				
相談援助の理論と方法 3 SOW264M 藤田 博久	1学期	2	2	524	
	2年				
相談援助の理論と方法 4 SOW264M 未開講	1学期	2	2		
	2年				
社会保障論 1 SOW140M 安川 渉寛	1学期	2	2	525	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	社会保障論 2 SOW240M 安川 渉寛	2学期	2	2	526
		2年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M 柴田 滋	2学期	2	2	527
		2年			
	人体の構造と機能及び疾病 SOW230M 島 京子	1学期	2	2	528
		2年			
	保健医療サービス SOW231M 金蔵 常一	2学期	2	2	529
		2年			
	福祉行財政と福祉計画 SOW242M 難波 利光	1学期	2	2	530
		2年			
	福祉サービスの組織と経営 SOW251M 中園 紀明	2学期	2	2	531
		2年			
	権利擁護と成年後見制度 SOW250M 柴田 裕之	1学期	2	2	532
		2年			
	就労支援サービス SOW243M 横谷 佳代	2学期	2	2	533
		2年			
	司法福祉論 SOW244M 深谷 裕	2学期	2	2	534
		2年			
	相談援助実習指導I SOW381M 寺田 千栄子		3	2	535
		3年			
相談援助実習指導II SOW382M 寺田 千栄子	2学期	3	1	536	
	3年				
スクール(学校)ソーシャルワーク論 SOW362M 昼のみ開講科目		3	2		
	3年				
スクール(学校)ソーシャルワーク演習 SOW461M 昼のみ開講科目		4	2		
	4年				
スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導 SOW480M 昼のみ開講科目		4	1		
	4年				
スクール(学校)ソーシャルワーク実習 SOW481M 昼のみ開講科目		4	3		
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	精神保健の課題と支援	1学期	3	2	
	SOW330M 昼のみ開講科目	3年			
	マクロ経済学入門	1学期	1	2	537
	ECN112M 畔津 憲司	1年			
	ミクロ経済学I	2学期	1	2	538
	ECN113M 朱 乙文	1年			
	ミクロ経済学II	1学期	2	2	539
	ECN210M 朱 乙文	2年			
	金融論	1学期	2	2	540
	ECN222M 後藤 尚久	2年			
	金融論特講		2	2	
	ECN223M 昼のみ開講	2年			
	地域経済	1学期	2	2	
	ECN232M 休講	2年			
	地域経済特講		2	2	
	ECN233M 昼のみ開講	2年			
	経済地理学	1学期	2	2	541
	ECN230M 柳井 雅人	2年			
	経済地理学特講	2学期	2	2	
	ECN231M 休講	2年			
北九州経済分析		2	2		
ECN235M 昼のみ開講	2年				
北九州経済分析特講		2	2		
ECN236M 昼のみ開講	2年				
地域政策		2	2		
ECN234M 昼のみ開講	2年				
財政学	1学期	3	2		
ECN320M 休講	3年				
財政学特講		3	2		
ECN321M 昼のみ開講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	環境経済学 ECN328M 牛房 義明	2学期	3	2	542
		3年			
	数学 MTH100M 昼のみ開講		1	2	
		1年			
	情報科学入門 INF100M 三宅 芳博	2学期	1	2	543
		1年			
	経営学入門 BUS100M 昼のみ開講		1	2	
		1年			
	経営管理論 BUS110M 岸野 早希	2学期	1	2	544
		1年			
	ファイナンス入門 BUS111M 内田 交謹	2学期	1	2	545
		1年			
	会計学入門 ACC111M 昼のみ開講		1	2	
		1年			
	経営統計I MTH150M 昼のみ開講		1	2	
		1年			
	経営統計II MTH250M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
	財務会計論I ACC210M 休講	1学期	2	2	
		2年			
財務会計論II ACC211M 昼のみ開講		2	2		
	2年				
マーケティングI BUS230M 昼のみ開講		2	2		
	2年				
マーケティングII BUS231M 昼のみ開講		2	2		
	2年				
経営組織論 BUS210M 昼のみ開講		2	2		
	2年				
経営戦略論 BUS211M 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	人的資源管理論 BUS310M 丸子 敬仁	1学期	3	2	546
		3年			
	中小企業論 BUS313M 吉村 英俊	1学期	3	2	547
		3年			
	経営分析 ACC400M 昼のみ開講科目		3	2	
		3年			
	フィールドワーク基礎論 ANT100M 昼のみ開講科目		1	2	
		1年			
	心理学概論 PSY100M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	教育心理学 PSY120M 昼のみ開講		1	2	
		1年			
	対人心理学 PSY211M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	臨床心理学 PSY230M 田中 信利	1学期	2	2	548
		2年			
	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	549
		2年			
	スポーツ心理学 HSS221M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
身体適応論 HSS231M 高西 敏正	1学期	2	2	550	
	2年				
トレーニング論 HSS223M 休講	1学期	2	2		
	2年				
教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	551	
	2年				
カウンセリング論 PSY231M 休講	2学期	2	2		
	2年				
スポーツ産業論 HSS222M 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	健康科学	2学期	2	2	
	HSS230M 休講	2年			
	身体コミュニケーション論	2学期	2	2	
	HSS200M 休講	2年			
	法学総論	1学期	1	2	
	LAW100M 休講	1年			
	日本国憲法原論	1学期	1	2	
	LAW120M 休講	1年			
	民法入門	1学期	1	2	552
	LAW160M 畑中 久彌	1年			
	刑法総論		1	4	
	LAW230M 昼のみ開講	1年			
	親族法		1	2	
	LAW265M 昼のみ開講	1年			
	物権法		2	2	
	LAW260M 昼のみ開講	2年			
	行政法総論		2	4	553
	LAW222M 近藤 卓也	2年			
	行政争訟法		2	2	
	LAW223M 昼のみ開講	2年			
知的財産法		3	2		
LAW341M 昼のみ開講	3年				
NPO論	1学期	1	2	554	
PLC114M 植原 真二 他	1年				
政治過程論		1	2		
PLS210M 昼のみ開講	1年				
都市環境論	1学期	1	2		
PLC111M 未定	1年				
都市経済論		1	2		
PLC113M 昼のみ開講	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2019年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	公共政策論 PLC211M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	地方自治論 PAD211M 森 裕亮	1学期	2	2	555
	2年				
	福祉政策論 PLC217M 狭間 直樹	1学期	2	2	556
	2年				
	政策過程論 PLC212M 昼のみ開講		1	2	
	2年				
	公共経営論 PAD212M 昼のみ開講		2	2	
	2年				
	特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	557
	2年				
教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	558	
2年					
生徒指導論 EDU262M 楠 凡之	2学期	2	2	559	
2年					
チャレンジプログラム 1 RDE382M 昼のみ開講科目		3	2		
3年					
■自由科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	560
1年					

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL202F	◎		○		○
科目名	環境特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上になり立っているのではないかと、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そのためにいくつかの具体的な事例を取り上げ、主にDVD鑑賞を通して倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機にしたい。

【知識】 設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】 設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとも参考になります。

○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。

末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクッション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【種子】『種子-みんなのもの? それとも企業の所有物?』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第8回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第9回 【フードロス】『0円キッチン』(DVD)の観賞
- 第10回 【アニマル・ウェルフェア】論点整理、ディスカッション
- 第11回 【プラスチック】『プラスチックごみ-日本のリサイクルの幻想』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第13回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第14回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

3回のレポート(60%)、エッセイ(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、レポート(A4一枚程度)を3回課しますので、振り返りをしてください。

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」
「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」
「SDGs 17. パートナーシップ」

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV001F	◎		○		○
科目名	環境都市としての北九州		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(基盤・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 特別講演(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(地域共生教育センター)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・40%
授業ごとのMoodle課題(確認テストやミニレポートなど)・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストに関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

環境都市としての北九州【昼】

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアム）は原則として必須とする。

- ・ 環境ミュージアム見学は授業期間中に各自で行うこと。
- ・ 環境首都検定は12月12日（日）の予定。

*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアムまでの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
- ・ 遠隔授業 (オンデマンド動画配信) の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 (生物担当) および中尾 (物理担当) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして⑩経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%
小レポート試験：20%
最終試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎		○		○

科目名	未来を創る環境技術	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	-----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自立的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、
- 第2回：北九州市の環境エネルギー政策と風力産業拠点化政策
- 第3回：世界における再生可能エネルギー
- 第4回：日本における風力発電【洋上風力発電事業の取り組み】
- 第5回：日本における風力発電【風力発電のメンテナンス】
- 第6回：日本における風力発電【海洋産業従事者の安全技術教育】
- 第7回：再生可能エネルギーの産業【電力システム】
- 第8回：再生可能エネルギーの産業【エネルギーマネジメント】
- 第9回：都市の環境とエネルギー【経済学からのアプローチ】
- 第10回：都市の環境とエネルギー【機械工学からのアプローチ】
- 第11回：都市の環境とエネルギー【情報学からのアプローチ】
- 第12回：都市の環境とエネルギー【建築学からのアプローチ】
- 第13回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第14回：都市の環境とエネルギー【化学・生物工学からのアプローチ】
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート 70%

未来を創る環境技術 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ZOL001F	◎		○		○
科目名	動物のみかた		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV002F	◎		○		○
科目名	自然学のまなざし		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智慧を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
 講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
 大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
 そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
 講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
 環境学
 フィールドワーク

生命科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 体を作る物質(1)細胞の構成成分 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
- 3回 体を作る物質(2)食物分子と代謝 【酵素】【触媒】
- 4回 体を作る物質(3)遺伝物質DNA 【二重らせん】
- 5回 体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ 【RNA】【セントラルドグマ】
- 6回 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること 【ゲノム】【体質】【遺伝病】
- 7回 体を作るしくみ(3)発生と分化 【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
- 8回 細胞の社会(1)そのとき染色体は 【細胞周期】【染色体異常】
- 9回 細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション 【受容体】【シグナル分子】
- 10回 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん 【がん遺伝子】
- 11回 関連ビデオ鑑賞
- 12回 体を守るしくみ(1)寿命と老化 【早老症】【テロメア】
- 13回 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス 【ウイルス】【抗体】
- 14回 体を守るしくみ(3)私たちと微生物 【腸内細菌】
- 15回 質疑応答・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
- 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境ESD入門【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎		○		○
科目名	環境ESD入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現在、世界で起きている様々な問題、例えば「環境破壊」「異常気象」「国際紛争」などは、ESDの観点から読み解くことができます。ESDとは「持続可能な開発のための教育」のことであり、「環境」「国際理解」「気候変動」「生物多様性」「防災」「エネルギー」など幅広い分野において、これからの地球の将来を見据えた議論を進めています。本講義は、上述のような多様な問題にESDの視点からアプローチしていきます。本講義を通じて受講生がESDの基本的な考え方を習得し、さらなる問題意識をもって私たちの生きる社会や環境を見つめ直すことを目指します。

到達目標

- 【知識】ESDの諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ESDの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】ESDに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：環境ESDについて
- 第2回 北九州市と環境ESD
- 第3回 路上ゴミについて考える -日本人は果たしてきれい好きなのか-
- 第4回 海洋プラスチックゴミ問題について
- 第5回 経済活動とゴミ問題
- 第6回 ゴミ問題とリサイクル
- 第7回 環境に配慮した生活とは
- 第8回 地球の環境問題と私たちにできること
- 第9回 食から考える環境問題
- 第10回 環境問題と国際理解
- 第11回 環境問題と国際協力
- 第12回 環境問題とジェンダー問題
- 第13回 環境問題とエネルギー
- 第14回 北九州市のSDGsとESDの取り組み
- 第15回 まとめ・副専攻環境ESDプログラムの紹介

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業において課すレポートにて評価(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から環境問題に対する関心を持ち、意識して様々な情報に触れるようにしてください。それが大きな事前学習になります。各回の講義テーマに関しては事前に紹介しますので、書籍やインターネットなどで予備知識を得ておいてください(事前学習)。また受講後は、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってください(自習時間の目安は60分程度)。

環境ESD入門【昼】

履修上の注意 /Remarks

各講義終了後に小レポートの作成と提出を求めます。
講義内でのディスカッション、および質疑応答に積極的に参加できるよう、事前・事後の自発的学習を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境ESDに関する入門的な講義となります。
本講義を履修したうえで、さらなる発展的な学びとして「副専攻環境ESDプログラム」を受講することを薦めます。

キーワード /Keywords

環境、持続可能性、国際理解、生物多様性

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL103F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

2001年の911以降の国際社会を考える上で、テロリズム問題を避けて通ることはできません。しかし、テロは以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

コロナ対応で、動画配信となります。動画は、各回編集カット作業してBGMやテロップ付きのyouTube仕様を心がけます。

到達目標

- 【知識】テロリズムを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】テロリズムについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※昨年度に配信した動画タイトルは以下の通りです。今年度は、部分的に作り替えたり、組み替えたりしていきます。授業回数は15回で、1回45～60分程度の視聴時間になります。各回の内容は変更する可能性があります。

- 1 ガイダンス / 問題の所在 (テロから何を学び取るのか)
- 2 自由の戦士としてのテロリスト像 / ルクソール事件
- 3 犯罪としてのテロ / テロに政治目的は必要か。 / テロの定義はたくさんある!
- 4 911の衝撃 / テロによる社会的動揺 / 対人テロ / 対物テロ
- 5 テロリストとは誰か、残された課題
- 6 行動によるプロパガンダ (アナキズム) / 近代日本とテロ
- 7 政治的脅迫としてのテロ (アイルランドのナショナリズム)
- 8 ナショナリズムとテロ (サライェヴォ事件とスラブ主義) / 民族解放 (シオニズムとイスラエル建国)
- 9 爆弾テロという手法
- 10 国際テロの誕生 (パレスチナ人の闘争)
- 11 学生運動の過激化と日本赤軍 (ロッド空港事件)
- 12 劇場型テロ (ミュンヘン・オリンピック事件)
- 13 現代テロとテロ対策
- 14 動機が多様化 (右翼・保守テロ、オクラホマシティ連邦ビル爆破テロ)
- 15 動機が多様化 (環境テロ、ユナボマー)

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に1度、小テストを実施する。最終的に、小テストの合計点数から成績を評価する。
 小テスト (8回) 100%、ただし、小テストの回数は若干前後する可能性がある。

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容についてのフィードバックは、WEB掲示板を用意しますので、不明な点は書き込んでください。メールでも質問受付ます。

事後学習ですが、頻繁に小テストがあるので、何回でもいいので動画を視聴してください。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

説明が主体になる講義については、教室での授業や生配信よりも、録画された動画の方が学習効果が高いと考えています。皆様の期待を裏切らないように、可能な限り、魅力的な動画を配信していくつもりです。

キーワード /Keywords

韓国の社会と文化【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE010F	◎		○		○
科目名	韓国の社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つけなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート	25%
毎回のコメントカード	40%
その他、小レポートなど	35%

韓国の社会と文化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

安全保障論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りしたいと思います。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(8回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、YouTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
篠崎 香織 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジユメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第3回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第4回 阿部 米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
 - 第5回 政所 国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
 - 第6回 政所 国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
 - 第7回 久木 2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
 - 第8回 久木 2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
 - 第9回 篠崎 東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
 - 第10回 篠崎 世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
 - 第11回 リーダー Humour in British Politics (イギリス政治におけるユーモア)【British politics (イギリス政治)】【Protest (抵抗)】【Humour (ユーモア)】
 - 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
 - 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
 - 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
 - 第15回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- ※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回 阿部 9「産業・技術革命」

第5回、第6回 政所 16「平和と公正」

第9回、第10回 篠崎 11「まちづくり」

第12回 白石 17「グローバル・パートナーシップ」

第15回 下野 5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科
専門職学位課程
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

(到達目標)

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクションーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 内なる国際化と地域経済(1)【外国人労働者】【自動車産業】
- 9回 内なる国際化と地域経済(2)【外国人労働者】【サービス業】
- 10回 アジアにおける日系企業の事業展開【経営現地化】
- 11回 外資系による日系企業の買収合併【外資政策による規制】【S社の事例】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代史入門【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶ歴史
- 第2回 現代の起点としての第一次世界大戦
- 第3回 言論の「中立」化
- 第4回 国際協調体制と戦争の違法化
- 第5回 1920年代の日本と中国
- 第6回 近代日本と災害
- 第7回 政治の大衆化
- 第8回 軍縮をめぐる政治と世論
- 第9回 満洲事変と「熱狂」の創出
- 第10回 政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
- 第11回 日中戦争の諸相
- 第12回 新体制運動
- 第13回 日米交渉・日米開戦
- 第14回 戦時体制下における情報・宣伝・報道
- 第15回 太平洋戦争の終結と聖断

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジユメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

近代史入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese Culture and Society 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221F	◎		○		○
科目名	Japanese Culture and Society				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：日本の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：日本の文化と社会についての考え方をういて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

自立的行動力：日本の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Hood, Christopher P. Japan: The Basics, Routledge 2015 ISBN: 978-0-415-62971-3 (pbk) 2657円 or 978-1-315-74568-6 (ebk) 2398円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook (ebk)

Other printed materials will be supplied by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and Orientation
- 2回 Studying about Japan
- 3回 Demographic challenges
- 4回 Japan on the move
- 5回 Natural Japan
- 6回 Student Led Discussion & Presentations I: Demographic challenges
- 7回 Student Led Discussion & Presentations II: Japan on the move
- 8回 Student Led Discussion & Presentations III: Natural Japan
- 9回 Japanese Core Values
- 10回 Pure Japanese
- 11回 One for all, all for one/ Re)building Japan
- 12回 Student Led Discussion & Presentations IV: Core Values
- 13回 Student Led Discussion & Presentations V: Pure Japanese
- 14回 Student Led Discussion & Presentations VI: One for all, all for one /
- 15回 Student Led Discussion & Presentations VII: Re)building Japan and submission of final paper

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation and Participation -50%

Final Paper -50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.
A TOEIC Score of 650 or higher before registration is highly recommended

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231F	◎		○		○
科目名	English Speaking Cultures and Societies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 知識：英語圏の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 思考・判断・表現力：英語圏の文化と社会についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
 自立的行動力：英語圏の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

This class aims to provide an overview of the English speaking cultures and societies that exist, and provide a springboard for students to research the topics that interest them in particular in greater detail. This covers historical aspects such as British mythology as well as British expansion spreading English all over the globe, a variety of conflicts that have shaped some of the communities in different ways, and religious beliefs that underpin some cultural attitudes. We will also look at topics such as food, sport, and entertainment as well as exploring some well known festivals.

教科書 /Textbooks

None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggestions to be made when necessary in class

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Legends and Lore
- 第3回 Three Chords and the Truth
- 第4回 Protest and Politics
- 第5回 Ghost Stories
- 第6回 Empire to Empire
- 第7回 The Clearances and the Troubles
- 第8回 Masters of War
- 第9回 Fusion Culture
- 第10回 Blood † Body
- 第11回 Silly Point
- 第12回 Food
- 第13回 Christmas
- 第14回 A Barrel of Laughs
- 第15回 POP!

成績評価の方法 /Assessment Method

60% group projects
40% individual projects

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Instructions to be given in class. Try to pay attention to English media and news, and keep up-to-date with topics that may intersect with those we cover in class to help deepen your understanding of relevant issues.

履修上の注意 /Remarks

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第1部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知る」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第5回 植民地主義と文化
- 第6回 レポートについての注意と課題レポート①の説明
- 第7回 マイノリティ文化の保護と多文化主義
- 第8回 多文化主義の可能性と限界
- 第9回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ
- 第10回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

第II部 文化の違いを超えて？

- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化
- 第12回 身体近代化
- 第13回 医療の持つ権力と文化
- 第14回 癒しの多様性
- 第15回 課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート（3回） 60%、毎回の授業課題 40%
毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変化します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を歩んでいたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

- ・ 本授業の到達目標
- 「知識」
→ 歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる 知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→ 歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→ 歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 「反実仮想」と歴史学
- 第3回 鎖国か、開国か
- 第4回 国土・国境・共通語
- 第5回 「望ましい」首都
- 第6回 通過儀礼
- 第7回 教育のあり方
- 第8回 日中戦争
- 第9回 日独伊三国同盟とソ連
- 第10回 日米開戦への道
- 第11回 太平洋戦争
- 第12回 核を巡る問題
- 第13回 敗戦と占領
- 第14回 天皇制
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジユメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

可能性としての歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は「アカデミック・スキルズ」で培ってきた考える力をさらに活用して、大学での学びに必要な論理的思考能力を伸ばすことを目的とします。データ収集からはじめて、それを取捨選択して加工、可視化して、他者に向けて発信するという一連の過程を具体的に実践していきます。

具体的には、以下のような項目を身につけます：

- 情報収集を行い、その情報の信頼性をチェックすることができる
- 表計算ソフトなどを利用し、データを可視化することができる
- プログラミングを基礎から学ぶことで、論理的な思考力を鍛え、現在不足しているといわれるデータサイエンス人材への一歩を踏み出す
- グループ活動を通じて、他者とのコミュニケーションをとることができる

(到達目標)

【技能】大学生生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データを集める【検索】 【情報の信頼性】 【着眼点】
- 3回 データを加工する(表計算の復習)
- 4回 論理的思考力1(プログラミングの基礎)
- 5回 論理的思考力2(図形の描画)
- 6回 論理的思考力3(変数の利用)
- 7回 論理的思考力4(条件分岐, ループ)
- 8回 論理的思考力5(双方向性)
- 9回 論理的思考力6(配列)
- 10回 データの可視化1(グラフの種類)
- 11回 データの可視化2(棒グラフ)
- 12回 データの可視化3(折れ線グラフ)
- 13回 データの可視化4(円グラフ)
- 14回 現実のデータを活用する
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 90%

積極的な授業参加 ... 10%

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料などを提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に提示した課題を次回の授業時に提出したりしてもらいますので、授業時間外の作業が必要となります。特にグループ活動においては、グループメンバーと議論する時間を確保してください。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や授業進度、そのほかの社会状況に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、ビッグデータやAIなど、ICTスキルやデータを活用できる人材が世の中で求められています。いわゆる「文系」という枠に自分を限定するのではなく、自分の将来に向けてプログラミングを学んでみませんか？

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング (論理的な思考) , プログラミング , データの可視化 , コミュニケーション能力 , 思考力 , SDGs 17:パートナーシップ

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることです。最終的な目標は、テーマに沿って自分で問いを設定し、文献を読んで考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジユメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている

教科書 /Textbooks

黒木登志夫 2020『新型コロナの科学：パンデミック、そして共生の未来へ』中公新書 (940円 + 税)

新型コロナに関連する問題は、科学の分野の知識のみで解決できるとは限りません。それぞれの地域の様々な問題と結びついています。今年度は現在進行形の問題について思索を深めることを試みます。このテキストは2020年12月に発売されました。授業が始まるころには状況も変化していると思いますが、それを含めて議論したいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 慶応義塾大学教養研究センター 2014『ダメレポート脱出法』慶応大学出版会
- 佐渡島沙織ほか編 2015『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』大修館書店
- 白井利明・高橋一郎2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

そのほかMoodleに参考となる電子書籍のリンクを貼ります。必要に応じて閲覧してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本の理解を深めるには・レジユメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献 (報告内容、積極的な発言など) 50%
(第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。
※学期末レポートの最低文字数は2000字です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。受講する段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- ・ 演習の準備に時間がかかることを嫌がらないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。レポートをあまり書かない学部の学生も、学期末には2000字以上のレポートを頑張って書いています。レポートに慣れている学部の学生は、この機会に自分の書き方を点検し、より高く評価されるレポートを目指してみましよう。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

身近なことをテーマに考えたり自分の考えを表現したりすることを、様々な学部（学群）の学生と行ってもらおう。

（到達目標）

【技能】大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業を通じて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：考える力
- 3回：コミュニケーション能力
- 4回：ことばを有効に活用するためのスキル
- 5回：自分を理解する①【大切にするもの】
- 6回：自分を理解する②【違和感のあるもの】
- 7回：相手を理解する
- 8回：自分を理解してもらおう
- 9回：個人発表
- 10回：ここまでの振り返り
- 11回：北九大を理解する①【キャンパス探訪】
- 12回：北九大を理解する②【課題設定】
- 13回：北九大を理解する③【表現する】
- 14回：個人発表（または、グループ発表）
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（事前・事後学習を含む） ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に役立つ活動を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために)

【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の興味や関心に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
たくさんのインプットとたくさんのアウトプットをしていただくことを期待しています。
よく考えて、受講してください。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、楽

関連するSDGsゴール：17.「パートナーシップで目標を達成しよう」

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、「アカデミック・スキルズI」で養った「考える力」をより伸ばしていくことを目的とします。では、考える力とはどんな力なのでしょうか。あるいは、考えるとはどんな行為なのでしょう。授業では、これらの問いを改めて問い直し、他者（他の参加者）との対話を行うを通じて、考えることの中でも論理的思考、批判的思考と呼ばれるものを学んでいきます。

まずは、論理的思考に触れます。論理についての講義をしたうえで、実際に論理トレーニングを行い、小さなレポートを書いてもらいます。次に、批判的思考を学びます。論理的思考と批判的思考の違いについて抑えたいので、「哲学対話」という方法を通じて、批判的思考を実践していきます。批判と聞くと悪口や非難を想像するかもしれませんが、この場合の「批判」とは、ある事柄に疑問符をつける、あるいは、問いを立てることです。例えば、「大企業の人は勝ち組である」といった言説に対して、批判的思考は、「勝ち組って何？」「幸福って何？」「勝ち負けだけなの？」などとどんどん問いを投げつけ、その問いをその根本にある本質にまで掘り下げていきます。これによって新しい選択肢や価値観を獲得することができます。その過程では、他者の存在が不可欠であることも実感できるでしょう。

【到達目標】

《技能》大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

野矢茂樹『論理トレーニング101題』, 産業図書, ISBN-13 : 978-4782801369, (2,200円 + 税)

* 論理トレーニングに使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 梶谷真司『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』, 幻冬舎新書
- ・ ○E. B.ゼックミスタラ『クリティカルシンキング: あなたの思考をガイドする40の原則』, 北大路書房

などなど。授業中にも紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 思考と論理の歴史について①【論理的思考の出自】
- 第3回 思考と論理の歴史について②【論理的思考の発展】
- 第4回 論理トレーニング①【論証の構造】
- 第5回 論理トレーニング②【演繹】
- 第6回 論理トレーニング③【推測】
- 第7回 論証してみよう！【小レポートを書く】
- 第8回 論証を確認しよう！【相互添削とコーヒーブレイク】
- 第9回 論理的思考から批判的思考へ
- 第10回 批判的思考と対話
- 第11回 サイレント・ダイアログ【書く対話】
- 第12回 根っこゲーム【問いを疑ってみよう】
- 第13回 哲学対話①【対話と批判的思考の実践】
- 第14回 哲学対話②【対話と批判的思考の実践】
- 第15回 まとめ

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業貢献および小テスト 50%
(小テストは論理トレーニング回に宿題として出す予定です。)
 - ・ 期末レポート 50%
(期末レポートは、批判的思考を用いて問いを立てるというレポートです)
- * 授業を5回欠席した場合は、レポートを出しても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 論理トレーニングについては、予習と復習が欠かせません。小テストも出題します。
- ・ 小レポートについては、事前にお題を出しますので、データなどの素材を前もって集めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション (導入) ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕もツイッターやっていますが、140字ぐらいの短い文章 (短文) が当たり前になると、長い文章で論理的に考えることができなくなります。ネトウヨが典型的ですが、思考が短絡的になり、態度や価値観も独善的で短絡的になる傾向にあります。皆さんには、絶対にそうなってほしくない。そのために、ぜひこの授業で論理的・批判的な思考方法を身につけて欲しいと思います。と同時に、他者の存在に配慮し、その声に耳を傾けることがどれほど重要なことなのかも考えて欲しいと思います。皆さんと対話できることを、とても楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】 情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライブログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。
その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

法への誘い【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW001F		◎	○		○
科目名	法への誘い				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自立的行動力を身につけることを目指す。

(到達目標)

- 【技能】法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
- 【思考・判断・表現力】法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
- 【自立的行動力】社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法によって人を規制するということ - 感染症をめぐる公法学
- 第3回 検察庁法の改正法案は何が問題だったのか? - 行政権と内閣
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか? - ヴェニス商人に見る同意
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか? - AIと法
- 第7回 電気は「物」か? - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか? - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 法律と年齢 - ○○オになったら□□ができる!?
- 第10回 災害リスク管理制度としての保険
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ? - 公的年金の役割
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由? - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

法への誘い 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピューターリテラシー 【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として利活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる

【文章作成】

- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ 基礎的なグラフの作成ができる
- ・ 条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

(到達目標)

【技能】コンピューターを適切に利用する技能を身につけている。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円 (税抜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

コンピューターリテラシー 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返り・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須ですので、自由に利用できるパソコンを持っていることが望ましいです。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが利用できる環境を準備してください。

また、コンピューターの基本的な操作（キーボードによる文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすいです。

なお、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もあります。また、受講者数調整を実施する可能性もあります。詳細は、初回の授業中に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、利活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。

キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

データ分析 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

データ分析【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。
また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間以外に、積極的にデータ分析の練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須なので、自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが使える環境を準備しておくこと。また、表計算ソフトを使った演習が中心となるので、表計算ソフトがある程度使えれば、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。また、受講者数調整を実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

データ分析【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。
また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間以外に、積極的にデータ分析の練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須なので、自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが使える環境を準備しておくこと。また、表計算ソフトを使った演習が中心となるので、表計算ソフトがある程度使えれば、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。また、受講者数調整を実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。

キーワード /Keywords

分布、要因比較、時系列分析、統計学、表計算ソフト、データからの知識獲得

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群 1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 /Class 群 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 1 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%
宿題や振り返りレポート ... 30%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%
宿題や振り返りレポート ... 30%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL205F			◎		
科目名	知の創造特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

かつて日本は、今よりずっと活気ある国としてありました。そしてこの時代の日本人は自信に満ちていました。彼らは今年より来年、来年より再来年、自分たちの生活はどんどん「豊か」で「贅沢」なものになっていくと信じていましたし、それが彼らの目標でもありました。

しかし現在、かつての活気は失われ、これとは対称的に、慢性的な不況や「少子高齢化」、地方の「過疎化」など、「衰退」を象徴するような、ネガティブな側面ばかりが目立っています。

そして私たちは「豊かさ」や「贅沢」を追い求めることをやめ、積極的にお金を使い、物を買うことすら控えるようになっていきます。

では、それはなぜなのでしょう？

なぜかつての日本には活力があっただけで今はなく、私たちはかつての「豊かさ」を求めなくなってしまったのでしょうか。そしてそんな中、私たちは今、どんな生活を理想として生きているのでしょうか。

私たちは過去、何を経験し、その結果、今、未来に何を期待しているのでしょうか。

この講義は、私たち日本人が戦後、どのような時代を生き、そこで何を経験し、そのことでどう変わってきたのか、私たち自身の過去と現在、そして未来を客観的に理解するための授業です。

そしてここではそれを、日本人の生活条件の変化、つまり日本経済の歴史をもとに考えていきます。

私たちの生活は、各時代の経済によって規定されています。

したがって、経済が過去からどう変化して来たのか知ることは、私たちの生活がこれまでどう変化して来たのか知ることであります。そして私たちの生活がどう変化して来たのか理解出来れば、上の問いに対する答えを見つけることもできるようになります。

ここではぜひ皆さんに、経済と歴史をもとに現在の私たち自身を理解する、経済学的・歴史学的な思考を実践し、身に付けていただきたいと思っております。

☆到達目標

【思考・判断・表現力】

設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜ「経済史」を学ぶのか
- 第2回 敗戦直後の日本経済
- 第3回 戦後復興の始まり - 「鉄は国家なり」 -
- 第4回 「団塊の世代」
- 第5回 人口の急増と経済危機 - 「人口転換」 -
- 第6回 「人口ボーナス」
- 第7回 産業基盤の整備と「高度経済成長」
- 第8回 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 「団塊の世代」の世帯形成と日本経済
- 第10回 日本人の生活水準の向上 - 都市的な生活様式への憧れ -
- 第11回 「一億総中流」 - 「ホワイトカラー」の台頭 -
- 第12回 「高度経済成長」の終焉 - 「オイルショック」と「団塊ジュニア」 -
- 第13回 「安定成長期」 - 産業構造の転換と「鉄冷え」 -
- 第14回 「バブル崩壊」
- 第15回 「失われた20年」と現在

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 人口転換 団塊の世代 高度経済成長 オイルショック 安定成長期 団塊ジュニア バブル崩壊 失われた20年 口
ストジェネレーション

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC002F			◎	○	
科目名	社会学的思考		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活をしているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代の社会学的解説』,山本努・辻正二・稲月正著,学文社,2014年,¥2640 (古書)
- 『最新 社会福祉士養成講座⑨ 社会学と社会システム』,一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規,2021年,¥2,750
- その他、講義の中で、適宜、紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会とは、社会学とは【文化、社会化】
- 第2回 社会学的な考え方とは【行為、規範、制度、社会構造、エスノグラフィー】
- 第3回 社会学の歴史的展開1 - デュルケム【規範、集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 第4回 社会学の歴史的展開2 - ウェーバー【社会的行為、理解社会学、社会的行為の意図せざる結果】
- 第5回 家族とジェンダー【家族類型、家族の機能、世帯の概念、男女共同参画、ワークライフバランス】
- 第6回 集団と組織【準拠集団、第1次集団、第2次集団、官僚制、NPO】
- 第7回 逸脱と社会統制【差別、偏見、マイノリティ、ラベリング理論】
- 第8回 都市と農山村【人口構造、人口動態、都市化と過疎化、中山間地域、コミュニティ】
- 第9回 社会階層と社会移動【階級、階層、社会移動、所得格差、教育格差、健康格差、社会指標】
- 第10回 社会問題と社会政策(貧困、失業、過労死、非正規雇用、社会的孤立、福祉国家と福祉社会、社会運動)
- 第11回 環境【公害、SDGs、ESD】
- 第12回 災害【被災、支援、ボランティア】
- 第13回 社会システムと社会変動【近代化、産業化、情報化、戦後日本型循環モデル】
- 第14回 グローバリゼーションと移民【国境を越える移動、移民、多文化共生】
- 第15回 まとめ

社会学的思考 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト...40%、課題レポート...60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

- DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
 DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
 配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- ステイーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業時に指示した文献の講読
- 事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亜紀 / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科
田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第3回 脳とこころ2【睡眠の影響】
- 第4回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第5回 まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。

事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

企業と社会 【昼】

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8. 働きがい・経済成長、SDGs12. 作る・使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっており、そのためにも上記の4要件を満たすことが期待され、ま

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファアソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカー-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらがはらむ危険性)について知る。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的パフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、CJTに対しては批判も存在し、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。
さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

社会哲学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・バトラー』, 青土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？社会って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロッキ、ルソー、カント）
- 第7回 【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
- 第8回 【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
- 第9回 【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
- 第10回 【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス）
- 第11回 【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
- 第12回 【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
- 第13回 【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
- 第14回 【現代】優生思想って何？：命の法的管理
- 第15回 【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいのか？

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
(オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。)
- ・ 期末テスト 55%

* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクシヨン（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

文化を読む【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGE O / 比較文化学科
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。表象研究、宗教研究、異文化間教育、文学研究といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎表象

人間は情報を共有するために様々なメディアを通じた表現活動をおこなう。本講義ではそれを、表象(representation)とよび、理解と誤解の源泉として位置付けてみよう。本講義では、イメージとして生み出される表象をとりあげて、歴史社会的な文脈のなかで読み解いてみたい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎異文化間教育

文化というもの、見える文化と見えない文化があり、本人が自覚しにくい見えない文化に気づくことが異文化理解の始まりである。異文化の理解があつてはじめて、外国語のコミュニケーション能力が育つ。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】文化について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

文化を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象を読む①描かれた〈日本人〉-明治期風刺画をとりあげて-
- 第3回 表象を読む②描かれた〈日本〉-ジャポニズムの流行をとりあげて-
- 第4回 表象を読む③演じられた〈日本人〉-オペラ『蝶々夫人』をとりあげて-
- 第5回 神社の成立① 神社建築成立以前の神社
- 第6回 神社の成立② 神社の成立年代
- 第7回 日本の神 ー神教との比較を通して
- 第8回 罪・戒律・禁忌
- 第9回 異文化を理解することは可能なか？（見えない文化と価値観）
- 第10回 バイリンガルはうらやましい？（「移動する子ども」のライフストーリー）
- 第11回 異文化トレーニング（他者との出会いを捉え直す）
- 第12回 安部公房「棒」の解釈
- 第13回 乙ー「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を知る）
- 第15回 幕末・明治の出版物（西南戦争風刺画を読み解く）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%（表象、宗教、異文化間教育、文学に関する4つのレポートすべてを提出しなければ、評価の対象とはならない）
各回において、課題コメントの提出によって出席（視聴）を確認する。提出状況は成績に加味される。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義は録画オンデマンドによる遠隔授業を予定している。講義回によっては、講義方法が変更される場合があるが、その際にはmoodleにて告知する。
修正登録による受講者は、必ずさかのぼって講義を視聴してコメントを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーター：真鍋までメールで質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

表象、メディア、宗教、異文化、日本近現代文学

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR006F			◎		○
科目名	芸術と人間		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
- 「アート・パワー」現代企画室 ポリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト 2回 50%
- レポート(学期末) 40%
- 日常の取組(出欠など) 10%

芸術と人間【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。

近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリベタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

現代正義論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

情報表現【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230F		○	◎	○	
科目名	情報表現		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、自分自身が伝えたい情報を表現するための知識や技術を習得することである。自分の想いを一方的に伝えるだけでなく、他者の存在を意識して表現することが重要である。このため、本授業では、個人ワークを行いながら、以下の2点の習得を目指す。

- ・プレゼンテーションやロジカルシンキング、スライドデザインなどに関する学びや疑問などを具体的に表現することができる。
- ・プレゼンテーションソフトを活用して、伝えたい情報を分かりやすく表現することができる。

(到達目標)

【技能】情報を適切に発信する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 話し方や書き方1【要約】
- 3回 話し方や書き方2【PREP】
- 4回 考え方：ロジカルシンキング1【課題発見】
- 5回 考え方：ロジカルシンキング2【原因分析】
- 6回 プレゼンテーション1【Power Point】
- 7回 プレゼンテーション2【発表】
- 8回 情報の収集1【検索】【信頼性】
- 9回 情報の収集2【ドメイン名】
- 10回 情報の整理【プロット】【ストーリー】
- 11回 情報の表現【デザイン】【レイアウト】
- 12回 情報の発信1【発表者】
- 13回 情報の発信2【スライド】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で実施する課題や振り返りレポートなどへの取り組み... 60%
プレゼンテーションソフトPowerPointを用いた課題提出... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをノートにまとめて、課題や振り返りレポートなどを締め切りまでに間に合うように提出すること。課題は、プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて実施するものもある。

情報表現【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、「アカデミック・スキルズ」を履修しておくことが望ましい。大学で対面授業が実施できる場合は、授業中にグループディスカッションや発表を行ってもらうこともある。ただし、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。なお、受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、授業開始前に掲示にて説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、振り返りレポートを提出してもらい、受講生の質問や意見を反映させながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加して欲しい。また、実際にコンピュータを操作して作成する課題もある。その際には、授業時間外に積極的に取り組むこと。受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、スライドデザイン

倫理思想史【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？まず、倫理学は、考える学問である哲学の一分野です。では、何を考えるのか？それは、私たちの行動や振る舞い、そしてその善さや悪さです。少し専門的に言えば、倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょう。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「社会哲学入門」があります。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

倫理思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：倫理学って何？
- 第2回 【基礎】義務論①：多数者のために一人を殺すべきか？（トロッコ問題）
- 第3回 【基礎】義務論②：無条件の義務（カント）
- 第4回 【基礎】功利主義①：幸福とは何か？（ハチソン、ベンタム、ミル）
- 第5回 【基礎】功利主義②：選好功利主義（ヘア）
- 第6回 【基礎】徳倫理学①：徳とは何か？（プラトン、アリストテレス）
- 第7回 【基礎】徳倫理学②：善い人間と善い社会（マッキンタイア）
- 第8回 【基礎】メタ倫理学：善さとは何か？（ムーア）
- 第9回 【応用】討議倫理学：コミュニケーションと倫理（ハーバーマス）
- 第10回 【応用】生命医療倫理学①：いつから人間になる？（中絶、ES / IPS細胞）
- 第11回 【応用】生命医療倫理学②：いつまで人間でいられる？（認知症、安楽死 / 尊厳死）
- 第12回 【応用】環境倫理学①：人間中心主義と自然中心主義（クレプス、アービツヒ、ネス）
- 第13回 【応用】環境倫理学②：動物の権利（シンガー、ヌスパウム）
- 第14回 【応用】ケアの倫理学①：道徳とジェンダー（ギリガン）
- 第15回 【応用】ケアの倫理学②：ケアは誰が担うべきなのか？（フェミニズム、ジェンダー論）

* () の中は、その回に扱う主な思想家や問題です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
- (オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。)
- ・ 期末テスト 55%

* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

言語・認知・コミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210F			◎		
科目名	言語・認知・コミュニケーション				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* 本授業は多くの履修生が想定されるため、オンライン授業で行います。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。
まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 ヒューマンエラー(松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第9回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(植田)
- 第12回 モノの切り取り方と分類(カテゴリー論)(植田)
- 第13回 比喩と理解(植田)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語・認知・コミュニケーション【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。対面授業の場合は私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(8回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

戦争論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。またYouTube配信なので、コメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)50%、毎回の授業課題 50%

毎回の授業課題は、提出時期、授業への貢献によって得点に変化する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 遠隔授業の場合はオンデマンド配信となりますが、課題は提出時期によって得点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC004F			○	◎	○
科目名	人権論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」 オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」 人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「平和と人権」 戦争・平和についての解説。
- 6 「ハンセン病について」 ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
- 7 「教育と人権～識字問題」 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 8 「教育と人権～夜間中学」 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 9 「部落問題について」 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 10 「部落問題について」 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 11 「在日外国人と人権課題」 在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 12 「在日コリアンについて」 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 13 「障害者と人権」 障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 14 「アジアの人権状況」 アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

人権論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率7割を満たした学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN001F			○	◎	○
科目名	ジェンダー論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この科目では、なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学、科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのかなど、日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点および理論、ならびに社会や文化に潜むジェンダー・ギャップを可視化するツールとしての統計を読み・活用する方法を学びます。

【到達目標】

- 【思考・判断・表現力】ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
- (○) マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
- R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ジェンダー論を学ぶためのキー概念【セックス】【ジェンダー】【セクシュアリティ】【家父長制】
【ホモソーシャル】【ホモフォビア】【ミソジニー】【ジェンダー統計】
- 2回 日本語表現に潜むジェンダー【女言葉】【男言葉】【ジェンダーバイアス】【女子力】
- 3回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学【カノン】【権力】【公と私】【眼差し】【当事者性】
- 4回 現代アートとジェンダー【制度】【主体】【客体】【オリエンタリズム】
- 5回 ワーク・ライフ・コンフリクト問題【男らしさ】【性別役割分業】【ワーク・ライフ・バランス】
- 6回 多様なライフスタイルと家族【近代家族】【コレクティブ/シェア・ハウジング】【ゲイ・ファミリー】
【ステップ・ファミリー】【シングルペアレント・ファミリー】【シングル化】
- 7回 セクシュアリティと日本社会【ジェンダー化される身体】【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】
【リアリティ/ヘルス・ライツ】【性のダブル・スタンダード】【性の商品化】【JKビジネス】
- 8回 「性別」は「女と男」ではない【ワン・セックス・モデル】【ツウ・セックス・モデル】【多様な性】
- 9回 教育とジェンダー【近代化】【国民国家】【ジェンダー・ギャップ】【隠れたカリキュラム】【理系女】
- 10回 年金とジェンダー【片働き・共働き】【専業主婦優遇制度】
- 11回 高齢者介護とジェンダー【ケアの担い手】【ケアの有償化】【介護保険制度】【ヤング・ケアラー】
- 12回 刑法の国際化とジェンダー【女性に対する暴力】【セカンド・レイプ】【売買春】【人身取引】
【国際人権法】
- 13回 「従軍慰安婦」問題【戦争とジェンダー】【暴力の連続体】【女性の権利は人権である】
- 14回 女性差別撤廃条約と人権【ジェンダーの解消】【アフターマティブ・アクション】【個人通報制度】
- 15回 グローバル化とジェンダー【経済格差の拡大】【移住労働】【性別役割分業の国際的再配置】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている教科書の章を読み、その内容に関連した日常生活の事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、発展的学びのために教科書の各章末尾に紹介されている図書のうち関心のあるものを読んでみる、期末課題の作成に向けて文献・資料等を探して読むこと、レポートの構想を練ることなど、計画的に準備を進めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

- (1)ジェンダー関連の法制度改正・整備等の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、ジェンダーにセンシティブな感覚を身につけ、レポートおよび期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

「SDGs 5. ジェンダー平等、SDGs 10. 不平等をなくす」

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR110F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

この講義の到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良き市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」（55%）+「授業内での小テスト+授業への取り組み」（45%）=合計100%評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（1500字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR180F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

(到達目標)

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 40%

期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

採用予定のテキストが2021年8月頃発行予定のため、授業時に指示させていただきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税
福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・ 社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。

事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW001F	○		○	◎	
科目名	障がい学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

（到達目標）

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3. 健康と福祉」「16. 平和と公正」「17. パートナーシップ」

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

(到達目標)

【知識】共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 /Class Format 授業形態 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症(障害)を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症(障害)とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本(1) 障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本(2) 構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本(3) コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本(4) 行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本(5) 自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本(6) 余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加(貢献)度30%。
課題への対応70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることながらインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々と協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤演習II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

基盤演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤力応用 (地域課題解決のためのICT活用) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES301F			○	◎	△
科目名	基盤力応用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブテーマ：地域課題解決のためのICT活用

近年のICTは、コンピュータの処理速度の高度化やネットワークの高速大容量化が実現し、社会に急速に浸透してきている。重要なことは、高度化したICTをどのように活用するかを考えることである。

本授業では、ICTの活用方法について、地域貢献という観点から考えていく。すなわち、各地域が抱えている課題を見つけて明確化し、その課題に対してICTをどのように活用して解決していくかについて企画、提案していく。これらの活動を通じて、本授業では以下の項目について学習することを目指す。

- 情報社会を構成しているICTに関する基礎的知識
- 問題・課題解決のための基礎的能力
- 地域の課題に対して論理的にアプローチできる思考力
- 最新のICTを使う利点について他者を納得させる企画力と説得力

(到達目標)

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：身の回りにあるICTと情報社会【オリエンテーション】
- 2回目：高精度な位置情報システム【ジオメディア】【GPS】
- 3回目：ICT活用演習(1)：位置情報システムを使った課題解決と評価
- 4回目：画像認識【画像処理】【顔画像認識】【状況説明】【機械学習】
- 5回目：ICT活用演習(2)：画像認識を使った課題解決と評価
- 6回目：IoT【センサー】【クラウドコンピューティング】
- 7回目：ICT活用演習(3)：IoTを使った課題解決と評価
- 8回目：人工知能【AI】【ディープラーニング】【技術的特異点】
- 9回目：ICT活用演習(4)：人工知能を使った課題解決と評価
- 10回目：ICT地域活性化事例の分析(1)【課題の選定と明確化】
- 11回目：ICT地域活性化事例の分析(2)【課題解決の効果と改善点】
- 12回目：地域課題解決演習(1)【地域課題の発見と明確化】
- 13回目：地域課題解決演習(2)【ICTを使った地域課題の解決方法】
- 14回目：地域課題解決演習(3)【ICTを使った地域課題解決の効果】
- 15回目：発表とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ICT活用演習・・・20%，地域活性化事業の分析・・・20%，地域課題解決演習・・・50%，積極的な授業参加・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、普段の生活においてICTはどのように活用されているのか、また、ICTをどのように活用すれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。

事後学習として、授業中に説明した内容を復習すること。また、授業中に提示された課題については、授業後においても積極的に取り組み、完成度を高める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。また、受講者数調整を実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、各回に適した課題や質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。そのため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

ICT活用，地域課題解決，論理的思考力，説得力，アクティブラーニング

基盤力応用 (政治的暴力 < 応用編 >) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES301F			○	◎	△
科目名	基盤力応用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基盤力応用 (サブタイトル「政治的暴力 (応用編) 」) は、1・2年次教養科目で戸蒔が担当する「世界特講テロリズム論」「安全保障論」「戦争論」を発展的に継承し、その上位に位置づけられる科目として提供されるものです。

これら科目に共通するのは「政治的な暴力」ですが、各科目15回の中で時間が足りずに扱えなかった内容も色々あり、それらについて考察する科目、という位置づけです。

到達目標

【思考・判断】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。※今年度はコロナ対応なので、感染リスクが高いコミュニケーション力の向上は目標から外します。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを準備します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

基盤力応用 (政治的暴力 < 応用編 >) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「テロ」「安全保障・防衛」「戦争」の3テーマについて、それぞれ5回分をあてることを予定していますが、今年度が初めての開講となるので、内容は未定です。以下は、いまのところ念頭にある計画ですので、内容は大きく変更される可能性があります。

※コロナの状況によって、動画対応になる可能性もあり得ます。

第1回 ガイダンス

第2回 テロ応用 (オウム真理教)

第3回 テロ応用 (9 1 1 とアルカイダ)

第4回 テロ応用 (ISIL)

第5回 テロ応用 (その他。例えば、日本赤軍関連)

(1 ~ 5 までテーマ変更あり。例えば、全てオウム関連とか日本赤軍になる場合もありうる)

第6回 安全保障応用 (現在の日本の状況評価)

第7回 安全保障応用 (島嶼防衛)

第8回 安全保障応用 (ゲリコマ対処)

第9回 安全保障応用 (その他。例。災害派遣、宇サ電など)

第10回 安全保障応用 (安全保障の今後)

(6 ~ 10 までテーマ変更あり。そして、テロと安全保障の関連なども扱うかもしれない)

第11回 戦争応用 (化学兵器と戦争)

第12回 戦争応用 (生物兵器と戦争)

第13回 戦争応用 (戦後の戦争①朝鮮戦争とベトナム戦争)

第14回 戦争応用 (戦後の戦争②中東戦争と湾岸戦争、イラク戦争)

第15回 まとめ

(11 ~ 15 までも同様です)

※最終的に、第1~第3テーマが全て連動しあっている、というところが分かってもらえればなあと思っています。

成績評価の方法 /Assessment Method

対面なら、授業態度30% + 学期末試験 (筆記) 70%。

動画なら、小テスト (5 回) の合計点100%。(ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1・2年次の関連する授業動画はすべてyoutubeで閲覧可能にしておくので、それを視聴することが事前学習になります。YouTubeのAIが選ぶ「関連動画」を視聴することが事後学習になります。

履修上の注意 /Remarks

可能であれば、「テロリズム論」「安全保障論」「戦争論」のどれか1つでも受講済みであることを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

対面なのか動画なのか分かりませんが、よろしくお願いします。

キーワード /Keywords

ライフ・デザイン特講A (税理士による租税講座) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL107F					◎

科目名	ライフ・デザイン特講 A
-----	--------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、租税に関する正しい知識を得て、責任ある社会の一員として行動できるようになることである。また、税理士及び税理士制度に関心を持ち、将来の選択肢としての税理士や税理士事務所での働き方について学習する。これらの目的を達成するために、本授業では、九州北部税理士会から選定された税理士に会計及び税法の授業を展開してもらう。本授業は、税理士を目指す者及び税理士事務所等に就職する者の増加を目的とする日本税理士会連合会による寄付講座である。

本授業の目標は、以下の通りである。

- ・ 租税が、この国の基本的価値である「自由主義」と「民主主義」を維持させるために必要なものであり、いわば「自由と民主の対価」であることを理解する。
- ・ 課税してはならないもの（担税力のないもの）に対して課税しないことは、個人の尊厳（自由主義）の関係を考える上で重要であることを理解する。
- ・ 国家の運営に必要な資金の負担は国民の間で「公平」であるべきであり、「公平が自由のためにある」ことについて理解する。
- ・ 租税は「担税力のないものに課税しないこと」や「公平」を実現するためにあり、租税の世界の正義（立法動機）を実現するためには租税制度の整備が不可欠であり、法整備によってしか正義の実現はないことを理解する。
- ・ 何のために税があり、何のために税制があるのかについて認識を深める。
- ・ 租税制度（言い換えれば、この国の自由主義と民主主義）を拡充発展させるために設けられた制度が税理士制度であることを理解する。

(到達目標)

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 税理士の業務とその使命
- 3回 租税概論
- 4回 消費税
- 5回 所得税 ①【所得税の概略】
- 6回 所得税 ②【所得税に関する事例】
- 7回 相続税・贈与税 ①【相続税・贈与税の概略】
- 8回 相続税・贈与税 ②【相続税・贈与税に関する事例】
- 9回 法人税
- 10回 会計と法人税
- 11回 ファイナンシャルプランナーと税理士
- 12回 公認会計士と税理士
- 13回 弁護士と税理士
- 14回 税理士の実務
- 15回 まとめ

ライフ・デザイン特講A (税理士による租税講座) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 (毎回の授業で実施する振り返りレポートを含む) ... 80%
まとめレポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをノートにまとめて、振り返りレポートを締め切りまでに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

九州北部税理士会の都合により、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

九州北部税理士会から選定された税理士に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。このため、以下の注意点に留意すること。
① 「税理士による租税講座」は、2021年度のみ開講である。(2022年度以降の開講は未定である。) 税理士及び税理士制度に関心がある人、将来の選択肢として税理士や税理士事務所で働きたいと考えている人は、ぜひ、受講して欲しい。
② 受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、授業開始前に掲示にて説明する。
③ 毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す学びを深めて欲しい。
④ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。

キーワード /Keywords

税理士、租税、消費税、所得税、相続税、贈与税、法人税、会計士、弁護士

ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL207F					◎

科目名	ライフ・デザイン特講B
-----	-------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業は、国際教育交流センターが主催する教員引率型の海外学修プログラムのための講座です。

本授業では下記にある海外学修コースの各訪問先で能動的に学ぶ / 活動に取り組むにあたり、前半は学修テーマや訪問先について理解を深め、後半は現地活動のための準備を行います。また並行して、渡航準備のためのポイントなどを学びながら海外活動に向けた心構えを形成していきます。

そのため、受講するだけでなく、本授業に付随する短期海外学修にも参加し、座学で学んだことを渡航先の活動に活かし、日本ではできない貴重な体験を得ることを通じ、その後の学修や学内外の活動につなげましょう。

なお、渡航に際しては、出国から帰国まで教員が引率し、また渡航準備のための細やかな指導も行います。大学最初のチャレンジとして、海外経験のない学生や海外渡航に不安のある学生も安心して参加できる入門コースです。

渡航先では、渡航コース毎に設定したテーマに基づいたフィールドワークや体験学習に取り組むほか、本学が大学間交流協定を結ぶ大学等を訪問し、協定校の実際の授業を見学・英語講座を受講したり、現地学生たちとの交流するなど様々な形の活動に取り組み、視野を広げや主体的に学び、行動する力を養い、異文化に対する理解を深めます。

この短期の海外学修を契機に、より長期の海外留学につなげたいと思っている学生にとっても良い経験となるでしょう。

2021年度は、次の1コースの実施を予定しています。

- <学修テーマ> “ハワイの文化と歴史を学ぶ”
- <渡航先> アメリカ合衆国・ハワイ州 (オアフ島)
- <連携大学> ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ (本学協定校)
- <渡航期間> 2022年2月下旬または3月上旬で1週間程度。うち現地での活動は5日間程度。
※具体的な渡航日程は2学期初めに案内予定です。
- <費用> 16万円程度
- <募集人数> 12～16名

※海外体験の費用は、参加者負担となります。

※渡航で来た場合でも予定していた活動先がCOVID-19の影響等で変更となる可能性もあります。また、渡航先の感染状況によっては渡航中止になる場合があります。あらかじめご了承ください。

なおハワイへ渡航するに際し、本講座のほか、渡航2か月前ほどから開かれる事前研修 (実際の渡航準備やオリエンテーション) への参加が必須となります。

また、帰国後は次年度の参加学生のために活動成果報告書または活動成果報告ポスターを作成します。

<ハワイコースの到達目標>

- 様々なフィールドでの活動を通じ、これまでと異なる視点を得、それぞれの価値観や考え方の幅を広げる。
- 現地での交流や経験を通じ、異国や異文化への理解を深めるとともに、自国や自文化、自己のアイデンティティについても考える意欲を得る。
- 帰国後学修において、自己の経験や成長を振り返り、言語化し、他者に適切に発信できるとともに、それらをその後の学生生活に活かしていく積極的な姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。
授業に必要な資料は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は、適宜、指示しますが、渡航先の国/地域や渡航先で取り組むことに関する書籍だけでなく、映像資料で得る情報も重要な参考資料となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記第1-15回の授業を9/6(月)～9/10(金)の日程で1日3コマ行います。
各日程と内容は次の通りです。

<1日目>

- 9/6(月) 第01回 コースガイダンス - ハワイスタディーツアーの概要 -
- 9/6(月) 第02回 海外体験目的の明確化と目標設定
- 9/6(月) 第03回 講義：ハワイと日本について

<2日目>

- 9/7(火) 第04回 グループワーク①：ハワイの日系移民とその歴史と訪問先施設について情報収集・整理
- 9/7(火) 第05回 発表、意見交換、訪問先での質問リスト作成
- 9/7(火) 第06回 グループワーク②：Pearl Harbor Historical Siteについて情報収集・整理

<3日目>

- 9/8(水) 第07回 発表、意見交換、訪問先でのリサーチテーマの設定
- 9/8(水) 第08回 グループワーク③：大学紹介の発表資料作成
- 9/8(水) 第09回 大学紹介の実演、資料のブラッシュアップ作業

<4日目>

- 9/9(木) 第10回 グループワーク④：日本文化紹介の発表資料作成
- 9/9(木) 第11回 日本文化紹介の実演、資料のブラッシュアップ作業
- 9/9(木) 第12回 グループワーク⑤：交流活動内容の企画、準備の進め方についてシミュレーション
グループワーク⑥：その他の市内視察やハワイでの過ごし方情報収集

<5日目>

- 9/10(金) 第13回 講義：海外危機管理学修
- 9/10(金) 第14回 講義：渡航準備について、ハワイスタディプラン作成
- 9/10(金) 第15回 スタディプラン発表・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ リサーチ課題・・・50%
- ・ 企画作成課題・・・20%
- ・ 最終課題・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にグループで取り組む課題のための情報収集をしっかり行い、授業に臨んでください。また授業での学びを定着をさせるため、海外学修を事後学修とし、これに参加することを推奨します。なお、詳細は北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業ではPC持参のこと
- ・ ハワイでの海外学修コース参加希望の方は本授業を履修してください。

※なお、ハワイコースはKGEP Challengeコースの「海外体験」分野のメダル付与や正式登録のための対象プログラムになります。またはAdvancedコースの修了要件である「国際教育交流センターが提供するプログラム」とすることもできます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

インターネットやメディアの報道で得た情報ではなく、現地で実際に自分の目で見ると、耳で聞く、肌で感じる経験は、視野を広げたり、それまでのものの見方を変えたり、知的好奇心を刺激したり、学問やキャリア形成面にインパクトを与えたりと自分の中で何かが動き出すのを感じると思います。また、現地で様々な活動を行うことで、海外渡航へのハードルも低くなるでしょう。大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、このプログラムではそんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター、海外学修、ファカルティレッドプログラム(FLD)、Kiakyushu Global Challenge Program(KGEP)、Advancedコース、Challengeコース

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

大学生生活を充実させるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ①社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ②将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を聞きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①全体ガイダンス
- ②学びのアップデート
- ③日本の「キャリアデザイン」
- ④日本が迎える大きな変化
- ⑤情報革命
- ⑥日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦中間振り返り
- ⑧お金と情報
- ⑨ビジネスと就活
- ⑩もう一つのキャリアデザイン
- ⑪「働き方」の最新事情
- ⑫日本の潮流、世界の潮流
- ⑬誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮全体振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると 생각합니다。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 / Credits 2単位 /Semester 1学期 / Class Format 講義 / Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・就職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアアエンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

<進め方>

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

<目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決力などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会（税込1,980円）

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
 - 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
 - 大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
 - 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
 - モーガン・ マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
 - エドガー H.シャイン『キャリア・ アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
 - 平木典子『改訂版 アサーション・ トレーニング -さわやかな自己表現のために』金子書房
 - 中原淳・ 長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
 - 香取一昭・ 大川 恒『ワールド・ カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
 - 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
 - J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
 - スブツニ子!『はみだす力』宝島社
 - アンジェラ・ ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット) -人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
 - リンダ グラットン『ワーク・ シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
 - リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・ シフト)』東洋経済新報社
 - 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
 - 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 全体ガイダンス・ 社会で求められる力
- 2 回 振り返りの仕方
- 3 回 コミュニケーション技法①傾聴
- 4 回 コミュニケーション技法②アサーション
- 5 回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 6 回 社会人インタビューレポート①
- 7 回 ロジカルシンキング
- 8 回 働くということ (社会人登壇)
- 9 回 Digital transformation
- 1 0 回 新しい仕事を創る (ジョブスタ)
- 1 1 回 企業団体研究のノウハウ
- 1 2 回 自分らしい就職活動 (先輩登壇)
- 1 3 回 社会人インタビューレポート②
- 1 4 回 計画された偶発性
- 1 5 回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎回の授業への取り組み (予習・ 復習・ 学びの実践レポート) …78%
社会人インタビューレポート…12%
最終レポート…10%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

- < 通常授業 > Moodleに予習・ 復習・ 実践課題を掲示しますので、締め切りまでに行ってください。
< インタビューレポート > 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
< 最終レポート > 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

- < 基本事項 >
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。
- < 履修者調整について >
※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・ 課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「ハートが震える機会」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊か

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

にする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

メンタル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

(到達目標)

【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションを Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS003F					◎
科目名	自己管理論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自立的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (基盤教育セ・日高)
- 2回 社会人のマナー (キャリアセンター・木村)
- 3回 身体の健康 (保健室看護師)
- 4回 心の健康 (相談室・臨床心理士)
- 5回 スポーツと健康 (基盤教育セ・日高)
- 6回 市民生活の基本 (行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課)
- 7回 災害への備え (基盤教育セ・村江)
- 8回 犯罪防止 (小倉南警察署生活安全課)
- 9回 自転車の交通安全 (小倉南警察署交通課)
- 10回 消防と救急 (消防局予防課・救急課)
- 11回 消費者トラブル (消費生活センター)
- 12回 大学生とお金 (福岡県金融広報委員会)
- 13回 ハラスメント防止 (総務局男女共同参画推進課)
- 14回 課題研究
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題 (確認テスト、ミニレポート等) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業 (オンデマンド動画配信) の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらおう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が
目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】 自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

到達目標

コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自律的駆動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%
まとめ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をととして理論と実践を学びます。
積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回 ~ 13回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズ I	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 ヨガストレッチ (1)
- 3回 ヨガストレッチ (2)
- 4回 体幹トレーニング (1)
- 5回 体幹トレーニング (2)
- 6回 バランスボール (1)
- 7回 バランスボール (2)
- 8回 バasketボール (1) ドリブル、パス、シュートの基礎練習
- 9回 バasketボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】
- 11回 選択種目 (2) 【バレーボール】 【トレーニング】
- 12回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 13回 女性のためのエクササイズ (1)
- 14回 女性のためのエクササイズ (2)
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストローウクの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 仲里 清 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 3回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 4回 ソフトボール(ゲーム①)
- 5回 ソフトボール(ゲーム②)
- 6回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 7回 ソフトボール(ゲーム④・スキル獲得の確認)
- 8回 サッカー(パスの基礎練習)
- 9回 サッカー(シュート・連携)
- 10回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 11回 サッカー(ゲーム②)
- 12回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 13回 フットサル(戦術・ルール把握)
- 14回 フットサル(ゲーム①)
- 15回 フットサル(ゲーム②・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。体育館ではフットサルおよびテニスに替わるラケット種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

ラケット種目、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

到達目標

コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自立的行動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。
また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70%
スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

世界での学び方【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 友松 史子 / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期/2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験させることで、国際理解や知識を拡大させるとともに、語学力の向上につなげさせ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKitakyushu Global Challenge Program (KGEP) / Challengeコースの入門科目となっています（コース修了のための要件科目（必修）です）。

受講を通じ、大学時代に海外での学びを体験してみたいと考えている人に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかについて考えてもらうことで、学生が社会で生きるのに必要とされる「自立的行動力」としての自己を確立する力を涵養することを目的としています。また本学の留学や海外研修プログラム参加のための準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に取り組めるよう、必要な知見や視座を提供することも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学習を通じ、理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私的プログラムとの異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機リスクについて、一定の知見を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験の目標を、自己の成長の観点から、かつ、キャリア設計の観点から、設定することができる。
- ⑤ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験挑戦計画を策定できる。
 - a) 体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸の観点を導入した計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑥ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業では、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業（海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー）、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが自身の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。またみなさんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースを修了されることを期待します。

（到達目標）

【自立的行動力】外国での学びに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。

講義資料等は、北方モデルにアップするので、各自、印刷して精読し、持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に、適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～...「千里の道も一歩から」
 第02回 北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介...「敵を知り己を知れば百戦危うからずや」
 第03回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今...「温故知新」
 第04回 キャンパスが世界、グローバル化する地域...「灯台下暗し」
 第05回 世界の中の日本...「井の中の蛙大海を知らず」
 第06回 ショートプログラム(語学研修など)への参加のすすめ...「腕より始めよ」
 第07回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ...「虎穴に入らずんば虎子を得ず」
 第08回 異文化体験と適応...「柳は緑花は紅」
 第09回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう(成長の可視化)...「艱難、汝を玉にす」
 第10回 海外での危機管理を考える① - マインドセット編...「転ばぬ先の杖」
 第11回 海外での危機管理を考える② - シミュレーション編...「備えあれば患いなし」
 第12回 海外体験計画を作成する...「画竜点睛」
 第13回 Group 1による海外体験計画の発表会
 第14回 Group 2による海外体験計画の発表会
 第15回 Group 3による海外体験計画の発表会
 * 留学フェアなどの時期により、講座の入れ替えが生じます。具体的な日程は、初回授業時に指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業課題・・・50%
 実践課題・・・20%
 最終課題・・・30% (「海外体験挑戦計画」書：30% + 発表：10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習(課題)を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、国際教育交流センターが所管する Kitakyushu Global Education Program (KGEP) の一部です。国際教育交流センターの海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集手続きを行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター、国際交流、海外体験、交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修、Kitakyushu Global Challenge Program (KGEP)

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR210F					◎
科目名	プロフェッショナルの仕事				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 事業の概要 (特にコロナ禍における現状、および今後の方向性について)
2. 仕事の概要 (ご自身の1年目、3年目、5年目の仕事内容と、仕事のやりがい)
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です(敬称略・順不同)。

<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空 (JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会 (NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグिव・ニーズ (T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ (teamLab)、労働基準監督官 (厚生労働省)、カモ井加工紙 (mt)、大創産業 (ダイソー)、西日本旅客鉄道 (JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸 (ANA)、本田技研工業 (HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空 (JAL)、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス (JINS)、JR九州エージェンシー、全日本空輸 (ANA)、日本放送協会 (NHK)、キャメル珈琲 (カルティエ・コーヒーフーム)、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス (モスバーガー)、日本たばこ産業 (JT)、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス (一風堂)、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造 (獺祭)

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会 (NHK)、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、九州旅客鉄道 (JR九州)、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空 (JAL)、ニトリ、北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR211F					◎
科目名	企業・団体の課題解決				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体を予定）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。（到達目標）【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
 ○ジェームス W. ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
 ○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』デイスカヴァー・トゥエンティワン
 ○加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
 ○加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
 ○大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
 ○大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
 ○上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
 ○安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
 ○伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 【団体A】課題提示
- 第03回 【団体B】課題提示
- 第04回 【団体C】課題提示
- 第05回 ロジカルシンキング
- 第06回 アイデアの作り方
- 第07回 相談日
- 第08回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第10回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第11回 課題解決の仕方（デザイン思考）
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終プレゼンテーション
- 第14回 【団体B】最終プレゼンテーション
- 第15回 【団体C】最終プレゼンテーション

※参考

<2020年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォーム株式会社

新たな採用活動手法の提案（選ばれる・目につく）

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

これからのウェディングに求められるものとは？（誰のためか・他社との違い・今までとの違い・明確な目的）

■株式会社タカギ

コロナショックの今だからこそ、タカギができることは何か？（資産を活用する・1000万円・2021年4月成果報告）

■SALASUSU（カンボジアのNPO）

新規プロジェクトを盛り上げよ！（オンラインショッピング、オンラインツアーなど）

<2019年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォーム株式会社

社員が安心して働ける職場を実現するには？

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

今までにない感動を体感できるウェディングとは？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見なくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第2～4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

地域特講B (Innovation and Regional Development) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
地域科目

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL201F	◎		○		○
科目名	地域特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- My concept is to help people learn about the goals of local and regional development and revitalization and give learners the skills, inspiration and knowledge to realize ideas, ideals and visions in Kitakyushu City and the Chikuho region.
1.私のコンセプトは、北九州と筑豊でアイデアやビジョンを実現するためのスキル、インスピレーション、知識を学習者に与えることです。目標は、生徒が自分の夢と野心を地域の発展と活性化にどのように相乗させるかの見つけ方を手助けすることです。
 - Students will learn about Kitakyushu and Chikuho, including its history, culture and its unique characteristics. They will understand the challenges and opportunities that are present now and in the future.
2.学生は、北九州と筑豊の歴史、文化、地域の特徴を学びます。彼らは、現在そして未来に存在するであろう課題と機会を理解します。
 - Learners will learn about regional development policy and revitalization - both globally and locally. Case studies in Japan and in other cities and regions across the world will be examined. 学生は、世界と近隣地域の両方で、一般に農村および地域の開発と活性化について学びます。世界の他の都市や地域の事例研究と検討します。
 - They will be encouraged to develop, debate and discuss their own ideas about products, services and local infrastructure as they gain knowledge of current legal, political and social conditions and policy. 彼らは、開発者が遭遇する現在の法的、政治的、社会的背景を探るケーススタディと参考資料を通じて必要なことを学びながら、製品、サービス、インフラストラクチャに関する独自のアイデアを開発する動機を得るでしょう。
 - Learners will learn the importance of understanding legal issues such as sustainable environmental practices, liability management and intellectual property law, and how to leverage government efforts to encourage regional development.
5.学習者は、持続可能な環境慣行、法的責任管理や知的財産法などの法的問題を理解することの重要性と、地域開発を奨励する政府の取り組みを活用する方法を学びます。
 - They will learn about building connections between local governments, local businesses, research institutions and communities.
6.また、起業家精神や地方自治体、地方の商業および研究機関、コミュニティのメンバーなどの利害関係者との相乗効果をどのように実現できるかについても学びます。
- Due to the global pandemic the following instructions have been issued.
- 1) The first two classes will be held 'ON DEMAND' or remotely.
 - 2) Later classes will be held in the CALL classroom.
 - 3) Please bring your own personal headset/earphones

教科書 /Textbooks

No text book.
The teacher will provide materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The teacher will give you guidance about materials available in the library and online.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class Contents

Class 1 Introduction : What is this course about? Start of our imagining a future journal.

Class 2 What are the goals of regional development? Regional development across the world: Case Studies: Glasgow (UK), Pittsburg (USA)

Class 3 Regional Development and Revitalization in Japan: A historical overview of Kitakyushu and Chikuho. Challenges and Opportunities

Class 4 Opening the Debate. Populate and Perish vs Smaller and Smarter

Class 5 Finding out 1 - Environmental and Commercial Sustainability

Class 6 Reaching Out 1 - Assessing Community Attitudes and Expectations

Class 7 Finding Out 2 - Getting Technical Advice.

Class 8 Reaching Out 2 - Approaching Local Businesses.

Class 9 Finding out 3 - Legal issues, liabilities, responsibilities, intellectual property

Class 10 Reaching Out 3 - Local Government, National and Local incentives. Special Zones. Guest lecture from a local government representative.

Class 11 Communication 1 - the media, social media and community surveying

Class 12 Communication 2- establishing partnerships with local business.

Class 13 Building a business. Guest lecture from successful entrepreneur from Australia

Class 14 Adapting to change and learning from perceived failure.

Class 15 Exhibition: Visions of Kitakyushu and the Chikuho Region

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) Reports 20%
- 2) Unit quizzes 30%
- 3) Project 30%
- 4) Class Participation 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please check Moodle each week for information about tasks, homework, projects and news on the class forum.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you and learning about, 'Innovation and Regional Development' together.

キーワード /Keywords

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE002F	◎		○		○
科目名	都市と地域				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人としての定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例 (L Qによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 10% 最終クイズ (2回合計) ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

都市と地域【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、複数の (Moodleによる) クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を重要視する
また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数 (授業貢献を含む) が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域の社会と経済【昼】

担当者名 李 錦東 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN170F	◎		○		○
科目名	地域の社会と経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指している。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、北九州・下関地域出身者はもとより地域外出身にとっても、学生生活を過ごす地域への理解深化や自身のキャリア形成等にとって学びとなるお話をさせていただく。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：人口でみる北九州地域の概況
- 第5回：下関地域の概況と北九州との関係
- 第6回：人口でみる北九州地域の産業構造・経済
- 第7回：データでみる北九州地域の社会・生活
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の起業環境 【NPO等の専門家による説明】
- 第12回：地域社会とのつながり 【関連活動に参加している団体との座談会】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめ・住みたいまちのために

※講義のテーマ、順番等については一部変更となる場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回)：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われている。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って事前・事後に情報収集に努めること。

また、授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

地域の社会と経済【昼】

履修上の注意 /Remarks

ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化
SDGs8 . 働きがい・経済成長、SDGs11 . まちづくり

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS170F	◎		○		○
科目名	地域の文化と歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 10 回： 《文化》地域の美術、現代アート(北九州市立美術館のコレクション)
- 第 11 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 12 回： 《文化》地域の文化財
- 第 13 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト(各分野の専門実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：2020年度のゲストの所属組織の例(2021年度も概ね同様の予定だが、一部変更となる可能性がある)

《北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など》

地域の文化と歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）： 100%
※課題はMoodleで提出することを基本とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE270F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、自らの考えをまとめたり対応方策を考えたりすること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2021年度授業においては、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興政策、市民主体のにぎわいづくりに着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。本授業は、行政および地域の各種団体等の協力のもとで実施する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。

【自立的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり
- 第 6回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 7回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
- 第 8回 《文化芸術》東アジア文化都市について
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第 10回 《文化芸術》MICE、大型イベントによるにぎわいづくり
- 第 11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第 12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第 13回 《市民主体》食を活かしたにぎわいづくり
- 第 14回 《市民主体》企業の視点からみたにぎわいづくり
- 第 15回 まとめ

※ゲスト(にぎわいづくりの実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：2020年度のゲストの所属組織の例(2021年度も概ね同様の予定だが、変更・追加の可能性もある)

《北九州市役所(観光課、MICE推進課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室)、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州》

地域のにぎわいづくり【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）： 100%
※課題はMoodleで提出することを基本とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることができる授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や地域団体等のにぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、 SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

地域と国際【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE003F	◎		○		○
科目名	地域と国際				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めています。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされています。さらに外国人観光客も年々増加するものと思われます。こういった状況にあつて、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）がどのように取り組んでいるのか、本授業では原則毎回、企業や公的機関から海外事業に携わっている担当者を招聘して、国際化の実状についてお話ししていただき、みなさん方と意見交換を行います。

(到達目標)

【知識】国際化の実情と地域の取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】国際化の実情と地域の取り組みの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際化の実情と地域の取り組みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、書籍や資料を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、書籍や資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 公的機関の国際化の現状(例、北九州市の国際交流・多文化共生)
 - 第3回 公的機関の国際化の現状(例、北九州市の国際環境保全)
 - 第4回 公的機関の国際化の現状(例、北九州市の水ビジネス)
 - 第5回 公的機関の国際化の現状(例、国の国際貢献活動)
 - 第6回 公的機関の国際化の現状(例、国の企業の海外展開支援)
 - 第7回 企業の海外事業の現状(例、製造業)
 - 第8回 企業の海外事業の現状(例、サービス業)
 - 第9回 企業の海外事業の現状(例、金融業)
 - 第10回 企業の海外事業の現状(例、建設業)
 - 第11回 本学における取組み事例①(例、カンボジア：人材育成)
 - 第12回 本学における取組み事例②(例、ベトナム：中小企業振興)
 - 第13回 国際化が進展する中で、いかに生きるか①
 - 第14回 国際化が進展する中で、いかに生きるか②
 - 第15回 まとめ
- ※講師(ゲストスピーカー)の都合により、授業の内容や順番に変更があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート：100%(原則毎回レポートを提出、期末テストは行いません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞や雑誌、インターネットなどを通じて、国際情勢にかかわる情報の収集に努めて下さい。
北九州地域の企業や公的機関の国際化の実状を理解し説明ができるようにして下さい。さらにこれらの実状に対して、独自の考えを述べることもできるようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

積極的に質問したり、意見を述べたりして下さい。
授業を受け身で捉えるのではなく、授業をつうじて、学生生活の過ごし方や、将来のあるべき姿・生き方を考えて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外にかかわっている企業や公的機関の方が、その取組み内容を"熱く"語ります。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○

科目名	地域防災への招待	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
 地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
 さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
 地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
 地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
 京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
 金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
 片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 人が死なない防災（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 活発な授業参加 20%
レポートおよび小テスト 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習しておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

北九州市派遣講師の回は、教室での対面講義を予定しているため、受講人数制限あり。
講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
本年度は、新型コロナウイルス対策のため、会場での合同ワークショップは実施しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業
SDGsで関連するゴール（3. 健康と福祉を、5. ジェンダー平等、6. 水とトイレを、13. 気候変動対策）

北九州市の都市政策 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC270F	◎		○		○
科目名	北九州市の都市政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

(到達目標)

【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第6回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

北九州市の都市政策 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。(必要な学習時間の目安は60分)
授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は60分)

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR270F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」（3年次）の準備講座としての役割も果たしています。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとぴあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
- 質疑応答、議論・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、こういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR370F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体と連携しながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。これは同時に今までの「就活」が終焉し、それに対応していた従来の「キャリア教育」もゼロリセットされたと考えていいでしょう。従来の就職支援は、3年生は業界研究を皮切りに、夏のインターンシップ、秋からの就職ガイダンス、自己分析、企業研究、エントリーシートや面接対策、そして3年生3月の合説解禁からの選考といった流れでした。しかし、自由化になった以上、いつ、何をするかは、大学や企業団体に決められたルールに乗る必要はもうありません。リクルートキャリア「就職白書2019」によると、「プレエントリー受付」以外は2018年卒を下回る一方で、2018年度のインターンシップ実施率は95.9%となり、2017年度よりも11.3ポイント増加しています。つまり、夏から始まるインターンシップ経由での採用が増えたことを意味しています。また「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」（3月1日）によると、エントリーシート提出者は52.0%で、筆記試験受験者は54.6%、面接試験受験者は46.4%と、いずれも前年同期から10ポイント以上増えています。さらに「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」（4月1日）によると、2020年春卒業予定の大学生・大学院生の4月1日時点の内定率（内々定を含む）が26.4%と発表。3月1日時点（13.9%）に比べて12.5ポイント、昨年度同時期（18.8%）に比べ7.6ポイント上回りました。これは学生優位の売り手市場が鮮明となるなか、企業の採用活動の前倒しがさらに進んだことを意味します。

以上のように、従来の就職活動より早まっている中、少なくとも5月から始まるインターンシップ募集までに、今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用し、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。

本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手（企業団体）を知る」、さらに夏のインターンシップに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習（Problem-based-Learning）です。

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る（自己分析）、相手を知る（企業団体研究）、就職活動のプランを創る。

（到達目標）【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房
- 本田由紀『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
- スプツニ子!『はみだすカ』宝島社
- J.D.クランボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力:その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくない人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 企業団体研究成果発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業

Communicative English I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 400 Listening ISBN 9784889187483 松柏社 1404円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST 成美堂 2200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 Unit 1
- 3 回 Unit 2
- 4 回 Unit 3
- 5 回 Unit 4
- 6 回 Unit 5
- 7 回 Unit 6
- 8 回 Unit 7
- 9 回 Unit 8
- 1 0 回 Unit 9
- 1 1 回 Unit 10
- 1 2 回 Unit 11
- 1 3 回 Unit 12
- 1 4 回 Unit 13
- 1 5 回 Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 5 5 % テスト・課題... 3 0 % 日常の授業への取り組み... 1 5 %

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習

事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。
 （到達目標）
 【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいいて、学初級レベルで、常活のニーズを充つことができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいいる。
 （ Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。 ）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 分の好きな仕事
- 3回 働き改
- 4回 少齢化
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of Things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 読解
- 13回 これからの教育
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（テストを含む）...70%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST (600点を目指すTOEIC L&R TESTへのストラテジー)
(成美堂) (¥2,200)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Sightseeing / Guided Tour ①
- 3回 Unit 1 Sightseeing / Guided Tour ②
- 4回 Unit 2 Restaurant、U.1 単語小テスト
- 5回 U. 2、Unit 3 Hotel / Service
- 6回 Unit 3、U.2 単語小テスト
- 7回 Unit 4 Employment、U.3 単語小テスト
- 8回 U. 4、Unit 5 Entertainment
- 9回 U. 5、U.4 単語小テスト
- 10回 Unit 6 Shopping / Purchases、U.5 単語小テスト
- 11回 U. 6、Unit 7 Sports / Health
- 12回 Unit 7 Sports / Health、U.6 単語小テスト
- 13回 Unit 8 Doctor's Office / Pharmacy
- 14回 U. 8、U.7 単語小テスト
- 15回 まとめ、試験説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、平常の学習状況（課題、小テスト）...30%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では英語力の基盤となる文法知識の復習とともに、リーディング学習では教科書の精読に英文多読を適宜交えて、読む力を伸ばします。リスニング学習では、事前・事後学習を含めて、実践的な聴く力を伸ばします。また授業では、理解度を測る小テスト[事前に指定された教科書の内容が中心となる]を実施します。

教科書 /Textbooks

妻島千鶴子 他 『First Time Trainer for the TOEIC TEST, Revised Edition』(センゲージラーニング) (¥2200 [税込み])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle (学習システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 Shopping リスニング & 文法(八品詞・句と節)
- 3回 Unit 1 Shopping リーディング & 文法(文型)
- 4回 Unit 2 Daily Life リスニング & 文法(時制 - 現在・過去)
- 5回 Unit 2 Daily Life リーディング & 文法(時制 - 未来)
- 6回 Unit 3 Transportation リスニング & 文法(時制3 - 現在完了形)
- 7回 Unit 3 Transportation リーディング & 文法(時制4 - 過去・未来完了形)
- 8回 Unit 4 Jobs リスニング & 文法(動詞 - 動詞分類)
- 9回 Unit 4 Jobs リーディング & 文法(動詞2 - 能動態・受動態)
- 10回 Unit 5 Meals リスニング & 文法(動詞3 - 現在分詞)
- 11回 Unit 5 Meals リーディング & 文法(動詞4 - 過去分詞)
- 12回 Unit 6 Communication リスニング & 文法(関係代名詞 1 - 制限用法)
- 13回 Unit 6 Communication リーディング & 文法(関係代名詞 2 - 非制限用法)
- 14回 Unit 7 Fun リスニング & 文法(関係副詞 1 - 制限用法)
- 15回 Unit 7 Fun リーディング & 文法(関係副詞 2 - 非制限用法) & まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト・・・30%, 平常の学習状況(小テストを含む)・・・70%

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition (センゲージラーニング) (¥2,200 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子・Dorey, Paul (著) (¥1,980 [税込])

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,320 [税込])

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,760 [税込])

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Unit 1: Shopping (動詞)
- 第 3 回 Unit 2: Daily Life (名詞)
- 第 4 回 Unit 3: Transportation (代名詞)
- 第 5 回 Unit 4: Jobs (形容詞と副詞)
- 第 6 回 Unit 5: Meals (時制)
- 第 7 回 Unit 6: Communication (受動態・分詞)
- 第 8 回 Unit 1~6 の振り返り / 腕試し
- 第 9 回 Unit 7: Fun (動名詞と不定詞)
- 第 10 回 Unit 8: Office Work (助動詞)
- 第 11 回 Unit 9: Meeting (比較)
- 第 12 回 Unit 10: Travel (前置詞)
- 第 13 回 Unit 11: Finance (接続詞)
- 第 14 回 Unit 12: Business (関係詞)
- 第 15 回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 400 Listening ISBN 9784889187483 松柏社 1404円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST (600点を目指すTOEIC L&R TESTへのストラテジー)
(成美堂) (¥2,200)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Sightseeing / Guided Tour ①
- 3回 Unit 1 Sightseeing / Guided Tour ②
- 4回 Unit 2 Restaurant、U.1 単語小テスト
- 5回 U. 2、Unit 3 Hotel / Service
- 6回 Unit 3、U.2 単語小テスト
- 7回 Unit 4 Employment、U.3 単語小テスト
- 8回 U. 4、Unit 5 Entertainment
- 9回 U. 5、U.4 単語小テスト
- 10回 Unit 6 Shopping / Purchases、U.5 単語小テスト
- 11回 U. 6、Unit 7 Sports / Health
- 12回 Unit 7 Sports / Health、U.6 単語小テスト
- 13回 Unit 8 Doctor's Office / Pharmacy
- 14回 U. 8、U.7 単語小テスト
- 15回 まとめ、試験説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、平常の学習状況（課題、小テスト）...30%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English I (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズに充足することができる。

教科書 /Textbooks

First-Time Trainer for the TOEIC TEST (センゲージラーニング株式会社) (2,000円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1~5 (国際コミュニケーション協会) (3,000円 + 税)

TOEICテスト公式問題集：新形式対応編 (国際コミュニケーション協会) (2,800円 + 税)

TOEIC 新公式問題集 vol. 2~6 (国際コミュニケーション協会) (2,800円 + 税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・Unit 1
- 2回 Daily Life (日常生活)
- 3回 Transportation (交通)
- 4回 TOEIC演習 (1) 【リスニング + リーディング】
- 5回 Jobs (仕事)
- 6回 Meals (食事)
- 7回 TOEIC演習 (2) 【公式問題集・リスニング】
- 8回 Communication (コミュニケーション)
- 9回 Fun (楽しみ)
- 10回 TOEIC演習 (3) 【リーディング問題】
- 11回 Office Work (オフィスワーク)
- 12回 Meeting (会議)
- 13回 Travel (旅行)
- 14回 Finance (お金)
- 15回 Business (ビジネス)

成績評価の方法 /Assessment Method

定時試験 (期末試験を含む) ...40%、平常の学習状況 (小テストを含む) ...60%

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は、授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rですとの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することが出来る。

教科書 /Textbooks

STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST
Level 3 (Advanced) (朝日出版社、2017) 1,700円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指摘する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の説明
- 第2回 Eating Out
- 第3回 Travel
- 第4回 Amusement
- 第5回 Meetings
- 第6回 Personnel
- 第7回 Shopping
- 第8回 Advertisement
- 第9回 Daily Life
- 第10回 Office Work
- 第11回 Business
- 第12回 Traffic
- 第13回 Finance and Banking
- 第14回 Media
- 第15回 授業のまとめと定期試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%

最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は絶対条件。

Communicative English II (律政群 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

欠席 4 回で失格とし、定期試験の受験資格はなくなる。なお、遅刻 2 回で欠席 1 回とカウントする。

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第 1 回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいて、学初級レベルで、常活のニーズを充つことができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいいる。（Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 やり抜く
- 3回 分の好きな仕事
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境問題
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 オンライン教育
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（テストを含む）...70% 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

Communicative English II (律政群 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 3 –Advanced– 朝日出版社 1870円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Unit 7
- 9回 Unit 8
- 10回 Unit 9
- 11回 Unit 10
- 12回 Unit 11
- 13回 Unit 12
- 14回 Unit 13
- 15回 Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト・課題... 30% 日常の授業への取り組み... 15%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習

事後学習：授業で扱った内容の復習

Communicative English II (律政群 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 2 ISBN 9784255155951 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Eating Out
- 2回 Travel
- 3回 Amusement
- 4回 Meetings
- 5回 Personnel
- 6回 Shopping
- 7回 Advertisement
- 8回 Daily Life
- 9回 Office Work
- 10回 Business
- 11回 Traffic
- 12回 Finance and Banking
- 13回 Media
- 14回 Health and Welfare
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。

リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communicative English II (律政群 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

"STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST : Level 2 - Intermediate -" (一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2) (朝日出版社) (¥ 1,870)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Eating Out
- 3回 U. 1、Unit 2 Travel
- 4回 U. 2、U. 1単語小テスト
- 5回 U. 3 Amusement、U. 2単語小テスト
- 6回 U. 3、U. 4 Meetings
- 7回 U. 4、U. 3単語小テスト
- 8回 Unit 5 Personnel、U. 4単語小テスト
- 9回 U. 5、Unit 6 Shopping
- 10回 U.6、U. 5単語小テスト
- 11回 Unit 7 Advertisement、U. 6単語小テスト
- 12回 U. 7、Unit 8 Daily Life
- 13回 U. 8、U. 7単語小テスト
- 14回 Unit 9 Office Work、U.8単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、平常の学習状況（課題、小テスト）...30%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

Communicative English II (律政群 1 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST-TOEIC L&Rテスト攻略の鍵（金星堂）（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ！（アルク）小石裕子・Dorey, Paul（著）（¥1,980 [税込]）

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,320 [税込]）

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るところだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,760 [税込]）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life [文型・品詞]
- 第3回 Unit 2 Shopping [代名詞・疑問詞]
- 第4回 Unit 3 Parties & Events [形容詞・副詞]
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel [前置詞]
- 第6回 Unit 5 Office Work [接続詞]
- 第7回 Unit 6 Marketing & ICT [名詞・主語と動詞の一致]
- 第8回 Unit 1~6 の振り返り / Review Test 1
- 第9回 Unit 7 Production & Logistics [助動詞]
- 第10回 Unit 8 Employment [時制]
- 第11回 Unit 9 Personnel [受動態]
- 第12回 Unit 10 Business [分詞・分詞構文]
- 第13回 Unit 11 Health & Environment [不定詞・動名詞]
- 第14回 Unit 12 Finance [関係詞]
- 第15回 全体のまとめ / Review Test 2

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

Communicative English II (律政群 1 - G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rですとの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することが出来る。

教科書 /Textbooks

Surprising Japan! 2 (松柏社、2017) 1,850円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指摘する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の説明
- 第2回 What makes Kobe beef so special?
- 第3回 What are those backpacks Japanese schoolchildren wear?
- 第4回 What are the seven things in shichimi?
- 第5回 Why does Japan's postal symbol look like that?
- 第6回 Why is there plastic grass in my bento?
- 第7回 Why is there a 5 o'clock bell?
- 第8回 Why do train drivers in Japan make those strange gestures?
- 第9回 How is nori made?
- 第10回 Why do Japanese wear masks?
- 第11回 What do the dates on food packages mean?
- 第12回 Why do Japanese ask about blood type?
- 第13回 Do Japanese mosquito coils work?
- 第14回 Why does miso soup move by itself?
- 第15回 授業のまとめと定期試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
 定期試験 70%

最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は絶対条件。

履修上の注意 /Remarks

欠席4回で失格とし、定期試験の受験資格はなくなる。なお、遅刻2回で欠席1回とカウントする。

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (律政群 1 - H) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では英語力の基盤となる文法知識の復習とともに、リーディング学習では教科書の精読に英文多読を適宜交えて、読む力を伸ばします。リスニング学習では、事前・事後学習を含めて、実践的な聴く力を伸ばします。また授業では、理解度を測る小テスト[事前に指定された教科書の内容が中心となる]を実施します。

教科書 /Textbooks

北尾泰幸 他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 -advanced-』(朝日出版社)
(¥1870 [税込み])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle (学習システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 Eating Out リスニング&文法(八品詞・句と節)
- 3回 Unit 1 Eating Out リーディング&文法(文型)
- 4回 Unit 2 Travel リスニング&文法(時制 - 現在・過去)
- 5回 Unit 2 Travel リーディング&文法(時制 - 未来)
- 6回 Unit 3 Amusement リスニング&文法(時制3 - 現在完了形)
- 7回 Unit 3 Amusement リーディング&文法(時制4 - 過去・未来完了形)
- 8回 Unit 4 Meetings リスニング&文法(動詞 - 動詞分類)
- 9回 Unit 4 Meetings リーディング&文法(動詞2 - 能動態・受動態)
- 10回 Unit 5 Personnel リスニング&文法(動詞3 - 現在分詞)
- 11回 Unit 5 Personnel リーディング&文法(動詞4 - 過去分詞)
- 12回 Unit 6 Shopping リスニング&文法(関係代名詞1 - 制限用法)
- 13回 Unit 6 Shopping リーディング&文法(関係代名詞2 - 非制限用法)
- 14回 Unit 7 Advertisement リスニング&文法(関係副詞1 - 制限用法)
- 15回 Unit 7 Advertisement リーディング&文法(関係副詞2 - 非制限用法) & まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト・・・30%, 平常の学習状況(小テストを含む)・・・70%

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602761 OUP
 2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
- Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
- Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
- Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
- Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
- Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)
- Week 8 Review of Units 1-3
- Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
- Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
- Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
- Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
- Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
- Week 14 Unit 6 You should try it! (B)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 15% Journal
- 20% Powerpoint Presentation
- 30% Final mini-test
- 15% Project work
- 20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次 / 単位 /Credits: 1単位 / 学期 /Semester: 1学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English III (律政群 1 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to improve writing and speaking ability. There will be listening and reading comprehension practice as well.

教科書 /Textbooks

Richards, Jack C. Four Corners Level 2A Student's Book with Online Self-study, 2nd ed. '18. Cambridge.
ISBN: 9781108570701
Price: ¥2420 including tax

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Recommendations will be made at the beginning of class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule*

Lesson 1: Introduction to the class
Lesson 2: Unit 1, "My Interests," Lessons A&B
Lesson 3: Unit 1, "My Interests," Lessons C&D
Lesson 4: Unit 2, "Descriptions," Lessons A&B
Lesson 5: Unit 2, "Descriptions," Lessons C&D
Lesson 6: Unit 3, "Rain or Shine," Lessons A&B
Lesson 7: Unit 3, "Rain or Shine," Lessons C&D
Lesson 8: Midterm test
Lesson 9: Unit 4, "Life at Home," Lessons A&B
Lesson 10: Unit 4, "Life at Home," Lessons C&D
Lesson 11: Unit 5, "Health," Lessons A&B
Lesson 12: Unit 5, "Health," Lessons C&D
Lesson 13: Unit 6, "What's on TV?" Lessons A&B
Lesson 14: Unit 6, "What's on TV?" Lessons C&D
Lesson 15: Speaking test and review

The units break down as follows:

Lesson A: Topic-related vocabulary and grammar point
Lesson B: Useful phrases for conversation
Lesson C: Grammar point
Lesson D: Topic-related reading

*Schedule and pace may be changed to suit the needs of the class. Further explanation will be given on the first session.

成績評価の方法 /Assessment Method

30% Participation and Diligence (Attending class, following directions, asking questions, etc.)
10% Homework (Homework is not graded, but checked that it is finished)
10% Vocabulary Quizzes
20% Speaking test
15% Midterm test
15% Final Test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the material before and after class. Students may also be asked to make simple conversation with small groups at the beginning of class.

履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation. Missing the final exam will result in a 「-」 grade.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort both in and out of class. Let's practice English in a safe environment in class, and learn self-study skills at home.

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - H) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor マーニー・セイテイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2A (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13031-5

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Pathways 1A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56255-3

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 2 – Expansion
- 7回 Topic 2 Presentation Preparation
- 8回 Topic 2 Presentation
- 9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Topic 5 Presentation Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to improve writing and speaking ability.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase, Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking Split 1A with Online Workbook Asscess Code Second Edition, National Geographic Learning, ISBN 978-1-33-756255-3, 3,091 Yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction / Meeting People
Week 2 Unit 1: Living for Work / Millennials at Work
Week 3 Speaking Skills / The Simple Present vs. the Present Continuous
Week 4 Listing and Video Activities
Week 5 Group Discussion
Week 6 Presentation Preparation
Week 7 Presentation
Week 8 Unit 3: The Marketing Machine / The On-Demand Economy
Week 9 Speaking Skills / Clarifying
Week 10 Listening and Video Activities
Week 11 Group Discussion
Week 12 Presentation Preparation
Week 13 Presentation
Week 14 Unit 4: Wild Weather / Extreme Weather Around the World
Week 15 Speaking Skills / Count and Noncount Nouns

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations and Quizzes: 50 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 30 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

We will work together and enjoy conversations in English.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Cycle 1: Video clip 1A, discussion and writing.
- 第3回 Cycle 1: Video clip 1B, discussion and writing.
- 第4回 Cycle 1: Video clip 1C, discussion and writing.
- 第5回 Cycle 1: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第6回 Cycle 2: Video clip 2A, discussion and writing.
- 第7回 Cycle 2: Video clip 2B, discussion and writing.
- 第8回 Cycle 2: Video clip 2C, discussion and writing.
- 第9回 Cycle 2: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第10回 Cycle 3: Video clip 3A, discussion and writing.
- 第11回 Cycle 3: Video clip 3B, discussion and writing.
- 第12回 Cycle 3: Video clip 3C, discussion and writing.
- 第13回 Cycle 3: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第14回 Begin review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice
- 第15回 Complete review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice

成績評価の方法 /Assessment Method

Cycle 1プレゼンテーションとライティングが25%
Cycle 2プレゼンテーションとライティングが25%
Cycle 3プレゼンテーションとライティングが25%
試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題をアップロード、(2) 変更等の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業が対面式から遠隔式に変わる可能性があるので必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語の表現方法などの質問も大歓迎です。

キーワード /Keywords

Communicative English III (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイテイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2A (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13031-5

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 4) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor タッド・ジェイ・レオナルド / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This Communicative English course challenges students to analyze and learn the meaning of English words and expressions through carefully designed student-centered activities that primarily focus on listening and speaking; and secondarily on reading (with a writing activity included). A fifth skill--the cultural component of language--is included contextually within a short reading that pinpoints a cultural theme that was mentioned in the DIALOGUE portion of the lesson. The content of each lesson is not only practical in nature, but uses language that is spoken on a daily basis by native English speakers throughout the United States and Canada.

Each lesson is divided into the following sections:

1. DIALOGUE presents the lesson's main text via a recording. In class, students first listen to the dialogue while noting the colloquial expressions; then they read the dialogue individually.
2. VOCABULARY EXPANSION outlines and defines the new words and phrases of the dialogue. Students receive further reinforcement of the vocabulary with additional example usages.
3. COMPREHENSION QUESTIONS require a basic understanding of the dialogue by asking questions that test students' ability to remember and then quickly scan the text to find the appropriate answers.
4. MATCHING allows students to "match" the lesson's vocabulary phrases with appropriate responses. This also tests students' understanding of the material by challenging them to select an answer based on context.
5. MINI-DIALOGUES incorporate the new vocabulary and phrases from the DIALOGUE and VOCABULARY EXPANSION in three mini-conversations. This cloze activity requires the students to first listen to the dialogues while filling in the missing vocabulary, then to role-play the dialogues with a partner.
6. CULTURAL CLOSE-UP focuses on a cross-cultural theme presented in the lesson. Each lesson's reading concentrates on one aspect of culture that was mentioned in the lesson. Two additional tasks are included with each reading: VOCABULARY BUILDER and SHORT ANSWER.

教科書 /Textbooks

Talk Talk Meeting People published by Halico Creative Education, Tokyo. ISBN: 978-4-909730-60-2 by Todd Jay Leonard (author)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Any hardcopy or digital English-Japanese dictionary is recommended.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Teacher and student introductions and course orientation.
 Class 2: Meeting a Friend by Accident. pp. 4-9.
 Class 3: You Wouldn't be Tom Hanley, Would You?. pp. 10-15
 Class 4: Allow Me to Introduce Myself. pp.16-21
 Class 5: In-Class Midterm Speaking Exam: Topic--Self Introductions.
 Class 6: It's a Pleasure to Meet You. pp.22-27
 Class 7: Let's do Lunch. pp.28-33
 Class 8: Making an Appointment. pp.34-39
 Class 9: Let's have a Party. pp.40-45
 Class 10: I Need a Vacation! pp.46-51
 Class 11: I think I'm Lost. pp. 52-57
 Class 12: May I Take a Message. pp. 58-63
 Class 13: Calling and Leaving a Message. pp.64-69
 Class 14: Leaving a Voice Mail Message. pp.70-75
 Class 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation: 50%

 Midterm and Final Exams: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This class is intensive in nature and because it is a skills-based class, attendance is very important. Active participation in class will garner students extra points that will be used to enhance the other grade components of the course. This course is best suited to high-beginner to intermediate level students of English. Because it is based on situational dialogues, it will be especially beneficial for students looking to increase their vocabulary and to learn practical, everyday English that will help them when using English while traveling or working and conversing with other English speakers.

履修上の注意 /Remarks

Students must have their own textbook, a notebook or paper, a highlighter, and a black or blue and a red pen to be prepared for my lessons. The textbook serves as a workbook, so it is very important and necessary for students to bring and use their textbook to every lesson.

 If a student must miss class due to a university function or official club activity, I will need an official note from the university organization detailing the event that requires the student from attending the lesson. Also, if a student is ill, and brings a note from the hospital, I will not count that as an absence.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I expect students to be in attendance, attentive, and prepared during my lessons. I don't like it when students are chronically late to class. Please be on time and ready when the class begins. Occasionally, due to weather or other unforeseen circumstances, I understand if a student is late when it can't be helped (e.g. a train is late, etc) as long as it does not become a weekly habit.

キーワード /Keywords

ESL, EFL, Communicative English, Cross-Cultural Understanding

Communicative English IV (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

We will work together and enjoy conversations in English.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Cycle 4: Video clip 4A, discussion and writing.
- 第3回 Cycle 4: Video clip 4B, discussion and writing.
- 第4回 Cycle 4: Video clip 4C, discussion and writing.
- 第5回 Cycle 4: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第6回 Cycle 5: Video clip 5A, discussion and writing.
- 第7回 Cycle 5: Video clip 5B, discussion and writing.
- 第8回 Cycle 5: Video clip 5C, discussion and writing.
- 第9回 Cycle 5: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第10回 Cycle 6: Video clip 6A, discussion and writing.
- 第11回 Cycle 6: Video clip 6B, discussion and writing.
- 第12回 Cycle 6: Video clip 6C, discussion and writing.
- 第13回 Cycle 6: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第14回 Begin review of Cycle 4, 5, and 6; writing, Q&A, and advice
- 第15回 Complete review of Cycle 4, 5, and 6; writing, Q&A, and advice

成績評価の方法 /Assessment Method

Cycle 4プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 5プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 6プレゼンテーション とライティングが25%
試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題をアップロード、(2) 変更等の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業が対面式から遠隔式に変わる可能性があるので必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語の表現方法などの質問も大歓迎です

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - H) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - H
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書 /Textbooks

Title: Pathways 1B 2B (Second edition)

Publisher: Cengage

ISBN: 978-1-337-56256-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction and Orientation

Week 2: Unit 6

Week 3: Unit 6

Week 4: Unit 7

Week 5: Unit 7

Week 6: Unit 8

Week 7: Unit 8

Week 8: Unit 6 - 8 Review

Week 9: Activity

Week 10: Unit 9

Week 11: Unit 9

Week 12: Unit 10

Week 13: Unit 10

Week 14: Review

Week 15: Review continued

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 33.33%

Final written and spoken exam - 33.33%

Participation and in class work- 33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

NA

履修上の注意 /Remarks

NA

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to meeting all of you and helping you to improve your English. Please don't worry about making mistakes or being too shy to speak in class! Just do your best and have fun!

キーワード /Keywords

Speaking, Reading, Writing

Communicative English IV (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2B (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13032-2

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイテイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2B (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13032-2

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you a chance to use the English you have studied in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd edition by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
- Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
- Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
- Week 5 Unit 8 I like people who are smart. (B)
- Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
- Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
- Week 8 Review of Units 7-9
- Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
- Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
- Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
- Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
- Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
- Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 15% Journal
- 20% Powerpoint Presentation
- 30% Final mini-test
- 15% Project work
- 20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you in class. Let's enjoy the class.

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 4) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English IV (律政群 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

We will work together and enjoy conversations in English.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Cycle 4: Video clip 4A, discussion and writing.
- 第3回 Cycle 4: Video clip 4B, discussion and writing.
- 第4回 Cycle 4: Video clip 4C, discussion and writing.
- 第5回 Cycle 4: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第6回 Cycle 5: Video clip 5A, discussion and writing.
- 第7回 Cycle 5: Video clip 5B, discussion and writing.
- 第8回 Cycle 5: Video clip 5C, discussion and writing.
- 第9回 Cycle 5: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第10回 Cycle 6: Video clip 6A, discussion and writing.
- 第11回 Cycle 6: Video clip 6B, discussion and writing.
- 第12回 Cycle 6: Video clip 6C, discussion and writing.
- 第13回 Cycle 6: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第14回 Begin review of Cycle 4, 5, and 6; writing, Q&A, and advice
- 第15回 Complete review of Cycle 4, 5, and 6; writing, Q&A, and advice

成績評価の方法 /Assessment Method

Cycle 4プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 5プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 6プレゼンテーション とライティングが25%
試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題をアップロード、(2) 変更等の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業が対面式から遠隔式に変わる可能性があるので必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語の表現方法などの質問も大歓迎です

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では最初にTOEIC形式のPre-testで現在の実力を把握します。その後、12のユニットで各パートで「解答力アップのポイント」を確認しながら練習問題に取り組み、現在の実力と目標のスコアとの差を埋めていく努力をします。同時に各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。仕上げに、Post-testを解いて、それまでの練習の効果を確認し、その後の目標達成までの継続的な自己学習へとつなげていきます。

教科書 /Textbooks

Ayako Yokogawa, Tony Cook著
“Level-up Trainer for the TOEIC Test, Revised Edition”
セングージ・ラーニング 2016年 ¥2,310 (税込)
ISBN: 978-4-86312-294-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 Pre-test の実施。
- 3回 Unit 1 テキスト形式を知る
- 4回 Unit 2 基本戦略①
- 5回 Unit 3 基本戦略②
- 6回 Unit 4 英文の基本構造を見抜く
- 7回 Unit 5 解答根拠の登場順
- 8回 Unit 6 正解の言い換えパターンを知る
- 9回 Unit 7 機能疑問文を聞き取る
- 10回 Unit 8 動詞の時制を見極める
- 11回 Unit 9 接続詞 vs. 前置詞
- 12回 Unit 10 複数パッセージの攻略
- 13回 Unit 11 統副詞に強くなる
- 14回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、課題（小テスト）、授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と課題（小テスト）・・・40% 期末試験・・・60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳細については第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①音声ファイルを必ずダウンロードして活用しましょう。本文の予習をして授業に臨みましょう。
- ②各ユニットの演習問題は毎回、予習課題となります。授業で間違えた箇所を確認しましょう。
TOEIC対策問題として必ず取り組みましょう。
- ③巻末付録のWord Listを予習・復習に活用し、単語をどんどん覚えていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外にも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ¥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの事前の準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST : INTERMEDIATE”
 (著者) 早川幸治他共著 金星堂 ¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 U. 1、Unit 2 Dining Out
- 4回 U. 2、U. 1単語小テスト
- 5回 Unit 3 Media、U. 2単語小テスト
- 6回 U. 3、Unit 4 Entertainment
- 7回 U. 4、U. 3単語小テスト
- 8回 Unit 5 Purchasing、U. 4単語小テスト
- 9回 U. 5、Unit 6 Clients
- 10回 U. 6、U. 5単語小テスト
- 11回 Unit 7 Recruiting、U. 6単語小テスト
- 12回 U. 7、Unit 8 Personnel
- 13回 U. 8、U. 7単語小テスト
- 14回 Unit 9 Advertising、U. 8単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%
 最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Bamba, Naoyuki et al. 2019. "Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (レベル別 TOEIC® L&Rテスト実力養成コース：中級編)." Tokyo: Kinseido. (¥2200 (税込))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2 and 3
4. Units 3 and 4
5. Units 4 and 5
6. Units 5 and 6
7. Units 6 and 7
8. Units 7 and 8
9. Units 8 and 9
10. Units 9 and 10
11. Units 10 and 11
12. Unit 12
13. Unit 13
14. Unit 14
15. Unit 15

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 20%
Final examination 期末試験 80%

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。

No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務づけられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC®L&Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST INTERMEDIATE, 978-4-7647-4090-7, 金星堂, ¥2,052

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時や Moodle (学習管理システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Travel / 名詞
- 第3回 Unit 2 Dining Out / 形容詞
- 第4回 Unit 3 Media / 副詞
- 第5回 Unit 4 Entertainment / 時制
- 第6回 Unit 5 Purchasing / 主語と動詞の一致
- 第7回 Unit 6 Clients / 能動態・受動態
- 第8回 Unit 7 Recruiting / 動名詞・不定詞
- 第9回 Unit 8 Personnel / 現在分詞・過去分詞
- 第10回 Unit 9 Advertising / 代名詞
- 第11回 Unit 10 Meetings / 比較
- 第12回 Unit 11 Finance / 前置詞
- 第13回 Unit 12 Offices / 接続詞
- 第14回 Unit 13 Daily Life / 前置詞と接続詞の違い
- 第15回 Unit 14 Sales & Marketing / 関係代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%, 小テスト 30%, 平常点(課題を含む) 20%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載するので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Score Booster for TOEIC L&R TEST: Pre-Intermediate (金星堂) (2,000円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1~5 (国際コミュニケーション協会) (3,000円 + 税)

TOEICテスト公式問題集：新形式対応編 (国際コミュニケーション協会) (3,000円 + 税)

TOEICテスト新公式問題集 vol. 2~6 (国際コミュニケーション協会) (2,800円 + 税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・ Travel
- 2回 Dining Out
- 3回 Media
- 4回 Entertainment
- 5回 Purchasing
- 6回 Clients
- 7回 TOEIC演習【リスニング問題】
- 8回 Recruiting
- 9回 Personnel
- 10回 Advertising
- 11回 Meetings
- 12回 Finance
- 13回 Offices
- 14回 Daily Life
- 15回 Sales & Marketing

成績評価の方法 /Assessment Method

定時試験(期末試験を含む)...40%、平常の学習状況(小テストを含む)...60%
最終評価には TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は、授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English V (律政群 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

授業では、単語のクイックレスポンス、英語の音の変化の聞き分け、シャドーイング、文法事項の学習と自動化トレーニング、パターンプラクティスなど英語力を高めるための各種トレーニングを行います。授業は「答え合わせ」の場所ではなく皆さんが英語力を鍛える場所です。したがって、個人、ペア、グループ、クラス全体とさまざまなレベルでトレーニング活動をしていきます。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集5』国際ビジネスコミュニケーション協会、¥3,300
ISBN 978-4-906033-57-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 4』国際ビジネスコミュニケーション協会、3,080円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 10 . Part 7 SP (single passage)
- 11 . Part 7 SP
- 12 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 13 . Part 7 DP,TP
- 14 . Part 6
- 15 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ペア / グループワークへの参加度 : 20%

小テスト : 30%

期末試験 : 50%

最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に単語テストの準備と復習をすること。単語テストは「分かっている」レベルではなく、一秒以内に日英、英日がすばやく転換できるレベルを要求するものです。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—「TOEIC L&R TESTパーフェクト演習—改訂新版—」 石井隆之 他著 成美堂 ¥2420(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Studying Abroad
- 3回 Unit 2 International Conference
- 4回 Unit 3 Holidays
- 5回 Unit 4 Leisure
- 6回 Unit 5 Restaurant
- 7回 Unit 6 Online Shopping
- 8回 Unit 7 Global Warming
- 9回 Unit 8 Websites
- 10回 Unit 9 Workplace
- 11回 Unit 10 Nursing Care
- 12回 Unit 11 Global Trading
- 13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 14回 Unit 13 Business Trips
- 15回 Unit 14 Hybrid Cars

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			

科目名	Communicative English VI	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	--------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

“BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION–”
(TOEIC LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ-改訂新版-) (著者) 吉塚弘他共著 成美堂 ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant
- 3回 U. 1、Unit 2 Entertainment
- 4回 U. 2、U. 1単語小テスト
- 5回 Unit 3 Business、U. 2単語小テスト
- 6回 U. 3、Unit 4 Office
- 7回 U. 4、U. 3単語小テスト
- 8回 Unit 5 Telephone、U. 4単語小テスト
- 9回 U. 5、Unit 6 Letter & E-mail
- 10回 U. 6、U. 5単語小テスト
- 11回 Unit 7 Health、U. 6単語小テスト
- 12回 U. 7、Unit 8 Bank & Post Office
- 13回 U. 8、U. 7単語小テスト
- 14回 Unit 9 New Products、U. 8単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Before-After Practice for the TOEIC L&R TEST: Revised Edition （セーラーラーニング株式会社）（2,000円+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1~5 （国際コミュニケーション協会）（3,000円+税）（○）
TOEICテスト公式問題集：新形式対応編 （国際コミュニケーション協会）（3,000円+税）（○）
TOEICテスト新公式問題集 vol. 2~6 （国際コミュニケーション協会）（2,800円+税）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・ Unit 1 Listening Section
- 2回 Unit 2 Reading Section
- 3回 Unit 3 Listening Section
- 4回 Unit 4 Reading Section
- 5回 Unit 5 Listening Section
- 6回 TOEIC演習【リスニング問題】
- 7回 Unit 6 Reading Section
- 8回 Unit 7 Listening Section
- 9回 Unit 8 Reading Section
- 10回 Unit 9 Listening Section
- 11回 Unit 10 Reading Section
- 12回 Unit 11 Listening Section
- 13回 Unit 12 Reading Section
- 14回 Unit 13 Listening Section
- 15回 Unit 14 Reading Section

成績評価の方法 /Assessment Method

定時試験（期末試験を含む）...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は、授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

- ◎“BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION-” (TOEIC LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ-改訂新版-) (著者) 吉塚弘他共著 成美堂 ¥2,420
- ◎“TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ” (著者) TEX加藤 朝日新聞出版 ¥979

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant、(金のフレーズ)単語小テスト1
- 3回 Unit 2 Entertainment、U. 1単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト2
- 4回 Unit 3 Business、U. 2単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト3
- 5回 Unit 4 Office、U. 3単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト4
- 6回 Unit 5 Telephone、U. 4単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト5
- 7回 Unit 6 Letter & E-mail、U. 5単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト6
- 8回 Unit 7 Health、U. 6単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト7
- 9回 Unit 8 Bank & Post Office U. 7単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト8
- 10回 Unit 9 New Products、U. 8単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト9
- 11回 Unit 10 Travel◎、U. 9単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト10
- 12回 Unit 11 Travel◎、U. 10単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト11
- 13回 Unit 12 Job Applications、U. 11単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト12
- 14回 Unit 13 Shopping、U. 12単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%
最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 C - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			

科目名	Communicative English VI	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	--------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The purpose of this course is to enhance students' communicative ability and skills based on a TOEIC®-oriented exercises. In addition to grammar and vocabulary, the course aims at improvement in reading and listening comprehension.

The class is conducted both in English and Japanese.

Students are required to look up a dictionary before the class for any words or phrases in the textbook that they do not know or have forgotten. They are also expected to work on exercises in the textbook before the class.

Active participation in the class is expected.

この授業の目的は、TOEIC®に準拠した演習に基づき、受講生のコミュニケーション能力とスキルを向上させることです。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

この授業は英語および日本語で行われます。

受講生は教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味は授業前に必ず調べておいて下さい。また、教科書の練習問題も授業前に必ず取り組んでおいて下さい。

授業への積極的な参加を期待します。

教科書 /Textbooks

Berman, Shari J. et al. 2020. "Top Tips for the TOEIC® L & R Test (考えて解く TOEIC® L&R TEST 実践演習)." Tokyo: Seibido. (¥2310 (税込))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Will be introduced in the class. 授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction Unit 1
2. Units 1 and 2
3. Units 2 and 3
4. Units 3 and 4
5. Units 4 and 5
6. Units 5 and 6
7. Units 6 and 7
8. Units 7 and 8
9. Units 8 and 9
10. Units 9 and 10
11. Units 10 and 11
12. Units 11 and 12
13. Unit 12
14. Unit 13
15. Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation in the class 授業への参加度 20%
Final examination 期末試験 80%

The TOEIC® score will be reflected onto the final grade. The details will be given in a document to be distributed in the first class, and will be explained.

最終評価にはTOEIC®スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Before the class:

1. Look up a dictionary for any words or phrases in the textbook that you do not know or have forgotten.
教科書で分からない、あるいは忘れてしまった語句の意味を調べておく。
2. Work on exercises in the textbook.
教科書の練習問題に取り組んでおく。

After the class:

1. Review the textbook and grasp the content, vocabulary and grammar.
教科書を復習し、内容、語彙、文法を把握する。
2. Review the exercises, focusing on the questions that you did not get right.
練習問題を復習し、特に間違えた問題を再確認する。

履修上の注意 /Remarks

No chatting allowed. 私語をしない。

No activities unrelated to the class allowed. 授業に関係ないことをしない。

In accordance with the policy for English education established by the Center for Fundamental Education, students are in principle required to take the TOEIC® once a semester.

Make sure to attend the first class.

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC® (TOEFL) を受験することが義務づけられています。

第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

授業では、単語のクイックレスポンス、英語の音の変化の聞き分け、シャドーイング、文法事項の学習と自動化トレーニング、パターンプラクティスなど英語力を高めるための各種トレーニングを行います。授業は「答え合わせ」の場所ではなく皆さんが英語力を鍛える場所です。したがって、個人、ペア、グループ、クラス全体とさまざまなレベルでトレーニング活動をしていきます。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集4』国際ビジネスコミュニケーション協会、¥3,080
ISBN 978-4-906033-54-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 3』国際ビジネスコミュニケーション協会、2800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 10 . Part 7 SP (single passage)
- 11 . Part 7 SP
- 12 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 13 . Part 7 DP,TP
- 14 . Part 6
- 15 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ペア / グループワークへの参加度 : 20%

小テスト : 30%

期末試験 : 50%

最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に単語テストの準備と復習をすること。単語テストは「分かっている」レベルではなく、一秒以内に日英、英日がすばやく転換できるレベルを要求するものです。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VI (律政群 2 C-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では英語力の基盤となる文法知識の復習とともに、リーディング学習では教科書の精読に英文多読を適宜交えて、読む力を伸ばします。リスニング学習では、事前・事後学習を含めて、実践的な聴く力を伸ばします。また授業では、理解度を測る小テスト[事前に指定された教科書の内容が中心となる]を実施します。

教科書 /Textbooks

石井隆之 他『PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST -Revised Edition-』 成美堂（¥2420 [税込み]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle(学習システム)にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 Studying Abroad リスニング&文法(八品詞・句と節)
- 3回 Unit 1 Studying Abroad リーディング&文法(文型)
- 4回 Unit 2 International Conference リスニング&文法(時制 - 現在・過去)
- 5回 Unit 2 International Conference リーディング&文法(時制 - 未来)
- 6回 Unit 3 Holidays リスニング&文法(時制3 - 現在完了形)
- 7回 Unit 3 Holidays リーディング&文法(時制4 - 過去・未来完了形)
- 8回 Unit 4 Leisure リスニング&文法(動詞 - 動詞分類)
- 9回 Unit 4 Leisure リーディング&文法(動詞2 - 能動態・受動態)
- 10回 Unit 5 Restaurant リスニング&文法(動詞3 - 現在分詞)
- 11回 Unit 5 Restaurant リーディング&文法(動詞4 - 過去分詞)
- 12回 Unit 6 Online Shopping リスニング&文法(関係代名詞 1 - 制限用法)
- 13回 Unit 6 Online Shopping リーディング&文法(関係代名詞 2 - 非制限用法)
- 14回 Unit 7 Global Warming リスニング&文法(関係副詞 1 - 制限用法)
- 15回 Unit 7 Global Warming リーディング&文法(関係副詞 2 - 非制限用法) & まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト・・・30%， 平常の学習状況（小テストを含む）・・・70%

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	---------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class. Curriculum is based on class handouts and student generated materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Critical Thinking Skills: Agreeing / Disagreeing / Giving Reasons
- 3回 Discussion skills: Starting a Discussion / Matching Ideas / Ending a Discussion
- 4回 Debate Level 1: Stating the Positives in a Pro vs. Pro Debate
- 5回 Debate 1 Presentation
- 6回 Spontaneous Debate Challenge
- 7回 Debate Level 2: Pro / Con Idea Matching & Persuading
- 8回 Structuring a Pro / Con Debate
- 9回 Debate Topic 2 Presentation
- 10回 Spontaneous Debate Challenge
- 11回 Debate Level 3: A Well Informed Debate / Fact vs. Opinion
- 12回 Structuring a Fact Based Debate: Information & Statistics
- 13回 Debate Topic 3 Presentation
- 14回 Final Test Review & Preparation
- 15回 Final Test Review & Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to have regular attendance and take part fully in class writing and speaking exercises. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be working closely with group members and will have to fulfill many tasks together. As student absence will affect pair and group success, all students are required to be present and active at all times.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	---------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A Third Edition, Wilson Oxford University Press Oxford University Press 2592 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are expected to use a dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Describing hobbies present perfect continuous
- 2回 Personal profiles and drone rodeo
- 3回 I think it's exciting- adjectives in -ing and -ed
- 4回 Describing TV shows and indirect questions
- 5回 Passives and reductions of don't and do
- 6回 A tour of three art museums
- 7回 Review of first three units
- 8回 Describing people and relative clauses
- 9回 Famous friendships and online messaging
- 10回 Infinitives and gerunds
- 11回 An article about robots and auction ad
- 12回 Describing events and the past perfect
- 13回 A travel accident about past events
- 14回 Review of last three units
- 15回 Review for exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare a weekly peer journal where they write about weekly activities

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

到達目標 - goals)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)
ISBN: 978-0-19-460285-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.
- Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 3: Unit 1: Reading, speaking using pair work, and review of unit p1-5 at the back of the book. Answers given.
- Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 5: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.
- Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 7: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.
- Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト
- Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 10: Unit 4: Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.
- Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 12: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.
- Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 14: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.
- Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

- Mid-term exam 50%
- Final exam 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

Although the plan at this time is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone. I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 C - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Second edition).
Publisher: CUP
ISBN: 9781108559805
Price: 2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Unit 1 Education
Week 3: Unit 1 Education continued
Week 4: Unit 2 Personal stories
Week 5: Unit 2 Personal stories continued
Week 6: Unit 3 Style and fashion
Week 7: Unit 3 Style and fashion continued
Week 8: Unit 4 Interesting lives
Week 9: Unit 4 Interesting live continued
Week 10: Unit 5: Our world
Week 11: Unit 5 Our world continued
Week 12: Unit 6 Organizing your time
Week 13: Unit 6 Organizing your time continued
Week 14: Review
Week 15: Review continued

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

NA

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			

科目名	Communicative English VII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	---------------------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1
- 第3回：Education 2
- 第4回：Personal Stories 1
- 第5回：Personal Stories 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Style and Fashion 1
- 第8回：Style and Fashion 2
- 第9回：Interesting Lives 1
- 第10回：Interesting Lives 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：Our World 1
- 第13回：Our World 2
- 第14回：Organizing your time
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

Communicative English VII (律政群 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標 - goals)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)
ISBN: 978-0-19-460285-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.

Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 3: Unit 1: Reading, speaking using pair work, and review of unit p1-5 at the back of the book. Answers given.

Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 5: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.

Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 7: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.

Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト

Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 10: Unit 4: Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.

Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 12: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.

Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 14: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.

Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%

Final exam 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

Although the plan at this time is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone. I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (律政群 2 C-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

We will work together and enjoy conversations in English.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Cycle 1: Video clip 1A, discussion and writing.
- 第3回 Cycle 1: Video clip 1B, discussion and writing.
- 第4回 Cycle 1: Video clip 1C, discussion and writing.
- 第5回 Cycle 1: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第6回 Cycle 2: Video clip 2A, discussion and writing.
- 第7回 Cycle 2: Video clip 2B, discussion and writing.
- 第8回 Cycle 2: Video clip 2C, discussion and writing.
- 第9回 Cycle 2: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第10回 Cycle 3: Video clip 3A, discussion and writing.
- 第11回 Cycle 3: Video clip 3B, discussion and writing.
- 第12回 Cycle 3: Video clip 3C, discussion and writing.
- 第13回 Cycle 3: Presentations, assessments, and concluding essay
- 第14回 Begin review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice
- 第15回 Complete review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice

成績評価の方法 /Assessment Method

Cycle 1プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 2プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 3プレゼンテーション とライティングが25%
試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題をアップロード、(2) 変更等の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業が対面式から遠隔式に変わる可能性があるので必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語の表現方法などの質問も大歓迎です。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C-A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 C - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力、語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

American Vibes People Places and Perspectives
映像で学ぶアメリカの素顔：都市・人々・視点
by Todd Rucynski 中川洋子 金星堂（2970円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 記事を読む 3 . Discussion

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter 2 Maine
- 4回 Chapter 3 New York City 1
- 5回 Chapter 4 New York City 2
- 6回 Chapter 5 Washington, D.C
- 7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11回 Chapter 10 Saint Jo, Texas
- 12回 Chapter 11 Santa Fe, New Mexico
- 13回 Chapter 12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14回 Chapter 13 Los Angeles 1
- 15回 Chapter 14 Los Angeles 2

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 40% 予習点 14パーセント 試験 46%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

必ずビデオを見て、CDを聞いて、予習をしてくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第1回目のオリエンテーションの時に予習点の説明をします。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C-B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

VOA (Voice of America)のニュース記事を使って、英語をトレーニングする授業です。毎週短めの記事をピックアップします。VOAの中でも Learning Englishのセクションに上がっている非英語話者向けの記事を使いますので、語彙、文法、読み上げスピードのどれも頑張れば十分に手が届くレベルです。

授業ではピックアップしたニュース記事、レポート記事をじっくりと読みます。単語はクイックレスポンスできるまで繰り返し練習し、登場した単語は正しく発音できるまで徹底練習、文法ルルは分かるまで丁寧に。内容をしっかり理解した後は、動画や音声を使ってシャドーイングやリピーティングの練習を個人、ペア、グループで行います。

ピックアップした記事をいろいろな角度から、いろいろなやり方でモノにしていきます。

教科書 /Textbooks

使用しません。VOAのサイト上に公開されている素材を使います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自、高校時代に使用していた参考書など、しっかり読み返しましょう。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション (授業の進め方、グループわけ、アプリ紹介)
- 2 . VOAニュース記事 教育分野
- 3 . VOAニュース記事 文化分野
- 4 . VOAニュース記事 政治分野
- 5 . VOAニュース記事 医療分野
- 6 . VOAニュース記事 経済分野
- 7 . VOAニュース記事 環境分野
- 8 . 前半のまとめ
- 9 . VOAニュースレポート 国際開発
- 10 . VOAニュースレポート 農業
- 11 . VOAニュースレポート 医療
- 12 . VOAニュースレポート 技術
- 13 . VOAニュースレポート 環境
- 14 . 後半のまとめ
- 15 . 授業全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ペア / グループワークへの参加度 : 20%
小テスト : 30%
期末試験 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語テストを毎週しますので、その準備を怠らないこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

VOA

Communicative English VIII (律政群 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、一学期に引き続き、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

アクティブ・ラーニングの学習方法を使ったテキストに従い、以下のように学習を進めます。

Let's Chat: ユニットのテーマに関連した問題を考える

Main Text: 本文の要点を考えながら読み進める

Graphic Organizer: 本文の内容や展開の仕方をまとめる

Active Learning: 語彙や表現法を学習する

Further Thinking: テーマをさらに掘り下げる

Words in Action: 英語をアクティブに使いこなす

教科書 /Textbooks

English through Active Learning, 978-4-255-15616-3, 朝日出版社, ¥1,870

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時や Moodle (学習管理システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Desert Wisdom
- 第3回 Unit 2 The Power of Friendship
- 第4回 Unit 3 Cell Phone Culture: How Cultural Differences Affect Mobile Use
- 第5回 Unit 4 Men are from Mars, Women are from Venus
- 第6回 Unit 5 The Beginning Parts of Botchan
- 第7回 Unit 6 Guernica
- 第8回 Unit 7 The Art of Lying
- 第9回 Unit 8 Fuji-san
- 第10回 Unit 9 The Three Secrets to Persuasion
- 第11回 Unit 10 Malala Yousafzai Nobel Peace Prize Lecture
- 第12回 Unit 11 Eating Disorders
- 第13回 Unit 12 Working Conditions, Death from Overwork
- 第14回 Unit 13 Emotional Robots
- 第15回 Unit 14 Maslow's Hierarchy of Needs

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%, 小テスト 30%, 平常点 (課題を含む) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 : 授業範囲の予習を行う

事後学習 : 学習内容の復習を行い、同意語リスト、Word Formationのリストを作成する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる

リーディング学習として、現代社会の様々なトピックについて書かれた英文を音読した後、文構造を理解しながら精読して読む力を伸ばします。リスニング学習として各チャプターのリスニング問題に取り組み、聞く力の向上を図ります。その他、各チャプターで英文法の基礎を復習し、本文の内容理解問題、文法練習問題など豊富な練習問題に取り組みます。最後は自分で意見を述べられる力をつけていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

教科書：Changing Times, Changing Worlds
著者：Joan McConnell & Kiyoshi Yamauchi
成美堂 2020年 2,090円（税込）
ISBN: 9784791972074

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方について説明)
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 11回 Chapter 11 All the Lonely People
- 12回 Chapter 12 Think before You Talk, Text, or Tweet
- 13回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 14回 Chapter 14 Helping People with Disabilities
- 15回 Chapter 15 A Special Message まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、小テストや授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ① 音声ファイルをダウンロードして活用しましょう。
- ② 指定された範囲の予習をして授業に臨みましょう。
- ③ 練習問題で間違えた箇所は、必ず復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Trend Watching 2: もっと知りたい社会のいま2 (成美堂) (1,900円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC Listening & Reading 1~5 (国際コミュニケーション協会) (3,000円 + 税)

TOEIC公式問題集：新形式対応編 (国際コミュニケーション協会) (3,000円 + 税)

TOEIC新公式問題集 vol. 2~6 (国際コミュニケーション協会) (2,800円 + 税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、Fake Online Review
- 2回 Could I Become a You Tuber
- 3回 Selling Viral Videos Makes Big Money
- 4回 Retro Video Games Become Popular Again
- 5回 Why Don't You Ask Siri?
- 6回 Uncanny Valley
- 7回 TOEIC演習
- 8回 Toddlers and Technology, No More Game-Changing Technology?
- 9回 Waiting In Line for Delicious New Food, Sympathy for the Delivery Man
- 10回 Black Friday, Graduation Trip
- 11回 Aspects of Sneaker Culture, The Union Jack as Fashion Symbol
- 12回 Trends in Fitness, Smart Rings
- 13回 Photogenicity, Stress Relief
- 14回 Young Women Turn to Gaming, Young People and Criticism
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定時試験...20%、平常の学習状況(小テストを含む)...80%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、一学期に引き続き、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

アクティブ・ラーニングの学習方法を使ったテキストに従い、以下のように学習を進めます。

Let's Chat: ユニットのテーマに関連した問題を考える

Main Text: 本文の要点を考えながら読み進める

Graphic Organizer: 本文の内容や展開の仕方をまとめる

Active Learning: 語彙や表現法を学習する

Further Thinking: テーマをさらに掘り下げる

Words in Action: 英語をアクティブに使いこなす

教科書 /Textbooks

English through Active Learning, 978-4-255-15616-3, 朝日出版社, ¥1,870

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時や Moodle (学習管理システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Desert Wisdom
- 第3回 Unit 2 The Power of Friendship
- 第4回 Unit 3 Cell Phone Culture: How Cultural Differences Affect Mobile Use
- 第5回 Unit 4 Men are from Mars, Women are from Venus
- 第6回 Unit 5 The Beginning Parts of Botchan
- 第7回 Unit 6 Guernica
- 第8回 Unit 7 The Art of Lying
- 第9回 Unit 8 Fuji-san
- 第10回 Unit 9 The Three Secrets to Persuasion
- 第11回 Unit 10 Malala Yousafzai Nobel Peace Prize Lecture
- 第12回 Unit 11 Eating Disorders
- 第13回 Unit 12 Working Conditions, Death from Overwork
- 第14回 Unit 13 Emotional Robots
- 第15回 Unit 14 Maslow's Hierarchy of Needs

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%, 小テスト 30%, 平常点 (課題を含む) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業範囲の予習を行う

事後学習：学習内容の復習を行い、同意語リスト、Word Formation のリストを作成する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (律政群 2 C-G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。又、この授業は、映像を通して英語圏の文化や人々の考え方を認識すると同時に英語能力を高めることも目的とします。

（到達目標）

[技能]英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足できる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』
著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,
2020年1月 発行、 ¥2,970 (税入)
出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter 2 Maine
- 4回 Chapter 3 New York City 1
- 5回 Chapter 4 New York City 2
- 6回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国語I (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)
 【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

中国語I (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)
 【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

中国語I (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)
【技能】 中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』(日本語版) 中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になるました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

中国語II (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)
【技能】 中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

中国語II (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN12F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN112F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

中国語Ⅳ(1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN201F		◎			
科目名	中国語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IVを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN211F		◎			
科目名	中国語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 黄 健 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN202F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 黄 健 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN212F		◎			
科目名	中国語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修完了者。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【母音】【基本挨拶表現①】
- 3回 文字と発音【子音①】【基本表現②】
- 4回 文字と発音【子音②】【基本表現③】
- 5回 文字と発音【子音③】【合成母音①】【基本表現④】
- 6回 文字と発音【激音】【合成母音②】
- 7回 文字と発音【濃音】【合成母音③】
- 8回 発音の規則【終声・パッチム】
- 9回 発音の規則【連音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【濃音化】【流音化】【その他】
- 11回 文字と発音の復習【日本語のハングル表記】
- 12回 指定詞の丁寧形【～は～です】
- 13回 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 語彙と文型の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Iで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつとも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上げますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅰで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語II (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 崔 相振 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【パッチム】【二重パッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【パッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【映画など】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで練習】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50%

平常の学習状況、小テスト、課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅳ(1 - a) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【아니, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 韓国文化紹介【映画など】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50%
平常の学習状況、小テスト、課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN201F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用能力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 ㄹ 변則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 ㄹ 변則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/ㄹ 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【겠】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN211F		◎			
科目名	朝鮮語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와, 可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄱ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN202F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아서서】
- 10回．第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN212F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅷ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-르/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 がしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

指導的実習I【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所, 岩本 晃典 / 地域共生教育センター
 勅使河原 航 / 地域共生教育センター, 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 授業形態 実習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE180M				◎	○
科目名	指導的実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では、地域創生学群での学びの基本となる実習に求められる基礎的なスキルを獲得することを目指して、主にFM番組の作成、福祉的支援の体験、イベントの企画・運営・補助等について取り組みます。チーム力、コミュニケーション力を高めることを目的に、合宿にも参加してもらいます。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域社会への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
 第2～14回 実践報告、ミーティング、ディスカッション
 第15回 全体のふりかえり
 詳細については、第1回目のガイダンス時に授業計画を説明する。
 正規の演習時間外に行われる合宿やイベント等への参加も、本科目の授業内容に含まれる。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度：50%
 課題への取り組み・提出状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

指導的実習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をすることなく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

FM番組作成、福祉体験、地域創生

指導的実習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所, 岩本 晃典 / 地域共生教育センター
 勅使河原 航 / 地域共生教育センター, 下田 泰奈 / 地域共生教育センター
 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 授業形態 実習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE181M				◎	○
科目名	指導的実習Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では、地域創生学群での学びの基本となる実習に求められる基礎的なスキルを獲得することを目指して、主にFM番組の作成、福祉の支援の体験、イベントの企画・運営・補助等について取り組みます。チーム力、コミュニケーション力を高めることを目的に、合宿にも参加してもらいます。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域社会への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜、必要に応じて紹介をする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
 第2～14回 実践報告、ミーティング、ディスカッション
 第15回 全体のふりかえり
 詳細については、第1回目のガイダンス時に授業計画を説明する。
 正規の演習時間外に行われる合宿やイベント等への参加も、本科目の授業内容に含まれる。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度：50%
 課題への取り組み・提出状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

指導的実習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

FM番組作成、福祉体験、地域創生

地域創生実習I (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習I (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習I (キタプロ) 【昼】

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習I (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献によって、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習I (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習I (スクボラ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習I (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習I (ESDプロモート) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習I (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習I (コミュニティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習I (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習I (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習I (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習I (小倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習I (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

ゼロ・カーボンのまちづくりを推進するために、地域住民の方々と協働しながら、イベントの企画・開催・広報活動を行う。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習I (ボン・ ジョーノ) 【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、地域マネジメント、ゼロ・カーボン

地域創生実習I (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。

学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習I (キッズ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習I (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この実習では、性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。

学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習I (健康スポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習I (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導I」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。

学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習I (プロスポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、まちづくり

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE182M				◎	○
科目名	地域創生実習 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日スムーズに業務に入れるようにしてください。また、実習後は当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本実習は基本的に地域共生教育センターで行います。地域共生教育センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は責任感を持って、事前、事後活動に積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習II (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習II (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習II (キタプロ) 【昼】

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習II (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献によって、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習II (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習II (スクボラ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習II (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【コミュニケーション力】

他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習II (ESDプロモート) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習II (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【コミュニケーション力】
他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自立的行動力】
地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習II (コミュニティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習II (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習II (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習II (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習II (小倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習II (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習II (ボン・ジョーノ) 【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習II (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。

学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習II (キッズ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習II (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この実習では、性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。

学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習II (健康スポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習II (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導II」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。

学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習II (プロスポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、まちづくり

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE183M				◎	○
科目名	地域創生実習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本実習は基本的に地域共生教育センターで行います。地域共生教育センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は責任感を持って、事前、事後活動に積極的に取り組んでください。

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習Ⅲ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

- 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
- 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
- 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
- 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅲ（猪倉）【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習Ⅲ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

- 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
- 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
- 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
- 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
- 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
- その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅲ (キタプロ) 【昼】

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習Ⅲ (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

- 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
- 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
- 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
- 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅲ (北スマ) 【昼】

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習Ⅲ (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%

積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅲ (スクボラ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習Ⅲ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日能研 『SDGs (国連 世界の未来を変えるための17の目標) 2030年までのゴール』 みくに出版 2017年 ¥1,000
その他、適宜関連する書籍を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 学びと実践
第15回 全体のふりかえりとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【ミーティング前】各自の役割をふまえて、余裕をもって資料の準備等をしてください。
【ミーティング後】指摘事項について検討を重ね、企画等を練り直してください。
【活動前】毎回の活動目標をしっかり意識し、入念に準備したうえで活動に取り組んでください。
【活動後】活動目標の達成状況について十分なふりかえりをし、話し合いによって共有するとともに、学び得たことを記録してください。

地域創生実習III (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 - ・ 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 - ・ 漫然と無理な活動をすることなく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
- その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトマネジメント、ファシリテーション等の手法といった活動の基盤となるものを身につけつつ、SDGsとそれを解決するためのESDという実践的な専門分野の知識や方法について、学びを深めてほしいと思います。

ESD協議会の企画に主体的に参加するとともに、各自が関心のある分野について、ESD実践につながる自主企画等を提案することを望みます。

地域のさまざまな世代や立場の人々と交流し、実習メンバーの上級生および下級生と協働する貴重な機会を尊びかつ楽しんでください。とりわけ1~2年次の学生から、「こんなふうリーダーシップをとれるようになりたい」と思われるようなロールモデルとなることを意識していただきたいと思います。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 実習前指導
- 4～6回 実習
- 7回 実習の振り返り
- 8～14回 実習
- 15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%

その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活動で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習Ⅲ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅲ (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習Ⅲ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅲ (小倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習Ⅲ (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅲ (ボン・ジョーノ) 【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習Ⅲ (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅲ (キッズ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習Ⅲ (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅲ (健康スポーツ) 【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習Ⅲ (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅲ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅲ (プロスポーツ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、まちづくり

地域創生実習Ⅲ (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE280M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本実習は基本的に地域共生教育センターで行います。地域共生教育センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。

地域共生教育センターは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。

履修者は責任感を持って、事前、事後活動に積極的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

本実習は、地域共生教育センターで行います。

センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。

地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。

履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習III (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習Ⅳ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅳ（猪倉）【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習Ⅳ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

- 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
- 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
- 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
- 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
- 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
- その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅳ(キタプロ)【昼】

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習Ⅳ (北スマ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅳ(北スマ)【昼】

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習Ⅳ (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅳ(スクボラ)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日能研 『SDGs (国連 世界の未来を変えるための17の目標) 2030年までのゴール』 みくに出版 2017年 ¥1,000

その他、適宜関連する書籍を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 学びと実践
第15回 全体のふりかえりとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%

授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【ミーティング前】各自の役割をふまえて、余裕をもって資料の準備等をしてください。

【ミーティング後】指摘事項について検討を重ね、企画等を練り直してください。

【活動前】毎回の活動目標をしっかりと意識し、入念に準備したうえで活動に取り組んでください。

【活動後】活動目標の達成状況について十分なふりかえりをし、話し合いによって共有するとともに、学び得たことを記録してください。

地域創生実習Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 - ・ 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 - ・ 漫然と無理な活動をすることなく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- プロジェクトマネジメント、ファシリテーション等の手法といった活動の基盤となるものを身につけつつ、SDGsとそれを解決するためのESDという実践的な専門分野の知識や方法について、学びを深めてほしいと思います。
- ESD協議会の企画に主体的に参加するとともに、各自が関心のある分野について、ESD実践につながる自主企画等を提案することを望みます。
- 地域のさまざまな世代や立場の人々と交流し、実習メンバーの上級生および下級生と協働する貴重な機会を尊びかつ楽しんでください。とりわけ1~2年次の学生から、「こんなふうリーダーシップをとれるようになりたい」と思われるようなロールモデルとなることを意識していただきたいと思います。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。

到達目標

【思考・判断・表現力】

地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】

他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自立的行動力】

地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～4回 実習前指導
- 5～11回 実習(実習期間中に中間振り返りを含む)
- 12～15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習で取り組んでいる内容を記録に残す、省察することを繰り返すこと。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぼうとしての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習Ⅳ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

（到達目標）

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多々あります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅳ（広報）【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習Ⅳ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域マネジメント実践論Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多岐にわたります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をするのではなく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅳ(小倉)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習Ⅳ (ボン・ ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区域野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること。
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習Ⅳ (ボン・ ジョーノ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習Ⅳ(キッズ)【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度: 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前: 地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後: 各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例: 成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅳ(キッズ)【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習Ⅳ (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
 学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

地域創生実習Ⅳ（健康スポーツ）【昼】

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習Ⅳ (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】地域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること

【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間、実習内容などの詳細については、「地域創生実習指導Ⅳ」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%

実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。

学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習Ⅳ（プロスポーツ）【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、まちづくり

地域創生実習Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE281M			○	◎	○
科目名	地域創生実習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本実習は地域共生教育センターで行います。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域で活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。具体的には、生活困窮者支援や自らの問題関心にそった実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

到達目標

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきを記録し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。
 地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。
具体的には、フットパスやモビリティマネジメントに関する地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を図ります。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識やスキルに関する文献を読んで学習する事。
- 事後：活動後に活動内容、気づいた点、反省点等を記録し、次回以降に活用する事。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、様々な立場や幅広い年齢層の方々と接します。学ばせて頂くという謙虚な姿勢を忘れず、言葉遣いや最低限のマナーを心がけましょう。活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題解決のために取り組んでいきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、地域課題解決、フットパス、モビリティマネジメント

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。具体的には、「経営からのまちづくり」「リノベーションまちづくり」をテーマとし、「サンロード魚町商店街での活動」「地図あそびの企画運営」「黒崎寿通りでの活動」をはじめ、地域からの要請等に応じた様々な活動の機会を通じて、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部からの要請に応じて、活動内容が増えたり変化する可能性があります。そのことをポジティブに受け入れて、活動しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、経営からのまちづくり、リノベーション、都市解析

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指す。ゼミで行っている様々なプロジェクトに参画したり、新規にプロジェクトを立ち上げたりと、積極的に実践活動を行う。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活動に求められる知識、関連する分野の知識、スキルに関する文献を読んで学習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、都市計画、マネジメント、まちあるき、SDGs、地図、デザイン

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、ゲームやICTを活用した地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技術】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
漫然と無理な活動をすることなく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、ゲーム、ICT

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、ゲームやICTを活用した地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度；100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください（健康上の理由により水分補給等必要な場合は申し出てください）

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な気持ちを忘れず、挨拶、言葉遣い（特に敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携帯等、良い印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康管理に努めましょう。

活動にかかる移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生・実践活動・ゲーム・ICT

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門的知識を得ることを目指します。具体的には、門司港での地域活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、私語等を慎んでください。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、商店街、観光地化

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。
具体的には、行橋市・直方市・中間高校（中間市）を中心に、継続的なフィールドワークを重ね、そこでの経験を振り返ることで「学び」に変えていく学習法を採用しています。
その他にも、宿泊を含む、学外の活動に積極的に参加してもらう事があります。

（到達目標）

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜、提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、地域活性化、フットパス、高校訪問、探究学習

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、地域で暮らす人々からお話を伺い、多様な生活史 / ライフストーリーの分析を通して、個人の人生や日々の暮らしと地域社会が互いにどのように作用し合っているのかを学びます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフヒストリー、ナラティブ

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。主として高等学校において、SDGsやキャリア形成にかかわる教育実践活動を行います。SDGsの本質を理解し、それを具体的な教育に反映させていきます。

学校ごとの課題を発見し、それを解決するための企画を検討し、授業計画を構築していきます。

また、実際の授業では、プレゼンテーションや発表のスキルだけでなく、生徒一人一人を見る目線と、教室全体をコントロールする両方の目線を持って、全体をファシリテートしていきます。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

特にありませんが、実践に関わる関連書籍を適宜参考にしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

授業の質を高めるために、各自の練習が重要です。

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの機会を設けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生実践Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE282M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、withコロナの時代であることを踏まえつつ、地域への人々の訪問や多様な形での交流を促進し、それを具体的な地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく力を、地域での実践活動を通じて強化していきます。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、グループワークによって主体的に実践活動を展開していきます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前： 実践活動に関連する情報を自身で調べて、必要な準備を行い活動に臨むことが必須です。活動に際しての様々なリスクの想定も事前に行い、対策を考えるよう心掛けましょう。
- 事後： 活動内容を振り返ってとりまとめを行い、成果や課題等を記録し、次回以降の活動や「地域創生演習Ⅰ」に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

- 地域の様々な団体や市民と連携して実践活動を行うことが基本となります。また、学生自身による主体的な活動が中心となります。そのため、特に以下の点には注意を求めます。
 - 共に活動していただく団体や参加者の皆さん等への感謝とリスペクトの気持ちを常に持つこと。
 - 集合時間の厳守。やむを得ず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。
 - 状況にあわせた礼儀作法、マナー、身だしなみ。
 - 準備から後片付け、振り返りまで積極的かつ丁寧に取り組む姿勢。
 - 活動中に知った情報のうち、対外発信可能な情報と守秘すべき情報の的確な見極め。 など
- 担当教員、学生同士、連携先の団体の皆様と的確に意思疎通を図り、協働していきましょう。
 なお、活動に関わる交通費は、原則として学生自身が負担することになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習ⅠⅡ」および「地域創生実践Ⅱ」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価（振り返り）」等を組み合わせて進めていきます。
 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

地域創生実践I【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策、実践活動

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域で活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、自らの問題関心にそった実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

到達目標

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきを記録し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

- 活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。
- 地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。
- 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。
具体的には、フットパスやモビリティマネジメントに関する地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を図ります。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識やスキルに関する文献を読んで学習する事。
- 事後：活動後に活動内容、気づいた点、反省点等を記録し、次回以降に活用する事。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、様々な立場や幅広い年齢層の方々と接します。学ばせて頂くという謙虚な姿勢を忘れず、言葉遣いや最低限のマナーを心がけましょう。活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題を解決していきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、地域課題解決、フットパス、モビリティマネジメント

地域創生実践Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、「経営からのまちづくり」「リノベーションまちづくり」をテーマとし、「サンロード魚町商店街での活動」「地図あそびの企画運営」「黒崎寿通りでの活動」をはじめ、地域からの要請等に応じた様々な活動の機会を通じて、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については「地域創生演習Ⅰ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部からの要請に応じて、活動内容が増えたり変化する可能性があります。そのことをポジティブに受け入れて、活動しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、経営からのまちづくり、リノベーション、都市解析

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指す。ゼミで行っている様々なプロジェクトに参画したり、新規にプロジェクトを立ち上げたりと、積極的に実践活動を行う。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活動に求められる知識、関連する分野の知識、スキルに関する文献を読んで学習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、都市計画、マネジメント、まちあるき、SDGs、交通、子育て、地図、デザイン

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、ゲームやICTを活用した地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技術】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
 漫然と無理な活動をすることなく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
 また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、ゲーム、ICT

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、ゲームやICTを活用した地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください（健康上の理由により水分補給等必要な場合は申し出てください。）
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、良い印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則個人負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
 なた、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、ゲーム、ICT

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、門司港での地域活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、私語等を慎んでください。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、商店街、観光地化

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、行橋市、直方市、中間高校（中間市）において、地域活動を日常的に実践します。
 その中から、「学び」を得て、定着させるとともに、高校生に対してもその「学び」方を教え、ともに能力の向上を目指す活動を行う。

（到達目標）

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
 また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、フィールドワーク、協同学習、経験学習、フットパス

地域創生実践Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、地域で暮らす人々からお話を伺い、多様な生活史 / ライフストーリーの分析を通して、個人の人生や日々の暮らしと地域社会が互いにどのように作用し合っているのかを学びます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅱ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフヒストリー、ナラティブ

地域創生実践II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。主として高等学校において、SDGsやキャリア形成にかかわる教育実践活動を行います。SDGsの本質を理解し、それを具体的な教育に反映させていきます。

学校ごとの課題を発見し、それを解決するための企画を検討し、授業計画を構築していきます。

また、実際の授業では、プレゼンテーションや発表のスキルだけでなく、生徒一人一人を見る目線と、教室全体をコントロールする両方の目線を持って、全体をファシリテートしていきます。

※2021年度2学期は演習担当教員が海外研修中となるため、オンライン等での指導を実施する予定です。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

特にありませんが、実践に関する書籍等を適宜参考にしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
授業の実践にあたっては、各自の練習が非常に重要です。

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの機会を設けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生実践Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE283M	○	◎			
科目名	地域創生実践Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、withコロナの時代であることを踏まえつつ、地域への人々の訪問や多様な形での交流を促進し、それを具体的な地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく力を、地域での実践活動を通じて強化していきます。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、グループワークによって主体的に実践活動を展開していきます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅱ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前： 実践活動に関連する情報を自身で調べて、必要な準備を行い活動に臨むことが必須です。活動に際しての様々なリスクの想定も事前に行い、対策を考えるよう心掛けましょう。
- 事後： 活動内容を振り返ってとりまとめを行い、成果や課題等を記録し、次回以降の活動や「地域創生演習Ⅱ」に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

- 地域の様々な団体や市民と連携して実践活動を行うことが基本となります。また、学生自身による主体的な活動が中心となります。そのため、特に以下の点には注意を求めます。
 - 共に活動していただく団体や参加者の皆さん等への感謝とリスペクトの気持ちを常に持つこと。
 - 集合時間の厳守。やむを得ず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。
 - 状況にあわせた礼儀作法、マナー、身だしなみ。
 - 準備から後片付け、振り返りまで積極的かつ丁寧に取り組む姿勢。
 - 活動中に知った情報のうち、対外発信可能な情報と守秘すべき情報の的確な見極め。 など
- 担当教員、学生同士、連携先の団体の皆様と的確に意思疎通を図り、協働していきましょう。
 なお、活動に関わる交通費は、原則として学生自身が負担することになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習Ⅰ・Ⅱ」および「地域創生実践Ⅰ」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価（振り返り）」等を組み合わせて進めていきます。
 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

地域創生実践II 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策、実践活動

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ			<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>	

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。

具体的には、生活困窮者支援や自分が関心を持って取り組んでいる地域活動への参加を通して、地域創生に関する知識、技術、思考・判断、表現に関する能力を高めていきます。

到達目標

【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。

地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 /Year /Credits /Semester 授業形態 実習 クラス 3年 /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、フットパスやモビリティマネジメントに関する地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を図ります。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識やスキルに関する文献を読んで学習する事。

事後：活動後に活動内容、気づいた点、反省点等を記録し、次回以降に活用する事。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、様々な立場や幅広い年齢層の方々と接します。学ばせて頂くという謙虚な姿勢を忘れず、言葉遣いや最低限のマナーを心がけましょう。活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題解決のために取り組んでいきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、地域課題解決、フットパス、モビリティマネジメント

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 実習 /Class Format クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ			<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>	

授業の概要 /Course Description

本授業では、1～2年次に学んだこと知識や実践経験を活かして実際に地域等で活動すること、それをもとに専門知識を深めることを目指します。
具体的には、「経営からのまちづくり」「リノベーションまちづくり」をテーマとし、「サンロード魚町商店街での活動」「地図あそびの企画運営」「黒崎寿通りでの活動」をはじめ、地域からの要請等に応じた様々な活動の機会を通じて、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については「地域創生演習I」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部からの要請に応じて、活動内容が増えたり変化する可能性があります。そのことをポジティブに受け入れて、活動しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、経営からのまちづくり、リノベーション、都市解析

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指す。

ゼミで行っている様々なプロジェクトに参画したり、新規にプロジェクトを立ち上げたりと、積極的に実践活動を行う。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活動に求められる知識、関連する分野の知識、スキルに関する文献を読んで学習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、都市計画、マネジメント、まちあるき、SDGs、交通、子育て、地図、デザイン

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。
具体的には、ゲーミフィケーション、シリアスゲーム、ICT活用の観点から、地域をよりよくする活動を自ら提案し、遂行することで、地域創生に関する知識、技術、思考・判断・表現に関する能力を高めていきます。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技術】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合いの場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出て下さい)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶものとしての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。

また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、ゲーム、ICT

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書きだし、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティングなど話し合いの場においては、飲食および私語を慎んでください。(健康上の理由によって必要な場合は申し出てください)

地域活動は様々な立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶものとしての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉使い、(敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ、名刺の交換等良い印象を持たれるようなマナーを心がけましょう。

活動にかかる移動の交通費は原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告、連絡、相談は徹底してください。

また、自ら進んで成長の機会を作り出し頑張ってください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的な知識を得ることを目指します。具体的には、門司港での地域活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、私語等を慎んでください。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、商店街、観光地化

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 3年次 /Year 単位 /Credits 2単位 /Semester 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 実習 /Class クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。

具体的には、行橋市、直方市、中間高校（中間市）において、地域活動を日常的に実践します。

その中から、「学び」を得て、定着させるとともに、高校生に対してもその「学び」方を教え、ともに能力の向上を目指す活動を行う。

（到達目標）

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。

また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、フィールドワーク、協同学習、経験学習、フットパス

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。
具体的には、地域で暮らす人々からお話を伺い、多様な生活史 / ライフストーリーの分析を通して、個人の人生や日々の暮らしと地域社会が互いにどのように作用し合っているのかを学びます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：調査に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
- 事後：調査活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い、話し方や表情、身だしなみ、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフストーリー、ナラティブ

地域創生実践Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践の専門知識を得ることを目指します。主として高等学校において、SDGsやキャリア形成にかかわる教育実践活動を行います。SDGsの本質を理解し、それを具体的な教育に反映させていきます。学校ごとの課題を発見し、それを解決するための企画を検討し、授業計画を構築していきます。また、実際の授業では、プレゼンテーションや発表のスキルだけでなく、生徒一人一人を見る目線と、教室全体をコントロールする両方の目線を持って、全体をファシリテートしていきます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特にありませんが、実践に関する書籍等を適宜参考にしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。授業の実践にあたっては、各自の練習が非常に重要です。

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの機会を設けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生実践Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE380M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅲ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。

具体的には、withコロナの時代であることを踏まえつつ、地域への人々の訪問や多様な形での交流を促進し、それを具体的な地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく力を、実践活動を通じて強化していきます。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、グループワークによって主体的に実践活動を展開していきます。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 実践活動に関連する情報を自身で調べて、必要な準備を行い活動に臨むことが必須です。活動に際しての様々なリスクの想定も事前に行い、対策を考えるよう心掛けましょう。

事後： 活動内容を振り返ってとりまとめを行い、成果や課題等を記録し、次回以降の活動や「地域創生演習Ⅲ」に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

地域の様々な団体や市民と連携して実践活動を行うことが基本となります。また、学生自身による主体的な活動が中心となります。そのため、特に以下の点には注意を求めます。

- ・ 共に活動していただく団体や参加者の皆さん等への感謝とリスペクトの気持ちを常に持つこと。
 - ・ 集合時間の厳守。やむを得ず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。
 - ・ 状況にあわせた礼儀作法、マナー、身だしなみ。
 - ・ 準備から後片付け、振り返りまで積極的かつ丁寧に取り組む姿勢。
 - ・ 活動中に知った情報のうち、対外発信可能な情報と守秘すべき情報の的確な見極め。 など
- 担当教員、学生同士、連携先の団体の皆様と的確に意思疎通を図り、協働していきましょう。
なお、活動に関わる交通費は、原則として学生自身が負担することになります。

地域創生実践III 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習III・IV」および「地域創生実践IV」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価(振り返り)」等を組み合わせて進めていきます。

スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策、実践活動

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。

具体的には、生活困窮者支援や自分が関心を持って取り組んでいる地域活動への参加を通して、地域創生に関する知識、技術、思考・判断、表現に関する能力を高めていきます。

到達目標

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断力・表現力】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅲ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。

地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。具体的には、フットパスやモビリティマネジメントに関する地域での実践活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を図ります。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅳ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識やスキルに関する文献を読んで学習する事。

事後：活動後に活動内容、気づいた点、反省点等を記録し、次回以降に活用する事。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、様々な立場や幅広い年齢層の方々と接します。学ばせて頂くという謙虚な姿勢を忘れず、言葉遣いや最低限のマナーを心がけましょう。活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題を解決していきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、地域課題解決、フットパス、モビリティマネジメント

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ			<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>	

授業の概要 /Course Description

本授業では、1～2年次に学んだこと知識や実践経験を活かして実際に地域等で活動すること、それをもとに抽象化と具象化の繰り返しを行いながら専門知識を深めることを目指します。

具体的には、「経営からのまちづくり」「リノベーションまちづくり」をテーマとし、「サンロード魚町商店街での活動」「地図あそびの企画運営」「黒崎寿通りでの活動」をはじめ、地域からの要請等に応じた様々な活動の機会を通じて、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については「地域創生演習I」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に活かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部からの要請に応じて、活動内容が増えたり変化する可能性があります。そのことをポジティブに受け入れて、活動しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、経営からのまちづくり、リノベーション、都市解析

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指す。

ゼミで行っている様々なプロジェクトに参画したり、新規にプロジェクトを立ち上げたりと、積極的に実践活動を行う。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅳ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活動に求められる知識、関連する分野の知識、スキルに関する文献を読んで学習する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、都市計画、マネジメント、まちあるき、SDGs、交通、子育て、地図、デザイン

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 /Year /Credits /Semester 授業形態 実習 クラス 3年 /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。
具体的には、ゲーミフィケーション、シリアスゲーム、ICT活用の観点から、地域をよりよくする活動を自ら提案し、遂行することで、地域創生に関する知識、技術、思考・判断・表現に関する能力を高めていきます。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技術】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅳ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。

また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、ゲーム、ICT

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目的にします。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については「地域創生演習Ⅳ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書きだし、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください。(健康上の理由により水分補給等必要な場合は申し出てください) 地域活動は、様々な立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶものとしての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣い、(特に敬語の用い方)話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、良い印象を持たれるようなマナーを心がけて挑みましょう。

漫然と無理な行動をすることなく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告、連絡、相談は徹底してください。

また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的な知識を得ることを目指します。具体的には、門司港での地域活動を通して、地域創生に関する知識や技術の向上を目指します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅳ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。

事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、私語等を慎んでください。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、実践活動、商店街、観光地化

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。
 具体的には、行橋市、直方市、中間高校（中間市）において、地域活動を日常的に実践します。
 その中から、「学び」を得て、定着させるとともに、高校生に対してもその「学び」方を教え、ともに能力の向上を目指す活動を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅳ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：活動に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
 事後：活動後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動に関して、報告・連絡・相談は徹底してください。
 また、自ら進んで成長の機会を作り出してください。

キーワード /Keywords

地域創生、フィールドワーク、協同学習、経験学習、フットパス

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。
具体的には、地域で暮らす人々からお話を伺い、多様な生活史 / ライフストーリーの分析を通して、個人の人生や日々の暮らしと地域社会が互いにどのように作用し合っているのかを学びます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習II」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：調査や分析に求められる知識、スキルに関する文献を読んで学習しましょう。
事後：調査実施後に内容を記録し、この授業で得た気づきをノートに書き出し、次の実践に生かしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフストーリー、ナラティブ

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域創生論で学んだ内容を活用して、実際に地域にて活動し、実践的専門知識を得ることを目指します。主として高等学校において、SDGsやキャリア形成にかかわる教育実践活動を行います。SDGsの本質を理解し、それを具体的な教育に反映させていきます。

学校ごとの課題を発見し、それを解決するための企画を検討し、授業計画を構築していきます。

また、実際の授業では、プレゼンテーションや発表のスキルだけでなく、生徒一人一人を見る目線と、教室全体をコントロールする両方の目線を持って、全体をファシリテートしていきます。

※2021年度2学期は演習担当教員が海外研修中となるため、オンライン等での指導を実施する予定です。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特にありませんが、実践に関する書籍等を適宜参考にしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。
授業の実践にあたっては、各自の練習が非常に重要です。

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの機会を設けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE381M	△	○	◎		
科目名	地域創生実践Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本授業では、これまで学んだ内容をもとに、地域の現状に沿った活動を提案、企画、実施することで、より深い実践的専門知識を得ることを目指します。

具体的には、withコロナの時代であることを踏まえつつ、地域への人々の訪問や多様な形での交流を促進し、それを具体的な地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく力を、実践活動を通じて強化していきます。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、グループワークによって主体的に実践活動を展開していきます。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

活動時間などの詳細については、「地域創生演習Ⅳ」にて説明します。

成績評価の方法 /Assessment Method

活動への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 実践活動に関連する情報を自身で調べて、必要な準備を行い活動に臨むことが必須です。活動に際しての様々なリスクの想定も事前に行い、対策を考えるよう心掛けましょう。

事後： 活動内容を振り返ってとりまとめを行い、成果や課題等を記録し、次回以降の活動や「地域創生演習Ⅳ」に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

地域の様々な団体や市民と連携して実践活動を行うことが基本となります。また、学生自身による主体的な活動が中心となります。そのため、特に以下の点には注意を求めます。

- ・ 共に活動していただく団体や参加者の皆さん等への感謝とリスペクトの気持ちを常に持つこと。
 - ・ 集合時間の厳守。やむを得ず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。
 - ・ 状況にあわせた礼儀作法、マナー、身だしなみ。
 - ・ 準備から後片付け、振り返りまで積極的かつ丁寧に取り組む姿勢。
 - ・ 活動中に知った情報のうち、対外発信可能な情報と守秘すべき情報の的確な見極め。 など
- 担当教員、学生同士、連携先の団体の皆様と的確に意思疎通を図り、協働していきましょう。
なお、活動に関わる交通費は、原則として学生自身が負担することになります。

地域創生実践Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習Ⅲ・Ⅳ」および「地域創生実践Ⅲ」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価(振り返り)」等を組み合わせて進めていきます。

スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策、実践活動

障害者スポーツ実習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS280M		○		◎	○
科目名	障害者スポーツ実習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験し、各種目のルールと競技特性、運動効果を理解する。また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を学習する。

<到達目標>

- 【技能】障がい者スポーツに関する専門的な技術を実践的に活用できる
- 【コミュニケーション力】障がい者スポーツの支援・活動を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている
- 【自立的行動力】障がい者スポーツ指導員として主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 学外授業への取り組み指導
- 3～4回 車椅子の基本操作
- 5～6回 マップの作成と評価
- 7～8回 車椅子で運動・スポーツ
- 9～10回 障がい者スポーツ大会実施種目の体験
- 11～12回 学外授業(実習)(北九州市障害者スポーツセンター主催教室)
- 13～14回 障がい者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員(初級・中級)」の資格関連科目です。第一回目のガイダンスで資格に関する説明を行いますので第一回は必ず出席してください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

障害者スポーツ実習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS281M		○		◎	○
科目名	障害者スポーツ実習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験を通じ、障害者スポーツの魅力を感じ取る。さらに、障害の特性と補装具、指導方法について学び、障害のある方のスポーツ活動をサポートする能力を養う。

<到達目標>

- 【技能】 障がい者スポーツに関する専門的な技術を実践的に活用できる
- 【コミュニケーション力】 障がい者スポーツの支援・活動を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている
- 【自立的行動力】 障がい者スポーツ指導員として主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～3回 レクリエーションスポーツ
- 4～9回 学外授業(実習)(北九州市障害者スポーツセンター主催教室)
- 10～12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則(実技)
- 13～14回 障がい者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また1学期に行った実習も復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、本講義は、「障害者スポーツ実習I」から引き続き学外実習を継続していきます。したがって、「障害者スポーツ実習I」を履修した上で、受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員(初級・中級)」資格関連科目です。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

障害者スポーツ実習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS380M		○		○	◎
科目名	障害者スポーツ実習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

近年、障害者スポーツでは「Adapted (適応・応用) 」という考えが浸透している。これは対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障害を理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、全国障害者スポーツ大会の実施競技についても理解を深めていく。

<到達目標>

- 【技能】障がい者スポーツに関する専門的な技術を実践的に活用できる
- 【コミュニケーション力】障がい者スポーツの支援・活動を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている
- 【自立的行動力】障がい者スポーツへの関心を持ち続け、主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ポッチャ【重度障がい者】【脳性麻痺】
- 3回 ベタンク【重度障がい者】
- 4回 陸上競技①【車いす競技】【スラローム】
- 5回 陸上競技②【投てき】【伴走】
- 6回 卓球【サウンドテーブルテニス】
- 7回 フライングディスク【視覚障害の体験】【肢体障害の体験】
- 8回 水泳①【障がい者に合わせた指導】
- 9回 水泳②【障がい者に合わせた指導】
- 10～13回 学外実習
- 14回 障がい者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習（平常授業）への取り組み・・・50% 課題（レポートなど）・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また、2年次の実習活動を再度復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）に取り組んでもらいます。実習6時間以上、水泳6時間を含む合計40時間以上の学外実習は必修です。障害者スポーツ実習I・IIを履修している方が望ましい。もし履修していない場合は、本講義を履修登録する前に相談に来てください。

障害者スポーツ実習Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員（中級）」の資格関連科目になります。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目は必ず出席してください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

障害者スポーツ実習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 実習 /Class クラス 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS381M		○		○	◎
科目名	障害者スポーツ実習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

近年、障害者スポーツでは「Adapted (適応・応用) 」という考えが浸透している。これは対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障害を理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、学外実習を主として活動する。

<到達目標>

- 【技能】障がい者スポーツに関する専門的な技術を実践的に活用できる
- 【コミュニケーション力】障がい者スポーツの支援・活動を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている
- 【自立的行動力】障がい者スポーツへの関心を持ち続け、主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学外実習に向けたガイダンス
- 2～3回 学外実習に関する講義【企画・立案】
- 4～12回 学外実習(水泳実習、障がい児スポーツ教室、各種障がい者スポーツイベント運営・参加)
- 13～14回 障がい者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習(平常授業)への取り組み・・・30%、課題(レポートなど)・・・20%、その他の実習への積極的な参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1年次に受講している「障害者スポーツ指導論」と「障害者スポーツ各論」を復習し、受講にあたること。また、2年次、さらに3年次1学期に行った実習を復習しておくこと。実習後にはその都度、レポートを提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。また、学外実習を主としますので、「障害者スポーツ指導論」「障害者スポーツ各論」「障害者スポーツ実習Ⅰ～Ⅲ」などの科目を履修し、障害者スポーツに関して知識を有するものが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は、「障害者スポーツ指導員(中級)」の資格関連科目です。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目は必ず出席してください。また、学外実習を主としますので、これまでに障害者スポーツに関する科目の履修がないもの、単に単位取得のために本実習を履修することはやめてください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

相談援助実習【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター, 深谷 裕 / 地域戦略研究所
坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター, 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 6単位 /Semester 集中 /Class Format 実習 /Class クラス 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW380M			○	○	◎
科目名	相談援助実習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育内容に基づいて構成される実習科目である。そのため、社会福祉施設及び機関での現場実習での学びについて、次に掲げる3点を大きなねらいとする。

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要なコミュニケーション力を身につけている。
- 【自立的行動力】社会福祉士として求められる専門性等への関心を持ち続け、その改善に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

連携科目「相談援助実習指導 1・2」において、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間は180時間以上である。
社会福祉施設・機関において、23日間(1日8時間)以上の実習を行う。
実習内容は職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習から構成される。
実習期間中は、実習先での実習指導者及び担当教員による指導、そして大学にて実施する帰校日指導を受ける。
詳細については、「相談援助実習指導 1」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習先による実習評価・・・50%、教員による実習評価・・・50%
なお、本科目は「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」との連携科目であり、いずれかのみ単位認定は行わない。そのため、本科目の実習評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、これまで大学で学んできた内容をしっかりと振り返りましょう。事後学習としては、実習中に作成した実習ノートを元に、実習中に感じた疑問点などについて振り返り、自己学習を進めましょう。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉施設や機関での実習となる。当然のことながら、社会人としての基本的マナーなどはできるように自己学習に励んでいただきたい。
本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。
①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
②同年度に「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士を取得するための重要な科目です。現場での実習で皆さんが困らないように、全力でサポートします。一緒にがんばりましょう。

相談援助実習【昼】

キーワード /Keywords

社会福祉士

地域創生実習指導I (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【技能】 地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習指導I (猪倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習指導I (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組み課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習指導I (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【技能】 地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習指導I (北スマ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習指導I (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (スクボラ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導I (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 (期末レポートを含む)50%

積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (ESDプロモート) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習指導I (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (コミュニティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習指導I (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習指導I (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (小倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習指導I (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導I (ボン・ジョーノ) 【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習指導I (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (キッズ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習指導I (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (健康スポーツ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習指導I (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導I (プロスポーツ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ、まちづくり、スポーツボランティア

地域創生実習指導I (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE110M		◎			
科目名	地域創生実習指導 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習指導I (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習指導II (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (猪倉) 【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習指導II (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
 その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習指導II (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作って下さい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (北スマ) 【昼】

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習指導II (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (スクボラ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導II (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 (期末レポートを含む)50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い (とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ (華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動することなく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。その他、地域創生学群が指定した行事等 (例：成果発表会、北九州マラソンボランティア) についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (ESDプロモート) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習指導II (コミュニティ) 【昼】

担当者名 /Instructor 勅使河原 航 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (コミュニティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習指導II (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

【技能】 地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

- 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
- 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
- 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
- 活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
- 実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
- その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習指導II (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (小倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習指導II (ボン・ ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導II (ボン・ジョーノ) 【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習指導II (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (キッズ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習指導II (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (健康スポーツ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習指導II (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導II (プロスポーツ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ、まちづくり、スポーツボランティア

地域創生実習指導II (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE111M		◎			
科目名	地域創生実習指導 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習指導II (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習指導Ⅲ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【技能】 地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習指導Ⅲ (猪倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習指導Ⅲ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅲ (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習指導Ⅲ (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅲ（北スマ）【昼】

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習指導Ⅲ (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】

地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組み課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅲ (スクボラ) 【昼】

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導Ⅲ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

2年次には、チームマネジメントを重視して実習に取り組みます。自分自身の活動の質の向上のみならず、チームとしての成果を最大化するために活動します。

到達目標

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日能研 『SDGs (国連 世界の未来を変えるための17の目標) 2030年までのゴール』 みくに出版 2017年 ¥1,000
その他、適宜関連する書籍を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 学びと実践
- 第15回 全体のふりかえりとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....50%
実習受け入れ先(地域団体等)からの評価.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【ミーティング前】各自の役割をふまえて、余裕をもって資料の準備等をしてください。
- 【ミーティング後】指摘事項について検討を重ね、企画等を練り直してください。
- 【活動前】毎回の活動目標をしっかり意識し、入念に準備したうえで活動に取り組んでください。
- 【活動後】活動目標の達成状況について十分なふりかえりをし、話し合いによって共有するとともに、学び得たことを記録してください。

地域創生実習指導Ⅲ (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
 - ・ 地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
 - ・ 漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
- 実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトマネジメント、ファシリテーション等の手法といった活動の基盤となるものを身につけて、SDGsとそれを解決するためのESDという実践的な専門分野の知識や方法について、学びを深めてほしいと思います。

ESD協議会の企画に主体的に参加するとともに、各自が関心のある分野について、ESD実践につながる自主企画等を提案することを望みます。

地域のさまざまな世代や立場の人々と交流し、実習メンバーの上級生および下級生と協働する貴重な機会を尊びかつ楽しんでください。とりわけ2年次からは、1年次の学生に「あの人のようになりたい」と思われるように、ロールモデルとなることを意識していただきたいと思います。

キーワード /Keywords

持続可能な開発のための教育 (ESD)、持続可能な開発目標 (SDGs)、「北九州ESD協議会」、サブコーディネーター

地域創生実習指導Ⅲ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む).....50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導Ⅲ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅲ (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習指導Ⅲ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅲ (小倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習指導Ⅲ (ボン・ ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅲ (ボン・ ジョーノ) 【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習指導Ⅲ (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅲ(キッズ)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習指導Ⅲ (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅲ (健康スポーツ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習指導Ⅲ (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 (期末レポートを含む)50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅲ (プロスポーツ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ、まちづくり、スポーツボランティア

地域創生実習指導Ⅲ (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE210M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習指導III (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習は、地域での活動も多くあります。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生実習指導Ⅳ (猪倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む農村地域における農作業や、地域の方々との交流など、社会性を養うとともに、農村地域の活性化を図ること、地域課題の解決に向けた取り組みへの支援を目的として、様々な活動を行っている。

(到達目標)

【技能】 地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。

地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。

漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。

活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。

活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

地域創生実習指導Ⅳ(猪倉)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作っていただきたいです。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

まちづくり、農作業、地域交流、買い物弱者支援

地域創生実習指導Ⅳ (キタプロ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

市内の関係団体等と連携して、北九州市を日本一創業しやすいまちにするための各種活動に携わっている。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
- 第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
- 事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (キタプロ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

創業支援、スタートアップ、働き方

地域創生実習指導Ⅳ (北スマ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「食」を通じた地域課題の解決への貢献により、北九州市民の笑顔を増やすことを目的として、「子ども食堂」の運営支援や「食育」に関する活動などの活動を行っている。

(到達目標)

【技能】 地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)：50%
積極的な演習や地域活動への参加：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅳ(北スマ)【昼】

キーワード /Keywords

食育、子ども食堂、地産地消

地域創生実習指導Ⅳ (スクボラ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小学校での放課後の学習支援や特別支援学校、特別支援学級における児童の学校生活のサポートなどを行っている。

到達目標

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む)50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の使い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (スクボラ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

子ども、学校、学習支援

地域創生実習指導Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本実習では、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development : ESD)」の実践に取り組みます。本実習は、全市的にESDを浸透させていくミッションを掲げている「北九州ESD協議会」においてサブコーディネーターの役割を担い、協議会における活動の企画および実践に携わります。

現代の社会においては、少子高齢化、コミュニティの崩壊、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティ等、さまざまな課題が存在しています。本実習では、さまざまな社会的課題の解決をめざすこと、すなわち「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」について学び、SDGsの達成に寄与するESDを実践します。

到達目標

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 (期末レポートを含む)50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。

事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

地域創生実習指導Ⅳ (ESDプロモート) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。

その他、地域創生学群が指定した行事等(例:成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

ESD、SDGs、北九州ESD協議会

地域創生実習指導Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者名 勅使河原 航 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

高齢化が進む団地の自治会と連携し、地域のつながりづくりを目的とした、高齢者の戸別訪問やサロン活動、夏休みの子どもの居場所づくりなどの取り組みを実施している。

到達目標

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加及び活動への貢献度.....100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、原則、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (コミュニティ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティソーシャルワーク、地域福祉、社会福祉

地域創生実習指導Ⅳ (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

オープンキャンパスをはじめとしたイベントの企画・運営、高校訪問、冊子の制作（地創図鑑）、WebやSNSによる情報発信など、地域創生学群の活動や魅力を伝えるための広報活動を行っている。

(到達目標)

【技能】 地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多くなります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (広報) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域創生学群そのものの宣伝・広報を目的として、実習活動に参加していただきます。正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで実習活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。オリジナルウェブサイトや広報媒体を通して、学外に向けて情報を発信するため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になり、自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の広報活動や課題などに取り組んでもらうこともあり、その際には、積極的に参加していただきたいです。

キーワード /Keywords

広報、ブランディング、戦略的思考

地域創生実習指導Ⅳ (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 下田 泰奈 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

小倉のまちの活性化を目的とし、地域の方々と連携しながら、おもてなし活動（まちなかコンシェルジュ）、清掃活動（グリーンバード）、各種講座・イベントの開催（idea+）、SNSによる情報発信（kokuliku）等を行っている。

（到達目標）

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先（地域団体等）からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が多岐にわたります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い（とくに敬語の用い方）、話し方や表情、身だしなみ（華美にしないこと）、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をするのではなく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等（例：成果発表会、北九州マラソンボランティア）についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (小倉) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

まちのブランディング、中心市街地活性化、商店街

地域創生実習指導Ⅳ (ボン・ジョーノ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 晃典 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

BONJONO (北九州市小倉北区城野地区)にて、地域の方々と連携しながら、まちづくりを行っていく。イベントの企画・開催や、広報媒体制作などを通して、より住みやすい環境づくりの一端を担う。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

実習受け入れ先(地域団体等)からの意見を参考にした、実習への積極的な参加および活動への貢献度：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

地域創生実習指導Ⅳ (ボン・ジョーノ) 【昼】

キーワード /Keywords

まちづくり、住環境、ゼロ・カーボン

地域創生実習指導Ⅳ (キッズ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この実習では、子どもたちの発達段階に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ(キッズ)【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、子ども

地域創生実習指導Ⅳ (健康スポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度(期末レポートを含む) : 50%
積極的な演習や地域活動への参加 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (健康スポーツ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

健康、スポーツ、シニア体カアップ

地域創生実習指導Ⅳ (プロスポーツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 文音 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域のプロスポーツ団体と連携して、まちづくり、地域振興、健康増進など多様なテーマに取り組む。

(到達目標)

【技能】地域創生に必要な情報を収集、分析することができる

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、別途資料の配付や紹介をすることがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 全体のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 (期末レポートを含む)50%
積極的な演習や地域活動への参加.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：地域活動実践に求められる知識、スキルなどに関する文献を読んで学習をしましょう。地域活動に参加した後は、その記録を残して、この授業に臨むようにしましょう。
事後：各自の実践報告や、グループでのディスカッションなどを通して、どのような気づきや、今後に行かせるようなことがあったのかをノートに書き出し、次の実践に活かすようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

通常のミーティング等、話し合い形式の場においては、飲食および私語を慎んでください(健康上の理由等により水分補給等必要な場合は申し出てください)。
地域活動は、さまざまな立場や年代の人々と接する機会が非常に多くあります。
学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、ことば遣い(とくに敬語の用い方)、話し方や表情、身だしなみ(華美にしないこと)、名刺の携行等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて実習に臨みましょう。
漫然と無理な活動をする事なく、時間と健康の管理に努めましょう。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担です。
活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守りましょう。
実習に伴う移動については、公共交通機関、自転車、徒歩です。
その他、地域創生学群が指定した行事等(例：成果発表会、北九州マラソンボランティア)についても、実習活動と同様に参加・出席を求めます。

地域創生実習指導Ⅳ (プロスポーツ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返ります。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがあります。その場合は、演習中に説明します。また、正規の演習時間外（土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む）に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待されます。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になります。自ら進んでその機会を作ってください。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の地域活動や課題などに取り組んでもらうこともあります。その際には、積極的に参加して下さい。

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ、まちづくり、スポーツボランティア

地域創生実習指導Ⅳ (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE211M		◎			
科目名	地域創生実習指導Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自立的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

地域創生実習指導IV (421Lab.) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
 具体的には、地域活動をゲーミフィケーションやシリアスゲームの観点から分析し、地域をよりよくする取り組みへの適用を目指します。また、ICTを活用した地域活性化についても検討を進めます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 ゲームやICTを活用した地域活性化について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
- 積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
 授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
 それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
 教育や学校を取り巻く課題は、地域レベル、国家レベル、様々な問題を私たちに提示しています。2年次1学期の演習では、教育社会学に関する理論的背景について資料を用いながら確認してきます。また、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。
 加えて、高等学校を中心いくつかの学校の実際の課題を受け、学生たち自身で授業を構築し、実践していただく機会を設けます。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜テキストや資料を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと振り返り
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

履修上の注意 /Remarks

授業で触れる内容にとどまらず、その周辺のテーマや課題について自ら調べて深めていくことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
 テーマは交通に対する基礎的な理解を深めていく事です。実習活動を通じて学んだことをベースとして、都市の中で交通がどのような役割を果たしているのか、交通がどう変われば人々の生活の質が上がっていくのか、交通の質が変わることで必要なまちの形態はどのようなものかについて理解を深めていきます。その準備段階として都市の現状課題を分析するための「都市の読み方」の手法について学び、その応用力を試すためのレポートを課します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス(演習の目的や活動方針の説明)
- 第2回～第4回：「都市の読み方」基礎論、データ分析の手法
- 第5回～第8回：「都市の読み方」応用論、自分の出身地について都市分析を行い発表する
- 第9回～第14回：グループディスカッション
- 第15回：まとめ(次学期に向けての方針検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
 積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。
- 事後：講義内で気づいた点、書き取ったメモ等を踏まえて、次回以降に活用できる事を念頭に復習する事。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶフィールドは地域全体です。常に地域のあり方について意識し、楽しみながら課題を解決していきましょう。

キーワード /Keywords

地域創生、地域課題、地域解析

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
都市計画、まちづくりの基礎知識を習得するための文献の輪読、ディスカッションを中心に行う。
また、習得した知識をより深めるため、それらに関連したプロジェクト（ゼミ活動（地域創生実践I））等への積極的な参加を期待する。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の希望を踏まえ決定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 輪読、ディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々、まちづくりに関するニュース、話題等に関心を持ち、情報収集を心掛ける。
身近なまちや環境の変化を常に意識する。

履修上の注意 /Remarks

受講者の興味関心に応じて、授業の進め方、内容等を変更する可能性もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

どんなことにも興味関心を持って、前向きに自発的に取り組むことを期待する。
まちづくりの実践活動にも積極的に取り組むことを期待する。

キーワード /Keywords

地域創生、都市計画、まちづくり、まちなかの再生、都市・地域の再生、まちづくりの組織・担い手、エリアマネジメント、福祉のまちづくり、子育てとまちづくり、ユニバーサルデザイン、交通まちづくり、都市の歴史、観光まちづくり、安心安全まちづくり

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
2年次のテーマは「まち、人、コトを知り、理解を深める」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 物事の本質をつかむ訓練
→事例調査と発表、動画視聴とディスカッション、近況報告スピーチ
- ・ 物事を分析するための基礎を学ぶ
→好きなもの研究、変なもの研究など
- ・ まちづくりの方法論を学ぶ
→輪読、メルマガ購読、小商いに挑戦
- ・ 実習発表
→所属している実習での活動内容報告

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。

現時点での主な実践メニューとしては、サンロード魚町商店街における各種活動、地図あそび（ロゲイニング）の企画運営、黒崎の寿通りにおける各種活動などです。そのほか、外部からの依頼を受けて随時活動メニューが増える可能性があります。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～13回 上述の内容を実施【プレゼン】【まちづくり】
- 14回 実習報告【振り返り】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前) 上述の内容に関する事前課題にしっかり取り組んでください。
- 事後) ゼミで受けた指摘をもとに、しっかりと復習してください。

地域創生演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。
また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外（土曜日や日曜日を含む）に地域活動やフィールドワークを実施すること等があります。
なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、地域活動等に関するMTGを2～4年生合同で実施します。
そのほか、必要に応じて市外・県外での調査等（ゼミ合宿含む）を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ

- ①腹を決める
- ②思い切って挑戦する
- ③常に実践者であれ
- ④情熱と愛情を注ぐ
- ⑤謙虚な気持ちで動く
- ⑥自分の感覚を信じる
- ⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、経営からの地域再生、リノベーションまちづくり、都市解析

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
具体的には、門司港地域を対象に魅力探し、議論の場づくりを検討し、地域をよりよくする取り組みを目指します。

(到達目標)

【コミュニケーション】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 魅力探しや議論の場づくりを通じた地域活性化について
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域課題に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

前向きな参加を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港、商店街、観光地化

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学ぶ。
具体的には、以下の2つの事を柱に実施する。

① E・F・シューマッハー（1986）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫の輪読を行う。

論理的思考力、読解力を鍛えるとともに、現代社会の在り方や見方について考えを深める。

「豊かさとは何か」「社会はどうあるべきか」など、現代社会の根本的な問いについて、自身の意見や価値観を構築するとともに、基礎的なアカデミックスキルの獲得を目指す。

② 日本におけるフットパスを用いた地域活性化の実践と理論化

履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的な基礎的研究をする。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。

ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、テキストの輪読、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践である。

（到達目標）

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

E・F・シューマッハー（1986）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

平松紘（2002）『ウォーキング大国イギリス - フットパスを歩きながら自然を楽しむ-』明石書店。

神谷由紀子他（2014）『フットパスによるまちづくり 地域の小径を楽しみながら歩く(文化とまちづくり叢書)』水曜社。

地域創生演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：テキストの輪読・フットパスに関するグループディスカッション①
- 第3回：テキストの輪読②・フットパスに関するグループディスカッション②
- 第4回：テキストの輪読③・フットパスに関するグループディスカッション③
- 第5回：テキストの輪読④・フットパスに関するグループディスカッション④
- 第6回：テキストの輪読⑤・フットパスに関するグループディスカッション⑤
- 第7回：テキストの輪読⑥・フットパスに関するグループディスカッション⑥
- 第8回：テキストの輪読⑦・フットパスに関するグループディスカッション⑦
- 第9回：テキストの輪読⑧・フットパスに関するグループディスカッション⑧
- 第10回：テキストの輪読⑨・フットパスに関するグループディスカッション⑨
- 第11回：テキストの輪読⑩・フットパスに関するグループディスカッション⑩
- 第12回：テキストの輪読⑪・フットパスに関するグループディスカッション⑪
- 第13回：テキストの輪読⑫・フットパスに関するグループディスカッション⑫
- 第14回：テキストの輪読⑬・フットパスに関するグループディスカッション⑬
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
- 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- フットパスづくりの実践に必ず参加し、授業の事前学習とする。
- また、その経験を言語化して十分なリフレクションを行う事を事後学習とする。

履修上の注意 /Remarks

- ※1：準備とは、自主的な調査への実施、積極的なフィールドワークへの参加、テキスト以外の専門書の輪読など、ゼミに参加するために必要な各自の事前準備の事を意味する。

上記の「成績評価の方法」に記してあるように、「授業時間に実施する報告・発表・振り返りを行う際の準備」を極めて高く評価する。つまり、本授業中に報告・ディスカッションするためには、授業時間外に自主学習として、丹念な準備作業が必要となることを理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に必要な指標の軸とする。

キーワード /Keywords

- 地域創生、経験学習、学びの共有、学術的雑談

地域創生演習I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
 具体的には、実習で浮上してきたさまざまな問題をゼミの場に提示し、議論を通じながらその解決方法について考えていく。本ゼミでは、チームワークやコミュニケーションを重視し、学習していく。また、各自順番に発表を行い、プレゼンテーション能力の向上も目指す。

<到達目標>

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～14回 発表とディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 50%
- 積極的な演習への参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、チームワーク、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
 具体的には、自らの問題関心によってテーマを設定し、社会学の視点から社会の現状を分析し、地域を創っていく道筋について考えていきます。取り扱う社会問題としては、ホームレス、シングルマザー、不登校の子ども、引きこもりがちな若者や高齢者、「移民」、LGBTなどへの社会的排除を考えています。これは担当者の専門に関係する領域です。ただし、社会問題は、これらに限られるわけではありません。共通の分析視角や方法を共有した上で、分析の対象とする社会現象については、自らの問題関心によって設定してください。学年末に「ゼミ論文」の完成を目指します。

到達目標

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～5回 社会科学の方法論や認識論に関する文献を読み、社会現象を複眼的かつ社会的にとらえるための分析視角を身につけます。
- 6回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評(文献の内容紹介、論点や問題の提起など)」を行い、全員での議論を通して理解を深めます。その上で、自分が興味・関心をもつ問題について「問い」を立て、文献や社会調査をもとにしながら「ゼミ論文」を作成します(学年末)。自らが進めている研究についても報告し、議論を通して論文の完成度を高めます。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
- 積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に望んでください。
- 授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

報告・議論をもとに授業をすすめますので、報告担当者はしっかりと準備してください。無断欠席は厳禁です。どうしても欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

地域創生演習I【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
 具体的には、withコロナの時代であることを踏まえつつ、地域への人々の訪問や多様な形での交流を促進し、それを具体的な地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく際の基礎的な力を涵養することを目指します。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、その社会的・経済的意義や負の側面等を分析・考察し、それらを踏まえた地域活性化に必要な政策等を学生が主体的に検討していきます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 次回授業のテーマに関する文献・資料等を読むとともに、関連する情報を自身で調べて授業に臨んでください。また、課題が出た場合は必要な取り組みを行ってください。
 事後： 授業内容を踏まえ、より深く知りたいことや疑問に思ったことを自ら調べて理解を促進するとともに、次回以降の授業や「地域創生実践」の活動等に繋げてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者自身、および受講者間での主体的な学びを重視します。発表やディスカッションが中心となるため、常に積極的な姿勢で臨んでください。
 グループで共同して取り組むことも多いため、遅刻、欠席をしないように気をつけてください(遅刻、欠席する場合は担当教員に事前連絡すること)。
 また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習Ⅱ」および「地域創生実践Ⅰ・Ⅱ」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価(振り返り)」等を組み合わせて進めていきます。
 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

地域創生演習I【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策

地域創生演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM211M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
具体的には、地域で暮らす人々の多様な生活史 / ライフストーリーの分析を通して、個人の人生や日々の暮らしと地域社会が互いにどのように作用し合っているのかを学びます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、注意点の確認、概要説明
- 第2回～第14回 生活史や聞き取り調査について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめてディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフヒストリー、ナラティブ

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 ゲームやICTを活用した地域活性化について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
それでも頑張れる学生に履修してもらおうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。昨今の教育改革の動きを確認しながら、教育実践事例や学校運営事例等について検討していきます。また、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。※2021年度2学期は演習担当教員が海外研修中となるため、8月もしくは9月に集中的に実施する予定です。

(到達目標)

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜テキストや資料を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと振り返り
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

履修上の注意 /Remarks

授業で触れる内容にとどまらず、その周辺のテーマや課題について自ら調べて深めていくことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事例や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。

テーマは交通に対する基礎的な理解を深めていく事です。実習活動を通じて学んだことをベースとして、都市の中で交通がどのような役割を果たしているのか、交通がどう変われば人々の生活の質が上がっていくのか、交通の質が変わること必要なまちの形態はどのようなものか、などについて既往文献や研究論文を輪読することで理解を深めていきます。さらに次年度以降に各自が本格的に取り組む卒業論文のテーマについて各自が頭出しをし、受講生全員で議論します。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤井聡他(2015)『モビリティをマネジメントする コミュニケーションによる交通戦略』
- 中村文彦(2016)『バスでまちづくり-都市交通の再生をめざして』
- など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス(演習の目的や活動方針の説明)
- 第2回～第11回：参考文献の輪読・グループディスカッション
- 第12回～第14回：卒論テーマの頭出し
- 第15回：まとめ(次学期に向けての方針検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
- 積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。
- 事後：講義内で気づいた点、書き取ったメモ等を踏まえて、次回以降に活用できる事を念頭に復習する事。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文提出は目の前です。自分がどのような問題意識を持ち、仮説を唱え、それを実証していくか、ということの日頃から考えながら演習活動に取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生、都市交通、モビリティマネジメント

地域創生演習II 【昼】

担当者名 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指す。都市計画、まちづくりの基礎知識を習得するための文献の輪読、ディスカッションを中心に行う。また、習得した知識をより深めるため、それらに関連したプロジェクト（ゼミ活動（地域創生実践II））等への積極的な参加を期待する。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の意向を踏まえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 輪読、ディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々、まちづくりに関するニュース、話題等に関心をもち情報収集を心掛ける。
身近なまちや環境の変化を常に意識する。

履修上の注意 /Remarks

受講者の興味関心に応じて、授業の進め方、内容等を変更する可能性もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

どんなことにも興味関心を持って、自発的に取り組むことを期待する。
まちづくりの実践活動にも積極的に取り組むことを期待する。

キーワード /Keywords

地域創生、都市計画、まちづくり、まちなかの再生、都市・地域の再生、まちづくりの組織・担い手、エリアマネジメント、福祉のまちづくり、子育てとまちづくり、ユニバーサルデザイン、交通まちづくり、都市の歴史、観光まちづくり、安心安全まちづくり

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を学びます。
2年次のテーマは「まち、人、コトを知り、理解を深める」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・物事の本質をつかむ訓練
→事例調査と発表、動画視聴とディスカッション、近況報告スピーチ
- ・まちづくりの方法論を学ぶ
→輪読、メルマガ購読、小商いに挑戦
- ・リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・実習発表
→所属している実習での活動内容報告

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。

現時点での主な実践メニューとしては、サンロード魚町商店街における各種活動、地図あそび（ロゲイニング）の企画運営、黒崎の寿通りにおける各種活動などです。そのほか、外部からの依頼を受けて随時活動メニューが増える可能性があります。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

清水義次「リノベーションまちづくり」
木下斉「稼ぐまちが地方を変える」
嶋田洋平「ぼくらのリノベーションまちづくり」
馬場正尊「エリアリノベーション」

ほか、適宜指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～13回 上述の内容を実施【プレゼン】【まちづくり】
- 14回 実習報告【振り返り】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

地域創生演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関する事前課題にしっかり取り組んでください。
事後) ゼミで受けた指摘をもとに、しっかりと復習してください。

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。
また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)に地域活動やフィールドワークを実施すること等があります。
なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、地域活動等に関するMTGを2～4年生合同で実施します。
そのほか、必要に応じて市外・県外での調査等(ゼミ合宿含む)を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ
①腹を決める
②思い切って挑戦する
③常に実践者であれ
④情熱と愛情を注ぐ
⑤謙虚な気持ちで動く
⑥自分の感覚を信じる
⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、経営からの地域再生、リノベーションまちづくり、都市解析

地域創生演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

(到達目標)

【コミュニケーション】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 地域の魅力探しや議論の場づくりを通じた地域活性化について
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前向きな参加を期待します。

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港地域、商店街、観光地化

地域創生演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。

また、「地域創生基礎演習C」において各自の設定した課題やテーマに対し、より深めて学習することを目的とする。はそのために、以下の2つの事を柱に実施する。

①各自テーマを設定し、「文章修業」を実施する。

つまり、自分で本を一冊選び、その本の内容の解説、それに対する自分の意見（特に批判的思考力の向上を目指す）をまとめる。文章作成能力と専門書の読解力の向上を目指す。

受講生が自らテーマを設定し、資料を集め自主的に学習できるようになることを目指す。

②日本におけるフットパスを用いた地域活性化の実践と理論化を通じた「地域活性化モデルの仮説づくり」。

履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的な応用研究をする。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。

ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、各自の興味ある分野の書籍の読書、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践である。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）

第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論・フットパスに関するグループディスカッション

第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フットパスづくりの実践に必ず参加し、授業の事前学習とする。

また、その経験を言語化して十分なリフレクションを行う事を事後学習とする。

地域創生演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

※1：準備とは、自主的な調査への実施、積極的なフィールドワークへの参加、テキスト以外の専門書の輪読など、ゼミに参加するために必要な各自の事前準備の事を意味する。

上記の「成績評価の方法」に記してあるように、「授業時間に実施する報告・発表・振り返りを行う際の準備」を極めて高く評価する。つまり、本授業中に報告・ディスカッションするためには、授業時間外に自主学習として、丹念な準備作業が必要となることを理解すること。

そのため、フットパスづくりの実践や輪読するテキストに関連する書籍等を主体的にかつ積極的に行うことを強く推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に重要な指標の軸とする。

キーワード /Keywords

地域創生、探究学習、経験学習、互惠的学習、学術的雑談

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、卒業論文作成に向け、各自テーマを見つけ、それぞれ調査を実施する。調査したものを発表し、全員で討論を行う。

<到達目標>

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文の書き方
- 3回～7回 データの収集・分析
- 8回～9回 発表・討論
- 10回～12回 データの収集・分析
- 13回～14回 発表・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 50%
- 演習への積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、演習内容の確認を行うこと。また演習後は、他人の発言等も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等調べ、取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、チームワーク、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。具体的には、地域創生演習Iで設定した問題について理論的、実証的に考えていきます。学年末に「ゼミ論文」の完成を目指します。

到達目標

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評(文献の内容紹介、論点や問題の提起など)」を行い、全員での議論を通して理解を深めます。その上で、自分が興味・関心をもつ問題について「問い」を立て、文献や社会調査をもとにしながら「ゼミ論文」を作成します。自らが進めている研究についても報告し、議論を通して論文の完成度を高めます。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
- 積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に臨んでください。
- 授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

報告・議論をもとに授業をすすめますので、報告担当者はしっかりと準備してください。無断欠席は厳禁です。どうしても欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習II 【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。具体的には、withコロナの時代であることを踏まえつつ、地域への人々の訪問や多様な形での交流を促進し、それを具体的な地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく際の基礎的な力を涵養することを目指します。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、その社会的・経済的意義や負の側面等を分析・考察し、それらを踏まえた地域活性化に必要な政策等を学生が主体的に検討していきます。最終的には、実践的な政策立案や政策評価、主体的に行動する力の育成を図ります。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 次回授業のテーマに関する文献・資料等を読むとともに、関連する情報を自身で調べて授業に臨んでください。また、課題が出た場合は必要な取り組みを行ってください。

事後： 授業内容を踏まえ、より深く知りたいことや疑問に思ったことを自ら調べて理解を促進するとともに、次回以降の授業や「地域創生実践II」の活動等に繋げてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者自身、および受講者間での主体的な学びを重視します。発表やディスカッションが中心となるため、常に積極的な姿勢で臨んでください。
グループで共同して取り組むことも多いため、遅刻、欠席をしないように気をつけてください（遅刻、欠席する場合は担当教員に事前連絡すること）。
また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「地域創生演習I」および「地域創生実践I」を踏まえ、本授業と「地域創生実践II」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価（振り返り）」等を組み合わせて進めていきます。
スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

地域創生演習II 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策

地域創生演習Ⅱ【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM212M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。個人の課題を地域の課題として捉え直す視点の涵養がねらいです。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、注意点の確認、概要説明
- 第2回～第14回 生活史や聞き取り調査について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめてディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフヒストリー、ナラティブ

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には、地域をよりよくする取り組みを、ゲーミフィケーション、シリアスゲーム、ICT活用の観点から自ら提案できることを目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 ゲームやICTを活用した地域活性化について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席をせざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 3年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
教育や学校を取り巻く課題は、地域レベル、国家レベル、様々な問題を私たちに提示しています。2年次1学期の演習では、教育社会学に関する理論的背景について資料を用いながら確認してきます。また、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。
加えて、高等学校を中心いくつかの学校の実際の課題を受け、学生たち自身で授業を構築し、実践していただく機会を設けます。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現】 域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】 他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】 地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

適宜テキストや資料を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと実践
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

履修上の注意 /Remarks

授業で触れる内容にとどまらず、その周辺のテーマや課題について自ら調べて深めていくことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。具体的には2年生の演習で学んだ都市計画や交通に関する基礎的な情報を元に、それをどのように実際の市町村においてまちづくりで実践していくのかを考えていきます。特定の地区をフィールドとして、地域の課題解決のための方策を検討します。また同時並行で各自の研究テーマについて絞り込みを行います。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス(演習の目的や活動方針の説明)
- 第2回～第11回：課題解決のための方策検討
- 第12回～第14回：卒論テーマの頭出し
- 第15回：まとめ(次学期に向けての方針検討)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文提出は目の前です。自分がどのような問題意識を持ち、仮説を唱え、それを実証していくか、ということの日頃から考えながら演習活動に取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、公共交通

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。スポーツ指導の中で、特にフェアプレーの在り方をまとめていきます。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

演習中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 スポーツ指導の中で特にフェアプレー教育やgood loser (良き敗者を育てる) 教育の在り方を議論する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
- 積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに挑んでください。授業後はディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気を付けてください。どうしても遅刻、欠席をせざるを得ない場合は事前に私に連絡してください。また、正規の授業時間外に学習することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間外で学習することも多くなります。皆さんの積極的な取り組みを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、卒業論文作成に向け、各自テーマを見つけ、それぞれ調査を実施する。調査したものを発表し、全員で討論を行う。特に実習で培った知識、行動力を自主的に発揮できるような力を身につける。

<到達目標>

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ゼミ活動役割決め
- 3回～7回 ゼミ活動(車椅子ソフトおよび各種障がい者スポーツ)
- 8回～9回 発表・討論
- 10回～12回 ゼミ活動(車椅子ソフトおよび各種障がい者スポーツ)
- 13回～14回 発表・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への積極的な取り組み 70%
演習中に取り組む課題の達成度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に演習内容の確認を行うこと。また演習後は他人の発言も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等を調べ、取り組むこと。授業前後には必ずミーティングを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、チームワーク、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

各自の興味関心のあるテーマについて、卒業論文の執筆に向けた報告、ディスカッションを繰り返し行う。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～第14回：報告およびディスカッション
- 第15回：まとめ、中間発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題の達成度（報告内容）：50%
- 積極的な演習への参加（ディスカッション）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備および、ディスカッションを踏まえた事後学習（論文への反映）の実施。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 中間発表会での報告は必須。
- 少なくとも月1回は必ず進捗を報告すること。

キーワード /Keywords

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
3年次のテーマは「まちの課題を抽出し、課題解決の方法を考え実践する」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 多くの事例に学ぶ
→ 輪読、メルマガ購読
- ・ 発想の転換を図る
→ 動画視聴、ディスカッション
- ・ リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→ フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・ 都市解析手法を学び実践する
→ レクチャー、フィールドワーク、プレゼン
- ・ 実習報告
→ 所属している実習の内容を報告し、ディスカッションを行う

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。
現時点での主な活動は、「サンロード魚町商店街での活動」「地図あそびの企画運営」などを予定しています。
そのほか、地域からの要請等に応じて随時活動の機会が増える可能性があります。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦展「第四の消費」
HOME'S総研「Sensuous City」
刈谷剛彦「知的複眼思考法」

ほか、適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～14回 上述の内容に取り組む【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

地域創生演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前) 上述の内容に関連して課された課題にしっかりと取り組んでください。
事後) 毎回受けた指摘をふまえ、しっかり復習してください。

履修上の注意 /Remarks

2年次までの演習や実習の内容を振り返った上で、4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告において、どんなことをテーマとして取り組んでいきたいか、各自が事前にしっかりと考えておいて下さい。(その内容について、第2回のテーマ設定で発表してもらいます。)

正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)に地域活動やフィールドワークを実施すること等があります。

なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、地域活動等に関するMTGを2～4年生合同で実施します。

そのほか、必要に応じて市外・県外での調査等(ゼミ合宿含む)を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ

- ①腹を決める
- ②思い切って挑戦する
- ③常に実践者であれ
- ④情熱と愛情を注ぐ
- ⑤謙虚な気持ちで動く
- ⑥自分の感覚を信じる
- ⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、都市解析、リノベーション、経営からのまちづくり

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ・Ⅱ、地域創生実践Ⅰ・Ⅱの取り組みを踏まえて、地域創生に関する実践的な考え方を深めていきます。具体的な地域調査や地域活動を通して、学生活動による地域への独自の「貢献」と学生「学び」の両立を目指します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 地域の魅力探しや発信、議論の場づくりを通じた地域活動の展開
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前向きな参加を期待します。

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港地域、商店街 観光地化

地域創生演習Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。具体的には本演習授業は、以下の2つの事を柱に実施する。

①卒論執筆に向けた、高度な学術的思考・アカデミックスキルの習得を目指す。
夏季休業中に他のゼミと共同でゼミ合宿を実施し、そのゼミ合宿で論文報告を実施する。そのための論文執筆のために各自の興味・関心に基づく「文章修行」を実施する。

②フットパスを用いた地域活性化の実践と理論化を身に付け、フットパスづくりの教育的役割を担う
履修生全体で統一したテーマや目標を掲げ、それに向けた対象地においてフットパスの実践（フットパスづくり）を行いながら、フットパスが地域活性化に及ぼす効果やその理論について、実証的に研究しつつ、地域や後輩たちへ「フットパス」の普及・推進を行うこと。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。
ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

なお、①・②ともに、本授業に参加するための事前準備を事前に必須条件として課すこととする。

①については、テキストの輪読、そしてレジュメ等の報告資料の作成等。

②については、フットパスづくりのためのメンバー間での情報共有のためのミーティングへの参加、そしてフットパスづくりにおける実践およびフットパスづくりにおける指導を行う。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

地域創生演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション①
- 第3回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション②
- 第4回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション③
- 第5回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション④
- 第6回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑤
- 第7回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑥
- 第8回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑦
- 第9回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑧
- 第10回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑨
- 第11回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑩
- 第12回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑪
- 第13回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑫
- 第14回：文章修行+フットパスに関するグループディスカッション⑬
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に重要な指標の軸とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、フットパス、協同学習、経験の言語化、経験学習

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には、生活困窮者支援や自らが興味関心を持つ地域活動への参加を通して、テーマを設定し、問いをたて、先行研究を踏まえながら、実証的に分析していきます。学年末に「ゼミ論文」の完成を目指します。

到達目標

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評(文献の内容紹介、論点や問題の提起など)」や研究報告を行い、全員での議論を通して理解を深めます。その上で、自分が興味・関心をもつ問題について「問い」を立て、文献や社会調査をもとにしながら「ゼミ論文」を作成します(学年末)。自らが進めている研究についても報告し、議論を通して論文の完成度を高めます。
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に臨んでください。
授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。
地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。
研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ・Ⅱ、地域創生実践Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には、withコロナの時代であることを踏まえつつ、地域への人々の訪問や多様な形での交流を促進し、それを具体的な地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく際の基礎的な力の強化と応用的な力の涵養を目指します。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、その社会的・経済的意義や負の側面等を分析・考察し、それらを踏まえた地域活性化に必要な政策等を学生が主体的に検討していきます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策研究について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 次回授業のテーマに関する文献・資料等を読むとともに、関連する情報を自身で調べて授業に臨んでください。また、課題が出た場合は必要な取り組みを行ってください。
事後： 授業内容を踏まえ、より深く知りたいことや疑問に思ったことを自ら調べて理解を促進するとともに、次回以降の授業や「地域創生実践Ⅲ」の活動等に繋げてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者自身、および受講者間での主体的な学びを重視します。発表やディスカッションが中心となるため、常に積極的な姿勢で臨んでください。
また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習Ⅳ」および「地域創生実践Ⅲ・Ⅳ」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価(振り返り)」等を組み合わせて、各自のキャリア形成や卒業論文に向けた道のみ視野に入れながら進めていきます。
スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

地域創生演習Ⅲ 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策

地域創生演習Ⅲ【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。具体的には、各自で進めている地域課題の探求について、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。個人の課題を地域の課題として捉え直す視点の涵養がねらいです。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、注意点の確認、概要説明
- 第2回～第14回 生活史や聞き取り調査について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、各自のテーマに即した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席をせざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフヒストリー、ナラティブ

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には、地域をよりよくする取り組みを、ゲーミフィケーション、シリアスゲーム、ICT活用の観点から自ら提案できることを目指します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 ゲームやICTを活用した地域活性化について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。
授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席をせざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。
それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、ゲーミフィケーション、ICT、モチベーション

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。昨今の教育改革の動きを確認しながら、教育実践事例や学校運営事例等について検討していきます。
また、SDGsに関する実践活動の機会が増えてきますので、SDGsとは何かや教育との関係についても学びを深めていきます。
※2021年度2学期は演習担当教員が海外研修中となるため、8月もしくは9月に集中的に実施する予定です。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現】域社会で必要とされることを幅広く理解し、適切な方法で表現すること
- 【コミュニケーション力】他者と積極的な議論をしながら、協働して地域課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

適宜テキストや資料を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと振り返り
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各人のタスクに必要な書籍を積極的に読んでください。

履修上の注意 /Remarks

授業で触れる内容にとどまらず、その周辺のテーマや課題について自ら調べて深めていくことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、SDGs、ESD、キャリア教育

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

次年度以降に各自が本格的に取り組む卒業論文のテーマについて、テーマ設定、社会的背景、などを概括し、その上で卒論としてまとめるために必要な目次構成、調査手法などを各自が提示し、受講生全員で議論します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、本の紹介や資料の配布をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス（演習の目的や活動方針の説明）

第2回～第14回：卒論テーマについての各自の発表とグループディスカッション

第15回：まとめ（次学期に向けての方針検討）

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%

積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回講義で気になった課題については、各自で自主的に考え、次回以降に持ち越さないように解決する事。少しでも翌週以降に進展があることを意識することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

正規の時間以外にもフットパス活動などゼミ全体で取り組むプロジェクトに参加することもあります。地域活動を実践していく上での技術力、コミュニケーション力、課題解決力など多くの事を学ぶことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文提出は目の前です。自分がどのような問題意識を持ち、仮説を唱え、それを実証していくか、ということの日頃から考えながら演習活動に取り組んでください。

キーワード /Keywords

地域創生、まちづくり、公共交通

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、地域創実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。具体的には、大学スポーツが地域住民にどのように影響を及ぼすのかなど、実践を通して議論します。

(到達目標)

- 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に活用できる。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜支持します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 小倉南区周辺の地域スポーツ活動をとらえて子供やシニア世代の健康などを考えディスカッションする。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 50%
積極的な取り組みへの参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には指定した文献を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに挑んでください。
授業後はディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしように気を付けてください。どうしても遅刻や欠席をせざるを得ない場合は、事前に私に連絡してください。また、正規の授業以外に行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修上の注意のも上げましたが、ゼミの時間外で学習すること機会が多くなりますので、注意してください。

キーワード /Keywords

地域創生、健康

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域活動や演習で経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、卒業論文作成に向け、各自テーマを見つけ、それぞれ調査を実施する。調査したものを発表し、全員で討論を行う。特に実習で培った知識、行動力を自主的に発揮できるような力を身につける。

<到達目標>

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ゼミ活動役割決め
- 3回～7回 ゼミ活動(車椅子ソフトおよび各種障がい者スポーツ)
- 8回～9回 発表・討論
- 10回～12回 ゼミ活動(車椅子ソフトおよび各種障がい者スポーツ)
- 13回～14回 発表・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への積極的な取り組み 70%
演習中に取り組む課題の達成度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に演習内容の確認を行うこと。また演習後は他人の発言も踏まえ、自分自身に取り込んでいくよう復習すること。演習で出された課題にも文献等を調べ、取り組むこと。授業前後には必ずミーティングを実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、チームワーク、SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆に向け、各自の興味関心のあるテーマについて報告およびディスカッションを繰り返す行う。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考して解決策を探究し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 各自のテーマに関する報告とディスカッション
- 15回 : 論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題の達成度（報告内容）：50%
- 積極的な演習への参加（ディスカッション）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に向けた事前準備とディスカッションを踏まえた事後学習（論文への反映）の実施。

履修上の注意 /Remarks

欠席については事前連絡をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2年間の演習の総仕上げとして、より専門的で、より高度な報告を期待する。
少なくとも月1回は進捗を報告すること。
論文報告会での報告は必須。

キーワード /Keywords

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 片岡 寛之 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。

3年次のテーマは「まちの課題を抽出し、課題解決の方法を考え実践する」です。
ゼミで取り組む内容は以下の通りです。

- ・ 多くの事例に学ぶ
→ 輪読、メルマガ購読
- ・ 発想の転換を図る
→ 動画視聴、ディスカッション
- ・ リノベーションまちづくりの最前線を体感する
→ フィールドワーク、リノベーションスクール
- ・ 都市解析手法を学び実践する
→ レクチャー、フィールドワーク、プレゼン
- ・ 実習報告
→ 所属している実習の内容を報告し、ディスカッションを行う

加えて、ゼミで学んだ知識や理論をベースに実践活動を行います。
現時点での主な活動は、「サンロード魚町商店街での活動」「地図あそびの企画運営」「黒崎寿通りでの活動」などを予定しています。
そのほか、地域からの要請等に応じて随時活動の機会が増える可能性があります。

- (到達目標)
- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
 - 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～14回 上述の内容に取り組む【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前) 上述の内容に関連して課された課題にしっかりと取り組んでください。
- 事後) 毎回受けた指摘をふまえ、しっかりと復習してください。

地域創生演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

2年次までの演習や実習の内容を振り返った上で、4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告において、どんなことをテーマとして取り組んでいきたいか、各自が事前にしっかりと考えておいて下さい。(その内容について、第2回のテーマ設定で発表してもらいます。)
正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動等を実施することがあります。

なお、ゼミの時間とは別に、週に1回、地域活動等に関するMTGを2～4年生合同で実施します。
そのほか、必要に応じて市外・県外での調査等(ゼミ合宿含む)を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大事にして欲しいこと7つ

- ①腹を決める
- ②思い切って挑戦する
- ③常に実践者であれ
- ④情熱と愛情を注ぐ
- ⑤謙虚な気持ちで動く
- ⑥自分の感覚を信じる
- ⑦感謝する

キーワード /Keywords

地域創生、都市解析、リノベーション、経営からのまちづくり

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域創生実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの取り組みを踏まえて、地域創生に関する実践的な考え方を深めていきます。具体的な地域調査や地域活動を通して、学生活動による地域への独自の「貢献」と学生「学び」の両立を達成します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 地域の魅力探しや発信、議論の場づくりを通じた地域活動の展開
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 … 50%
積極的な演習への参加 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、指定した文献等を熟読し、それらをまとめて、ディスカッションに臨んでください。授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前向きな参加を期待します。
ゼミの時間以外で学習する機会が多く、忙しくなります。それでも頑張れる学生に履修してもらうことを期待しています。

キーワード /Keywords

地域創生、門司港地域、商店街 観光地化

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。具体的には、文章修業において各自の設定した課題やテーマに対し、より深く学習することを目的とする。受講生が設定した課題に対し、その克服方法を模索する際、最も有用な分析手法（経済学・社会学・法学・政治学・倫理学・民俗学等）は何かを発見し、資料を集め自主的に学習できるようになることを目指す。これは地域創成学群が非常に学際的な分野であるために必要な作業である。この作業は卒業論文執筆を見据えた、論文執筆のための知識とスキルの向上を目的としている。また、各自、調査フィールドを設定したものとっては、フィールドワークを学術的に実施し、高度な実証的研究を実施する。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

問題意識を持って演習に参加することが必要となる。環境問題、コミュニティ問題など現代社会が抱える様々な問題に対して情報収集を積極的に行ってほしい。そのため、演習授業に参加するためには事前学習として、十分な報告資料の作成が必要となる。また、実際にまちや地域社会に出ていき知識や情報を収集することが望まれることから、演習授業でうけた助言やアドバイスをもとに、自ら調査計画を立て、調査を実施するという事後学習も求められる

履修上の注意 /Remarks

本演習は「教え合い、学び合い」を理念として、互いの経験学習を共有することを重視する。そのため主体的にかつ積極的に「経験を積もうとすること」を強く推奨し、成績評価の際に重要な指標の軸とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、フットパス、文章修行、協同学習、経験学習モデル、経験の言語化

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。具体的には、生活困窮者支援や自らが興味関心を持つ地域活動への参加を通して、テーマを設定し、問いをたて、先行研究を踏まえながら、実証的に分析していきます。学年末に「ゼミ論文」の完成を目指します。

到達目標

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 自ら設定したテーマに関連する文献について、各自が「テキスト批評(文献の内容紹介、論点や問題の提起など)」や研究報告を行い、全員での議論を通して理解を深めます。その上で、自分が興味・関心をもつ問題について「問い」を立て、文献や社会調査をもとにしながら「ゼミ論文」を作成します。自らが進めている研究についても報告し、議論を通して論文の完成度を高めます。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、文献等を熟読し、それらをまとめて議論に臨んでください。
授業後は、議論を踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

活動中に知り得た情報の取り扱いには注意し、守秘義務を遵守してください。
地域活動では、さまざまな立場や年代の人びとと接する機会が多くあります。学ぶ者としての謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣いなどに配慮してください。
活動に係る移動の交通費は、原則自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域・社会には、さまざまな力が埋め込まれています。そうした重層的な力とその作用を明らかにしていきたいと考えています。ただ、さまざまな出来事が生じるメカニズムは複雑です。どうなっているのか、なぜそうなるのか、どうすればいいのか、なかなかわかりません。しかし、わからないことの周りを辛抱強くうろつきまわることが大切だと思います。自分の<頭>と<足>で、ともに考えていきましょう。研究や実践活動には主体性が求められます。意味があると思われる問いを立て、活動の中から自分なりの答えを導いてください。

キーワード /Keywords

地域創生、社会学、都市

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域創生実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。
具体的には、withコロナの時代であることを踏まえつつ、地域への人々の訪問や多様な形での交流を促進し、それを具体的な地域活性化につなげるために必要な事項を検討していく際の基礎的な力の強化と応用的な力の涵養を目指します。特に、地域内外の人々の集客・交流の起点となる地域資源として、「スポーツ（プロスポーツや各種スポーツ大会などの“観るスポーツ”が中心）」、「文化財」、「各種イベント・観光施設」等に着目し、その社会的・経済的意義や負の側面等を分析・考察し、それらを踏まえた地域活性化に必要な政策等を学生が主体的に検討していきます。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜、文献や資料を紹介していきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、文献や資料を紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～14回 スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策研究について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： 次回授業のテーマに関する文献・資料等を読むとともに、関連する情報を自身で調べて授業に臨んでください。また、課題が出た場合は必要な取り組みを行ってください。

事後： 授業内容を踏まえ、より深く知りたいことや疑問に思ったことを自ら調べて理解を促進するとともに、次回以降の授業や「地域創生実践Ⅳ」の活動等に繋げてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者自身、および受講者間での主体的な学びを重視します。発表やディスカッションが中心となるため、常に積極的な姿勢で臨んでください。
また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業と「地域創生演習Ⅲ」および「地域創生実践Ⅲ・Ⅳ」を連動させ、「理論の学習」、「事例の学習」、「実践活動を通じた現実の把握」、「調査分析の実施」、「様々な要素を考慮した政策の立案、プレゼンテーション」、「学生自身による評価(振り返り)」等を組み合わせて、各自のキャリア形成や卒業論文に向けた道のみ視野に入れながら進めていきます。
スポーツや文化財等を活かしたまちづくり政策や、関連する社会経済動向に常に幅広い関心を持ち続け、主体的に学び実践する姿勢を期待しています。

地域創生演習Ⅳ【昼】

キーワード /Keywords

地域創生、スポーツ、文化、文化財、観光、政策

地域創生演習Ⅳ【昼】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M	○	◎			
科目名	地域創生演習Ⅳ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域創生演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、地域創生実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容を踏まえて、地域創生に関する実践的理論を深めていきます。具体的には、各自で取り組んでいる地域課題について、ディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。個人の課題を地域の課題として捉え直す視点の涵養がねらいです。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な知識を体系的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術を実践的に身につけている。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、注意点の確認、概要説明
- 第2回～第14回 生活史や聞き取り調査について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、各自のテーマに沿った文献等を熟読し、それらをまとめてディスカッションに臨んでください。授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生、生活史、ライフストーリー、ナラティブ

相談援助演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Tutorial クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW260M		○	△	◎	
科目名	相談援助演習Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は、相談援助に関わる他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について実践的に修得することを目指します。特に、基本的な対象者理解のための視点、コミュニケーションスキルなど、対人援助職としての基礎を中心として学びます。

(到達目標)

【技能】社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る技能について総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要な基本的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料などを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【カリキュラムにおけるこの科目の意味など】
- 2回 ソーシャルワーク実践：ソーシャルワーカーの使命と役割を理解する 【ソーシャルワーカーの使命と役割】
- 3回 専門職としての価値・倫理と自己覚知 【自己覚知】
- 4回 自分の生活史を作成し生活史把握の意義について学ぶ 【ライフヒストリー】
- 5回 自己理解、自己覚知について体験的に学ぶ 【自己覚知】
- 6回 他者を理解するということ 【他者理解】
- 7回 コミュニケーション① 【言語的コミュニケーション】
- 8回 コミュニケーション② 【非言語的コミュニケーション】
- 9回 ロールプレイ演習の概説 【ロールプレイ】
- 10回 基礎的スキル：面接技法についての理解① 【観察】 【傾聴】
- 11回 基礎的スキル：面接技法についての理解② 【原理・原則】 【ロールプレイ】
- 12回 基礎的スキル：面接技法についての理解③ 【情報収集】
- 13回 基礎的スキル：記録技法と情報整理技法についての理解① 【エコマップ】 【ジェノグラム】
- 14回 基礎的スキル：記録技法と情報整理技法についての理解② 【ケース記録】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 50%、演習への取り組み... 25%、課題の提出... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、相談援助の基盤と専門職1・2や、相談援助の理論と方法1等の援助スキルに関する科目の内容を復習しましょう。事後学習では、演習を通して学んだスキルを活用して、ケース分析などの復習をしましょう。

相談援助演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

1年次の間に、現代社会と福祉1・2、相談援助の基盤と専門職1・2、をあらかじめ履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目では、対人援助職としての基礎を学びます。体験的に学ぶことが中心となりますので、積極的な参加を期待します。一緒に楽しみながら学びましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク

相談援助演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW261M		○	△	◎	
科目名	相談援助演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は、相談援助に関わる他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について実践的に修得することを目指します。特に具体的な相談援助事例を体系的に学び、専門的援助として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力の涵養をを目的としています。

(到達目標)

【技能】社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る技能について総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要な基本的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業時に紹介をする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 相談援助の実際と援助技術についてを事例を活用して学ぶ
- 2回 ソーシャルワーク実践の展開
- 3回 事例検討の目的・方法
- 4回 事例学習①【貧困問題】
- 5回 事例学習②【生活困窮者支援】
- 6回 事例学習③【児童虐待】
- 7回 事例学習④【児童虐待】
- 8回 事例学習⑤【高齢者虐待】
- 9回 事例学習⑥【高齢者虐待】
- 10回 事例学習⑦【DV】
- 11回 事例学習⑧【家庭内暴力】
- 12回 事例学習⑨【外国人問題】
- 13回 事例学習⑩【社会的排除】
- 14回 事例学習のまとめと振り返り
- 15回 演習全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート.....50%、演習課題への取り組み.....25%、課題の提出.....25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、相談援助の基盤と専門職1・2や、相談援助の理論と方法1・2・3等の援助スキルに関する科目の内容を復習しましょう。事後学習では、演習を通して学んだスキルを活用して、ケース分析などの復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

相談援助演習1を先に履修していくこと。合わせて、相談援助の理論と方法1や、それ以外の福祉観系科目を先に履修しておくこと、本授業の理解がより深いものになります。

相談援助演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループディスカッションがメインになります。積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク、福祉事例

地域創生論1 (まちづくりマネジメント) 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE100M	◎				
科目名	地域創生論 1			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義のテーマは「経営からまちづくりを考える」です。

まちづくりの活動を行う際に直面する5つの悩み（①何をしたらよいかわからない、②どう実行したら成果が出るのかわからない、③実行する人がいない、④手元に予算がない、⑤常に時期が遅れる）を解消するために、「まち=1つの会社」、「まちづくり=事業」として捉え、経営的視点からまちづくりについて考えることを狙いとしています。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 木下斉「まちづくりの「経営力」養成講座」※この本の内容を中心にして講義を進めるので、購入することが望ましい。
木下斉「凡人のための地域再生入門」※購入することが望ましい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
→これからの地域創生について、講義の狙いと成績評価について、参考書の説明、受講上の注意 等
- 第2回：論理的思考の重要性
→論理性、因果関係、構造化
- 第3回：戦略なきまちづくりからの脱却
→戦略の必要性、戦略立案のための4ステップ
- 第4回：事業を取り巻く外的環境の分析
→まちづくりの顧客、競合の見極め、優位な供給、規制への対応、情報収集
- 第5回：事業を進める組織の内的環境の分析
→経営資源の見極め、事業システムの設計
- 第6回：まちづくりにおける目標設定
→目標の意味、目標設定の方法
- 第7回：まちづくりにおける戦略立案
→戦略の役割、戦略立案の方法、まちづくり事業の育成
- 第8回：前半の復習
- 第9回：まちづくり組織の設計
→事業に適した組織づくり、組織の責任と権限、様々な組織形態
- 第10回：まちづくり組織の運営
→人が生きる組織、社会的責任、パートナーシップ
- 第11回：まちづくりとお金①
→事業サイクルの法則、資金調達、事業への投資
- 第12回：まちづくりとお金②
→適正利益の確保、シミュレーション、予算管理
- 第13回：計画を着実に実行するために(留意点、まちづくりプロジェクト5カ条、プロジェクトデザインと評価)
- 第14回：外部講師による特別講義(予定)
- 第15回：まとめ

地域創生論1 (まちづくりマネジメント) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義に取り組む姿勢 + 小テスト (50%) ※遅刻厳禁です
期末レポート (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習) 参考図書該当箇所を事前に読み、その内容についての疑問点を明確にしておく。
事後学習) 講義で学んだ内容について復習するとともに、重要だと思った方法論を日頃の活動に取り入れてみる。
その際、講義内容について、日頃行っている自分自身の活動に置き換えて考えるようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群における学びのベースとなる必修科目の1つです。
日頃の実習活動等に活かすことのできる内容が散りばめられているので、事業と地域活動の違いや共通点について意識しながら受講してください。そして、実習活動等で実際に試してみてください。
特に、チャレンジプログラムへの挑戦を視野に入れている人には必須の内容です。

キーワード /Keywords

まちづくり、事業、経営

地域創生論2 (スポーツ指導論) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE101M	◎				
科目名	地域創生論 2			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化としてとらえることの重要性について理解を深め、スポーツ指導者として求められる役割などを学習する。初めてスポーツに出会う子供をはじめ、どの年代からでも生涯を通じて楽しむ方法や機会を提供するとともに、人間としてのマナーやエチケットなどを学習する。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ技術・戦術以外のスポーツ文化的内容(ルール、マナー、エチケット)カナダのフェアプレー委員会とは
- 2回 21世紀のスポーツ指導者像とは(ジョン・ウッデンに学ぶ)
- 3回 スポーツ指導の心構え(法的知見を含む)
- 4回 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割
- 5回 救急処置
- 6回 指導計画の立て方
- 7回 スポーツ活動と安全管理
- 8回 指導者の法的責任
- 9回 スポーツと人権
- 10回 スポーツ活動中に多いけがや病気
- 11回 新たなスポーツ環境とスポーツ指導者
- 12回 これからのスポーツ振興の方向性
- 13回 部活動とスポーツ指導者(指導の行き過ぎから起こる問題点)
- 14回 日本武道の必要性(抑制の美とは)
- 15回 地域スポーツクラブとスポーツ指導

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度... 50%

まとめ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後はさらに文献等で復習すること

履修上の注意 /Remarks

オリンピックを国民あげて支えていくうえで、スポーツの理解は大変重要です。スポーツの正しい理解を学びましょう。

地域創生論2 (スポーツ指導論) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツは世界共通のルールで繋がっている。
日本で活躍する外国人アスリートや世界で活躍する日本人アスリートの活躍などを盛り込みながら授業を進めていきます。

キーワード /Keywords

オリンピック・パラリンピック・フェアプレー

地域創生論4 (まちづくり実践論) 【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE103M	◎				
科目名	地域創生論 4			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

これからの地域（都市部を含む）は、市民、コミュニティ、各種団体、企業、行政・議会など、多様な主体がそれぞれ役割を担ってまちづくりに参画する地域経営の仕組みづくりと、その仕組みに基づいた実践が必要である。さらに、まちづくりを支える政策や各種事業の検討に際しては、地域の実態に関する情報収集や幅広い視点からの考察が不可欠である。

本授業では、地域創生・まちづくりを推進していくために必要な地域経営のあり方等について現実に即して学ぶと共に、近年特に注目されている関連政策（特にスポーツや文化財を活かしたまちづくり）について基礎的事項を学ぶ。

※「まちづくり」という用語は、学問分野あるいは使用する人によって多様な用い方が行われている。本授業では、都市・地域において、多様な主体が関わるハード・ソフト両面の幅広い政策や行動を「まちづくり」と位置づける。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、授業中に文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤滋編著(2011)『まちづくり市民事業 新しい公共による地域再生』学芸出版社
- 仲澤真、吉田政幸編著(2017)『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房
- その他、適宜、授業中に文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 新しい地域経営の動き① 【協働】
- 第 3回 新しい地域経営の動き② 【“公共”の担い手】
- 第 4回 新しい地域経営の動き③ 【実践事例】
- 第 5回 国・地方自治体のまちづくり政策① 【地方創生】
- 第 6回 国・地方自治体のまちづくり政策② 【観光振興】
- 第 7回 国・地方自治体のまちづくり政策③ 【スポーツ、文化財をいかしたまちづくり総論】
- 第 8回 文化財をいかしたまちづくり① 【総論】
- 第 9回 文化財をいかしたまちづくり② 【問題点への対応】
- 第 10回 文化財をいかしたまちづくり③ 【実践事例】
- 第 11回 スポーツをいかしたまちづくり① 【スポーツツーリズム】
- 第 12回 スポーツをいかしたまちづくり② 【スタジアムとまちづくり】
- 第 13回 スポーツをいかしたまちづくり③ 【国際スポーツ大会】
- 第 14回 スポーツをいかしたまちづくり④ 【実践事例】
- 第 15回 まちづくりにおける現状把握、合意形成の重要性

※ 各回の授業時点で社会的に話題となっているまちづくり関連のトピックや最新の政策動向を取り入れた授業とするため、授業計画については変更する場合がある。

※ ゲスト講話を行う回を設ける。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への積極的参加（取り組み姿勢、授業で課すミニレポート等）： 40%
- ・ 課題レポート（ゲスト講話から学んだこと等、学期中に複数回実施）： 60%

地域創生論4 (まちづくり実践論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：毎回、「1週間以内に報道され、各自が関心を持ったまちづくり関連記事」を探し、それについて各自の考え方をまとめること。その他の取り組みについては授業中に指示する。

事後：授業中に課した課題に取り組むこと。その他、授業中に興味を持った事項については、図書館やインターネット等を活用し、授業後に各自で調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

各回の授業時点で社会的に話題となっているまちづくり関連のトピックや最新の政策動向を取り入れた授業とするため、授業計画については変更する場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から「まちづくり」へ幅広い関心(その時点では興味が無い内容も含めて)を持ち、自分なりに書籍、報道、実践活動等を通じ多角的に情報収集を行い、常にまちづくりについて思考するよう意識してほしい。

キーワード /Keywords

地域経営、協働、地域活性化、スポーツをいかしたまちづくり、文化財をいかしたまちづくり

地域創生論5 (教育社会学) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE104M	◎				
科目名	地域創生論 5		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

教育や学校を取り巻く問題は、地域レベル、国家レベル、世界レベルで様々な課題を私たちに提示しています。教育に関する課題を解決することで、問題が解決することも少なくないはずですが。
この授業では、まず、教育社会学に関する文献を用い、教育社会学とは何か、どんな分野があるのか等、総論を確認していきます。そして、教育社会学に関するいくつかのトピックスを掘り下げていきます。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しません。適宜文献等を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『新しい時代の教育社会学』 加野芳正・越智康詩編著 ミネルヴァ書房 2012年
- 『教育の社会学』 荻谷剛彦他著 有斐閣 2000年
- 『持続可能な発展の教育学』 鈴木敏正著 東洋館出版社 2013年
- 『SDGsの基礎』 沖大幹他著 事業構想大学院大学出版部 2018年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 教育社会学概論
- 第03回 地域の教育諸問題①
- 第04回 地域の教育諸問題②
- 第05回 地域の教育諸問題③
- 第06回 現在の教育改革の諸相①
- 第07回 現在の教育改革の諸相②
- 第08回 現在の教育改革の諸相③
- 第09回 ESD(Education for Sustainable Development)①
- 第10回 ESD②
- 第11回 ESD③
- 第12回 SDGs(Sustainable Development Goals)と教育①
- 第13回 SDGsと教育②
- 第14回 SDGsと教育③
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み状況...60%、授業での成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習が必須となります。次回授業のレジュメと課題を提示します。各自の宿題を持ち寄り学びあいを展開します。

履修上の注意 /Remarks

地域創生論5 (教育社会学) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

子ども、学校教育、社会教育、生涯教育、家庭教育、幼児教育、教育格差、教育改革、文部科学省、国連、ESD、SDGs

地域創生論6 (ボランティア活動論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE105M	◎				
科目名	地域創生論6		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動の現状と概念を整理・確認し、地域社会での位置づけや活動の意義について考えます。ボランティア活動を狭義ではなく、広義に捉えたNPO(公益団体)として課題を定義することにより、組織運営の課題を理解・分析するとともに、地域・社会における生活の質を高める多様な課題(子育て支援・対策、高齢者支援・対策、雇用対策、環境保全・対策、新エネルギー・省エネルギー促進方策、商店街活性化対策、自治会加入促進対策等)の解決に結びつくことを考えてみたいと思います。地域・社会の多様な課題の解決に向きあうには組織の自立した持続的な運営と、代表者としての取り組み姿勢・資質が不可欠であり、その要素の実現に必要な条件について考えます。住みよい地域・社会の実現には、ボランティア活動を慈善的な活動から発展的な発想により、持続的な自立したボランティア活動へと成長し、継続的に地域・社会と関わることで、人の意識変革を促し、人間力を高め、地域力を高める必要があります。さらに、組織運営における発想の拡大により、地域・社会の課題を解決する新しい社会ビジネス手法「コミュニティビジネス(市民事業)」「ソーシャルビジネス(社会起業)」の概要を理解することにより、生活の質を高めることを目的とする公共サービスの担い手としての社会的意義について考えてみたいと思います。この講義での到達目標の具体的な内容は以下の通りです。①.ボランティア活動の全体理解を得て、社会での位置づけや意義を学ぶと共に、組織運営の課題を分析する。②.ボランティア活動・NPO・NPO法人の社会的な役割を理解し、組織運営の違いを理解する。③.地域・社会の課題を分析することにより、ボランティア活動に求められる社会的な意義を理解する。④.人間力・地域力を高める目的を担う、コミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)の概論を理解し、地域・社会との関係性を考察することにより、社会性と経済性との調和による新しい地域・社会環境をイメージする。⑤.新しい生活支援サービス形態と称される「公共サービス」としての関係性を理解する。⑥.対話授業を取り入れることにより、授業での主体性を高め、協調性を基本とする「ボランティア活動に取り組む姿勢」を高める。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ボランティア活動の現状理解と、社会的な意義
- 2回 ボランティア活動とNPO(任意団体)・NPO法人の概念整理
- 3回 ボランティア活動とNPO(任意団体)の組織運営の課題分析
- 4回 特定非営利活動法人(NPO法人)の組織運営の課題分析
- 5回 ボランティア活動の自立化によるコミュニティビジネス(市民事業)への成長
- 6回 地域・社会の課題発見 その1
- 7回 地域・社会の課題発見 その2
- 8回 人間力(教育的影響)の現状理解と課題分析
- 9回 地域力(社会的影響)の現状理解と課題分析
- 10回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その1
- 11回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その2
- 12回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その1
- 13回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その2
- 14回 地域での雇用創出を目的とする、ソーシャルビジネス(社会起業)概要の理解
- 15回 ボランティア活動からコミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)への発展的可能性と、地域・社会からの期待(まとめ)

地域創生論6 (ボランティア活動論) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(80%)、授業レポート(5%)、対話討議を含む授業での積極性(15%)を評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席することが前提である。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ボランティアセンターの関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. 身近なボランティア活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生論9 (都市・地域マネジメント論) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE113M	◎				
科目名	地域創生論9		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

人口減少、少子高齢社会における持続可能な地域、都市、まちのあり方を学ぶにあたっての基礎的な知識、手法等を学ぶ。
 まず、都市や地域をマネジメントする必要性について、さまざまな分野の事例を題材に習得する。
 次に、都市や都市計画の歴史、都市計画の先駆者たちの取り組みを学ぶことによって、今後の都市計画、まちづくりの方向性を考える。科学技術に頼るだけでなく、多数の多様な課題が山積し、将来の予測が難しい時代だからこそ、歴史にそのヒントを求める。
 そして、今日の都市、地域のマネジメントで重要なテーマとなっているインフラの維持や再編、公共交通の維持、空き家問題等についてより具体的に学び、さらにエリアマネジメント、コンパクトシティ、観光まちづくり (DMO)、子育てしやすいまちづくり、まちあるきとまちづくりなどの今日必要とされるまちづくりの新たな手法や考え方についても理解を深める。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日端康雄 (2008) 「都市計画の世界史」講談社
 - ・福川裕一 (2019) 「ニッポンのまちのしくみ」淡交社
 - 伊藤雅春ほか (2017) 「都市計画とまちづくりがわかる本 第2版」彰国社
 - 薬袋奈美子ほか (2016) 「生活の視点でとく都市計画」彰国社
 - 饒庭伸ほか (2018) 「初めて学ぶ 都市計画(第二版)」市ヶ谷出版社
- その他、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：都市・地域におけるマネジメントの必要性 (1)
- 第3回：都市・地域におけるマネジメントの必要性 (2)
- 第4回：都市・地域におけるマネジメントの必要性 (3)
- 第5回：都市・地域におけるマネジメントの必要性 (4)
- 第6回：都市の形成と発展 (1)
- 第7回：都市の形成と発展 (2)
- 第8回：都市の形成と発展 (3)
- 第9回：都市の形成と発展 (4)
- 第10回：都市・地域の今日的課題 (1)
- 第11回：都市・地域の今日的課題 (2)
- 第12回：都市計画・まちづくりの最新の取り組み (1)
- 第13回：都市計画・まちづくりの最新の取り組み (2)
- 第14回：都市計画・まちづくりの最新の取り組み (3)
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テストorレポート：50%、中間レポート(4回)：50%、

地域創生論9 (都市・地域マネジメント論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の出身地のまちはどうやってできたのかな？現在住んでいるまちはの特徴や課題は何か？などなど、授業で学んだことを身近な地域にあてはめて考えてみてください。

都市、地域、まちづくりに関連する話題、ニュースを常にチェックするようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

都市の成り立ちから、今日の都市計画やまちづくりの仕組み、そして今後の都市や地域のあり方までを広く学べる講義です。地域での活動や実習活動を進めていくうえで参考になると思います。また、将来、自治体やNPO、コンサルタントなどさまざまな分野でまちづくりに携わっていかうと考えている方にもおすすめです。

キーワード /Keywords

都市、地域、マネジメント、子育て、福祉、ユニバーサルデザイン、都市の成り立ち、景観、交通、防災、観光、まちあるき、エリアマネジメント、コンパクトシティ

地域創生論11 (ゲーミフィケーション) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE115M	◎				
科目名	地域創生論11			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域創生には、様々な領域の学問によるアプローチが必要です。この授業では、ゲーミフィケーションを取り上げます。なぜ地域創生にゲーミフィケーションが必要と考えているのか、ゲーミフィケーションとは何か、ゲーミフィケーションを活用する手法について学習します。また、シリアスゲームについても触れていきたいと考えています。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ ケビン・ワーバック、ダン・ハンター、『ウォートン・スクール ゲーミフィケーション集中講義』、阪急コミュニケーションズ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ゲームとは何か
- 3回 ゲーミフィケーションとは何か
- 4回 ゲーム活用のメリット
- 5回 モチベーション(1)【内発的動機づけ】
- 6回 モチベーション(2)【自己決定理論】
- 7回 モチベーション(3)【フロー】
- 8回 中間まとめ
- 9回 ゲームの要素(1)【PBL】
- 10回 ゲームの要素(2)【ダイナミクス】【メカニクス】
- 11回 ゲームシンキング
- 12回 ゲームデザイン
- 13回 ゲーミフィケーションの実践
- 14回 失敗やリスクを避けるには
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題...50%

積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：Moodleの授業資料を読み込んでおくこと

授業後：授業内容を踏まえて、実際の地域や活動で現象を説明すること

履修上の注意 /Remarks

授業への遅刻は厳禁です。時間や締め切りは必ず守ってください。

受講者の学習状況により、内容が若干、変更される場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

座学になりますが、授業を前向きに聴き、高いモチベーションで受講してください。

地域創生論11 (ゲーミフィケーション) 【昼】

キーワード /Keywords

ゲーミフィケーション、シリアスゲーム、モチベーション、地域活性化

地域創生論12 (都市社会学) 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE116M	◎				
科目名	地域創生論12			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、都市における貧困や社会的排除の問題、そしてそうした貧困や社会的排除に抵抗し、社会的に包摂している地域形成のあり方を考えてみたい。これらの問題を実証的に分析し、解決に向けた仕組みを考えていくことは「地域創生」のための基礎的な作業（の一つ）となる。

このような問題意識のもと、この授業では、（１）基礎理論として1920-30年代のシカゴ学派都市社会学と日本の生活構造論について概説したのち、（２）北九州市と福岡市で私たちが行った調査研究を通して生活困窮者の社会的排除のメカニズムと社会的排除に抗する支援のあり方について考えていきたい。

到達目標

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜レジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『生活困窮者への伴走型支援』、奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎著、明石書店、2014年、¥3024
 - 『都市社会学・入門』松本康編著、有斐閣、2014年、¥2160
 - 『よくわかる都市社会学』中筋直哉、五十嵐泰正編著、ミネルヴァ書房、2013年、¥3024
- その他、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のような構成で授業を進める。ただし、順番や内容を変更することもある。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 近代都市と都市社会学の誕生
- 第3回 シカゴ学派都市社会学1 - 【問題意識と分析視角】
- 第4回 シカゴ学派都市社会学2 - 【方法】
- 第5回 シカゴ学派都市社会学3 - 批判と展開1【同心円地帯理論と人間生態学的アプローチをめぐって】
- 第6回 シカゴ学派都市社会学4 - 批判と展開2【ワースの「生活様式としてのアーバニズム」論をめぐって】
- 第7回 シカゴ学派都市社会学5 - 批判と展開3【C.フィッシャーの下位文化理論】
- 第8回 生活構造論と生活様式論1 - 【生活構造、生活様式とは何か】
- 第9回 生活構造論と生活様式論2 - 【生活困窮者支援と生活構造 - 生活様式】
- 第10回 生活困窮の状況と支援のあり方
- 第11回 北九州市におけるホームレス支援
- 第12回 福岡市における高齢生活困窮者支援 - 福岡絆プロジェクト
- 第13回 北九州市における若年生活困窮者への伴走型就労・社会参加支援と参加包摂の地域づくり
- 第14回 子ども・家族まるごと支援
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・80% 課題(小テスト)・・・20% (総合的に判断する。シラバスの到達目標をどの程度達成しているか等も考慮する。)

地域創生論12 (都市社会学) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
授業テーマと関連のある新聞、雑誌などにてできるだけ目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会的排除の仕組みや参加包摂型社会の形成プロセスについて、生活の場から分析する視角を身につけてもらいたい。

キーワード /Keywords

シカゴ学派都市社会学、人間生態学、同心円地帯理論、アーバニズム、生活構造、生活様式、社会移動、社会的排除、社会的包摂、貧困、移民、生活困窮者、伴走型支援、NPO

地域創生論13 (キャリア学概論) 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE117M	◎				
科目名	地域創生論13			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

<目的> 代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、地域創生学群の活動を、自らのキャリア形成に繋がります。

本授業の目的は2つ。

1. 幅広い視野・柔軟性の獲得
2. 失敗を恐れない志向性の獲得

そしてそのプロセスにおいて、学習意欲の喚起やプレゼンテーション能力も獲得します。

<進め方> 形式は問題基盤型学習 (Problem-based-Learning) です。グループ単位で授業を進めます。

【個人課題】動画セッション

あらかじめ視聴する動画を指示しますので、各自以下の2点についてまとめておいてください。

1. 動画から学んだこと、
 2. その学びを学群の実習や演習にどう活かすか？
- 期間は1週間です。

【グループ課題】シナリオセッション

課題に対し、グループで問題解決のストーリーを考え、役割分担をします。

役割は、1. 文献収集、2. 物語を練る、3. パワポ作成、4. 発表練習も含めた管理など。

授業でパワーポイントを使ってプレゼンします。発表は全員で行ってください。期間は2週間です。

【フィールドワーク課題】フィールドワークセッション

最終プレゼンテーションの課題です。学びたいことを決めて、取材先を決め、取材し、

取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。期間は3カ月です。

<目標> 地域創生学群の活動を自らのキャリア形成につなげる理論を学び、それを日々実践することによって、本授業の目的とする2つの力を身に付け、地域創生学群における活動を、自らが輝ける豊かな将来のつなげるようにデザインすること。(到達目標) 【知識】 地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

地域創生論13 (キャリア学概論) 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時に参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやるう!』日本経済新聞出版社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 見美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房
- 本田由紀『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
- J.D.克蘭ボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- 赤尾勝己『生涯学習理論を学ぶ人のために-欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』世界思想社
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 山崎亮『コミュニティデザイン:人がつながるしくみをつくる』学芸出版社
- スブツニ子!『はみだすか』宝島社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会
- 葉田甲太『僕たちはヒーローになれなかった。』あさ出版
- 深作健太『僕たちは世界を変えることができない。but, we wanna build a school in Cambodia』※DVD
- 田中輝美『関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション』木楽舎
- 石山恒貴ほか『地域とゆるくつながろう-サードプレイスと関係人口の時代-』静岡新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-------------|--------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | |
| 2回 | 動画セッション① | ニューノーマル時代の生き方 |
| 3回 | シナリオセッション① | 成人教育学(大人の学び) |
| 4回 | 動画セッション② | グリット(やり抜く力) |
| 5回 | シナリオセッション② | 計画された偶発性 |
| 6回 | 動画セッション③ | AIと人との協働 |
| 7回 | シナリオセッション③ | アイデアの作り方 |
| 8回 | 動画セッション④ | ワークシフト・ライフシフト |
| 9回 | シナリオセッション④ | 関係人口 |
| 10回 | 動画セッション⑤ | 大学生だからできる地域活性化 |
| 11回 | シナリオセッション⑤ | 海外に出ることで身に付く力 |
| 12回 | 動画セッション⑥ | 僕たちは世界を変えることができない。 |
| 13回 | シナリオセッション⑥ | 学群ならではの就職活動 |
| 14回 | 最終プレゼンテーション | : フィールドワークで何を学んだのか? (前半) |
| 15回 | 最終プレゼンテーション | : フィールドワークで何を学んだのか? (後半) |

成績評価の方法 /Assessment Method

動画セッションのプレゼンテーション...33% シナリオセッションのプレゼンテーション...39% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...8%

※最終プレゼンテーションと最終レポートは必須です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【動画セッション】については、事前に指定する動画を閲覧し、ワークシートを仕上げてください。
- 【シナリオセッション】については、事前に提示する課題をもとに、参考文献の収集およびグループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。
- 【フィールドワーク課題】については、フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回目の授業でグループを決めますので、第1回目は必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群の1年生の皆さんは、地域活動でいろいろ悩んでいると思います。本授業ではその悩みを払拭し、地域活動への参加意欲を高め、その経験を将来に繋げることを目的としています。奮ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、地域活動、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

コミュニティスポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS120M	◎				
科目名	コミュニティスポーツ論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。本講義では、スポーツによるコミュニティの創造や形成に視座を置き、現在のスポーツ環境の実態を理解し、今後の展開について検討する。また総合型地域スポーツクラブなどの地域スポーツ振興のための具体的方法を、先進事例を紹介しながら検討し、その意義と成果、問題点等を学習する。

<到達目標>

【知識】コミュニティスポーツ（地域スポーツ）に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 スポーツの歴史と概念
- 3回 スポーツを取り巻く環境理解
- 4回 わが国における地域スポーツの現状
- 5回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割①育成と展開
- 6回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割②事例報告
- 7回 スポーツ組織のマネジメントと事業マーケティング
- 8回 スポーツ事業のプロモーション
- 9回 スポーツイベントがもたらす効果
- 10回 学校部活動と総合型地域スポーツクラブの関係
- 11回 地域におけるスポーツ指導者の役割と現状
- 12回 スポーツ指導に必要なコミュニケーションスキル
- 13回 文化としてのスポーツ
- 14回 スポーツと社会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（レポート・中間テストを含む）・・・70%、期末テスト・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

4分の3以上の出席を必要とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から出席してください。

コミュニティスポーツ論 【昼】

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

地域創生スキル1 (地域調査論) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE200M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

まちづくりや地域の課題解決のために必要とされる地域調査について、フィールドワークや実践を通してその基礎知識や技術を習得する。3つのグループワークを行う予定。グループワーク①は大学内をフィールドとして地域調査の基本中の基本を学ぶ。グループワーク②は、ビッグデータ（RESAS（地域経済分析システム））を利用して地域の課題や特徴を把握する方法を習得する。グループワーク③は、近年まちづくりの分野で話題になっている公共空間の利活用やパブリックライフに着目し、具体的なパブリックライフの調査およびそれをもとにしたまちづくりの方策を検討する。さらに、実際のまちづくりの現場でいかに地域調査が行われ、どのように実際のまちづくりに反映されているのか、民間の実務担当者からお話を伺い、地域調査についての理解を深める。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 今和次郎 (1987) 「考現学入門」ちくま文庫
- 西村幸夫・野澤康編 (2010) 「まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門」朝倉書店
- 日経ビッグデータ編集 (2016) 「RESASの教科書 リーサス・ガイドブック」日経BP社
- ヤングール (2016) 「パブリックライフ学入門」鹿島出版会
- パトリック・ゲデス (2015) 「進化する都市：都市計画運動と市政学への入門」鹿島出版会
- その他、必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・・・オリエンテーション
- 第2回・・・グループワーク1-① グループ分け、テーマ決め、調査方法検討
- 第3回・・・グループワーク1-② 調査
- 第4回・・・グループワーク1-③ 作業 まとめ
- 第5回・・・グループワーク1-④ 発表
- 第6回・・・グループワーク2-① RESASについて、RESASの実践
- 第7回・・・グループワーク2-②
- 第8回・・・地域調査とは、地域調査の必要性、パブリックライフとは
- 第9回・・・外部講師による講義(予定)
- 第10回・・・グループワーク3-① 調査方針の検討
- 第11回・・・グループワーク3-② 調査
- 第12回・・・グループワーク3-③ 調査のまとめ、課題抽出
- 第13回・・・グループワーク3-④ 解決策の検討
- 第14回・・・グループワーク3-⑤ 解決策の検討、まとめ
- 第15回・・・グループワーク3-⑥ 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークの成果物・・・70%、積極性・・・20%、プレゼンテーション・・・10%

地域創生スキル1 (地域調査論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域の特徴、まちの小さな変化などを感じ取れるような観察力を身に着ける。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークの進捗、受講者の希望等により、授業計画、内容を変更する可能性がある。

キーワード /Keywords

地域調査、まちづくり、政策立案、RESAS (地域経済分析システム)、パブリックライフ、考現学

地域創生スキル2 (フィールドワーク論) 【昼】

担当者名 /Instructor 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE201M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本授業は、主として大学生の低学年向けの授業として、プランニングされている。
複数人のチームをつくり、そのチームごと「協同学習」を行い、本学の「課題」を発見し、その課題解決に向けた調査（フィールドワーク）を実施しながら、各チームで効果的な実現可能性の高い提案を立案するPBL型授業である。

座学として、グループ学習法、フィールドワーク法、課題設定の仕方等の基礎的な知識を身につけ、それを実践するなかで、経験学習を積んでもらうプログラムである。実際にフィールドワークをしてもらう事も想定している。

< 到達目標 >

- 【知識】 地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各グループが取り組む課題に適した参考書を適宜、紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 地域創生学群の学びの特徴
- 第3回 協同学習に向けたグループ決め
- 第4回 協同学習① 課題発見編 仮説の立案
- 第5回 協同学習② 情報収集編
- 第6回 協同学習③ フィールドワーク
- 第7回 協同学習④ フィールドワーク
- 第8回 中間成果発表会 他グループへのフィードバック
- 第9回 協同学習⑤ 改善策の模索と提示 より深い探究学習へ
- 第10回 協同学習⑥ フィールドワーク
- 第11回 協同学習⑦ フィールドワーク
- 第12回 協同学習⑧ フィールドワーク
- 第13回 課題解決に向けた具体的対策への提言
- 第14回 課題解決に向けた具体的対策への提言
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

最終成果物に対する出来栄え：40%
課題解決に向けた積極的姿勢と授業への貢献度：30%
グループ内のメンバー間での【他者評価】：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時間内にできなかったことに関しては、【授業時間外に】各グループでフィールドワークや活動をしてもらう事がある。自分で「経験したこと」をしっかりと振り返り、「経験から学びを得る」ことができるように、事後的な振り返り学習を主体的に取り組んでもらう。

地域創生スキル2 (フィールドワーク論) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、受講生同士の「教え合い、学び合い」のスタイルで実施する。
実際に、北九州市立大学が今、抱える課題を抽出し、その課題解決に向けて、具体的にフィールドワークを実施しながら授業を進める。
このような授業スタイルであることを理解した上で、積極的に主体性をもって取り組むことをしなければ、厳しい評価となる事を理解して頂きたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、【授業時間外に】各グループごとに調査等をして頂くことが必須になる。
また、各グループ内で受講生同士の【他者評価】をして頂きますので、それを許容できる方が受講して下さい。

キーワード /Keywords

グループ学習、協同学習、探究学習、課題解決型学習、学内フィールドワーク

地域創生スキル4 (クリエイティブシンキング) 【昼】

専門教育科目
地域創生スキル科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE203M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル4		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

<目的> クリエイティブシンキング (新たな価値を創造するために求められる思考力) を身に付けることを目的とします。背景として、まず、人工知能やAR技術、RPAをはじめとしたテクノロジーの発展により、多くの職業が失われ、新しい仕事や働き方を創出しなくてはならない時代が訪れようとしています。また、現代社会の問題自体が、「与えられたものを解くこと」よりも、「自分で何を解くかを決めて解くこと」が求められています。さらに過去の経験がそのまま応用できないどころか、足かせにもなり得る時代になりつつあり、従来の研修やOJTでは対応できなくなってきています。つまり、地域創生学群における各種活動においては、教員が与えた課題解決ではなく、課題を自ら見出し、新しい何かを生み出すことが求められ、学生個人においても、終身雇用や年功序列といった20世紀の産業をベースとした従来のキャリア教育ではなく、21世紀の変化に対応できるキャリア教育を実施すべき時代になりました。そこで、学問体系としては、経験学習 (デューイ、コルブ、コルトハーヘンなど) の発展系として、近年重視されている「ストレッチ」と「リフレクション」をベースに、人工知能やロボットでは代替できない、クリエイティブシンキング、特に自らが向き合うべき問いを立て、立てた問いによって学ぶ力 (自発的な学びの設計) を身に付ける教育機会を、クリエイティブシンキングを育成する先進企業 (ワークスアプリケーションズ) の研修ノウハウを導入することで実現します。

<進め方>

- 1) アウトプット (ディベート、グループワーク、プレゼンテーション等)
- 2) インプット (座学)
- 3) 次回課題説明 (次回授業までに学生自ら思考を行い、アウトプットの準備を行う)
- 4) 小レポートの提出

<目標>

AIやロボットに代替できない、人間だからこそ可能である、クリエイティブシンキングを徹底的に鍛え、獲得します。この力は地域創生学群の実習や演習のみならず、就職活動、そして卒業後の仕事にも大いにプラスになるでしょう。(到達目標) 【知識】地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。【技能】地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

事前に購入すべき教科書は特にありません。随時、事前課題としてレジユメなどを提示します。また、授業にて鑑賞するDVDやストリーミング映像を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自図書館やネットで情報収集して、課題に取り組んでください。
また、以下書籍を参考にしてください。

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
○ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスクヴァー・トゥエンティワン
○加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
○加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
○香取一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
○金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
○J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
○大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
○スブツニ子!『はみだすカ』宝島社
○早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力: その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
○上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
○安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
○伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
○宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ディベート(ディスカッション)、レポート、プレゼンテーション等、学生のアウトプット主体で行います。
なお、本授業は、株式会社ワークスアプリケーションズの社員にゲストスピーチを合計3回お願いします。
※株式会社ワークスアプリケーションズ
<http://www.worksap.co.jp/>

- 1回 Introduction: なぜクリエイティブシンキングが必要なのか?【ゲスト講演】
- 2回 思考とは何か①(未来を想像する)
- 3回 思考とは何か②()
- 4回 ロジカルシンキング
- 5回 アイデアの作り方
- 6回 問いを立てる力
- 7回 デザイン思考
- 8回 ニューノーマル時代の企業
- 9回 ニューノーマル時代の仕事【ゲスト講演】
- 10回 アニメから考えるAIと人との関係性
- 11回 変る世界1「シンギュラリティ」
- 12回 変る世界2「ディスラプター」
- 13回 求める力1「マインドフルネス」
- 14回 求める力2「グリット」
- 15回 VUCA時代に舵を取る方法【ゲストフィードバック】

成績評価の方法 /Assessment Method

事前課題(49%) + 小レポート(42%) + 最終アウトプット(9%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、レジユメや映像を精読・鑑賞し、場合によってはグループで議論し、発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームにて振り返りを行ってください。最終アウトプットについては最終授業にて課題に対するレポートをプレゼンしていただきます。

履修上の注意 /Remarks

第1回目の授業に出席をして、授業全体を把握してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域の課題において、そして卒業後の企業団体において、今、最も必要とされている力が「クリエイティブシンキング」です。地域の皆様は、たとえ粗削りであっても、大人では思いつかないクリエイティブなアイデアに期待しています。にもかかわらず、指示待ち、先輩がやったことの繰り返しだけでは、その力はどんどん衰えていくでしょう。地域の皆様はもちろん教員や先輩をあとと驚かせるアイデアを生み出す力を、本授業で是非開花させてください。

キーワード /Keywords

クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、創造性、交渉力、企画提案力、AI(人工知能)、AR技術、イノベーション、ラピッド・プロトタイピング、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

キーワード /Keywords

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

地域創生スキル8 (スポーツ・ ボランティア指導論) 【 昼 】

専門教育科目
地域創生スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE212M	○	◎	○		

科目名	地域創生スキル 8	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。
-----	-----------	---

授業の概要 /Course Description

スポーツ活動や身体運動を通して、子供から高齢者まで様々な活動を支援していく。スポーツ教室とスポーツ大会の目的の違いなどを理解すると同時に、スポーツ参加や選考など学生自身がスポーツ種目の企画、立案、実施を通して学んでいく。
例えば、開会式から閉会式までを考え実施していくことや同時に人間的な幅広さをも学んでいく。

(到達目標)

- 【知識】 地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。
- 【技能】 地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。
- 【思考・判断】 地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツボランティアとは
- 2回 スポーツボランティアの目的
- 3回 地域スポーツを考える (1)
- 4回 地域スポーツを考える (2)
- 5回 スポーツイベントの運営 (1)
- 6回 スポーツイベントの運営 (2)
- 7回 スポーツイベントの計画と実践 (1)
- 8回 スポーツイベントの計画と実践 (2)
- 9回 中高年者とスポーツ (実技を含む)
- 10回 中高年者とスポーツ (実技を含む)
- 11回 女性とスポーツ(セクシャルハラスメント等を含む)
- 12回 小学生のスポーツ活動 (実技を含む) 1
- 13回 小学生のスポーツ実践 (実技を含む) 2
- 14回 障がい者スポーツの支援 (1)
- 15回 障がい者スポーツの支援 (実技を含む) 2

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度... 50 %
まとめ ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は各グループにてディスカッションを行います、自分の理解を深めるように復習してください。

履修上の注意 /Remarks

他の学生と議論し実際に新しいスポーツを考えます。
子どもや、年長者、障害を持つ人たちのためにユニークな発想で作り上げましょう。

地域創生スキル8 (スポーツ・ ボランティア指導論) 【 昼 】

専門教育科目
地域創生スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

子ども・ 年長者・ 障がい者・ スポーツ指導

キーワード /Keywords

地域創生スキル9 (地域経営実践論) 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE213M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル9		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、これからの地域創生を図るうえで必要となる、都市経営や公民連携に関する基礎的な知識やフレームワークを学びます。具体的には、(株)プロフェッショナルスクールからご提供いただくeラーニング動画や課題図書を用いた事前学習で、都市経営や公民連携事例をレビューし、その内容に関する自分なりの考えをレポートにまとめ、授業中のディスカッションを通して、自らの考えを深めます。そのうえで、ここで得た学びを実践活動に活かすことを目指しています。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

事前学習用の課題図書として、授業中に指示します。

(2020年度の例)

- ・「熱海の奇跡 - いかにして活気を取り戻したのか」市来広一郎 著
- ・「町の未来をこの手でつくる 紫波町オガールプロジェクト」猪谷千春 著
- ・「九州バカ 世界とつながる地元創生起業論」村岡浩司 著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

(2020年度の例)

- ・「稼ぐまちが地方を変える」「凡人のための地域再生入門」「地方創生大全」木下斉 著

地域創生スキル9 (地域経営実践論) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス+外部講師によるレクチャー
 第2回 事前学習動画の受講準備等
 第3回 導入 (都市経営基礎論)
 1)都市経営課題 2)都市経営資源 3)都市経営ビジョン
 第4回 都市経営・公民連携の基礎編①「都市を運営するのに必要な目線」
 1)何のために都市経営するのか？ 2)お金の流れから考える 3)見えないものに着目した都市・地域経営
 4)お金の沿って考えるセンス
 第5回 都市経営・公民連携の基礎編②「公民連携の要、PPPエージェント」
 1)不動産の本質を知る 2)PPPエージェントとなるにあたって 3)プロセスを知る
 4)やってみなければ絶対にわからない
 第6回 都市経営・公民連携のまとめ、導入 (ミクロ編)
 第7回 ミクロ編① ケーススタディ (熱海) 1
 1)熱海におけるリノベーションまちづくり解説1 (before)
 2)熱海におけるリノベーションまちづくり解説2 (after)
 第8回 ミクロ編② ケーススタディ (熱海) 2
 →事前課題図書「熱海の奇跡-いかにして活気を取り戻したのか」
 第9回 ミクロ編③ ケーススタディ (オガールプロジェクト) 1
 1)PPPエージェントの仕事、オガールプロジェクトの構造 2)オガールプラザの事業スキーム、収支計画 等
 3)オガールベースの事業計画 4)オガールのこれから
 第10回 ミクロ編④ ケーススタディ (オガールプロジェクト) 2
 →事前課題図書「町の未来をこの手でつくる」
 第11回 導入 (マクロ編)
 1)福岡市の近現代から学ぶ都市経営 (マクロ編) 2)福岡市の近現代から学ぶ都市経営 (ミクロ編)
 3)都市圏と公民連携の重要な関係性
 第12回 マクロ編① ケーススタディ (北九州都市圏を考える)
 1)北九州市都市圏を考える 2)九州広域都市圏の中の北九州市を考える 3)都市圏思考の重要性について
 第13回 マクロ編② ケーススタディ (九州アイランド)
 →事前課題図書「九州バカ 世界とつながる地元創生起業論」
 第14回 マクロ編③ ケーススタディ (九州バンクーキ)
 1)九州経済という単位で物事をみななくてはならないという視点とその場合の規模感
 2)海外から戻って見えた九州の可能性 3)九州バンクーキなど可能性を具体的に変える視点
 4)これからの九州経済圏が目指す海外連携
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前課題の取り組み状況：40%
 授業への参加状況：30%
 期末レポート：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、eラーニングを受講し、レポートを提出してもらいます。
 (そのレポートをもとに、授業当日にディスカッションを行うため、レポート未提出の場合、その回の授業には参加できません)
 授業後は、ディスカッションを踏まえて、自分の理解を高めるよう復習し、日常の活動等に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

事前学習が重要です。事前レポート課題未提出の場合、その回の授業には参加できないので、しっかり取り組んでください。
 授業時間中はディスカッションが中心となるので、遅刻することのないようにをつけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、外部のプロの方と連携しながら新しく開講する授業であり、みなさんとともに作り上げていこうと考えています。事前事後学習には時間を要すると思いますが、しっかりやりきる覚悟で受講してください。
 その代わり、得るものも大きいと思います。
 また、ここで学んだことを実践することが重要なので、積極的に日頃の活動に取り入れるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

都市経営、公民連携、フレームワーク

地域創生スキル10 (キャリア形成論) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE214M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル10		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

現代の社会で仕事をするということは、単にマニュアル化されたタスクをこなすのではなく、課題を発見し解決していくような仕事求められています。その手順は以下ようになります。

- ①様々な利害が複雑に絡み合う中で、課題や問題点を正確に把握する。
- ②その課題や問題点を引き起こしている原因を突き止める。
- ③その原因を取り除くために最適な解決策を考える。
- ④解決策を実践する。
- ⑤実践した解決策が効果があったかどうかを振り返り、評価する。

このようなプロセスを踏まない、単なる「思いつき」では課題や問題点が解決されないことが多いのです。この授業では、課題や問題点を正確に把握するための思考法や、解決策を導き出すための手法について学びます。

加えて、これからの社会に求められる「創造的思考」や「デザイン思考」とは何かを理解し、実践できるようになってもらうことも目指していきたいと思えます。

学生の皆さんの中には、何かのイベントを企画したり、多くの人と協働することも多いと思えます。即実践できるようなスキルを身につけていただきたいと思います。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。

【思考・判断・表現力】 地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ロジカルシンキングのノウハウ・ドゥハウ』野口吉昭編 PHP 研究所

『知的複眼思考法』荻谷剛彦著 講談社文庫

『MBAクリティカルシンキング』GMI 著 ダイヤモンド社

『直観と理論をつなぐ思考法』佐宗邦威著 ダイヤモンド社

『デザイン思考が世界を変える』ティム・ブラウン著 早川書房

地域創生スキル10 (キャリア形成論) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 ロジカルシンキング (1) 【論理的思考とは】
- 3回 ロジカルシンキング (2) 【演繹法】
- 4回 ロジカルシンキング (3) 【帰納法】
- 5回 ロジカルシンキング (4) 【ロジックツリー】
- 6回 クリティカルシンキング (1) 【批判的思考概論】
- 7回 クリティカルシンキング (2) 【複眼思考】
- 8回 中間まとめ
- 9回 デザインシンキング (1) 【デザイン思考概論】
- 10回 デザインシンキング (2) 【共感】
- 11回 デザインシンキング (3) 【問題定義】
- 12回 デザインシンキング (4) 【アイデア創造】
- 13回 デザインシンキング (5) 【プロトタイプ】
- 14回 デザインシンキング (6) 【演習】
- 15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業の成果物...20% レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、実習等の日常的なケースで活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

解決策が分からない、どのように課題や問題点を考えていいか分からない、などの自分自身問題を想定して授業に参加してください。グループワークを随所に交えながら進めていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で活用したことは、実習や実際の仕事で使ってみることをお勧めします。そうすることで、知識やノウハウが自分のものになると思います。

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング、演繹法、帰納法、フレームワークシンキング、ロジックツリー、マトリックス、クリティカルシンキング、デザイン思考、クリエイティブ・シンキング

地域創生スキル11 (地域コーディネート論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE215M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル11			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域活動を行う上で必要な視座の一つとして「地域コーディネート」という発想や方法を学びます。まちづくりや地域づくりに取り組む様々な活動の中には、コーディネートという発想が欠かせません。ぎゅくにコーディネートという視点から様々な地域活動を見ていくことで、それらの活動がどのような工夫によって成り立っているのかも分かります。コーディネート (coordinate) とは、一般的に「物事を調整すること」「色や材質などを調和させて組み合わせること」などを意味します。ですが、本講義ではこの「コーディネート」の意味をもう少し単純に、かつ広く考えたいと思っています。

今日、地域や社会の活性化を考えていく上で、一つのやり方で何でもうまくいく、あるいはこれまでと同じやり方ですべてがうまくいくという事はほとんどありません。むしろ、いろいろなやり方を組み合わせてみたり、古い発想と新しい発想を結び付けてみることで、はじめてうまくいくといったことが多くあります。その背景には、私たちが暮らす地域や社会のあり方が、近年、大きな曲がり角にきていることと関係があります。大きな曲がり角にきていることで、これまでは当たり前であったような私たちの考え方や方法が、そのままではだんだんと通用しなくなってきました。その中で試行錯誤しながら生まれているのが、異なる人と人、異なる人とモノを結び付けて、具体的な課題に対応していこうという発想です。従来ならば出会うことがなかったような人と人がつながったり、考えられなかったような人とモノとが組み合わせあって、一つの課題の解決のために力を合わせていくような活動の場面が増えていきます。本講義ではこうした活動場面を「地域コーディネート」という視点から検討することがねらいです。そのことによって、学生一人ひとりが自分たちの地域活動 (実習活動) に活かせるようになることを目指しています。

以上の概要からこの講義での具体的な到達目標は次のとおりです。

- ① 北九州を一つの事例としながら、近年の地域・社会のあり方の曲がり角をマクロな視点から把握することができる
- ② 近年の地域・社会の現状を踏まえつつ、活性化の意味を自分なりに理解することができる。
- ③ その上で、コーディネートの視点から地域活動の工夫や成り立ちを検討することができる。
- ④ 地域と社会の課題を発見し、コーディネートの発想から解決方法を探ることができる
- ⑤ 対話やディスカッションを取り入れることにより、授業での主体性を高め、様々な意見を出し合いながら地域活動に取り組むという姿勢を培う。

(到達目標)

【知識】 地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。

【技能】 地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。

【思考・判断】 地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

地域創生スキル11 (地域コーディネート論) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「地域」における「コーディネート」について (オリエンテーション)
- 第2回 北九州地域の「今」と「これから」 : 地域の活性化とは何か ?
- 第3回 地域における「問題」と「課題」の区別
- 第4回 地域における「無駄なもの」と「貴重な資源」
- 第5回 地域活動での「コーディネート」の意味
- 第6回 コーディネートの事例を検討する① (人と人を結び付ける)
- 第7回 コーディネートの事例を検討する② (人とモノを結び付ける)
- 第8回 コーディネートの事例を検討する③ (課題と課題を結び付ける)
- 第9回 コーディネートの事例を検討する④ (再度・課題と課題を結び付ける)
- 第10回 地域と社会の課題発見①
- 第11回 地域と社会の課題発見②
- 第12回 課題の中の資源の発見
- 第13回 コーディネートの発想をとおして解決策をさぐる①
- 第14回 コーディネートの発想をとおして解決策をさぐる②
- 第15回 地域活動におけるコーディネートの重要性 (まとめ)

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席すること。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ボランティアセンターの 関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. ボランティア活動など身近な地域活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファシリテーション 【昼】

担当者名 原水 敦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE207M		○		◎	
科目名	ファシリテーション		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

私たち人間は、生まれてすぐは「自由」に生きています。おながすいたら泣き、眠れなかったら泣き、母親の存在を感じればほほえみ、眠くなったら寝る...しかし、気づけば私たちは、いつしかその「自由」を手放し、なにかの制約の中で、ときには管理された中で、息苦しく生き続けているのかもしれない。

みなさんは、「自由」でありたい！と思いませんか？

哲学書として有名なルソーの「社会契約論」の中には、その答えは「社会契約」と「一般意志」にあると書いてあります。それはつまり、「みんなが自由に生きるためには、そのみんなのために、みんなで意見を出し合ってみんなで決めることが必要」ということだと思います。そして、そのためには、あらゆる場での対話が必要不可欠であると言えるのではないかと私は考えています。

皆さんの日常にある実習、ゼミ、部活、バイト、ボランティア、インターン...。これらがどれもそれぞれの「自由」が最大限に発揮される場になれば、すばらしい成果をあげられると思いませんか？その「自由」を引き出すための必要なスキルの1つ、それが「ファシリテーション」だと感じています。

正解のない未来を歩む私たちが、多様な仲間たちと共に、それぞれが最大限の力を発揮できる！そんな場をデザインできるようなノウハウを、この授業で持ち帰ってもらいたいと考えています。

ファシリテーションの基礎をインプットすると共に、実践と振り返りを繰り返し、体験の中からファシリテーション力を養っていくような、実践型の学びを中心に授業を進めます。

【ゴール】

- ・実習のミーティングで、全員が参加した感覚を持てるような場づくりができるようになる
- ・日常の中で、「問いのデザイン」を意識できるようになる
- ・ファシリテーションを実践してみたい！と思える状態になる

(到達目標)

【技能】ファシリテーションの技術の基礎を身につけている。

【コミュニケーション力】ファシリテーションの技術を踏まえて、多様な他者とコミュニケーションを取ることができる。

教科書 /Textbooks

教科書は特にありませんが、適宜講義などで資料配布するとともに、参考図書を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『別冊NHK100分de名著 読書の学校 苫野一徳 特別授業「社会契約論」』(苫野一徳 / NHK出版 / 2020年)
- 『問いのデザイン～創造的対話のファシリテーション～』(安斎勇樹・塩瀬隆之 / 学芸出版社 / 2020年)
- 『チーム・ビルディング～人と人を「つなぐ」技法～』(堀公俊・加藤彰・加留部貴行 / 日本経済新聞出版社 / 2007年)
- 『ファシリテーション・ベーシックス～組織のパワーを引き出す技法～』(堀公俊 / 日本経済新聞社 / 2016年)
- 『ワークショップデザイン～知をつむぐ対話の場づくり～』(堀公俊・加藤彰 / 日本経済新聞出版社 / 2008年)

ファシリテーション 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1限 チェックイン ファシリテーションって？
- 2限 ファシリテーションのスキルの3つの条件① 場づくり、チームづくり
- 3限 ファシリテーションのスキルの3つの条件② アクティビティ①
- 4限 ファシリテーションのスキルの3つの条件② アクティビティ②
- 5限 ファシリテーションのスキルの3つの条件③ ファシリテーター①
- 6限 ファシリテーションのスキルの3つの条件③ ファシリテーター②
- 7限 ワークショップデザインについて
- 8限 ワークショップ実践①
- 9限 ワークショップ実践②
- 10限 ワークショップ実践③
- 11限 ワークショップ実践④
- 12限 ワークショップ実践⑤
- 13限 ワークショップ実践⑥
- 14限 まとめ① ワークショップ実践の振り返り
- 15限 まとめ② それぞれの現場で活かすには？

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の性格上、試験は行いません。
代わりに理解度や活用度を判定するために、ワークやレポート等の成果を総合して評価します。
最終的な成績は、授業への取り組み・参加度50%、ワークの成果50%に授業への学習態度などを加味して評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ・ ファシリテーションの理解に有益な参考書籍の読書、インターネット等による情報収集を行うこと。
- ・ 1年次の実習や、これまでの自分自身の経験や体験の振り返りを行うこと。

【事後】

- ・ 授業内容の復習と振り返りを行うこと。
- ・ 授業をふまえて実際にワークショップを現場で実践すること。

履修上の注意 /Remarks

- ※40人を上限とした受講者数調整を行いますので予めご了承ください。
- ※1年次の実習や経験・体験を振り返って自分なりの課題や疑問を整理しておくこと効果的です。
- ※グループワークやペアワークなどを行うため一定の人数や相手がいることが前提で行う授業です。
参加にあたっては遅刻や早退がないように時間への意識を高めておくをお願いします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

車を運転していると、ふとラジオからRADWIMPSの「正解」が流れ始めた。その歌の中には、現代を生きる若者たちの強烈なメッセージが込められていた。そう、答えのある問いなんかには用はないのだ。コロナ禍となって約1年。果たしてわれわれはこんな未来を創造できただろうか？おそらく誰も創造していない。だとすれば、これからの3年・5年・10年後の未来は、いったい誰が正解をもっているのだろうか？
こんな予測不可能な未来を、多様な方々とともに「自由」に生きるために必要なスキルの1つ。それこそがファシリテーションだと感じている。
受講者のみなさんと共に創る1350分を、私も楽しみたいと思います。

キーワード /Keywords

ファシリテーション、チームビルディング、ダイアログ(対話)、ワークショップ、協働(共働)

地域創生特講 1 (観光事業概論) 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE290M	◎				
科目名	地域創生特講 1			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

<目的>
地域創生のアプローチの一つとして、観光事業の基本を学ぶ。具体的には、地域と協働し、多彩な地域資源を活かしながら、近年の観光事業の動向、特にイノベーションで地域課題を解決する各種知見を理解し、学生が現在および将来、北九州市や地元の発展と繁栄、ひいては新たな国際社会の形成に資する本学における学びの方向性を模索する。その成果として、最終プレゼンにて自らがフォーカスする地域の資源を生かした、新しい観光ビジネスプランを提案する。

<進め方>
毎回のテーマに即した時事ニュースや先行事例をネット上の報告書や記事、図書館の文献や論文などをリサーチし、授業の前半に発表し、共有します。そして、登壇者からそのテーマの基本知識や最新事例を学びます。最後に、そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、ヒントを元に、「将来のために今すべきこと」を小レポートにまとめます。

<目標>
様々な観光事業をトリガーにした地域創生のアプローチを理解し、地域創生における自らの活動のアクションプランを策定し、ゼミや卒論、ひいては個人の地域活動への実践へとつなげる。(到達目標)【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて随時お知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 観光とは(歴史と、学ぶ意味)
- 2回 定義・歴史・日本の現状
- 3回 観光対象(資源と施設)・観光地・観光振興
- 4回 運輸機関・宿泊施設・旅行業
- 5回 観光政策と観光行政(日本及び北九州、その他)
- 6回 国際社会(インバウンド、LCC、外国人労働者)
- 7回 地域振興(DMO、地域おこし協力隊)
- 8回 観光資源の保護(世界遺産・観光公害)
- 9回 アルベルゴ・ディフーズ / 分散型ホテル
- 10回 体験型旅行(フットバス、フォトロゲイニング、縁側カフェなど)
- 11回 コンテンツツーリズム(アニメや映画ロケ地など)
- 12回 関係人口をつくる(上勝町、神山町、海士町、東川町など)
- 13回 MaaS / モビリティ・アズ・ア・サービス
- 14回 オンラインツーリズム(スマートツーリズムの一分野)
- 15回 最終プレゼンテーション「我が街を観光事業を活用してどうやって活性化するか？」

地域創生特講 1 (観光事業概論) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終プレゼン...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。最終プレゼンテーションの課題は「我が街を観光事業を活用してどうやって活性化するか？」です。我が街は故郷でなくても構いません。

履修上の注意 /Remarks

第1回目の授業に出席をして、授業全体を把握してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群での実習・演習において、観光学や観光事業に関する知識はどうしても必要になります。また、私は大学教員になる前に、旅行会社で7年半働き、ソニーグループでも旅行サイトの企画運営に携わり、総合旅行業務取扱管理者の資格も持っています。そこで本授業を立ち上げました。地域を活性化するアプローチとして、どういった対象に対し、どういった観光事業を立ち上げ、我が街を活性化させるのか。最新事例と一緒に学びながら、最後にユニークなプレゼンテーションをして頂くことを希望しています。

キーワード /Keywords

観光学、観光政策、ツーリズム、旅行、ホテル、インバウンド、クリエイティブシンキング、創造性、交渉力、企画提案力、地域活性化、地域活動

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

地域創生特講 2 (海外スタディツアー) 【昼】

担当者名 /Instructor 見館・内田

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE291M	◎				
科目名	地域創生特講 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

< 目的 > 地域創生学群2年生の選抜者を対象に、東南アジアの新興国における課題解決型学習を体験することで、従来の先入観を払拭しグローバルな視野を獲得し、多様な視座で試行できる異文化理解力や、不確実な世界に対応できるマインドセットを身に付け、ひいては今後の大学生活、特に日本国内の地域活動への学習意欲を高め、将来のキャリアを描く手掛かりを得ることを目指す。2020年度はコロナ禍で中止、2019年度はカンボジアのオーチュン村を題材にしました。

< 進め方 >
形式は課題解決型学習 (Project-based-Learning) 。グループ単位で、海外現地で用意された課題に取り組みます。

【フィールドワーク】原則4日間、現地にて班ごとに活動します。課題によっては、参考となる施設などをフィールドワーク開始前に視察します。2019年度例：S21 (トゥール・スレン) 博物館、キリングフィールドなど (いずれもブノンベン)

【最終プレゼンテーション】約2時間
課題提供団体に向けて、最終プレゼンテーションを行い、講評をいただきます。2019年度例：課題：オーチュン村の日常生活を題材としたオプショナルツアー企画。課題提供団体：H.I.S. (Cambodia) Travel Co.,Ltd. (H.I.S.ブノンベン支店)

【帰国後のリフレクション】
学内において成果発表会を実施します。また、報告書の作成を行います。

< 目標 > 異文化理解力やマインドセットを獲得し、学習意欲をさらに高め、今後の地域創生学群の学習活動を、主体的・対話的に深く学び、自らが輝ける豊かな将来のつながるようにデザインできるようにする。(到達目標) 【知識】地域創生に関する専門的知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。課題によって各自探してください。

地域創生特講 2 (海外スタディツアー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事前学習①イントロダクション
- 2回 事前学習②受入団体の理解
- 3回 事前学習③フィールドワーク先の基礎知識
- 4回 事前学習④フィールドワークプランの中間発表
- 5回 事前学習⑤フィールドワークプランの最終発表
- 6回 フィールドワーク1日目①
- 7回 フィールドワーク1日目②
- 8回 フィールドワーク2日目①
- 9回 フィールドワーク2日目②
- 10回 フィールドワーク3日目①
- 11回 フィールドワーク3日目②
- 12回 フィールドワーク4日目①
- 13回 フィールドワーク4日目②
- 14回 最終プレゼンテーション
- 15回 帰国後のリフレクション (学内成果発表会・報告書作成)

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習...30% フィールドワーク...30%、最終プレゼンテーション...30% 学内成果発表会と報告書...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習 1 : イントロダクション】講義1.5時間
海外渡航の準備、出発までに準備すること、課題解決の流れ、危機管理などを学びます。班分けも行います。
※課題解決の流れ
①課題を整理し構造化して「真の課題」を明確にする、②仮説 (イシュー) を立てて「解決策」を分析する、③仮説を検証する、④実行する
- 【事前学習 2 : 受入団体の理解】講義1.5時間
フィールドワーク先である受入団体の歴史や現状の課題などを理解します。
- 【事前学習 3 : フィールドワーク先の基礎知識】講義1.5時間
班ごとに課せられた課題について小冊子にまとめ、共有します。
- ※2019年度例 : ①カンボジアの歴史 (特に大虐殺について)、②カンボジアの教育や雇用 (小・中・高・大学の進学率、若年者の就業率など)、③カンボジアの一次産業 (農産物や魚介類など。収穫時期も)、④カンボジアの文化や習慣、伝統工芸、料理など、⑤旅行会社の研究 (現地のオプションツアー)
- 【事前学習 4 : フィールドワークプランの中間発表】講義1.5時間
課題解決のための現地でのフィールドワークプランを発表し、教員および受入団体からフィードバックを頂き、そのプランを改善します。
- 【事前学習 5 : フィールドワークプランの最終発表】講義1.5時間
課題解決のための現地でのフィールドワークプランを発表し、教員および受入団体からフィードバックを頂き、そのプランを確定し、現地到着後すぐに着手できるようにします。

履修上の注意 /Remarks

- ※参加者限定のため、参加希望者が多い場合は、エントリーシートによる書類選考があります。
※コロナ禍もちろん、国際情勢によっては休講となる可能性がありますので、ご注意ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群の皆さんは、地域活動に注力するがゆえに、地域の課題についてグローバルな視点で観る、言わばメタ認知が少し足りません。だからこそ、海外の日常生活の現場に約1週間滞在することで得られる「感情が揺さぶられる体験」は、皆さんの先入観をリセットして視野を広げ、今後の大学生活を豊かにする手掛かりを得るでしょう。本授業に参加して是非「マインドセット」や「異文化理解力」を身に付け、その後の地域創生学群における活動への参加意欲を高め、その経験を将来に繋げてください。

キーワード /Keywords

異文化理解、マインドセット、地域活動、プレゼンテーション、フィールドワーク、課題解決型学習、経験学習
SDGs 4.質の高い教育を SDGs 11.まちづくり

地域創生特講3 (伴走型支援の学びとインターンシップ

専門教育科目
専門科目

1) 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本・稲月

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE292M	◎				

科目名	地域創生特講3
-----	---------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この科目は、北九州市で生活困窮者への自立支援事業に取り組んでいる特定非営利活動法人抱樸との連携による授業です。伴走型支援といわれる支援のあり方を学び、実際に支援の現場でインターンシップに取り組むことを通して、北九州市における生活困窮者の実態、支援のあり方への理解を深めていただきたいと思います。

●ねらい

- (1) 伴走型支援を理解する。
- (2) 生活困窮者への対象理解を深める。
- (3) 支援の実際を体験する。
- (4) NPOにおける地域活動について体験的に理解をする。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

奥田知志(著)、稲月正(著)、垣田裕介(著)、堤圭史郎(著)『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店、2,800円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 講義ガイダンス
2. NPO抱樸の概要説明
3. 北九州市における生活困窮者問題
4. 伴走型支援入門(スキル演習)【伴走型支援】
5. コミュニケーション演習
6. インターンシップ目標設定【目標設定】
7. インターンシップ①
8. インターンシップ②
9. インターンシップ③
10. 中間ふりかえり【リフレクション】
11. インターンシップ⑤
12. インターンシップ⑥
13. インターンシップ⑦
14. インターンシップ⑧
15. まとめ、ワークショップ、特別講義など【学びの言語化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題.....20%、インターンシップでの評価.....50%、期末レポート.....30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に関連して事前課題、事後課題を随時指示しますので、必ず取り組んでください。インターンシップでは実習日誌の作成もしていただきます。単に活動をするだけではなく、活動から学ぶための課題に事前・事後学習として取り組んでいただきます。

1) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

合計24時間以上のNPO抱構でのインターンシップに取り組んでいただきます。日程については受講開始後に抱構と調整をします。地域創生特講 4 (伴走型支援の学びとインターンシップ 2) と連動した科目ですので、できるだけ一緒に履修をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NPO団体による生活困窮者支援について、実際に現場へ出て取り組んでいただきます。NPO職員による講義もあります。教員によるサポートもありますので、自分の見識を広めるためにも多くの方に履修をしていただきたいと考えています。

キーワード /Keywords

伴走型支援、生活困窮者支援、地域福祉、NPO

地域創生特講3 (チャレンジプログラム) 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE292M	◎				
科目名	地域創生特講3		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域創生学群チャレンジプログラムです。

①起業トライアルプログラム
→お膳立てされた大学という環境から離れ、自ら社会課題解決に向けた事業を企画し、9ヶ月間にわたってそれを実施するというプログラムです。お金、人、場所など、あらゆるリソースを自ら集め、事業を構築して実施します。

②リアル就職プログラム
→実際の企業における長期インターンシッププログラムです。言い訳のできない環境に身を置き、即戦力を目指すというものです。休学せずに、週3日前後のフルタイム勤務を5ヶ月間経験します。

(到達目標)
【思考・判断・表現力】特定の課題に対する因果関係の分析をもとに、適切な解決策を見出すことができる
【コミュニケーション力】様々な主体との協働により、組織や社会の活動を推進する力を身につけている
【自立的行動力】地域創生への関心とキャリア意識を持ち続け、主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介しますが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス (目的、概要説明)
第02回～第14回 進捗共有・振り返り・研修 等
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対する成果・・・50%
取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<起業トライアルプログラム>
事前)
→事業や仕事で必要となる書籍を読んで学習しておいてください。
事後)
→活動期間中は、定期的に進捗報告と振り返りを行ってまいります。
→活動期間中や活動後に報告の場を設け、活動の内容と成果について発表をしてもらう予定です。

<リアル就職プログラム>
事前)
→事業や仕事で必要となる書籍を読んで学習しておいてください。
事後)
→期間中、外部コーディネーターによる研修(1ヶ月後研修、ギアチェンジ研修、終了研修)にて、活動の振り返り等を行う予定です。
→活動期間中や活動後に報告の場を設け、活動の内容と成果について発表をしてもらう予定です。

地域創生特講3 (チャレンジプログラム) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

履修するには必ずゼミ担当教員の許可を得るようにしてください。
そのうえで、ゼミ活動との両立を図ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本気でぶつかり、挫折や失敗を乗り越え、やり抜くことで大きく成長できる点こそが、一番の魅力です。
チャレプロには2つのメニュー(起業トライアル、リアル就職)があります。前者は自分が考えた事業をオウンリスクで約1年間続けるというもの、後者は週3日のインターンシップに5ヶ月間従事するというものです。どちらも、お膳立てがない環境での実践となるため、たくさんの挫折や失敗に直面し、そのたびに徹底的に自分と向き合うこととなりますが、そのことを通じて、何ものにも代えがたい自分軸を見つけることができます。僕は、この挑戦を通じて学生の皆さんが「ぐんっ!」と成長した姿をそばで見られることに喜びを感じています。

キーワード /Keywords

起業 / 長期インターンシップ

地域創生特講 4 (伴走型支援の学びとインターンシップ 2) 【昼】

専門教育科目
専門科目

担当者名 /Instructor 坂本・稲月

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE293M	◎				
科目名	地域創生特講 4		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この科目は、北九州市で生活困窮者への自立支援事業に取り組んでいる特定非営利活動法人抱樸との連携による授業です。伴走型支援といわれる支援のあり方を学び、実際に支援の現場でインターンシップに取り組むことを通して、北九州市における生活困窮者の実態、支援のあり方への理解を深めていただきたいと思います。

●ねらい

- (1) 伴走型支援を理解する。
- (2) 生活困窮者への対象理解を深める。
- (3) 支援の実験を体験する。
- (4) NPOにおける地域活動について体験的に理解をする。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

奥田知志(著)、稲月正(著)、垣田裕介(著)、堤圭史郎(著)『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店、2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 講義ガイダンス
2. 伴走型支援入門(スキル演習)【伴走型支援】
3. インターンシップ目標設定【目標設定】
4. インターンシップ①
5. インターンシップ②
6. インターンシップ③
7. インターンシップ④
8. 中間ふりかえり【リフレクション】
9. 特別講義(外部講師招聘など)【生活困窮者への支援】
10. インターンシップ⑤
11. インターンシップ⑥
12. インターンシップ⑦
13. インターンシップ⑧
14. ふりかえり【リフレクション】
15. まとめ、ワークショップ、特別講義など【学びの言語化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題.....20%、インターンシップでの評価.....50%、期末レポート.....30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に関連して事前課題、事後課題を随時指示しますので、必ず取り組んでください。インターンシップでは実習日誌の作成もしていただきます。単に活動をするだけではなく、活動から学ぶための課題に事前・事後学習として取り組んでいただきます。

地域創生特講 4 (伴走型支援の学びとインターンシップ 2) 【昼】

専門教育科目
専門科目

履修上の注意 /Remarks

合計32時間以上のNPO抱構でのインターンシップに取り組んでいただきます。日程については受講開始後に抱構と調整をします。地域創生特講3(伴走型支援の学びとインターンシップ1)と連動した科目ですので、できるだけ一緒に履修をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NPO団体による生活困窮者支援について、実際に現場へ出て取り組んでいただきます。NPO職員による講義もあります。教員によるサポートもありますので、自分の見識を広めるためにも多くの方に履修をしていただきたいと思います。

キーワード /Keywords

伴走型支援、生活困窮者支援、地域福祉、NPO

地域創生特講 4 (チャレンジプログラム) 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE293M	◎				
科目名	地域創生特講 4		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域創生学群チャレンジプログラムです。
 ①起業トライアルプログラム
 →お膳立てされた大学という環境から離れ、自ら社会課題解決に向けた事業を企画し、9ヶ月間にわたってそれを実施するというプログラムです。お金、人、場所など、あらゆるリソースを自ら集め、事業を構築して実施します。
 ②リアル就職プログラム
 →実際の企業における長期インターンシッププログラムです。言い訳のできない環境に身を置き、即戦力を目指すというものです。休学せずに、週3日前後のフルタイム勤務を5ヶ月間経験します。
 (到達目標)
 【思考・判断・表現力】特定の課題に対する因果関係の分析をもとに、適切な解決策を見出すことができる
 【コミュニケーション力】様々な主体との協働により、組織や社会の活動を推進する力を身につけている
 【自立的行動力】地域創生への関心とキャリア意識を持ち続け、主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介しますが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス (目的、概要説明)
 第02回～第14回 進捗共有・振り返り・研修 等
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対する成果・・・50%
 取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

< 起業トライアルプログラム >
 事前)
 →事業や仕事で必要となる書籍を読んで学習しておいてください。
 事後)
 →活動期間中は、定期的に進捗報告と振り返りを行ってまいります。
 →活動期間中や活動後に報告の場を設け、活動の内容と成果について発表をしてもらう予定です。

 < リアル就職プログラム >
 事前)
 →事業や仕事で必要となる書籍を読んで学習しておいてください。
 事後)
 →期間中、外部コーディネーターによる研修 (1ヶ月後研修、ギアチェンジ研修、終了研修) にて、活動の振り返り等を行う予定です。
 →活動期間中や活動後に報告の場を設け、活動の内容と成果について発表をしてもらう予定です。

地域創生特講 4 (チャレンジプログラム) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

履修するには必ずゼミ担当教員の許可を得るようにしてください。
そのうえで、ゼミ活動との両立を図ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本気でぶつかり、挫折や失敗を乗り越え、やり抜くことで大きく成長できる点こそが、一番の魅力です。
チャレプロには2つのメニュー(起業トライアル、リアル就職)があります。前者は自分が考えた事業をオウンリスクで約1年間続けるというもの、後者は週3日のインターンシップに5ヶ月間従事するというものです。どちらも、お膳立てがない環境での実践となるため、たくさんの挫折や失敗に直面し、そのたびに徹底的に自分と向き合うこととなりますが、そのことを通じて、何ものにも代えがたい自分軸を見つけることができます。僕は、この挑戦を通じて学生の皆さんが「ぐんっ!」と成長した姿をそばで見られることに喜びを感じています。

キーワード /Keywords

起業 / 長期インターンシップ

障害者スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS121M	◎	○	△		
科目名	障害者スポーツ指導論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツは、最近ようやく社会に認められハンディキャップを持つ人々の意識も高まりスポーツやレクリエーションを通して社会参加することができるようになってきたが、反面それらを支える支援者の数が不足しているのも事実である。本講義では「障害とは何か」、「様々な障害状況に対しどのようにアプローチすればいいのか」などを考えその意義や指導論を学習していく。さらにこの講義では、障害者スポーツの現場で活用できる内容を重点的に取り入れ自分の考える課題や他者との意見交換を行い発表するという体験的要素を導入する。

(到達目標)

【知識】 障がい者スポーツに関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 障がい者スポーツの技術の基礎を身につけている。

【思考・判断・表現力】 障がい者スポーツについて試行して解決策を探求し、専門的な見地から、意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 障害者スポーツセンターの役割
- 3 障害者スポーツの意義と理念
- 4 障害者スポーツの発展の歴史
- 5 障害者福祉施策の具体的恩恵
- 6 障害者スポーツ指導者制度
- 7 障害状況に応じた車いすの種類
- 8 常用車いすの介助・体験
- 9 肢体障害とスポーツ 脊髄損傷・頸椎損傷
- 10 肢体障害とスポーツ 脳血管障害
- 11 肢体障害とスポーツ 脳性麻痺・切断
- 12 視覚・聴覚障害とスポーツ
- 13 知的障害とスポーツ
- 14 知的・精神障害とスポーツ
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・ 60% 試験・・・ 30% レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回配布する資料をよく読み込んでおくこと。

障害者スポーツ指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

各回配布する資料をよく読み込んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒にいる行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。
国際大会などの情報を知りたいければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

障害者スポーツ各論【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS220M	◎	○	△		
科目名	障害者スポーツ各論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツ指導員とは、障害者が身体を鍛えたり、スポーツやレクリエーションを楽しむ支援を行ったりするために、障害に応じた適切な指導をすることができる専門家である。本講義では、障害者スポーツ指導員に必要な各論について論じる。特に全国障害者スポーツ大会の概要や競技規則、競技種目や障害状況によって判定される障害区分、競技に使用される用具と基礎知識など幅広く学習する。

(到達目標)

【知識】障がい者スポーツに関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】障がい者スポーツの技術の基礎を身につけている。

【思考・判断・表現力】障がい者スポーツについて試行して解決策を探求し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 肢体不自由
- 3 視覚障害・聴覚障害
- 4 内部障害
- 5 知的・発達障害
- 6 知的障害
- 7 精神障害
- 8 障害者スポーツ特有の用器具
- 9 補装具の理解 構造とメンテナンス
- 10 全国障害者スポーツ大会の概要 歴史と目的
- 11 全国障害者スポーツ大会 選手団とコーチのあり方
- 12 全国障害者スポーツ大会 競技内容と障害区分
- 13 トップアスリートの大会パラリンピックとは
- 14 世界の動向と日本の立場 今後の国際大会
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・ 60% 試験・・・ 30% レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に配布する資料をよく読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

各回に配布する資料をよく読み込んでおくこと。

応用的内容が多いため、基礎的内容を扱う「障害者スポーツ指導論」を受講済みであることが望ましい。

障害者スポーツ各論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒に実施している行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。
国際大会などの情報など知りたければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

精神保健の課題と支援【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 浩介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW330M	◎	○	△		
科目名	精神保健の課題と支援		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

精神保健について、以下の視点から総合的に学習する。

- 1 精神保健の基礎知識について
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について
- 3 精神の健康と疾患について
- 4 精神保健の現状と課題について
- 5 諸外国の精神保健活動の現状と対策について

精神保健の課題と支援に関する専門的な知識を習得すると共に、人々の精神的な課題に関心を寄せ、福祉的な視点から支援や対策を考える。

(到達目標)

【知識】精神障害のある人々への福祉的関わりに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】精神障害のある人々へ支援を行うために必要な技術を身につけている。

【思考・判断・表現力】精神障害者の抱える福祉的課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援』中央法規 ￥2,916

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜レジュメを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 精神保健に関する基本的理解
- 第2回 ライフサイクルにおける精神保健(1) 幼児期・学童期・思春期
- 第3回 ライフサイクルにおける精神保健(2) 青年期・成人期・老年期
- 第4回 精神疾患に由来する障害
- 第5回 精神保健の課題と現状(1) 発達障害
- 第6回 精神保健の課題と現状(2) アルコールやギャンブルなどの依存に関する問題
- 第7回 精神保健の課題と現状(3) うつ病と過労自殺
- 第8回 精神保健の課題と現状(4) 認知症
- 第9回 精神保健の課題と現状(5) 社会的ひきこもり
- 第10回 家族における精神保健対策
- 第11回 学校における精神保健対策
- 第12回 職場における精神保健対策
- 第13回 地域精神保健活動に関する諸活動
- 第14回 諸外国の精神保健活動の現状および対策
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・80%
 日常の授業への取り組み・・・10%
 課題レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)。

精神保健の課題と支援【昼】

履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスの問題に関心のある学生はぜひ履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

精神保健に関する知識やその課題に対する支援の在り方などを、授業を通して勉強していきます。少々難易度の高い授業になるので集中して授業に望んでください。

キーワード /Keywords

地域経済【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN232M	◎		○		○
科目名	地域経済		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。
 経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。
 加えて日本は、人口減少社会に突入している。
 大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。
 本講義では主に以下の4つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。
4. 人口減少社会を迎えた日本のポスト・コロナ期の地域経済について考察する。

(到達目標)

- 【知識】 地域経済に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 地域経済が抱える諸問題について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
- 【自立的行動力】 地域経済が抱える諸問題への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
 その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】【経済地理学】【地域政策】
- 3回 経済発展と地域構造【産業構造】
- 4回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 5回 工業化の進展②【高加工度化】
- 6回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 7回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 8回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 9回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 10回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 11回 工業地帯から大都市へ【太平洋ベルト地帯】【東京一極集中】
- 12回 一体型国土構造の盛衰【一体型国土構造】
- 13回 人口動態と地域経済【生産年齢人口】【デフレの正体】
- 14回 ポスト・コロナ時代の地域経済(「地域経済II」にむけて)【新型コロナナ】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

地域経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済特講 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN233M	◎		○		○
科目名	地域経済特講			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

今日われわれの経済システムは大きな変化に見舞われている。その影響を受け、我々の生活も、またその生活の場である地域経済も大きな変化を強いられている。本講義は「技術革新と経済システム」の関係づけがベースとなっている。

具体的には

「コンピュータ・ネットワーク (CN) が経済を変え、ひいては私たちの生活の場である地域経済を変える」ということを学ぶ。

「従来は情報は人が運んでいたが、今日ではCNが運んでおり、人が運ぶのは専らウイルスであった」とった話。

(到達目標)

【知識】 地域経済に関する専門的かつ応用的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 地域経済が抱える諸問題について総合的に思考して、解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【自立的行動力】 地域経済が抱える諸問題への関心とキャリア意識を持ち続け、望ましい社会の構築に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コロナ禍で何が変っているのか (講義の概要)
- 2回 資本主義が終わるって言われても【資本主義】
- 3回 人工知能で仕事がなくなる?【AI】【IoT】
- 4回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 5回 ちょっと面倒な情報社会論批判【情報とは何か】
- 6回 技術革新と経済発展【技術論】
- 7回 インターネットの衝撃【CN(コンピュータ・ネットワーク)】
- 8回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 9回 市場の世界化①【金融市場】【物財市場】
- 10回 市場の世界化②【労働市場】
- 11回 CNと都市【産業集積】
- 12回 ウイルスもまた人が運ぶ【新型コロナウイルス】
- 13回 イノベーションとクリエイション【イノベーション】【クリエイション】
- 14回 地域経済の行方【セルフ・プロモーション】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

地域経済特講 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

「地域経済I」、「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州経済分析【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN235M	◎		○		○
科目名	北九州経済分析			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

1～5回は、北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、着目すべき企業や経営者について解説し、北九州市の特徴について考察を加えます。6～9回は、北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業の動向を踏まえながら、企業戦略、産業動向・業態変化などのダイナミズムについて考察します。10～14回は、都市としての北九州市の変容過程を説明するとともに、小倉などの中心市街地や東田開発などの地域開発について具体的に考察します。そして、15回は1～14回を総括する形で、北九州市の特徴を考察し、今後について展望します。よって、受講生には日常的に北九州市の経済社会や地元の企業の動向に興味を持って授業に望んで欲しいと思います。

DPに基づく到達目標

《豊かな知識》
北九州の歴史や産業、経済動向について豊富な知識を蓄える
《次代を切り開く「思考・判断・表現力」》
北九州という地域の歴史や経済事情を踏まえて、これから未来をロジカルに展望できる
《社会で生きる「自立的行動力」》
北九州の産業経済の中で自立的な行動を促す実践的な知識を蓄える

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』(2010年10月)
九州経済調査協会編『図説 九州経済2021』(2020年10月)
北村亘『政令指定都市』(2013年7月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
- 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【企業城下町】、【鉄鋼業】、【軍都】
- 3回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
- 4回 北九州市の誕生【5市合併】、【政令指定都市】、【傾斜生産方式】
- 5回 都心の変容とサービス経済化【第三次産業】、【サービス業】、【中心市街地】
- 6回 コロナ禍のサービス業と門司港レトロ【サービス業】、【観光業】、【サービス経済化】
- 7回 戦後の北九州の製造業【モノづくり】、【工業構造高度化】、【サービス経済化】
- 8回 1990年代以降の北九州市と福岡市【政令指定都市】、【人口動向】、【サービス経済化】
- 9回 再都市化とジェントリフィケーション【都心変容】、【ジェントリフィケーション】
- 10回 小倉における中心市街地の変容【商店街】、【繁華街】、【飲食業】、【安全・安心】
- 11回 副都心・黒崎の変容と今後【中心市街地】、【商店街】、【飲食業】、【企業城下町】
- 12回 東田開発とスペースワールド跡地問題【テーマパーク】、【科学館】、【アウトレット】
- 13回 課題解決先進都市としての北九州市の今後【人口予測】、【既に起こった未来】、【長寿化】
- 14回 北九州市の企業の実力【地場企業】、【注目企業】、【成長企業】
- 15回 総括～北九州の特徴と今後の展望～

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小テスト70% 期末レポート30%

北九州経済分析【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業終了後に速やかに、講義で活用したパワーポイントや資料、さらには参考文献などを moodle にアップしますので、各自きちんと振り返りを行なってください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。なお、本講義は遠隔を前提に想定しています。よって、第1回目を除き、毎回、小テストを課す予定です。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、少子化、長寿化、地域企業、グループ経営、業態変化、中心市街地、繁華街

地域政策【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN234M	◎		○		○
科目名	地域政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で全国的な視点からの地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

DPに基づく到達目標

《豊かな「知識」》
地域政策に関するニュースや文書を読んで理解することができる。
《時代を切り開く「思考・判断・表現力」》
地域課題に対する対策と地域のビジョンを提案することができる
《社会で生きる「自立的行動力」》
地域課題や政策を自分自身の生活と関連づけて説明することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。
配布プリントをもとに授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○本間義人『国土計画を考える』中公新書、1999年。
山崎亮『縮充する日本』PHP新書、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のランドデザインと国土形成計画について
- 8回 人口減少のインパクトと地方創生政策
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの
- 10回 新産業育成と地域政策
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 交流人口、関係人口と移住政策
- 13回 地域問題解決の新たな手法
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート（20％）と期末テスト（80％）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、1）講義後に配布プリントを見直し重要なポイントを3つにまとめること、2）事前課題がある場合には準備をして講義に臨むことを心がけてください。

地域政策【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業の一部には、学生が主体的に参加するワークショップ形式の内容を含みます。積極的に発言してください。
なお、新型コロナの状況によっては、ワークショップ形式は実施できない場合があります。また、遠隔授業になった場合には、シラバス掲載内容を一部変更する場合があります。変更についてはmoodleに掲載します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、地域間格差、新たな公共、地域経営

財政学 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN320M	◎	○	○		
科目名	財政学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政の問題に関して経済学的視点から議論します。内容としては財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。この3つの政府の役割と政策の在り方について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることを目標とします。用いる経済理論はミクロ経済学やマクロ経済学の基本的なモデルの応用です。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジュメにベースに基本的な内容から説明していきます。

(到達目標)

【知識】 財政に関して専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 財政問題の基礎的な分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 1 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。

事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

財政学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学特講【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN321M	◎	○	○		
科目名	財政学特講				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学的視点から議論します。この講義の到達目標は①景気安定化政策、②政府債務の問題、③少子高齢化と公的年金制度の問題について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることです。

（到達目標）

【知識】現代の主要な財政問題に関して専門的な知識を体系的に身につけている。

【技能】現代の主要な財政問題の分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編 N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- マクロ経済学 二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 公共経済学 林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN : マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果 : 公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル 財・サービス市場の均衡 / 貨幣市場の均衡
- 5 財政政策と金融政策 (IS-LM分析からのインプリケーション)
- 6 財政政策の効果とその有効性① (政策ラグや政策当局の政策運営の観点から)
- 7 長期の経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期の経済モデル②企業行動 / 金融市場 / 資本蓄積
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題について)
- 10 財政赤字/累積国債残高の問題点
- 11 財政の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで評価します。評価割合100%

財政学特講 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

簿記論 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 慎一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC110M	◎	○	○		
科目名	簿記論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

簿記とは、一般に、ある経済主体の経済活動および経済事象を貨幣額をもって帳簿に記録し、情報利用者が利用可能となるように集計する技術である。本講義では、企業会計において採用されている複式簿記を取り扱う。

皆さんのうち大部分が、将来、企業に就職したり企業を相手に取引をするようになるだろう。その際に、企業がもうかっているのかどうか（経営成績）や企業が倒産しないかどうか（財政状態）について判断ができなかったらどうなるだろうか。就職先の企業の業績悪化によって給与が下がったり、倒産によって職を失ったりするかもしれない。また、商品を販売した相手先の企業から、商品代金が回収できなくなってしまうかもしれない。このような事態をできるかぎり回避するためには、会計の知識が不可欠であるが、その会計の知識の基本中の基本が複式簿記や複式簿記から作成される財務諸表（企業の決算書。貸借対照表や損益計算書など）に関する知識である。したがって複式簿記に関する知識は、誰もが現代社会において生活していくうえで必要不可欠な知識であるといえよう。

複式簿記は専門的技術であるため、身につけるためには多少の訓練を要する。本講義では、すべての学生が複式簿記を修得できるように、できるだけわかりやすく説明をするとともに、問題演習にも取り組んでいくことにしたい。

（到達目標）

【知識】複式簿記に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】複式簿記に基づき財務諸表を作成するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】複式簿記に基づく財務諸表の作成について、論理的に思考して作成方法を検討し、迅速かつ正確に財務諸表を作成することができる。

教科書 /Textbooks

渡辺裕亘・片山 寛・北村敬子編著「検定簿記講義3級商業簿記 令和3年度版」中央経済社 / ISBN未定

渡辺裕亘・片山 寛・北村敬子編著「検定簿記ワークブック3級商業簿記 令和3年度版」中央経済社 / ISBN未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

広瀬義州『財務会計』第13版 中央経済社 / ISBN978-4502163418

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス / 簿記の意義
- 2 貸借対照表と損益計算書
- 3 帳簿の記入方法 (1) 取引の意義、取引の分解
- 4 帳簿の記入方法 (2) 仕訳帳への記入
- 5 帳簿の記入方法 (3) 元帳への記入
- 6 試算表の作成 / 決算手続 (1) 決算予備手続
- 7 決算手続 (2) 決算本手続
- 8 中間テストと解説
- 9 現金・預金
- 10 商品売買
- 11 債権債務と手形
- 12 有形固定資産
- 13 貸倒れ
- 14 収益と費用
- 15 決算手続 (3) 8桁精算表の作成と財務諸表の作成

簿記論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験および授業中に実施される中間テストの結果により評価する。定期試験70%、中間テスト30%の割合で評点を算出する。基礎的な簿記に関する総合問題（具体的には、日商簿記検定3級程度の問題）を、迅速かつ正確に解くことができるかどうかを単位認定の判断基準とする。なお、10回程度提出してもらった課題の提出状況が良好な者には、若干の加点を行うことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上述のように、簿記は「技術」である。技術をマスターするためには、その方法を理解するだけでなく、それが体にしみつくまで練習することが必要である。したがって、講義中にもできるだけ多くの練習問題を解いてもらうつもりであるが、それにくわえて自宅での復習および問題演習を必ず行ってほしい。（50分程度。ただし、定期試験や2回実施される中間テストのためには、それに加えて各4時間程度の学習が必要になる。）

履修上の注意 /Remarks

簿記の学習は積み重ねの要素が強く、欠席するとその後の理解が困難になるので、必ず出席してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

帳簿 決算 経営成績 財政状態 財務諸表 貸借対照表 損益計算書

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH100M	◎	○	○		
科目名	数学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。
 1, 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
 2, 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

(到達目標)

- 【知識】 経済学部で使う数学に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
- 【技能】 微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 数理的な観点で、経済の問題を論理的に考察することができる。

教科書 /Textbooks

池辺 信範・水谷 裕・厚山 健次・松本 好史 (共著) 『新しい微分積分』 (培風館)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：関数とグラフ	【極限】，【連続関数】
第2回：関数と微分	【接線】，【導関数】
第3回：指数関数と対数関数(1)	【指数関数のグラフ】
第4回：指数関数と対数関数(2)	【逆関数】，【対数関数のグラフ】
第5回：導関数(1)	【n次関数の微分】
第6回：導関数(2)	【指数関数の微分】，【対数関数の微分】
第7回：微分(1)	【関数の和・差の微分】
第8回：微分(2)	【関数の積・商の微分】
第9回：微分法(1)	【合成関数の微分】，【対数微分法】
第10回：微分法(2)	【関数の増減】，【関数の凹凸】
第11回：不定積分(1)	【n次関数不定積分】
第12回：不定積分(2)	【指数関数・対数関数の不定積分】
第13回：定積分(1)	【n次関数の定積分】
第14回：定積分(2)	【指数関数・対数関数の定積分】
第15回：まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート課題・・・30%
 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、授業内容の予習と復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

数学【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

(到達目標)

【知識】

プログラミングにおける、基本的な文法、構造を理解している。

【技能】

プログラミング言語を用い意図した動作をするプログラムを作成できる。

【思考・判断・表現力】

基本的なプログラミングの構造を組み合わせ、計算アルゴリズムを思考することができる。

教科書 /Textbooks

毎回資料(ファイル)を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行机著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

情報科学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

(到達目標)

【知識】

プログラミングにおける、基本的な文法、構造を理解している。

【技能】

プログラミング言語を用い意図した動作をするプログラムを作成できる。

【思考・判断・表現力】

基本的なプログラミングの構造を組み合わせ、計算アルゴリズムを思考することができる。

教科書 /Textbooks

毎回資料(ファイル)を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行机著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

情報科学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

(到達目標)

【知識】

プログラミングにおける、基本的な文法、構造を理解している。

【技能】

プログラミング言語を用い意図した動作をするプログラムを作成できる。

【思考・判断・表現力】

基本的なプログラミングの構造を組み合わせ、計算アルゴリズムを思考することができる。

教科書 /Textbooks

毎回資料(ファイル)を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行机著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

情報科学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では2年1学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はプログラミング言語Pythonを用いたプログラミング法、データの読み書きと基本的な集計法などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

(到達目標)

【知識】

プログラミングにおける、基本的な文法、構造を理解している。

【技能】

プログラミング言語を用い意図した動作をするプログラムを作成できる。

【思考・判断・表現力】

基本的なプログラミングの構造を組み合わせ、計算アルゴリズムを思考することができる。

教科書 /Textbooks

毎回資料(ファイル)を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辻真吾著「Pythonスタートブック [増補改訂版]」技術評論社
クジラ飛行机著「実践力を身につける Pythonの教科書」マイナビ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。(受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス【情報科学】とは
- 第2回 プログラム手順の考え方【フローチャート】【Flowgorithm】
- 第3回 プログラミング入門。【Python】の起動と文字の表示【文字コード】
- 第4回 【変数】、【型】と代入
- 第5回 Pythonでの四則演算、【順次構造】のフローチャートとプログラム
- 第6回 【分岐構造】のフローチャートとプログラム
- 第7回 【Microsoft Excel】でデータを見る
- 第8回 【numpy】入門。Excelで作成したファイルの読み込み
- 第9回 【配列】の扱い方
- 第10回 【反復構造】のフローチャートとプログラム
- 第11回 【フローチャート】とプログラムの読み取り
- 第12回 【平均値】、【最大値】、【最小値】の計算
- 第13回 応用プログラミング
- 第14回 プログラミング実習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み40%、期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

情報科学入門 【昼】

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1GB(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2GB(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS100M	◎	○	○		
科目名	経営学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では経営学全体をわかりやすくかみ砕いて説明することを目的としています。初学者向けの授業です。したがって、各テーマの内容を深く追求するということはありません。

みなさんには、この授業をきっかけに「自分は経営学で語られる事象の中のどういうことに関心があるのか」ということを考えていただければと思います。そうするためには、授業で語られる内容に対して、「本当にそうか?」、「なぜ、そう論じられてしまうのか」といった疑問を常に持つように心掛けていただければと思います。あるいは、これまでの人生で抱えてきた企業や、組織（例えば、学校や学校内の部活、学内のクラスなど）に対する疑問などを、経営学で翻訳するとどうなるのか、といったことを考えながら授業を受けるのも有効かもしれません。この授業をきっかけに、以降のキャンパスライフをより有意義なものにさせていただけたらと思います。

(到達目標)

【知識】経営の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を身につけている。

【技能】実際の組織を動かし、経営するための基礎的なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】経営に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

上林憲雄, 他 (2018) 『経験から学ぶ経営学入門 [第2版]』有斐閣ブックス。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

経営学入門【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回〈経営学入門〉会社の経営とはどんなことか
初めに授業全体の進め方や評価の仕方等を確認します。その後、さっそく授業に入っていきます。内容は教科書の第1章です。
- 第2回〈組織行動論〉社員はなぜ働くのか
内容は教科書第9章です。
- 第3回〈企業論〉会社はどのようにして社会に役立っているのか
内容は教科書第2章です。
- 第4回〈企業形態論・企業統治論〉会社は誰が動かしているのか
内容は教科書第3章です。
- 第5回〈経営戦略論〉会社はどのような方針で動いているのか
内容は教科書第4章です。
- 第6回〈経営管理論・経営組織論〉会社はどんな仕組みで動いているのか
内容は教科書第5章です。
- 第7回〈企業間関係論〉会社は他の会社とどのように協力しているのか
内容は教科書第6章です。
- 第8回〈生産管理論・技術管理論〉会社はどのようにしてモノを造るのか
内容は教科書第7章です。
- 第9回〈経営管理論・経営組織論〉社員は仕事をどのように分担しているのか
内容は教科書第8章です。
- 第10回〈人的資源管理論〉社員はなぜ組織にとどまろうとするのか
内容は教科書第10章です。
- 第11回〈人的資源管理論〉社員はどのような報酬を求めるのか
内容は教科書第11章です。
- 第12回〈人的資源管理論〉社員はどのようにして育てられるのか
内容は教科書第12章です。
- 第13回〈マーケティング論〉会社はどのようにして商品を提供するのか
内容は教科書第13章です。
- 第14回〈国際経営論〉会社は海外でどのようにして経営しているのか
内容は教科書第14章です。
- 第15回〈財務管理論・会計学〉会社の利益はどのようにして測定するのか
内容は教科書第15章です。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%。
60点以上の者に単位を与える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・事前学習
各回で対象となっている教科書の章を予め読んでおくとよいでしょう。
- ・事後学習
授業で配布したPowerPoint資料を中心に復習するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実は、私自身は企業で働いた経験はないです。そうした私がなぜ経営学を学ぶようになったかといえば、それは高校生や浪人生時代に抱いた集団に対する疑問や、大学学部生時代に抱いた働くことに対する疑問がきっかけだったりします。それは例えば「なぜ、ある集団は特定の価値観を押しつけてくるのだろう」や「働くことをポジティブに捉えないといけないような空気感がどこから生まれるのだろう」といったものです。この授業で教える内容が、例に出したこれらの疑問にちゃんと答えてくれるのかといえば、そういうわけではないですが、自身のもやもやとした疑問を学問を通じて論理的に理解できるというのはなかなか面白いです。あくまでも入門編であるこの授業では消化不良を起こすかもしれませんが、「経営学入門」をきっかけに経営学の面白さを感じていただければと思います。

キーワード /Keywords

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS100M	◎	○	○		
科目名	経営学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では経営学全体をわかりやすくかみ砕いて説明することを目的としています。初学者向けの授業です。したがって、各テーマの内容を深く追求するということはありません。

みなさんには、この授業をきっかけに「自分は経営学で語られる事象の中のどういうことに関心があるのか」ということを考えていただければと思います。そうするためには、授業で語られる内容に対して、「本当にそうか?」、「なぜ、そう論じられてしまうのか」といった疑問を常に持つように心掛けていただければと思います。あるいは、これまでの人生で抱えてきた企業や、組織（例えば、学校や学校内の部活、学内のクラスなど）に対する疑問などを、経営学で翻訳するとどうなるのか、といったことを考えながら授業を受けるのも有効かもしれません。この授業をきっかけに、以降のキャンパスライフをより有意義なものにさせていただけたらと思います。

(到達目標)

【知識】経営の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を身につけている。

【技能】実際の組織を動かし、経営するための基礎的なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】経営に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

上林憲雄, 他 (2018) 『経験から学ぶ経営学入門 [第2版]』有斐閣ブックス。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

経営学入門【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回〈経営学入門〉会社の経営とはどんなことか
初めに授業全体の進め方や評価の仕方等を確認します。その後、さっそく授業に入っていきます。内容は教科書の第1章です。
- 第2回〈組織行動論〉社員はなぜ働くのか
内容は教科書第9章です。
- 第3回〈企業論〉会社はどのようにして社会に役立っているのか
内容は教科書第2章です。
- 第4回〈企業形態論・企業統治論〉会社は誰が動かしているのか
内容は教科書第3章です。
- 第5回〈経営戦略論〉会社はどのような方針で動いているのか
内容は教科書第4章です。
- 第6回〈経営管理論・経営組織論〉会社はどんな仕組みで動いているのか
内容は教科書第5章です。
- 第7回〈企業間関係論〉会社は他の会社とどのように協力しているのか
内容は教科書第6章です。
- 第8回〈生産管理論・技術管理論〉会社はどのようにしてモノを造るのか
内容は教科書第7章です。
- 第9回〈経営管理論・経営組織論〉社員は仕事をどのように分担しているのか
内容は教科書第8章です。
- 第10回〈人的資源管理論〉社員はなぜ組織にとどまろうとするのか
内容は教科書第10章です。
- 第11回〈人的資源管理論〉社員はどのような報酬を求めるのか
内容は教科書第11章です。
- 第12回〈人的資源管理論〉社員はどのようにして育てられるのか
内容は教科書第12章です。
- 第13回〈マーケティング論〉会社はどのようにして商品を提供するのか
内容は教科書第13章です。
- 第14回〈国際経営論〉会社は海外でどのようにして経営しているのか
内容は教科書第14章です。
- 第15回〈財務管理論・会計学〉会社の利益はどのようにして測定するのか
内容は教科書第15章です。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%。
60点以上の者に単位を与える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・事前学習
各回で対象となっている教科書の章を予め読んでおくとよいでしょう。
- ・事後学習
授業で配布したPowerPoint資料を中心に復習するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実は、私自身は企業で働いた経験はないです。そうした私がなぜ経営学を学ぶようになったかといえば、それは高校生や浪人生時代に抱いた集団に対する疑問や、大学学部生時代に抱いた働くことに対する疑問がきっかけだったりします。それは例えば「なぜ、ある集団は特定の価値観を押しつけてくるのだろう」や「働くことをポジティブに捉えないといけないような空気感がどこから生まれるのだろう」といったものです。この授業で教える内容が、例に出したこれらの疑問にちゃんと答えてくれるのかといえば、そういうわけではないですが、自身のもやもやとした疑問を学問を通じて論理的に理解できるというのはなかなか面白いです。あくまでも入門編であるこの授業では消化不良を起こすかもしれませんが、「経営学入門」をきっかけに経営学の面白さを感じていただければと思います。

キーワード /Keywords

経営管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS110M	◎	○	○		
科目名	経営管理論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では企業を運営するために必要な経営管理・マネジメントの基礎的知識について講義します。

(到達目標)

【知識】

経営管理に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営管理に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営管理に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【組織】【管理】【伝統的管理論】
- 第7回 組織とは何か2【人間観の転換】
- 第8回 組織とは何か3【近代的な管理】
- 第9回 組織とは何か4【組織社会と企業】
- 第10回 事例研究
- 第11回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第12回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第13回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第14回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポート等提出物の結果(20%)によって評価します。

経営管理論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジユメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

ファイナンス入門【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS111M	◎	○	○		
科目名	ファイナンス入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業では、ファイナンスにかかわる基礎的な概念を習得したうえで、現実のビジネスにおける応用ができることを目標とします。最初に、金利の計算とお金の価値に関して説明します。応用として貯金やローン、債券や株式などを取り上げます。次は、お金の投資を考えると、そのリスクとリターンを紹介し、株式市場や株式投資のポートフォリオ理論を取り上げます。最後は、企業（株式会社）に焦点を絞って、企業の資金調達方法や投資活動などを取り上げ、企業の財務分析や株価分析を行う方法を学びます。（到達目標）

【知識】ファイナンスに関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】ファイナンスに関する新聞記事・ニュースを理解することができる。

【思考・判断】ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Fundamentals of Corporate Finance. Richard Brealey. 最新版 McGraw-Hill Higher Education

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- # 0 1 ファイナンス入門の概要と実例
- # 0 2 お金の価値：金利の計算
- # 0 3 お金の価値：ローン&債券の仕組み
- # 0 4 お金の価値：株式の価格決定理論
- # 0 5 練習・復習
- # 0 6 資本市場の仕組みと機能
- # 0 7 株式投資のリターンとリスクの計算
- # 0 8 ポートフォリオリターンとリスクの計算
- # 0 9 リターンとリスクの関係
- # 1 0 練習・復習
- # 1 1 企業（株式会社）の仕組みと特徴
- # 1 2 財務諸表と財務比率
- # 1 3 企業の資金調達
- # 1 4 企業のプロジェクト投資
- # 1 5 練習・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

QUIZ 30%
小テスト 40%
課題の提出物 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された資料の予習と、授業内容の復習と課題の作業（学習時間の目安は、予習60分、復習60分～です）

履修上の注意 /Remarks

授業ではEXCELというソフトを使って計算したり課題を行ったりしますので、EXCELが使えるように用意しておくこと。
対面授業を実施する場合、授業によってはノートパソコンを使用する必要があり、事前に指示しますので、その際ノートパソコンを持参してください。

ファイナンス入門【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけ身近な実例や時事ニュースを取り上げて、授業内容との関連性を示しながら授業を進めていきますので、ファイナンスの勉強を楽しんでいただければと思います。

キーワード /Keywords

株式会社，株式，株価，金利，ポートフォリオ，リスク，リターン，財務分析

会計学入門【昼】

担当者名 /Instructor 森脇 敏雄 / Toshio Moriwaki / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC111M	◎	○	○		
科目名	会計学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義は、財務諸表の作成方法である簿記の知識を念頭に、会計学の基本的な論点を学習します。会計学とは、財務諸表の作成および開示を研究対象とする学問です。第1回の講義では、簿記論の講義で学習した簿記と本講義で学習する会計学の関係を説明し、会計学を学習することの意義を説明します。第2回から第8回の講義では、財務諸表の作成において遵守すべきルールの解説を通じて、会計学の理論的側面を学びます。第10回から第13回の講義では、財務諸表の開示に関するルールを整理し、財務諸表が経済社会においてどのような役割を有するのかを検討します。

(到達目標)

【知識】 会計学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 財務諸表を利用した企業評価に必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 会計学の観点からの論理的な分析をもとに、財務諸表を利用した企業分析の計画を立案し、分析結果を解釈できる能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書①：桜井久勝・須田一幸(2020)「財務会計・入門 第13版」有斐閣アルマ1,980円

参考図書②：TAC株式会社(2021)「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver.12.0」TAC出版2,200円

参考図書③：TAC株式会社(2021)「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.12.0」TAC出版1,650円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 総論 >

第1回：簿記と会計学の関係

< 各論①：会計学の理論的側面 >

第2回：財務会計の基本原則

第3回：資金調達活動①企業の設立

第4回：資金調達活動②資金調達

第5回：資金投下活動①設備投資

第6回：資金投下活動②研究開発

第7回：営業活動①商品の仕入・販売

第8回：営業活動②代金の回収

第9回：確認テストI

< 各論②：財務諸表の役割 >

第10回：財務諸表の体系

第11回：上場企業による情報開示

第12回：財務会計の機能

第13回：財務諸表を用いた企業分析

第14回：確認テストII

第15回：公認会計士制度説明会

会計学入門【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義後課題20%，確認テスト20%，定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定箇所を復習する（60分）

事後学習：講義後課題に取り組む（60分）

履修上の注意 /Remarks

履修上の注意①：簿記論の講義で利用した教科書を参考図書として利用します。

履修上の注意②：電卓を準備して下さい。

履修上の注意③：配布資料をもとに講義を進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営統計Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 村原 英樹 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH150M	○	◎	○		
科目名	経営統計Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済学や経営学では、与えられたデータをもとに、それを図で表したり、統計的手法を用いてそれを分析したりすることがよく行われる。またそれとは別に、関心のある対象の全体（母集団）から一部（標本）を取り出し、それを調べることで全体の特性（平均値や分散など）について推論することも行われる。

本講義では、こうした統計的な手法を用いたデータの分析および統計的推測について、それらの考え方と実践について考察する。それらを行うのに必要な確率分布に関する知識を習得し、統計的推測の考え方を理解するとともに、母集団の平均に関する点推定、区間推定および検定ができるようになることを目標とする。

（到達目標）

【知識】統計に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】統計に関する基本的な問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現】統計に関連する基本的問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

塩出 省吾・今野 勤（共著）『経営系学生のための基礎統計学 改訂版』（共立出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション・確率と資料の整理（代表値について）
- 第2回：確率分布（1）離散型確率分布の基礎
- 第3回：確率分布（2）様々な離散型確率分布について
- 第4回：確率分布（3）連続型確率分布について
- 第5回：確率分布（4）正規分布の再生性と標準正規分布について
- 第6回：確率分布（5）正規近似について
- 第7回：確率分布（6）偏差値について
- 第8回：確率分布（7）2次元確率分布について
- 第9回：統計的推論（1）母平均の区間推定について
- 第10回：統計的推論（2）母平均の検定（1）
- 第11回：統計的推論（3）母平均の検定（2）
- 第12回：統計的推論（4）2つの母集団の比較（1）
- 第13回：統計的推論（5）2つの母集団の比較（2）
- 第14回：統計的推論（6）母比率の推定と検定（1）
- 第15回：統計的推論（7）母比率の推定と検定（2）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70％，レポート課題・・・30％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回，授業内容の予習と復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経営統計I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営統計II 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MTH250M	○	◎	○		
科目名	経営統計 II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

近年、情報科学や統計学、データ分析といった分野は非常に注目されています。経営情報学科においても、そういった流れを踏まえ、1年時に必修科目として「情報科学入門」や「経営統計I」を設置し、こういった学問分野への入り口としています。

本講義では、「経営統計I」で学んだ知識を「情報科学入門」で学んだプログラミングの技術を用いて確認し、また、卒業論文などの研究、また就職後の実務場面においてデータ分析を行うことができるようになるための知識と技術を身につけることを目的としています。

「経営統計I」で学んだ理論について、シミュレーションデータを用いてその通りにデータが振る舞うことを確認する。平均値や分散といった指標をMicrosoft ExcelやPythonで算出する方法を学び、実際に求めてみる。実データを用い、Pythonで統計的仮説検定や回帰分析などを行い、結果を解釈する。といった内容になります。

到達目標

知識

経営統計に関する基礎的な知識体系的かつ総合的に身につけている。

技能

経営統計に関連する分析手法を身につけている。

思考・判断・表現力

経営統計について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷合廣紀(著)「Pythonで理解する統計解析の基礎」技術評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション, Excelの使い方【Microsoft Excel】
- 2回 Pythonの使い方とパッケージ【Python】, 【numpy】
- 3回 データの作成と読み込み【csv】
- 4回 1変数データの要約【変数】, 【尺度】, 【度数分布表】, 【ヒストグラム】
- 5回 変数の代表値について【平均】, 【分散】, 【標準偏差】
- 6回 離散的な分布の扱い方【確率】, 【2項分布】
- 7回 母集団と標本【母数】, 【標本】, 【推定値】
- 8回 連続的な分布の扱い方【正規分布】, 【確率密度関数】
- 9回 標本平均の安定性についてI【中心極限定理】, 【標準誤差】
- 10回 標本平均の安定性についてII【中心極限定理】, 【標準誤差】, 【信頼区間】
- 11回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【t分布】
- 12回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】, 【F検定】
- 13回 2つの変数の間の関係【散布図】, 【相関】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% レポート...30%
尚、欠席は減点の対象となります。

経営統計II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週前もって講義資料を所定の場所にアップロードしますので、ダウンロード、読んでおいてください。

講義中の実習のほかに練習問題も出します。講義のあとは、練習問題を解いて理解度を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Python、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、1GB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さらに高度な分析を学びたい人向けに、3年時開講科目として「マーケティング・サイエンス」があります。本講義には、そのための準備という位置づけもあります。興味を持った方は、ぜひより高いレベルの分析にチャレンジしてみてください。

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC210M	◎	○	○		
科目名	財務会計論 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する基礎的な知識を見つけている。

技能：会計学の基本的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 財務会計の諸問題その1 - 会計学とは何か？ - 【コンテンラーメン】
- 13回 財務会計の諸問題その2 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の種類等を知る【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、例年レポート等を含む）... 20% 中間試験... 20% 期末レポート... 60%

財務会計論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC211M	○	◎	○		
科目名	財務会計論II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にして欲しい。動態論の基本的思考を中心にして、現代会計について言及したいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する専門的な知識を見つけている。

技能：会計学の専門的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポートを含む) ... 20% 期末試験... 80%

財務会計論II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論のテキスト（簿記2級程度の仕訳）や、財務会計論の入門書及び教科書（例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光 & 川村義則の最新の書籍）を読むことをすすめる。

事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみる事が重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

マーケティングI【昼】

担当者名 /Instructor 柳 純 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS230M	◎	○	○		
科目名	マーケティングI			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業等の「市場問題の解決手法」ならびに「競争手段」として実践されている「マーケティング」について、基本概念、市場への接近方法を始めとした理論をベースに、実務部分にまで踏み込んだ内容を講義します。

前半部分では、市場とマーケティングの関係を理解することを目的に、市場概念およびマーケティング学説、市場戦略について解説します。また後半部分ではマーケティングの全体戦略としてSTP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング等）と部分戦略である4P（製品、価格、チャネル、プロモーション）のミックスについても説明します。

（到達目標）

【知識】マーケティングに関する基礎的な知識を身につけている

【技能】マーケティングに関する基本的な問題を体系的に理解することができる

【思考・判断・表現】マーケティングに関連する基本的問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる

教科書 /Textbooks

岩永忠康編『<改訂版>マーケティングの理論と戦略』五紘舎、2019年。2750円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川和男『現代マーケティング論』同文館出版、2020年。2970円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：講義ガイダンス【講義概要、成績評価等の説明と導入問題】
- 第2回：市場概念（1）【市場概念と市場問題】
- 第3回：市場概念（2）【マーケティング概念の変遷と定義】
- 第4回：マーケティング学説史（1）【マーケティングの歴史とマイクロマーケティング】
- 第5回：マーケティング学説史（2）【マーケティングの歴史とマクロマーケティング】
- 第6回：市場戦略と競争（1）【市場細分化と標的化】
- 第7回：市場戦略と競争（2）【市場地位別と組織編成】
- 第8回：市場戦略と競争（3）【競争環境と競争要因】
- 第9回：消費者行動とマーケティング【消費者関与と行動】
- 第10回：製品戦略（1）【PLCと製品差別化】
- 第11回：製品戦略（2）【ブランド管理および類型】
- 第12回：価格戦略【価格設定方法と競争優位】
- 第13回：チャネル戦略【経路および類型】
- 第14回：プロモーション戦略【人的販売促進と非人的販売促進】
- 第15回：マーケティング・ミックス【4Pの組み合わせ】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（30%）、レポート（70%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、テキストの当該回の箇所を熟読すること。

事後学習は、毎回提示する資料内容を確認し、専門用語やポイントについて整理すること。

履修上の注意 /Remarks

マーケティングに関係する科目を履修すること。また「マーケティングII」を履修することが望ましい。

マーケティングI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用するテキストの内容からレポートを課すことがあります。
課題ならびにレポートに関しては、必ず提出〆切日を厳守すること。

キーワード /Keywords

市場問題、マーケティング戦略、ブランドマネジメント

マーケティングII【昼】

担当者名 /Instructor 柳 純 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS231M	◎	○	○		
科目名	マーケティングII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義は、マーケティングに関する基本的な戦略要素である製品、価格、チャネル、プロモーションについて概観するとともに、今日重要なテーマとなっている「サービス・マーケティング」や「ソーシャル・マーケティング」を中心に講義を進めます。
前半部分では、製品戦略からプロモーション戦略に至るまでの企業行動の事例を盛り込みながら解説します。また後半には、産業別のマーケティングとしていくつかの産業におけるマーケティングについて紹介します。

(到達目標)

【知識】マーケティングに関する専門的な知識を身につけている

【技能】マーケティングに関する専門的な問題を体系的に理解することができる

【思考・判断・表現力】マーケティングに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えを明確に表現することができる

教科書 /Textbooks

岩永忠康編『<改訂版>マーケティングの理論と戦略』五紘舎、2019年。2750円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒岩健一郎・水越康介『マーケティングをつかむ<新版>』有斐閣、2018年。2310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：講義ガイダンス【講義概要、成績評価等の説明と導入問題】
- 第2回：マーケティングについて【マーケティングの基礎概念】
- 第3回：マーケティング戦略とは【マーケティング戦略の概要】
- 第4回：製品戦略とブランドマネジメント【製品戦略とブランド概念】
- 第5回：価格戦略とチャネル戦略【新製品価格とチャネル選択】
- 第6回：プロモーション戦略(1)【人的販売促進と広告・宣伝】
- 第7回：プロモーション戦略(2)【パブリシティとセールスプロモーション】
- 第8回：サービス・マーケティング(1)【サービス概念とサービス産業】
- 第9回：サービス・マーケティング(2)【サービス産業における事例】
- 第10回：ソーシャル・マーケティング【社会的なマーケティングと環境マーケティング】
- 第11回：企業のマーケティング行動(1)【産業別事例研究】
- 第12回：企業のマーケティング行動(2)【産業別事例研究】
- 第13回：企業のマーケティング行動(3)【産業別事例研究】
- 第14回：企業のマーケティング行動(4)【産業別事例研究】
- 第15回：関係性マーケティング【市場関係の変化とパラダイムシフト】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(40%)、レポート(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、テキストの当該回の箇所を熟読すること。

事後学習は、毎回提示する資料内容を確認し、専門用語やポイントについて整理すること。

履修上の注意 /Remarks

マーケティングに関係する科目を履修すること。なお「マーケティングI」を履修していることが望ましい。

マーケティングII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用するテキストの内容からレポートを課すことがあります。
課題ならびにレポートに関しては、必ず提出〆切日を厳守すること。

キーワード /Keywords

マーケティング・ミックス、サービス・マーケティング、産業別マーケティング

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年次
単位 /Credits 2単位 / 2単位
学期 /Semester 1学期 / 1学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class 2年 / 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS210M	◎	○	○		
科目名	経営組織論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことができる者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

(到達目標)

【知識】経営組織に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】経営組織に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】経営組織について、複眼的・論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

山下剛『マズローと経営学—機能性と人間性の統合を求めて—』文真堂、2019年、3850円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
 三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)
 三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)
 岸田民樹編『組織論から組織学へ—経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)
 M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)
 中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【経営組織論とは?】【現代社会における組織の重要性】
 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】
 第3回 管理とは何か① 【プロセス・スクールの考え方】【意思決定論】
 第4回 管理とは何か② 【関係性への対応】【存在認識】【イナクトメント】
 第5回 現代社会における組織の問題 【職業人】【現代における自己実現】【組織人格と個人人格】
 第6回 現代組織の諸特徴① 【支配の3類型】【官僚制の概念】
 第7回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】
 第8回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理】
 第9回 動機づけ理論① 【人間関係論】
 第10回 動機づけ理論② 【ERG理論】【X-Y理論】【動機づけ - 衛生理論】
 第11回 組織構造① 【ライン組織の基本原理解】
 第12回 組織構造② 【コンティンジェンシー理論】【職能部門制組織】【事業部制組織】
 第13回 現代組織における管理① 【随伴的結果の概念】【コンフリクト】【統合】【責任】
 第14回 現代組織における管理② 【官僚制によって生成する2種の随伴的結果】【責任の組織化】
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 小テスト...40%

経営組織論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題の提出を求めます。
該当箇所の参考文献もよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「経営管理論」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

組織の3要素 官僚制 科学的管理 環境適応 随伴的結果 自由と責任

経営戦略論【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS211M	◎	○	○		
科目名	経営戦略論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論及び分析フレームワークを体系的に示すとともに、事例研究を行います。

本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますので、テキストとしての指定ではありませんが、科目の性格上、講義中に事例の検討を多く行います。そのため以下の文献を（必携本）として指定しています。

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[第3版]』有斐閣、2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎著『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)

網倉久永・新宅純一郎著『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。(○)

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著『1からの戦略論(第2版)』碩学舎、2016年。(○)

他、参考となる文献を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 議論の歴史1 誕生から1970年代 【成熟化とイノベーション】 【多角化の戦略】
- 第3回 議論の歴史2 1980年代以降 【競争戦略論】 【戦略経営論】 【プロセス戦略論】 【RBV】
- 第4回 成長の戦略1 ドメインの定義 【事業構造の転換】 【ドメインギャップ】
- 第5回 成長の戦略2 事業ポートフォリオの選択 【関連・非関連型】 【シナジー効果】 【コアコンピタンス】
- 第6回 成長の戦略3 新規事業創造の戦略 【社内ベンチャー】 【M&A】 【戦略提携】
- 第7回 成長の戦略4 プロダクトポートフォリオマネジメント 【PLC】 【経験曲線】 【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1 構造分析 【5フォース】 【PEST】 【戦略グループ】 【VRIO】
- 第9回 競争の戦略2 基本戦略—事例研究 【コストリーダーシップ】 【差別化】 【集中化】 【顧客価値】
- 第10回 競争の戦略3 市場地位と戦略 【リーダー】 【チャレンジャー】 【ニッチャー】 【フォロアー】
- 第11回 競争の戦略4 製品ライフサイクルと他企業との協力 【PLC】 【ビジネスモデル】
- 第12回 競争の戦略5 事業システム—事例研究 【顧客価値】 【ビジネスモデル】
- 第13回 戦略と組織1 戦略と組織の適合と創造 【組織構造】 【組織文化】 【組織インフラ】
- 第14回 戦略と組織2 戦略と組織の変革 - 事例研究 【イノベーション】 【組織学習】 【知識創造】
- 第15回 まとめ

経営戦略論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポート等提出物の結果（20%）によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「経営管理論」（2018年度生以上は「マネジメント論基礎」）で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 成長 競争 イノベーション 組織変革

人的資源管理論【昼】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS310M	◎	○	○		
科目名	人的資源管理論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

昨今、日本では様々な労働に関する問題がニュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では、その多々ある切り口の一つとして、人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は、企業内の人々をいかに生き活きと働けるようにするかということを人事管理制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで、企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。

この講義を通して、巷にあふれる労働に関する問題について、さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下、各到達目標について

知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。

技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。

思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書：奥林康司・上林憲雄・平野光俊（2010）編著『入門人的資源管理 第2版』中央経済社。
その他適宜配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献：平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理 - 人と企業、ともに生きるために - 』有斐閣ストウディア。

人的資源管理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。
- 第2回 経営学の中での人的資源管理論（1）
人的資源管理論とはどういう分野なのか，隣接研究分野との関係等から学びます。
- 第3回 経営学の中での人的資源管理論（2）
人的資源管理論の主役はあくまでも人事管理というシステムです。この考え方について学びます。
- 第4回 人事等級制度
人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。
- 第5回 人事考課制度と賃金制度（1）
人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。
- 第6回 人事考課制度と賃金制度（2）
人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，賃金制度について考課制度と関連付けながら学びます。
- 第7回 能力開発
企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。
- 第8回 雇用管理
日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。
- 第9回 労働時間（1）
ここまで学んだ日本企業における人事管理の特徴から，労働者の働き方にどのような特徴が出てくるのか，労働時間に着目しながら考えていきます。
- 第10回 労働時間（2）
日本労働者の労働時間について，今どのような問題が出てきているのか，それはどのような文脈からなのか，これらについて考えていきます。
- 第11回 労使関係と福利厚生制度
日本的労使関係の特徴および，日本企業における福利厚生の特徴とその変化について学びます。
- 第12回 非正規労働者
近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に非正規労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。
- 第13回 女性労働者
近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に女性労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。
- 第14回 高齢労働者
近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に高齢労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。
- 第15回 まとめ
全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 学期末試験50%，中間レポート50%で評価する。
60点以上の者に単位を与える。
※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。
事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
BUS313M	◎		○		○
科目名	中小企業論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税金など、わが国経済に直結します。

- ・ 企業数の割合 = 99.7%
- ・ 従業員数の割合 = 68.8%
- ・ 付加価値額の割合 = 52.9%

(注：経済センサス(2016)による、個人事業主を含む)

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

(到達目標)

【知識】

中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】

中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。

【自立的行動力】

中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
- 渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
- 安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
- 商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
- 中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 製造業①…製造業で働きませんか？
 - 第4回 製造業②…現状と展望
 - 第5回 非製造業(流通業、小売業、サービス業など)…現状と展望
 - 第6回 外部講師による講和①
 - 第7回 ベンチャー企業
 - 第8回 新事業展開
 - 第9回 人材の育成と確保
 - 第10回 海外展開
 - 第11回 ベトナムにおける中小企業支援事例
 - 第12回 外部講師による講和②
 - 第13回 資金調達と金融機関の役割
 - 第14回 国及び地方自治体による中小企業支援政策
 - 第15回 まとめ
- ※授業計画・内容に変更があるときは、事前に連絡します。

成績評価の方法 /Assessment Method

適宜、レポートを課します(50%)。期末試験は行いません。
授業の取り組み具合についても評価の対象とします(50%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府は何を講じようとしていますか。小規模事業者持続化補助金って何ですか。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。中小企業は、身近な存在です。
- ・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
 - ・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
 - ・ 自ら起業して経営する。
 - ・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード /Keywords

経営分析【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ACC400M	○	◎	○		
科目名	経営分析				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >
財務諸表のデータを収集し、経営分析の基本的技法である収益性の分析、安全性の分析、生産性の分析などの技術を習得する。本講義において実際の財務諸表を活用し、その数値を生きた数字として認識することがねらいである。

< 到達目標 >
知識：経営分析に関する基礎的な知識を見つけている。
技能：経営分析の基本的な技能を身につけている。
思考・判断・表現力：企業会計について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

特になし。
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中弘『会計データの読み方・活かし方-経営分析の基本的技法』中央経済社
森田松太郎『新版経営分析入門』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データの収集と分析【有価証券報告書】
- 3回 収益性の分析【総資本経常利益率】
- 4回 収益性の分析【資本回転率】
- 5回 収益性の分析【経常利益】【営業利益】
- 6回 安全性の分析【流動比率】
- 7回 安全性の分析【固定比率】
- 8回 経営分析の考え方【比率計算】
- 9回 財務指標の読み方【自己資本比率】【負債比率】
- 10回 生産性の分析【付加価値】
- 11回 損益分岐点分析【限界利益】
- 12回 損益分岐点分析【損益分岐点比率】
- 13回 経営分析【総合問題】
- 14回 企業データの読み方【投資情報】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(中間テスト、小テスト含む) ... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論、財務会計論のみでなく、原価計算論、管理会計論、企業ファイナンス、経営学等の科目の履修を推奨する。講義では、財務諸表の比率の練習問題を主に行うので、電卓が必需品である。
事後学習：主要比率の計算の仕方や、比率の意味を復習し、さらに深めること。

履修上の注意 /Remarks

経営分析【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク基礎論 【昼】

担当者名 /Instructor 命婦 恭子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT100M	◎			○	
科目名	フィールドワーク基礎論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、さまざまなフィールドワークの報告を紹介しながら、フィールドワークのエッセンスを学びます。フィールドワークとは、他者の生活の場で、他者とふれあい、他者について知り、それを伝えることをです。

インターネットなどのメディアを通じて多くの情報が氾濫し、検索エンジンを使えば、世界中のどんなことでも手のひらの中で調べられる現在の生活の中で、フィールドに出向いて自分の身体で体験する意義は何なのか、そしてその体験を自分の言葉で、あるいは映像で表現する意義は何なのか。フィールドワークの理論と実践、楽しさについて、受講者と一緒に考えていきます。

《到達目標》

知識：フィールドワークに関する基礎的な知識を身につけている。

コミュニケーション力：フィールドワークに関する多くの事例を学び、調査に必要なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

指定なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの絶望と愉悦 山野や村を歩く』2015 篠原徹○
- 『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』2006 菅原和孝○
- 『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』2008 宮本常一・安溪遊地○
- 『ヤシガラ椀の外へ』2009 ベネディクト・アンダーソン○
- 『驚きの介護民俗学』2012 六車由実○
- 『飯場へ：暮らしと仕事を記録する』2017 渡辺 拓也○
- DVD『祝の島』2011 瀬戸あや○

その他講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：フィールドワークとは
- 第2回 なぜフィールドワークをするのか
- 第3回 どうフィールドワークをするのか
- 第4回 フィールドとてあう
- 第5回 フィールドの中で生活する
- 第6回 さまざまなフィールド：自然
- 第7回 さまざまなフィールド：異文化
- 第8回 さまざまなフィールド：身近な生活
- 第9回 フィールドワークの計画を立てる
- 第10回 他者を知ること-調査・参与観察
- 第11回 他者を知ること-身体活動・技法の習得
- 第12回 他者を知ること-分析・比較
- 第13回 理解したことを伝える：論文
- 第14回 理解したことを伝える：作品
- 第15回 まとめ

フィールドワーク基礎論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中のディスカッションに参加：50%
講義で紹介した「活動」に参加、「書籍」を読む、「ドキュメンタリー映画」を観るといような体験をして講義内容をふまえたレポートを書く：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に紹介するイベントに参加することを推奨します。
授業中に紹介する本を読むことを推奨します。
「北方シネマ」で上映されるドキュメンタリー映画を活用します。
生活の中で、ふと興味をもったことについて立ち止まってそれを知ろうとする姿勢を歓迎します。
web掲示板等を活用して議論を進めます。

履修上の注意 /Remarks

web掲示板などの双方向性のあるツールを活用します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で自分の考えや疑問を発信してください。一方的に講義をするのではなく、みなさんの好奇心に沿いながら授業が進んでいくことを期待しています。

キーワード /Keywords

フィールドワーク 他者理解 共感 ドキュメンタリー映画

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY120M	◎				
科目名	教育心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。
この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通じて、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。
授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

対人心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY211M	◎		○		
科目名	対人心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

(到達目標)

DP 1 知識

対人心理学における代表的研究の内容と概念を正しく理解している。

DP 3 思考・判断・表現力

理解した知識を用いて現実社会の事柄に関連させて思考することができる。

教科書 /Textbooks

『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人認知
- 第3回 ステレオタイプ
- 第4回 帰属過程
- 第5回 社会的態度
- 第6回 対人魅力
- 第7回 対人関係の発展と崩壊
- 第8回 達成動機、親和動機
- 第9回 家族、性役割
- 第10回 組織行動、リーダーシップ
- 第11回 友人関係と孤独感
- 第12回 対人葛藤の効果
- 第13回 攻撃と援助
- 第14回 現代社会における対人心理の諸問題
- 第15回 まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト4回程度)… 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に教科書の対応箇所を読んでおくこと。

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

対人心理学 【昼】

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY230M	◎				
科目名	臨床心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

到達目標

【知識】臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編【発達障害】
- 第4回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第6回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第10回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第12回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第14回 まとめ(その1)：発達課題と不適応の関係について
- 第15回 まとめ(その2)：不適応の理解と援助について

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された事例資料を前もって読み、不適応の背景因や治療の流れについて自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。
事後学習として、事例を再度読み直し、事例の概要をまとめて提出する。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY220M	◎				
科目名	発達心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

発達心理学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS221M	◎	○			
科目名	スポーツ心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

スポーツ心理学とは、スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられています。この授業では、スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶことを目的とします。本講義の到達目標は、受講生がスポーツによる心理学的な影響について知識を深めることです。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、特に設けません。必要に応じて資料配布や参考図書を紹介します。

スポーツ心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 講義計画 >

1. オリエンテーション

本科目の目的、背景、授業の進め方、約束事について説明します。

2. スポーツ心理学とは

スポーツ心理学の歴史について学習を行います。

3. スポーツと動機づけ

やる気や意欲と呼ばれる動機づけのメカニズムについて学習を行います。

4. スポーツにおける目標設定

スポーツにおける目標設定を行うための原理・原則について学習を行います。

5. スポーツとパーソナリティ

パーソナリティを理解しスポーツとパフォーマンスとの関係について学習を行います。

6. 注意と集中

注意様式からみた集中力の理論ならびに注意集中を高める技法について学習を行います。

7. 運動のメカニズム

運動の学習について心理学的な理論について学習を行います。

8. コーチの心理

社会的勢力の視点からスポーツ指導のあり方について学習を行います。

9. 競技の心理

それぞれの競技特性と心理的特性について学習を行います。

10. スポーツメンタルトレーニング

心理的なアプローチの方法であるメンタルトレーニングについて学習を行います。

11. スポーツと発達

生涯発達の視点から学びを深めスポーツのあり方や関わり方について学習を行います。

12. 健康スポーツの心理

ライフスキル、運動・スポーツの心理的効果、ストレスコーピングについて学習を行います。

13. スポーツと臨床

スポーツの場で発生する臨床心理学的問題について学習を行います。

14. まとめ

授業の振り返りを行います。

15. 授業内期末テスト

授業内期末テストを行います。

成績評価の方法 /Assessment Method

1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施します。

2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施します。

3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%、受講態度20%、小レポート30%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

準備学習として、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えて下さい。(各回15分)

事後学習として、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めるようにして下さい。(各回15分)

履修上の注意 /Remarks

心理学関係の授業やスポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS231M	◎	○			
科目名	身体適応論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

(到達目標)

【知識】身体活動の必要性や効果について、専門的な知識を身につけている。

【技能】運動・スポーツに必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発育・発達
- 3回 運動と加齢
- 4回 運動と神経系
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と肥満
- 7回 運動とエネルギー代謝
- 8回 バイオメカニクス
- 9回 運動と血圧
- 10回 運動と骨粗鬆症
- 11回 運動と疲労
- 12回 疲労と休養
- 13回 運動と暑熱環境(熱中症の予防)
- 14回 運動への行動変容【メリット、デメリットについて考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体適応論 【昼】

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

トレーニング論【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS223M	◎	○			
科目名	トレーニング論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

トレーニングの原則・種類・進め方や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的なトレーニング計画の作成ができる知識を身に付ける。

<到達目標>

【知識】身体能力向上にめざすトレーニングについて、基礎的な専門知識をみにつけている。

【技能】自分に必要なトレーニングを行うスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料等は配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション トレーニングとは
- 2回 運動器の構造と機能
- 3回 体力とトレーニング
- 4回 トレーニングの条件 トレーニングの原理原則・トレーニングの3条件・健康のためのトレーニングの条件
- 5回 全身持久力のトレーニング
- 6回 筋持久力のトレーニング
- 7回 筋力のトレーニング
- 8回 パワーのトレーニング
- 9回 神経機能のトレーニング 巧緻性・敏捷性・スピード・バランス
- 10回 柔軟性のトレーニング
- 11回 トレーニング効果の測定・評価① 身体組成(レポート①)
- 12回 トレーニング効果の測定・評価② 体力の測定①
- 13回 トレーニング効果の測定・評価③ 体力の測定②(レポート②)
- 14回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 15回 オーバーエクササイズ 身体的側面・精神的側面

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験.. 40% レポート.. 20% 日常の授業への取り組み.. 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

測定や実習を行う場合がある。
携帯電話の使用・飲食を含め、授業を妨げるような行為には、厳しく対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自身の日常生活に活用できることを期待します。

トレーニング論【昼】

キーワード /Keywords

トレーニング、体力、体力測定・評価、身体組成測定・評価、SDGs 3. 健康と福祉を

教育社会学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU223M	◎				
科目名	教育社会学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐると教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐると社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション —教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐると近年の動向 —初等教育
- 第3回学校をめぐると近年の動向 —中等教育
- 第4回子どもをめぐると社会の変化 —少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 —家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 —学校教育
- 第7回諸外国の教育 —青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 —家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 —孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 —メディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 —社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 —地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・ 30%、課題レポート・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

教育社会学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

カウンセリング論【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY231M	◎				
科目名	カウンセリング論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、心理カウンセリングに関する基礎的知識の習得を目指す。カウンセラーとクライアントとの二者関係で成立する心理カウンセリングにおいて、カウンセラーとクライアントはそれぞれどのような役割を担いながら、カウンセリングを進めていくのかについて、カウンセリングの事例や逐語録等を手掛かりとして分析的に解明し、その実態を明らかにする。
なお、教員が提示するテーマや質問について小集団で討論で行い、討論された内容を全体に返して論点の整理を行いながら、最適解を導き出すアクティブ・ラーニングの手法によって授業を進めていく予定である。

到達目標

【知識】カウンセリングに関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：心理カウンセリングとは何か
- 第2回 カウンセラーの役割について(1)【ラポール】【受容的態度】
- 第3回 カウンセラーの役割について(2)【感情の反射】【傾聴】
- 第4回 カウンセラーの役割について(3)【感情の明確化】【共感的理解】
- 第5回 クライアントの役割について【自己内省】【自己受容】
- 第6回 カウンセリングの実際【援助的技法】【ノンバーバル・コミュニケーション】
- 第7回 カウンセリングのプロセス【主訴】【中断・終結】
- 第8回 心理カウンセリングの流派(1)【精神分析】【洞察】
- 第9回 心理カウンセリングの流派(2)【行動療法】【系統的脱感作法】
- 第10回 心理カウンセリングの流派(3)【認知療法】【認知の歪み】
- 第11回 心理カウンセリングの流派(4)【マインドフルネス】【うつ】
- 第12回 心理カウンセリングの流派(5)【回想法】【進路選択】
- 第13回 心理アセスメント【受理面接】【治療契約】
- 第14回 カウンセリングの実際：心理臨床家による講演
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 40% 試験 ... 40% 平素の成績 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布した資料等をもとに授業内容を振り返り、整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講する前に、1学期開講科目「臨床心理学」を受講しておくことが望ましい。

カウンセリング論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ産業論【昼】

担当者名 /Instructor 内田 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS222M	◎	○			
科目名	スポーツ産業論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

【授業のねらい】

戦後、我が国のスポーツ振興は「大衆化」という方針が敷かれる。しかし、我が国の国際復帰のためスポーツが「競技」に傾倒していく中、大衆化の流れは「コミュニティスポーツ」として行政が主導するようになる。その後、国際情勢と高度経済成長期、バブル期を経て、「スポーツの民営化」が謳われ、スポーツが産業として発展していくようになった。世界的には1984年のロサンゼルスオリンピック以降、大きな変化を見ている。この流れは単にオリンピックといった国際的な大会やプロフェッショナルスポーツだけではなく、シティマラソンやウォーキングイベントといった市民大会では、スポーツツーリズムといった観光資源としての役割も担っていたり、また市民組織である地域スポーツにおいてもコミュニティビジネスとしてマネジメントの理論を活用することが求められている。

そこで本授業ではスポーツプロダクトという概念のもとに、スポーツ産業を説明するとともに、スポーツプロダクトをマネジメントするシミュレーションなども行い、スポーツサービスの可能性を検討していく。

【主要な学習内容】

スポーツプロダクトという概念をまずは理解し、その上で、身近なスポーツシーンがどういったカテゴリーに分類できるかを整理する。そして、スポーツイベントの事業企画を立案できるよう、知識と実践を学習する。

(到達目標)

【知識】スポーツと社会の関連について、基礎的な専門知識を身につけている。

【技能】社会学の観点からスポーツの諸課題を分析するスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし
※必要な資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田宗彦・小笠原悦子「スポーツマネジメント」(大修館書店, 2008)
川西正己著「事業計画書のつくり方」(明日香出版社 2004)
細内信孝著「コミュニティ・ビジネス」(中央大学出版部 1999)

スポーツ産業論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：学習の目的，内容，方法（授業方法や成績評価方法など）
- 第2回 スポーツとは何か？スポーツ産業とは何か？【スポーツの歴史】
- 第3回 スポーツ組織論【営利と非営利】【オリンピックムーブメント】
- 第4回 スポーツ産業の分類【スポーツプロダクト】
- 第5回 スポーツ組織の仕事【仕事と労働】
- 第6回 スポーツ産業のアプローチ【広報・営業・販売】
- 第7回 スポーツ事業計画書の作り方【事業計画】
- 第8回 チームビルディング【ワークショップとファシリテーション】
- 第9回 コミュニケーションとミーティング手法【企画会議】
- 第10回 プレゼンテーション手法【プロモーション】
- 第11回 事業計画①【理念と目的】
- 第12回 事業計画②【マネジメントの4Pと4C】
- 第13回 事業計画③【予算編成】
- 第14回 事業計画④【プロモーション計画】
- 第15回 スポーツ企画のプレゼンテーション【プレゼンテーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：20%、平素の学習状況・授業態度：60%、課題やレポートなど：20%、の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レポートのテーマに応じた論述をすることで、事前学習や事後学習とする

履修上の注意 /Remarks

全体を通してグループワークによる思考・意見集約・合意形成などを行います。情報を与えられるだけでなく、検索・共有していくことも重視しますので積極的なコミュニケーションを心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツを通じて産業・労働・経済など社会的なことを身につけてもらうとともに、授業については卒業後を見越して、社会人としての言動を心がけて下さい。

キーワード /Keywords

スポーツ産業 スポーツマネジメント スポーツプロダクト 営利と非営利
マーケティング 事業計画

健康科学【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS230M	◎	○			
科目名	健康科学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことの一つである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

(到達目標)

【知識】自分自身の健康管理に関して、専門的な知識を身につけている。

【技能】自分自身の健康管理を行うスキルを身につけている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスプロモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な情報収集と授業内容の復習をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

身体コミュニケーション論【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS200M	◎	○			
科目名	身体コミュニケーション論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

皆さんは、家族や友人、先輩・後輩など様々な人と関わりを持って生活を送っていると思います。人間関係を良好にするためには、当然、相手とのコミュニケーションが必要不可欠です。コミュニケーションを上手に取るためには、送り手から受け手に情報をきちんと伝達することが重要になります。受け手が他者になることもあれば、自分自身になることもあります。この授業では、身体活動やスポーツ活動を通じて、他者や自己に対するコミュニケーションにおける基礎的な知識について学習し、コミュニケーションに対する理解を深め、最終的には自らのコミュニケーションスキルの向上を到達目標としている。

教科書 /Textbooks

基本的に資料配布を行いますので、教科書は特に設けません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションについて【コミュニケーションとは？】
- 第3回 パーバルコミュニケーション①【パーバルコミュニケーションの特徴】
- 第4回 パーバルコミュニケーション②【PREP法・ホールパート法の実践】
- 第5回 ノンパーバルコミュニケーション①【ノンパーバルコミュニケーションの特徴】
- 第6回 ノンパーバルコミュニケーション②【ノンパーバルコミュニケーションの実践】
- 第7回 タイプ別に見たコミュニケーションスタイル
- 第8回 チームでのコミュニケーション
- 第9回 コミュニケーションワーク①
- 第10回 コミュニケーションワーク②
- 第11回 自己とのコミュニケーション①【マインドフルネス】
- 第12回 自己とのコミュニケーション②【認知行動療法】
- 第13回 自己とのコミュニケーション③【アンガーマネジメント】
- 第14回 まとめ
- 第15回 授業内期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1) 試験・テストについて・・・授業内期末テストを実施
- 2) 試験以外の評価方法・・・授業内に小レポートを実施
- 3) 成績の配分・評価基準等・・・授業内期末テスト50%，受講態度20%，小レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習においては、教科書・参考書またはインターネットを通して各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備えること。事後学習においては、授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体コミュニケーション論 【昼】

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW100M	○	○	◎		
科目名	法学総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。以下に到達目標も示します。

(到達目標)

- 【知識】 法学の初歩的な知識を身につけている
- 【技能】 法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】 社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正己・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。
- 三ヶ月章、『法学入門』、弘文堂、1982年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる(べき)か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら?…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は?…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボデイガードが殴ってきたら?…【国家=権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公/私の区別】
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法/私法】、【実体法/手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですが/反対ですが、それはなぜですか?…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします?…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

法学総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験・・・100%
- ・ 授業の進捗状況により、コメントカードの提出を求められることがあります。その場合、優れたコメントは成績評価に加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
- 【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。概念の内容だけではなく、概念どうしのつながりを理解してください。

履修上の注意 /Remarks

法（学）には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、各分野の例外的な考えや細かい考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

いうまでもなく法学は、社会的公正さという私たちの社会の基礎となる（べき）秩序を構想します。よってこの授業はSDGsのなかでもとりわけ「10.人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

日本国憲法原論【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW120M	○	○	◎		
科目名	日本国憲法原論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法の基礎を学ぶ。
 憲法分野に関しては、この講義以降、「憲法人権論」「憲法機構論」「憲法訴訟論」とより専門的な講義が用意されているが、それらに共通する基本的な内容を概観することが本講義の目的である。
 また、本講義は、憲法のみならず行政法など公法科目の導入科目という位置づけである。
 本講義で日本国憲法の全体像を把握した上で、上記各専門科目へ進んでいってほしい。

(到達目標)

- 【知識】 憲法学および近代立憲主義に関する基礎的知識を身につけている
- 【技能】 憲法学および近代立憲主義を歴史的または社会的問題と結びつける基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】 憲法学および近代立憲主義に関する課題を発見し、法的または政治学的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜・高橋和之補訂『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）
- 長谷部恭男『憲法 第7版』（新世社、2018年）
- 駒村圭吾編『プレスステップ憲法 第2版』（弘文堂、2018年）
- 安藤高行編『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-近代国家の成立と憲法
- 第3回 憲法とは何か③-日本国憲法の基本原理と立憲主義
- 第4回 日本国憲法制定史①-大日本帝国憲法から新憲法制定へ
- 第5回 日本国憲法制定史②-マッカーサー草案から新憲法公布まで
- 第6回 平和主義①-その歴史性
- 第7回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第8回 平和主義③-日本の安全保障と平和主義
- 第9回 人権総論①-人権の歴史
- 第10回 人権総論②-人権の分類と制約
- 第11回 人権総論③-違憲審査の方法と私人間効力
- 第12回 統治機構総論①-国会
- 第13回 統治機構総論②-内閣
- 第14回 統治機構総論③-裁判所
- 第15回 地方自治制度

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題 (30%) + 期末試験 (70%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。
 また、各回内容の復習を行うこと。

日本国憲法原論【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業の概要にも書いたように、憲法関連科目（および公法関係科目）の基礎となる講義なので、まずは本講義を受講してから他の憲法科目を受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法史 平和主義 基本的人権 統治機構

憲法人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 棟形 康平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW220M	◎	○	○		
科目名	憲法人権論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本国憲法が保障する基本的人権について概説する。
各人権の意義や保障内容について把握し、理解することを目指す。
また、現実社会の諸問題にも触れつつ、各人権領域における裁判例などを学習することで、実際の人権保障のありようについて理解することを目指す。

【到達目標】

- 「知識」：憲法学の人権論に関する知識を体系的に身につけている
- 「技能」：憲法学の人権論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 「思考・判断・表現力」：憲法学の人権論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

高藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 長谷部恭男『憲法〔第7版〕』（新世社、2018年）
- 安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論①—イントロダクション
- 第2回 総論②—憲法上の権利の享有主体
- 第3回 総論③—憲法上の権利の限界
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 法の下での平等
- 第6回 思想・良心の自由
- 第7回 信教の自由①—信教の自由の保障
- 第8回 信教の自由②—政教分離
- 第9回 表現の自由①—総論
- 第10回 表現の自由②—各論
- 第11回 学問の自由
- 第12回 職業選択の自由
- 第13回 財産権
- 第14回 生存権
- 第15回 労働基本権

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書・参考書等の該当箇所を読み、予習をする。
講義後は教科書・参考書等の該当箇所や関連文献などを読み、ノートを作成するなどして復習を行う。

憲法人権論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権、憲法上の権利

刑法総論【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW230M	◎	○	○		
科目名	刑法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「刑法総論の体系的展開」(Criminal Law, General Theory)
この講義が対象とする「刑法総論」は、すべての犯罪に共通する法理論と犯罪の一般的な成立要件の体系(犯罪論体系)を考察する領域です。この意味で、刑事法(犯罪と刑罰に関する法)の起点となる科目です。これに対して、「刑法各論」(刑法各論I・II)は、殺人罪や窃盗罪といった個別の具体的な犯罪の成立要件を考察する領域です。
刑法の基本原則や基本概念、犯罪の成否に関する一般的な法理論を体系的に考察するとともに、具体的な事例をもとに講義を展開して論理的思考力を習得することを目的としています。刑法における基本的な思考方法を理解して、刑法の基本的な事項や問題点についての考え方を学んでください。
この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。(到達目標)
【知識】刑法総論に関する基本的な知識を体系的に習得している。
【技能】刑法総論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
【思考・判断・表現力】刑法総論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義で用いたPPTスライド資料を配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。
初回の講義において、テキストや参考書について説明します。
①六法(2021年版・令和3年版)
『ポケット六法』(有斐閣)や『デイリー六法』(三省堂)、『法学六法』(信山社出版)といった「最新の」六法を必携してください(種類・出版社を問わない)。
②刑法総論のテキスト(基本書).....推奨
講義の予習・復習、および自習のため、テキスト(基本書)を必携してください。
只木誠『コンパクト刑法総論』(新世社・2018.06)ISBN: 9784883842766、2,420円(税込)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』6版(有斐閣・2017.03)ISBN: 9784641220997、1,980円(税込)。
- 大塚裕史/十河太郎/塩谷毅/豊田兼彦『基本刑法I総論』3版(日本評論社・2019.03)ISBN: 9784535523838、4,180円(税込)。
- 井田良『講義刑法学・総論』2版(有斐閣・2018.10)ISBN: 9784641139329、4,730円(税込)。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』(有斐閣・2013.04)ISBN: 9784641042896、3,520円(税込)。
- 十河太郎/豊田兼彦/松尾誠紀/森永真綱『刑法総論判例50!(START UP)』(有斐閣・2016.12)ISBN: 9784641139213、1,980円(税込)。
- 佐伯仁志/橋爪隆〔編〕『刑法判例百選I総論』8版(有斐閣・2020.11)ISBN: 9784641115507、2,530円(税込)。

刑法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1) 解説講義とケース・スタディを組み合わせる講義を進めます。
 (2) ケース・スタディでは、解説講義の範囲から重要な論点を取り上げて、この論点を争点とする事例問題に検討を加えます。事例を検討していくなかで、前回の講義で学んだ知識を事案の解決にどのように活用していくのかを学んで、理解を実践的に発展・深化させていきましょう。

※諸事情により進捗状況が前後することがあります。

- 1回 ガイダンス・犯罪論の基本構造
- 2回 刑法の基本原則(1)(違法論の基礎)
- 3回 刑法の基本原則(2)(犯罪の本質・刑罰の本質)
- 4回 罪刑法定主義
- 5回 犯罪論の体系と構成要件該当性
- 6回 実行行為と実行の着手(未遂罪と予備罪、不能犯)
- 7回 中止犯
- 8回 ケース・スタディ(1)【設例01/02】……答案の書き方を中心に
- 9回 因果関係(1)(条件関係)
- 10回 因果関係(2)(法的因果関係)
- 11回 故意論
- 12回 錯誤論(構成要件の錯誤)
- 13回 ケース・スタディ(2)【設例03/04】
- 14回 過失論
- 15回 不作為犯論
- 16回 正当化事由の基礎・正当行為・被害者の同意
- 17回 正当防衛(1)正当防衛の基礎
- 18回 正当防衛(2)過剰防衛・誤想防衛
- 19回 緊急避難
- 20回 ケース・スタディ(3)【設例05/06】
- 21回 責任論の基礎・原因において自由な行為
- 22回 違法性の意識と違法性の錯誤
- 23回 共犯論の基礎(正犯と共犯の区別)・間接正犯
- 24回 共同正犯の基礎(実行共同正犯と共謀共同正犯)
- 25回 共同正犯の諸問題(1)(異なる犯罪の共同正犯・承継的共同正犯・片面的共同正犯)
- 26回 ケース・スタディ(4)【設例07/08】
- 27回 共同正犯の諸問題(3)(共犯と錯誤・共犯と過剰)
- 28回 共犯の従属性と処罰根拠、教唆犯と幫助犯
- 29回 ケース・スタディ(5)【設例09/10】
- 30回 罪数論・科刑論(犯罪の個数と犯罪の競合)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

この他に課題レポートや随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もあります。

※詳細については、初回の講義で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。

講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう。

ケース・スタディでは、提示された事例問題について1,000字から1,500字程度の解答をあらかじめ作成して講義に参加することを勧めます。講義では、自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。講義後に、解説を元にもう一度解答を作成しなおすと一層効果的です。 ※「論理」: 思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この科目を受講した後に、「刑法各論I」および「刑法各論II」を受講することを強く推奨します。さらに、「刑事訴訟法I・II」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。

また、「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法、刑法、刑法総論、刑法各論、犯罪論、刑罰論

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW140M	○	◎	○		
科目名	社会法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、2年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。

この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

(到達目標)

【知識】社会法の意義を理解し、労働法及び「社会保障法に関する基礎的知識を身につけている

【技能】社会法(特に労働法及び「社会保障法)を学ぶための基礎的スキルを身につけている

【思考・判断・表現力】社会法学(特に労働法及び「社会保障法)に関する基礎的な課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。レジュメはMoodle上で事前配布する。
ただし、法律科目であるので、講義中(試験も含め)関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず受講すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度(特に労働保険領域)では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。

おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

- 第1回 イントロダクション～「社会法」とは?
- 第2回 労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
- 第3回 労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
- 第4回 労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
- 第5回 労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
- 第6回 労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
- 第7回 労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
- 第8回 社会保障法の世界①～労災保険って?
- 第9回 社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
- 第10回 社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
- 第11回 社会保障法の世界④～雇用保険って?
- 第12回 社会保障法の世界⑤～基本手当①【支給要件】
- 第13回 社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

社会法総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

対面授業の場合：期末試験...100%

遠隔授業（オンデマンド方式）の場合：コメントシート・ミニテスト等の提出・内容...50%、レポート又は試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

（事前学習） 配布されたレジюмеに目を通し、疑問点を抽出する。

（事後学習） 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1（貧困をなくそう）、8（働きがいも経済成長も）、10（人や国の不平等をなくそう）及び16（平和と公平をすべての人に）の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

親族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW265M	◎	○	○		
科目名	親族法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思い込みがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

(到達目標)

【知識】民法学の親族法に関する知識を体系的に身につけている。

【技能】民法学の親族法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】民法学の親族法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

松川正毅著『民法 親族・相続[第6版]』有斐閣 2019年 2,400円+税

水野紀子他編著『民法判例百選III親族・相続[第2版]』有斐閣 2018年 2,200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円

○泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円

○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円

○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円

○二宮周平『家族法(第3版)』新世社 2009年 3,200円

窪田充見『家族法第4版』有斐閣 2019年 4,300円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的効果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】【普通養子】【特別養子】
- 11回 親子制度③【親権】【身上監護】【子の引渡し】
- 12回 親子制度④【親権】【財産管理】
- 13回 親子制度⑤【親権】【親権濫用】【後見】
- 14回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 15回 相続制度【相続人】【相続分】【相続財産】【遺言】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 定期試験... 60% (状況によりレポート60%に変更することもあります。)

親族法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当部分、参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

「民法入門」を履修し、「民法総則」と併せて履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「親族法」を基礎に家族の財産関係を規律する法である「相続法」も履修するよう心掛けてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW260M	◎	○	○		
科目名	物権法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうち、「担保物権法」の授業で取り扱う内容を除いた部分について講義を行う。全15回の講義を通して、物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

(到達目標)

【知識】民法学の物権法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の物権法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学の物権法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権（第4版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，令和元年） 本体1,900円＋税
このほか、Moodle上で適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，序論(1)【物権の意義と性質】
- 第2回 序論(2)【物権の種類，物権の客体】，物権の優先的効力
- 第3回 物権的請求権，物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記，「対抗」の意義】
- 第5回 不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
- 第6回 不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲，登記の手続】
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 動産物権変動における公示（続き），立木等の物権変動と明認方法，物権の消滅
- 第9回 占有権(1)【意義，占有の成立と態様】
- 第10回 占有権(2)【占有権の取得，占有の効果，占有権の消滅】
- 第11回 所有権(1)【意義，所有権の内容，相隣関係，所有権の取得】
- 第12回 所有権(2)【共有，建物の区分所有】
- 第13回 地上権，永小作権
- 第14回 地役権
- 第15回 入会権，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%，期末レポート...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

民法入門・民法総則を受講済みであることが望ましい。

授業中に条文を参照することができるように，受講時には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を手元に用意しておくこと。

物権法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業で分からないことは放置せず，メール等を利用して積極的に質問して欲しい。
また，新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに，SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして，この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

民法 物権

行政法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 2年次 /Year 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW222M	◎	○	○		
科目名	行政法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

(到達目標)

【知識】行政法学の作用法および組織法に関する知識を体系的に身につけている。

【技能】行政法学の作用法および組織法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】行政法学の作用法および組織法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

行政法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法とは
- 第2回 行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
- 第3回 行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
- 第4回 行政組織(1)【行政組織の概念】
- 第5回 行政組織(2)【国、地方の行政組織】
- 第6回 行政立法(1)【法規命令】
- 第7回 行政立法(2)【行政規則】
- 第8回 行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
- 第9回 行政行為(2)【行政行為の効力】
- 第10回 行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
- 第11回 行政行為(4)【職権取消しと撤回】
- 第12回 行政行為(5)【行政行為の附款】
- 第13回 行政裁量(1)【行政裁量の概念】
- 第14回 行政裁量(2)【裁量の存否】
- 第15回 行政裁量(3)【裁量審査】
- 第16回 行政契約
- 第17回 行政指導
- 第18回 行政計画
- 第19回 行政の実効性確保手段(1)【行政上の強制執行】
- 第20回 行政の実効性確保手段(2)【行政罰】、即時強制
- 第21回 行政調査
- 第22回 行政手続(1)【行政手続の意義】
- 第23回 行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
- 第24回 行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
- 第25回 行政情報(1)【情報公開制度】
- 第26回 行政情報(2)【情報公開争訟】
- 第27回 行政情報(3)【個人情報保護制度】
- 第28回 公法と私法
- 第29回 進度調整
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、中間テスト20%
※授業形式(対面/遠隔)によって、変更することがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 2単位 学期 /Semester 2学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 講義 クラス /Class 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW223M	◎	○	○		
科目名	行政争訟法			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政法総論において勉強した「法律による行政の原理」などの、国民の権利を守るための原理は、行政救済法と呼ばれる領域によってその実効性を確保されます。

行政争訟法では、違法行為の是正を行政自身に求める行政上の不服申立てと、裁判所に求める行政訴訟につき概説し、多くの裁判例を通じて、どのようにして私人が違法な行政活動から救済されるかについて理解してもらいます。

(到達目標)

【1 知識】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する知識を体系的に身につけている。

【2 技能】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【3 思考・判断・表現力】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 = 交告尚史 = 山本隆司編『行政判例百選II[第七版]』(有斐閣, 2017)

判例集だけでなく、各自で自身に合う基本書を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※いずれも授業開始までに新版が出ていればそちらを用いること。

予習復習用に

中原茂樹『基本行政法[第三版]』(日本評論社, 2018)

板垣勝彦『公務員を目指す人に贈る行政法教科書』(法律文化社, 2019)

稲葉馨ほか『リーガルクエスト 行政法[第4版]』(有斐閣, 2018)

より深い理解のために

神橋一彦『行政救済法[第二版]』(信山社, 2016)

行政争訟法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスー行政法総論と行政争訟
- 第2回 行政上の不服申立て
- 第3回 処分性(1)——処分性の概念
- 第4回 処分性(2)——近時の判例における処分性
- 第5回 原告適格(1)——原告適格の判断基準
- 第6回 原告適格(2)——近時の判例
- 第7回 訴えの利益
- 第8回 その他の訴訟要件、取消訴訟の審理
- 第9回 取消訴訟の判決 小テスト(予定)
- 第10回 執行停止制度
- 第11回 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
- 第12回 義務付け訴訟
- 第13回 差止訴訟
- 第14回 当事者訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において行政訴訟の判例を学ぶが、当該事件において問題となった条文を事前に読み込むことなく授業を理解するのは不可能に近い。事前にレジュメのアップロードを行うので、ぜひ条文を参照したうえで各判例を検討しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論を履修していることを前提とする。
また民事訴訟法の科目を履修していることは、本科目の理解において助けになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

判例をかなりの数扱うことになるため、予習を必ず行うこと。

※この授業はSDGs目標10,11に関連しています。

キーワード /Keywords

処分性、原告適格、訴えの利益 当事者訴訟、実効的権利救済

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor 小川 明子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW341M	○	◎	○		
科目名	知的財産法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

知的財産に係る権利について学ぶ。まず、知的財産法全体を概観し、その後特許法と著作権法を中心に講義する。適宜重要判例についても解説する。

(到達目標)

【知識】 知的財産法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 知的財産に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 知的財産法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『たのしい著作権法2019』小川明子 ISBN 978-4-9903935-5-7

『標準特許法第7版』高林龍 ISBN 978-4641243453

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 オリエンテーション、知的財産とは
- 2 知的財産の特色
- 3 発明とは
- 4 特許要件
- 5 権利主体
- 6 特許取得
- 7 特許権と著作権
- 8 著作権の客体
- 9 著作者の権利
- 10 著作者の権利
- 11 著作者人格権
- 12 著作権の主体
- 13 保護期間
- 14 著作隣接権
- 15 テスト、解答解説

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内での小レポート 30%
筆記テスト 50%
平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知的財産に係るニュースに興味を持つこと

知的財産法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

知的財産が如何に日々の生活に係ることかを認識し、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC114M	○	△	◎		
科目名	NPO論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点も必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

（到達目標）

【知識】NPOに関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】NPOについて必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】NPOについて複眼的に思考し、自分の考えや意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック [第5版]』(2010年)。
坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』(法律文化社、2017年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 地域NPO(1)【多機関連携】
- 15回 地域NPO(2)【地縁団体化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。
遠隔授業になった場合も第1回目の講義で授業の進め方や成績評価について説明しますので、必ず視聴するようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210M	◎	○	△		
科目名	政治過程論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

政治過程論とは、市民が選挙で投票をしたり、デモをしたりすることによって政治家に働きかけを行い、それを受けて政治家や官僚が政策を決定・実施し、その政策を受けて市民が再び投票などを行う、といったように政治が機能する過程を理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。本講義では、後述するように政治過程を「入力過程」と「出力過程」に大きく分けて解説していくことで政治過程論における基礎的な概念を身に付け、民主政治における政治過程の概形を把握することをその目的とします。

より具体的には、まず前半では、政治過程を理論的・実証的に分析するとは一体どのような営みなのかということ考えたのち、有権者や利益団体といった市民からなる集団が実際に政治的決定を行う政治エリートに働きかけを行う「入力過程」を扱います。後半では、議員や官僚といった政治エリートたちが政策を決定・実施することで我々市民の生活に影響を与える「出力過程」を扱います。

(到達目標)

【知識】政治過程に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】政治的意思決定の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】政治過程論の観点から、政治現象について論理的に検討し、自らの見解を表現することができる。

教科書 /Textbooks

松田憲忠・岡田浩編 2018. 『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利・田中愛治・真淵勝 2000. 『政治過程論』有斐閣アルマ

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 2008. 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

山田真裕 2016. 『政治参加と民主政治』東京大学出版会

谷口将紀 2015. 『政治とマスメディア』東京大学出版会

政治過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治過程論】【民主主義】【政治システム論】
- 第2回 権力
【権力】【非決定権力】【予測的対応】【観察同値問題】
- 第3回 政治学方法論入門
【因果関係】【理論と実証】【数理分析】【計量分析】
- 第I部 入力過程
- 第4回 政治参加
【投票参加】【投票外政治参加】
- 第5回 投票行動
【政策投票】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 第6回 選挙制度
【多数代表制】【比例代表制】【混合制】
- 第7回 利益団体
【利益団体と圧力団体】【多元主義】【ネオ・コーポラティズム】
- 第8回 マスメディア
【メディア効果論】【プライミング】【フレーミング】
- 第II部 出力過程
- 第9回 政党
【政党システム】【政党組織】【選挙制度と政党】
- 第10回 執政制度とリーダーシップ
【議院内閣制】【大統領制】【拒否権プレイヤー】
- 第11回 議会制度と立法過程
【変換型とアリーナ型】【委員会型と本会議型】【日本の国会】
- 第12回 政策決定過程
【(完全)合理性と限定合理性】【ゴミ缶モデル】【アリソンの3モデル】
- 第13回 官僚制と政策ネットワーク
【官僚優位論と政党優位論】【官僚の政治的統制】【鉄の三角形】
- 第14回 政策実施と政策評価
【実施のギャップ】【第一線公務員論】【政策評価と行政評価】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に臨んでください。
事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・本講義では基礎的な事項の効率的な定着を図るために教科書を指定していますが、講義では教科書の内容に追加・補足をします。講義中のノートテイキング及び復習を重視してください。
- ・スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では公務員試験などを念頭に置いて、先端的な分析ではあまり有用とはみなされていないような古典的な概念なども多く紹介します。しかしそこで試験のための単なる暗記ゲームに墮してしまうのは非常にもったいないですから、どういった点が分析上の欠点となりうるのか、それでもなお現実の政治の一面をよく捉えているといえる部分はないのかなど色々思索をしてみましょう。言論空間はすでに無用な概念でいっぱいですから、むやみに新しい名前を付けたり、使えるものをみだりに捨ててしまったりしないという工口な知的態度を共に身に付けていきましょう。

キーワード /Keywords

政治過程 入力過程と出力過程

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC111M	◎	○	△		
科目名	都市環境論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

これらを知るために、グループ・ディスカッションを行うこともあります。また、私のゼミ生から取り組んでいるアクティビティを通した環境の話を発表してもらいます（藍島、食品ロス削減学生プロジェクト）。

- { 知識 } 都市で生活する上で基礎となる知識を最低限身に着ける。
- { 技能 } 持続可能な都市を作るうえでの技能を獲得する。
- { 思考・判断・表現力 } 持続可能な都市の一員として政策に積極的に関与できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編『環境学習のラーニング・デザイン』キーステージ21、2019年
- * 多田満『レイチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成30年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とならひの説明～途上国の都市との環境比較【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育）、SDGs教育
：簡単な環境意識度チェック【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食ロス削減プロジェクト【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題～SDGsの環境に関する目標との関連【環境政策】
- 第6回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R【廃棄物管理】
- 第7回 フードバンク ～フードバンク北九州ライフアゲインの事例から【フードバンク】
- 第8回 食と農～健康の源＝自らの食を見直そう【食農】
- 第9回 上水道 ；：（アクティビティ＝きき水比べ）【おいしい水】
- 第10回 下水処理をめぐって～下水処理の原理【水質汚濁】
- 第11回 大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？【大気汚染】
- 第12回 北九州市の環境の現状【北九州市】
- 第13回 途上国の都市環境問題【途上国】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々＝ エコツーリズムに関わろう！【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

都市環境論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境首都としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コロナ禍の中でも、予防策を講じ、屋外で環境保全を楽しむことは重要です。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

E S D (持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック、SDGs教育

都市経済論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC113M	○	△	◎		
科目名	都市経済論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。
本講義は、都市の経済的問題を軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。
講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことが、域内産業の特性との関連で見えていきます。
さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。
本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

(到達目標)

【知識】

都市経済に関する基礎的な専門知識を身につけている。

【技能】

都市経済に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市経済に関係する現象を説明するとともに、理論的、学術的な知見を踏まえた解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
 - 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
 - 佐藤泰裕(2014)『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
 - 山崎朗他(2016)『地域政策』中央経済社
 - 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

都市経済論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか? - 都市の発展
6. 都市空間の形成 - 都市システム
7. 都市の成長と衰退① - 土地利用、都市の内部構造
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化と産業構造① - 域外マネーの獲得と域内経済循環
10. 地域経済活性化と産業構造② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興とまちづくり
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末試験50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末試験を受験しない者は、いずれも単位認定の対象外です。
(※新型コロナの状況により期末レポートに切り替える場合がありますが(配点50%は同じ)、その場合は事前にアナウンスします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室してもらいます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。
「地方創生」に関する理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略に関する洞察は不可欠です。
- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC211M	◎	○	△		
科目名	公共政策論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講生には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通してそうした問題意識をもつことを望んでいます。

(到達目標)

【知識】公共政策を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を身につけている。

【技能】公共政策を考察する上で必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】公共政策について、複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチヨークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ベリー幼稚園プログラム）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 ヤングケアラーの問題
- 15回 まとめ～シルバー・デモクラシーと若者政策～

公共政策論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

地方自治論【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD211M	○	△	◎		
科目名	地方自治論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、特に歴史面を中心に基礎理解をめざす。

(到達目標)

- DP3 思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。
- DP2 技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。
- DP1 知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【歴史】【明治の地方自治】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【歴史】【明治大正の地方自治】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【歴史】【戦前期の地方自治】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【歴史】【戦後民主改革】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【歴史】【高度経済期】
- 8回 自治体首長と中央地方関係⑥【歴史】【低成長期以降】
- 9回 自治体首長と中央地方関係⑦【歴史】【1990年代以降の改革】
- 10回 地方分権改革①【機関委任事務の歴史】
- 11回 地方分権改革②【地方議会と首長】
- 12回 市町村合併①【平成の大合併】
- 13回 市町村合併②【合併の効果】
- 14回 現代の地方自治の動き①【地方分権一括法の動向】
- 15回 現代の地方自治の動き②【地方創生など】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

地方自治論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。また、後期の地方行政改革論は地方自治論のより具体的な現代的な課題を講義しますので、セットで受講されるとより学習効果が増します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC217M	○	△	◎		
科目名	福祉政策論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

（到達目標）

【知識】社会福祉サービスについて基礎的な知識を身につけている。

【技能】社会福祉サービスを利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会福祉サービスの課題について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。Moodleなどでの配信はございません。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の民間組織
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 保育所改革（幼保一体化）
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「児童福祉」 少子化対策。男女共同参画をめぐる議論
- 第12回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第13回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第14回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第15回 まとめ

福祉政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%
新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート試験に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

遅刻は授業開始から20分まで認められます。20分経過後の入室を禁止します。指示に従わず着席した人には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC212M	◎	○	△		
科目名	政策過程論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定：Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係])について理解してもらう。

(到達目標)

- 【知識】政策問題をめぐる政治・ 政策過程の知識を修得している。
- 【技能】政策分析に関するスキルを身につけている。
- 【思考・ 判断】政策過程に関する知識を深め、政策事例を分析し、説明する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純貴他著 学陽書房 2004年 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎 新版』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 1992年 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 2011年 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門 第2版』 (草野厚著 東京大学出版会 2012年 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD)
- 4回 政策過程の理論1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策 (政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 12回 本のレポート発表
- 13回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 14回 SDGsのエネルギー・ 食べ物・ 水問題・ 気候危機政策など政策事例を選び、政策過程の分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 30%、 ポスター 30%、 期末試験 40%
(本のレポート発表・ ポスター発表をしない学生は期末試験を受けることができない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・ 事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、ネットワーク。

公共経営論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD212M	○	△	◎		
科目名	公共経営論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業的経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

（到達目標）

- 【知識】公共サービスの民営化・民間委託について基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】公共サービスの課題を理解するうえで必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】公共サービスの課題について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。Moodleなどでの配信はございません。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「公共事業編①」 道路のしくみ
- 第10回 「公共事業編②」 道路公団民営化
- 第11回 「公共事業編③」 道路の必要性
- 第12回 「公共事業編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 非正規職員
- 第15回 「まとめ」

公共経営論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%
新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート試験に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

* 図書館や学校、道路に関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

遅刻は授業開始から20分まで認められます。20分経過後の入室を禁止します。指示に従わず着席した人には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を、他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

特別支援教育論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU263M	◎				
科目名	特別支援教育論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
 - 特別支援教育の教育制度と教育課程
 - 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
 - 自閉スペクトラム症の当事者研究
 - 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
 - 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
 - セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
 - 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
 - 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援(外部講師)
 - 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
 - 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
 - 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
 - インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
 - インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
 - インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校
- 全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月上旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート25点、平常点25点(+ボーナス点)、期末試験 50点

特別支援教育論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

教育相談【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU261M	◎		○		
科目名	教育相談				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。
また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

- 【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

教育相談【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

生徒指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU262M	◎				
科目名	生徒指導論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト

参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

生徒指導論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールカウンセラーとの連携
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールソーシャルワーカーその他との連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点、試験80点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

チャレンジプログラム 1 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE382M			○	○	◎
科目名	チャレンジプログラム 1		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

地域創生学群チャレンジプログラムです。
 ①起業トライアルプログラム
 →お膳立てされた大学という環境から離れ、自ら社会課題解決に向けた事業を企画し、9ヶ月間にわたってそれを実施するというプログラムです。お金、人、場所など、あらゆるリソースを自ら集め、事業を構築して実施します。
 ②リアル就職プログラム
 →実際の企業における長期インターンシッププログラムです。言い訳のできない環境に身を置き、即戦力を目指すというものです。休学せずに、週3日前後のフルタイム勤務を5ヶ月間経験します。
 (到達目標)
 【思考・判断・表現力】特定の課題に対する因果関係の分析をもとに、適切な解決策を見いだすことができる
 【コミュニケーション力】様々な主体との協働により、組織や社会の活動を推進する力を身につけている
 【自立的行動力】地域創生への関心とキャリア意識を持ち続け、主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介しますが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス (目的、概要説明)
 第02回～第14回 実践
 第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対する成果・・・50%
 取り組む姿勢・・・50%

チャレンジプログラム 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<起業トライアルプログラム>

事前)

→事業や仕事で必要となる書籍を読んで学習しておいてください。

→地域創生特講3(1学期)とあわせて、起業トライアルプログラムの進捗共有等およびリアル就職プログラムの事前研修の場とするので、必ずそちらも受講してください。

事後)

→活動期間中は、定期的に進捗報告と振り返りを行ってまいります。

→活動期間中や活動後に報告の場を設け、活動の内容と成果について発表をしてもらう予定です。

<リアル就職プログラム>

事前)

→事業や仕事で必要となる書籍を読んで学習しておいてください。

→地域創生特講3(1学期)の時間とあわせて、起業トライアルプログラムの進捗共有等およびリアル就職プログラムの事前研修の場とするので、必ずそちらも受講してください。

事後)

→期間中、外部コーディネーターによる研修(1ヶ月後研修、ギアチェンジ研修、終了研修)にて、活動の振り返り等を行う予定です。

→活動期間中や活動後に報告の場を設け、活動の内容と成果について発表をもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

履修するには必ずゼミ担当教員の許可を得るようにしてください。

そのうえで、ゼミ活動との両立を図ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本気でぶつかり、挫折や失敗を乗り越え、やり抜くことで大きく成長できる点こそが、一番の魅力です。

チャレプロには2つのメニュー(起業トライアル、リアル就職)があります。前者は自分が考えた事業をオウンリスクで約1年間続けるというもの、後者は週3日のインターンシップに5ヶ月間従事するというものです。どちらも、お膳立てがない環境での実践となるため、たくさんの挫折や失敗に直面し、そのたびに徹底的に自分と向き合うこととなりますが、そのことを通じて、何ものにも代えがたい自分軸を見つけることができます。僕は、この挑戦を通じて学生の皆さんが「ぐんっ!」と成長した姿をそばで見られることに喜びを感じています。

キーワード /Keywords

起業 / 長期インターンシップ

チャレンジプログラム2 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE382M			○	○	◎
科目名	チャレンジプログラム2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

地域創生学群チャレンジプログラムです。

①起業トライアルプログラム
→お膳立てされた大学という環境から離れ、自ら社会課題解決に向けた事業を企画し、9ヶ月間にわたってそれを実施するというプログラムです。お金、人、場所など、あらゆるリソースを自ら集め、事業を構築して実施します。

②リアル就職プログラム
→実際の企業における長期インターンシッププログラムです。言い訳のできない環境に身を置き、即戦力を目指すというものです。休学せずに、週3日前後のフルタイム勤務を5ヶ月間経験します。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】特定の課題に対する因果関係の分析をもとに、適切な解決策を見いだすことができる
 【コミュニケーション力】様々な主体との協働により、組織や社会の活動を推進する力を身につけている
 【自立的行動力】地域創生への関心とキャリア意識を持ち続け、主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介しますが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス (目的、概要説明)
 第02回～第14回 実践
 第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対する成果・・・50%
 取り組む姿勢・・・50%

チャレンジプログラム2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<起業トライアルプログラム>

事前)

→事業や仕事で必要となる書籍を読んで学習しておいてください。

→地域創生特講4(2学期)とあわせて、起業トライアルプログラムの進捗共有等およびリアル就職プログラムの研修の場とするので、必ずそちらも受講してください。

事後)

→活動期間中は、定期的に進捗報告と振り返りを行ってまいります。

→活動期間中や活動後に報告の場を設け、活動の内容と成果について発表をしてもらう予定です。

<リアル就職プログラム>

事前)

→事業や仕事で必要となる書籍を読んで学習しておいてください。

→地域創生特講4(2学期)の時間とあわせて、起業トライアルプログラムの進捗共有等およびリアル就職プログラムの事前研修の場とするので、必ずそちらも受講してください。

事後)

→期間中、外部コーディネーターによる研修(1ヶ月後研修、ギアチェンジ研修、終了研修)にて、活動の振り返り等を行う予定です。

→活動期間中や活動後に報告の場を設け、活動の内容と成果について発表をもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

履修するには必ずゼミ担当教員の許可を得るようにしてください。

そのうえで、ゼミ活動との両立を図ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本気でぶつかり、挫折や失敗を乗り越え、やり抜くことで大きく成長できる点こそが、一番の魅力です。

チャレンジには2つのメニュー(起業トライアル、リアル就職)があります。前者は自分が考えた事業をオウンリスクで約1年間続けるというもの、後者は週3日のインターンシップに5ヶ月間従事するというものです。どちらも、お膳立てがない環境での実践となるため、たくさんの挫折や失敗に直面し、そのたびに徹底的に自分と向き合うこととなりますが、そのことを通じて、何ものにも代えがたい自分軸を見つけることができます。僕は、この挑戦を通じて学生の皆さんが「ぐんっ!」と成長した姿をそばで見られることに喜びを感じています。

キーワード /Keywords

起業 / 長期インターンシップ

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU111M	◎				
科目名	教職論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業に必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点

教職論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提に進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育ててもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- 【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 植物を鍵とした生物間相互作用(真鍋)【共生】【食物連鎖】
- 3回 生命の起源を探る(柳川)【極限環境】【微生物】
- 4回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について(太田)【化石】【ジオパーク】
- 5回 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化(大橋)【恐竜】【脊椎動物】
- 6回 鳥類の生態と進化(中原)【適応放散】【進化的軍拡競争】
- 7回 海産無脊椎動物の行動生態学(竹下)【無脊椎動物】
- 8回 多様性生物学と進化(葦島)【進化】【生物多様性】
- 9回 石の歌がきこえる(森)【岩石】【考古】【文理融合】
- 10回 魚類分類学と多様性(日比野)【ホロタイプ】【分類学の歴史】
- 11回 博物館見学(日高)
- 12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ(野井)【地学と歴史のかかわり】
- 13回 人新世におけるヒトと植物の関係(河野)【人新世】【科学史】
- 14回 課題研究(日高)
- 15回 まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。
- 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

自然史へのいざない【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第7回～第9回は11月28日（日）博物館にて講義と見学の予定。
（博物館までの交通費は自己負担とする）
- ・ 上記以外は遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
- ・ 第1回目Moodleで詳細について説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題(確認テスト、ミニレポート等)100%

生命と環境【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
- ・ 遠隔授業 (オンデマンド動画配信) の予定。
- ・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 (生物担当) および中尾 (物理担当) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

【少人数による対話型（教員と受講生の双方向）の授業】

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑥・⑩山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%

レポート試験：50%

環境問題概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後にレポート試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

安全保障論【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りしたいと思います。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 安全保障と外交
- 自衛隊の海外派遣
- 安全保障の非軍事的な側面
- 日米同盟と自衛隊
- 自衛隊の任務
- 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 海上警備行動
- 企画動画
- 安全保障流の地図の読み方
- スクランブル
- 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(8回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

安全保障論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、YouTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
篠崎 香織 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL003F	◎		○		○
科目名	現代の国際情勢				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第3回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
 - 第4回 阿部 米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
 - 第5回 政所 国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
 - 第6回 政所 国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
 - 第7回 久木 2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
 - 第8回 久木 2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
 - 第9回 篠崎 東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
 - 第10回 篠崎 世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
 - 第11回 リーダー Humour in British Politics (イギリス政治におけるユーモア)【British politics (イギリス政治)】【Protest (抵抗)】【Humour (ユーモア)】
 - 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
 - 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
 - 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
 - 第15回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- ※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回 阿部 9「産業・技術革命」

第5回、第6回 政所 16「平和と公正」

第9回、第10回 篠崎 11「まちづくり」

第12回 白石 17「グローバル・パートナーシップ」

第15回 下野 5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

近代史入門【夜】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストの指定はありません。教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶ歴史
- 第2回 現代の起点としての第一次世界大戦
- 第3回 言論の「中立」化
- 第4回 国際協調体制と戦争の違法化
- 第5回 1920年代の日本と中国
- 第6回 近代日本と災害
- 第7回 政治の大衆化
- 第8回 軍縮をめぐる政治と世論
- 第9回 満洲事変と「熱狂」の創出
- 第10回 政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
- 第11回 日中戦争の諸相
- 第12回 新体制運動
- 第13回 日米交渉・日米開戦
- 第14回 戦時体制下における情報・宣伝・報道
- 第15回 太平洋戦争の終結と聖断

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

近代史入門【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
 - 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
 - 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局
 - 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
 - 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- ※そのほか必要に応じて講義中に指示する

現代社会と文化【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 レポートについての注意と課題レポート①の説明

第7回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第8回 多文化主義の可能性と限界

第9回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第10回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート（3回）60%、毎回の授業課題 40%

毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変わります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
- ・ 受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済みの学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】 情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。
その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

アカデミック・スキルズI【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算)の必須課題に合格しなければならない。

アカデミック・スキルズI【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

- DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
- DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著） 椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業時に指示した文献の講読
- 事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

ことばの科学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけではありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、嘔むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始まります。観察するとは、行動だけでなく、質問にハイ・イイエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難さを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 福田恭介 (2018) ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社

現代人のこころ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：40点
レポート：30点
期末試験：30点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：Moodleにあげた資料を読んでください。
事後：授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート：もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。レポートを書くのは前期で1回限りです。所定の書式は最初の授業で紹介します。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます（事後学習）。
2. 次の時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介するので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

企業と社会【夜】

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8. 働きがい・経済成長、SDGs12. 作る・使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

社会哲学入門 【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

* この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・バトラー』, 青土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？社会って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロック、ルソー、カント）
- 第7回 【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
- 第8回 【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
- 第9回 【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
- 第10回 【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス）
- 第11回 【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
- 第12回 【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
- 第13回 【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
- 第14回 【現代】優生思想って何？：命の法的管理
- 第15回 【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいの？

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 45%
(オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。)
- ・ 期末テスト 55%

* 授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われませんが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

(到達目標)

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 40%

期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

採用予定のテキストが2021年8月頃発行予定のため、授業時に指示させていただきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 志賀信夫・畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・行政の今とこれから』旬報社
 福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
 難波利光・坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済-福祉-国際視点からのアプローチ』大学教育出版
 その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
 事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

メンタル・ヘルス【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めよう行動するかを皆で考える授業である。

（到達目標）【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性（アイデンティティ）の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs（持続可能な開発目標）の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度（40%）②定期試験もしくは期末課題レポート（60%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にしていくことが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

フィジカル・ヘルス【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅でも軽く運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

ビジネス英語I (群 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG131F		◎			
科目名	ビジネス英語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will improve their Business English skills through extensive active learning practice in a variety of simulated business contexts. Students will be expected to communicate in written and spoken form at a lower intermediate level of English. A successful student will actively participate in class and engage in various listening, vocabulary-building, reading, role-playing, and project-based tasks.

(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、ビジネス上のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Get Ready for Business: Preparing for Work (Student Book 1), Vaughan & Zemach, Macmillan LanguageHouse
ISBN: 978-0-2300-3979-7

Price ¥2,730

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and Syllabus
- 2回 Talking about your job
- 3回 Giving contact information
- 4回 Describing routines
- 5回 Describing schedules
- 6回 Asking about company background
- 7回 Describing company business
- 8回 Midterm Project/Presentation
- 9回 Talking about likes and dislikes
- 10回 Making suggestions
- 11回 Answering the phone
- 12回 Taking a message; ending a call
- 13回 Describing and comparing products
- 14回 Understanding advertisements
- 15回 Final Exam Preparation – Units 1-6 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 50%, Participation 30%, Final Exam 20%

ビジネス英語I (群 1 年) 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build relevant vocabulary and Business English communication skills. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語II (群 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG132F		◎			
科目名	ビジネス英語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Students will continue to improve their Business English skills through extensive active learning practice in a variety of simulated business contexts. Students will be expected to communicate in written and spoken form at a lower intermediate level of English. A successful student will actively participate in class and engage in various listening, vocabulary-building, reading, role-playing, and project-based tasks.

(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、ビジネス上のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Get Ready for Business: Preparing for Work (Student Book 1), Vaughan & Zemach, Macmillan LanguageHouse
ISBN: 978-0-2300-3979-7

Price ¥2730

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and Syllabus
- 2回 Making a telephone call
- 3回 Making an appointment
- 4回 Prepositions of place and location
- 5回 Giving a tour
- 6回 Describing a process
- 7回 Checking and confirming
- 8回 Midterm Project/Presentation
- 9回 Talking about graphs
- 10回 Giving a presentation
- 11回 Talking about future plans
- 12回 Degrees of certainty
- 13回 Offering and accepting
- 14回 Giving and receiving compliments
- 15回 Final Exam Preparation – Units 7-12 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 50%, Participation 30%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build relevant vocabulary and Business English communication skills. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

ビジネス英語II (群 1 年) 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
S0W360M		◎	○	△	
科目名	相談援助演習Ⅲ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。とくにグループワークとコミュニティ・ワークについて中心に学びます。

（到達目標）

【技能】社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る技能について総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要な基本的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
- 2回 グループワーク① - 準備期
- 3回 グループワーク② - 開始期
- 4回 グループワーク③ - 作業期
- 5回 グループワーク④ - 終結期
- 6回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域の問題に気づく）
- 7回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（コミュニティワーク企画①）
- 8回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（コミュニティワーク企画②）
- 9回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（コミュニティワーク企画③）
- 10回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（ネットワークング）
- 11回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（社会資源の調整と開発）
- 12回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（活動の評価）
- 13回 実践事例検討①
- 14回 実践事例検討②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企画の準備は、授業外の時間も積極的に活用し、話し合いながら進めること。

履修上の注意 /Remarks

相談援助演習III 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティワーク

相談援助演習Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW361M		◎	○	△	
科目名	相談援助演習Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

実習中の個別的な体験を一般化し、相談援助に係る実践的な知識と技術として習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。

（到達目標）

【技能】社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る技能について総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】ソーシャルワーク支援を行うために必要な基本的なコミュニケーション力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方および注意点の説明
- 2～14回 事例検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習中に自分がかかわった事例や取り組みについて、ディスカッションの中で発言できるよう、各自振り返り作業をきちんと行っていること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助、ソーシャルワーク

地域創生論3 (福祉環境デザイン論) 【夜】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE102M	◎				
科目名	地域創生論3		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義では、成熟社会におけるまちづくりのあり方を、広く福祉・環境の側面から捉え、公共空間、住宅、交通施設などを対象に、バリアフリーや環境に配慮したデザインの背景、意義及びその手法についての基礎的知識を学ぶことを目的とします。建築・土木の専門用語も多数出てきますが、国内外の事例を交えながら分かりやすく概説します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

なし (適宜、レジュメや参考資料を配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中直人編『福祉のまちづくりキーワード事典』学芸出版社
- 土木学会編『日本の交通バリアフリー理解から実践へ』学芸出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (福祉環境デザインとは) 【バリアフリー】、【ユニバーサルデザイン】
- 2回 人間の行動能力と空間【障がい者】、【高齢者】
- 3回 公共空間のデザインI (道路、歩道、広場等) 【有効幅員】、【段差】、【勾配】
- 4回 公共空間のデザインII (公共施設、商業施設等) 【ハートビル法】、【多機能トイレ】
- 5回 北九州市におけるバリアフリーのまちづくり
- 6回 居住空間のデザイン【ライフスタイル】、【バリアフリー住宅】
- 7回 情報機能のデザイン【サイン】、【情報案内】、【色と光】
- 8回 公共交通のデザインI (交通施設) 【交通バリアフリー法】、【駅】
- 9回 公共交通のデザインII (車両) 【交通バリアフリー法】、【交通システム】、【L R T】
- 10回 ドイツにおける持続可能なまちづくり【カーシェアリング】
- 11回 地域運営手法による住民自らのまちづくり【まちづくり協議会】、【維持管理】
- 12回 自転車まちづくり【サイクルシェアリング】、【自転車分担率】
- 13回 ユニバーサルデザインのトピックス【カラーユニバーサルデザイン】、【UDフード】
- 14回 レポート発表会(1)
- 15回 レポート発表会(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% 期末レポート... 60%

主に期末レポートで評価します。提出したレポートを全員の前で発表をしてもらいます。相互のディスカッションを期待します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉のまちづくりに関する情報は皆さんが生活している市街地の中に溢れています。講義で習得した情報を常に意識しながらまちを観察してください。課題がありそうな箇所を見つけた場合は、自らで解決策を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。期末レポートだけ提出しても評価できません。

地域創生論3 (福祉環境デザイン論) 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生論10 (地域文化論) 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
									○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE114M	◎				
科目名	地域創生論10			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域創生学群では多くの場面で、地域活性化やまちづくりといった活動を行う機会が多い。その際、衰退しつつある地域社会において、他の地域に多く存在する財やサービスを提供しても意味がない。つまり、地域社会特有の「地域らしさ」をアピールする必要がある。その際、着目されるのが「地域文化」である。地域文化をいかに活用することによって、地域社会が良い方向に発展するのか、地域文化のあり方について再考するのが、本授業の1つの目的である。

もう一つは、地域社会に対する多様性の問題についての検討である。近年、社会が均質化していくことによって、特定の考え方や行動が一般のと思われ、異質な行動をとる者、異なる価値観を有する者等を地域社会から排除しようとするところがある。かつて、日本における伝統的社会においては、地域それぞれに根差した地域文化が存在し、多様性を確保していたが、価値観や考え方が近年均質化してきている。本授業では、地域文化という視点から、多様な価値観を有する社会についての考察を行うこととする。

< 到達目標 >

【知識】 地域創生に関する専門的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 なぜ地域文化を学ばなければならないのか？
- 第3回 地域文化は必要か - 地域づくり・まちづくりにおける2つの手法 -
- 第4回 新たな地域文化の創造 - 新たな「まち」を作る手法 -
- 第5回 地域資源を文化として利用する
- 第6回 川の文化と社会的弱者の排除①
- 第7回 川の文化と社会的弱者の排除②
- 第8回 川の文化と社会的弱者の排除③
- 第9回 地域社会の多様性を保つための地域文化
- 第10回 世界基準と日本の固有性
- 第11回 地域文化の保全と社会的包摂
- 第12回 まちづくりと食文化
- 第13回 総括と復習
- 第14回 レポート試験 (※レポート試験の日程は前後する可能性があります。)
- 第15回 おわりに

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%
不定期に行う試験(レポート試験も含む)：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に示された自宅で行う課題(宿題)について、自分で調べ、小レポートとして提出して頂く。

地域創生論10 (地域文化論) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は「文化」という名称がついているが、芸術や宗教、芸能、民話等には言及しないため、気を付けていただきたい。
また、本授業では地域文化とは何か？という本質的な「文化論」ではなく、「なぜ地域文化が必要なのか？」という点に重きを置いている。
つまり、地域文化を活用すること、または地域文化を生かすことで社会がどのように変化していくのかについて、詳細な解説を行うものである。

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW100M	◎				
科目名	現代社会と福祉 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

- ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
 - ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
 - ・福祉政策の課題について理解する。
- (到達目標)
【知識】福祉の原理、福祉制度の意義や理念、福祉政策の課題についての知識を修得する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021) 『社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会の変化と福祉①【市民権、福祉国家】
- 3回 社会の変化と福祉②【新自由主義、グローバル化】
- 4回 福祉と福祉政策①【価値、規範】
- 5回 福祉と福祉政策②【福祉施策、社会福祉士】
- 6回 福祉の思想と哲学①【市場の論理、ロールズ】
- 7回 福祉の思想と哲学②【効率性、公平性】
- 8回 社会政策と福祉政策①【雇用、教育、住宅】
- 9回 社会政策と福祉政策②【高齢者、障害者、児童、施設】
- 10回 福祉政策の発展過程①【近代化、経済成長】
- 11回 福祉政策の発展過程②【リスク社会、ポスト産業社会】
- 12回 少子高齢化時代の福祉政策①【福祉元年、地域福祉】
- 13回 少子高齢化時代の福祉政策②【家族機能、人権擁護、虐待問題】
- 14回 ゲストスピーカー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題60% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各授業で課題を出すので、必ず取り組み、指定した日時までに提出すること。未提出や内容が不十分な場合は減点になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW160M	◎	○	△		
科目名	相談援助の基盤と専門職 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

(到達目標)

【知識】ソーシャルワークの基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】ソーシャルワーク実践に関する技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版、2,600円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程II2【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程II3【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程II4【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【夜】

専門教育科目
地域創生科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW120M	◎				
科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

わが国における子ども・家庭を取り巻く社会情勢と生活実態を確認し、子ども・家庭における福祉ニーズへの対応の在り方を考えます。また、現代の状況にふさわしい「子ども・家庭福祉」の考え方を身につけることを目指します。

(到達目標)

【知識】 児童・家庭福祉制度の基礎的な知識を総合的に身につけている。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座 15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第7版」中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 現代社会と子ども・家庭(児童や家庭の定義)
- 3回 子どもの権利擁護
- 4回 子ども家庭福祉の歴史的展開
- 5回 子ども家庭福祉の理念と概念
- 6回 子ども家庭福祉の法制度と実施体制①(児童福祉六法と関連機関)
- 7回 子ども家庭福祉の法制度と実施体制②(その他法機と関連機関)
- 8回 子ども家庭福祉施策の現状と課題①(少子化と子育て支援)
- 9回 子ども家庭福祉施策の現状と課題②(子どもへの虐待)
- 10回 子ども家庭福祉施策の現状と課題③(母子保健・障がい児支援)
- 11回 子ども家庭福祉施策の現状と課題④(社会的擁護・家庭内暴力)
- 12回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑤(少年非行)
- 13回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑥(経済的貧困・ひとり親世帯への支援)
- 14回 子ども家庭福祉施策の現状と課題⑦(支援の実態)
- 15回 子ども家庭福祉の今後の課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日頃の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業に関して教科書を読んで予習すること。事後学習は授業の復習を中心にする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生スキル3 (プロジェクトマネジメント) 【夜】

専門教育科目
地域創生スキル科目

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE202M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル3		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

身の回りの生活や地域活動において、プロジェクトに分類されるものが数多く存在します。プロジェクトとは何かを理解した上で、プロジェクトを成功させるために何に気をつけ、どのように取り組めばいいのかが、ワークを通して理論と実践の両面から学習します。また、プロジェクトの失敗事例を取り上げ、その原因の分析と解決策について学習します。最終的には、実際のプロジェクトで活用できる実践的スキルを身に付けることを目指します。

(到達目標)

【知識】地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している。

【技能】地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている。

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『プロジェクトマネジメント 理論編』(通勤大学 図解PMコース①)第3版 総合法令出版 ￥979
- 『プロジェクトマネジメント 実践編』(通勤大学 図解PMコース②)第3版 総合法令出版 ￥979
- 『プロジェクトマネジメント標準PMBOK入門：PMBOK 第6版対応版』 広兼修著、オーム社 ￥2200

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクション、プロジェクトとは何か
- 2回 プロジェクトマネジメントとは何か
- 3回 何をマネジメントするのか
- 4回 プロジェクト・ライフサイクル
- 5回 プロジェクト目標
- 6回 WBSとは何か
- 7回 WBSの作成
- 8回 ネットワーク図
- 9回 クリティカル・パス
- 10回 スケジュールの作成
- 11回 リスクマネジメント
- 12回 進捗のコントロール
- 13回 事後の振り返り
- 14回 総合課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題...50% 積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、授業計画・内容のタイトルの言葉の意味を中心に各自調べておいてください。

授業後は、各自が参加しているプロジェクトを授業で学んだ視点から捉え、活動に活かすようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

原則、毎回ワークを行う予定です (グループワーク、個人ワークともに行います)。
授業の途中から参加すると課題やワークを全く理解できない可能性が高いため、遅刻は厳禁です。
実際に作業する内容が多いため、正規の授業以外に多くの時間を必要とする場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は興味がないと苦痛になるだけだと思います。
本授業で学ぶ内容は、知識やスキルの積み重ねの形を取ります。
授業を欠席すると、その後の授業内容をきちんと理解できず、苦しむことになります。
授業に毎回出席できるという意思の強い学生のみ履修してください。

キーワード /Keywords

プロジェクト、マネジメント、PMBOK

地域創生スキル12 (リハビリテーション論) 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE216M	○	◎	○		
科目名	地域創生スキル12			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

リハビリテーション論では、リハビリテーションの歴史や理念を理解した上で、障がい者や高齢者、スポーツ選手の怪我など、さまざまな場面における実践方法を身につけることを目的とする。講義の流れとしては、各種障がいに関する知識習得、障がい者のリハビリテーション、高齢者のリハビリテーション、さらにアスリートのリハビリテーションに関して実践（実技）を取り入れながら学んでいく。

<到達目標>

【知識】地域創生に関する専門的な技術を総合的に理解している

【技能】地域創生に関する専門的な技術の基礎を身につけている

【思考・判断・表現力】地域創生の観点から思考し、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リハビリテーションの基本理念
- 3回 リハビリテーションの歴史の変遷
- 4回 疾病と障害①身体障害
- 5回 疾病と障害②知的障害
- 6回 疾病と障害③精神障害
- 7回 障がい者のリハビリテーションの概要
- 8回 障がい者のリハビリテーションの実践
- 9回 高齢者のリハビリテーションの概要
- 10回 高齢者のリハビリテーションの実践
- 11回 アスレティックリハビリテーションの概要
- 12回 アスレティックリハビリテーションの実践①
- 13回 アスレティックリハビリテーションの実践②
- 14回 地域リハビリテーションの実践と課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常授業への取り組み (レポート・ミニレポートを含む) ・ ・ 70%、 期末テスト ・ ・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また毎時間、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明しますので、第一回目から出席してください。また、基本的には講義形式で行いますが、実践法を身につける際には、実技形式で行うこともあります。

地域創生スキル12 (リハビリテーション論) 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW161M	○	◎	○		
科目名	相談援助の基盤と専門職 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

(到達目標)

【知識】ソーシャルワークの基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】ソーシャルワーク実践に関する技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、新聞記事やテレビニュース等を通して福祉に関する時事に関心を持ちましょう。また、講義時に紹介する文献などを読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

社会調査の基礎【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW290M	○	◎	○		
科目名	社会調査の基礎				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会福祉士の業務に必要な社会調査についての基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」（「どうすればいいのか」）を、データに基づいて解釈することにある。
この授業では、社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。具体的には、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。

到達目標

【知識】社会調査の基礎に関する知識を総合的に身につけている。
【技術】社会調査の基礎に関する技術を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】社会調査に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、¥2592
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007、¥3132
- 『社会調査の基礎』、宮本和彦・梶原隆之他編、弘文堂、2019、¥2750
- 『社会調査の基礎』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版、2013、¥2420
- 『社会調査の基礎』潮谷有二・杉澤秀博・武田丈編著、ミネルヴァ書房、2010、¥2860
- 『調査データ分析の基礎』岩井紀子・保田時男、2003、¥3080

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会調査の種類と倫理
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング1【質問文をつくる】
- 第6回 ワーディング2【選択肢の設定と調査票の構成】
- 第7回 サンプリング1【サンプリングとは何か】
- 第8回 サンプリング2【サンプリングの方法】
- 第9回 調査の準備と実査
- 第10回 データファイルの作成
- 第11回 度数分布、代表値、分散と標準偏差
- 第12回 2変数間の関係1【クロス表】
- 第13回 2変数間の関係2【相関係数】
- 第13回 公開されている社会調査データの2次分析
- 第15回 まとめ

社会調査の基礎【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・60%、課題(小テスト)・・・40%
(総合的に判断する。シラバスの到達目標をどの程度達成しているか等も考慮する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

エクセル、ワードの基本的な操作については習熟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んでください。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

現代社会と福祉 2 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW101M	◎				
科目名	現代社会と福祉 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

- ①現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関連について理解する。
- ②福祉政策のニーズと資源について理解する。
- ③福祉政策の課題について理解する。
- ④福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について理解する。
- ⑤福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ⑥相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

（到達目標）

【知識】社会福祉の理念と基礎理論の知識について総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

レジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『新社会福祉士養成講座 現代社会と福祉』中央法規出版

現代社会と福祉 2 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	社会政策の概要	【社会政策】【社会福祉政策】【福祉政策】
2回	福祉の理念と思想		【ノーマライゼーション】【生存権保障】【エンパワメント】
3回	社会福祉サービスと援助活動 1		【生活問題】【ソーシャルワーク】
4回	社会福祉サービスと援助活動 2		【ケースワークの原則】
5回	福祉サービスと援助活動 3		【ケースワーカーとの対話】【ケースワークの原則の事例】
6回	福祉政策の関係領域 1		【社会保障】【社会保険】【社会手当】
7回	福祉政策の関連領域 2		【貧困問題】【生活問題】【格差社会】
8回	福祉政策の関連領域 3		【住宅と福祉政策】【ネットカフェ難民】
9回	福祉政策の関連領域 4		【雇用と福祉政策】
10回	福祉政策の関連領域 5		【人権擁護と福祉政策】【高齢者虐待防止法】【障害者虐待防止法】
11回	福祉政策の関連領域 6		【人権擁護と福祉政策】【児童虐待防止法】【DV防止法】
12回	福祉資源の分配システム		【日本における福祉の多元化】
13回	福祉政策の国際比較 1		【北欧】【福祉国家レジーム】
14回	福祉政策の国際比較 2		【中国の福祉】
15回	福祉政策の国際比較 3		【台湾の福祉】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況 + 課題提出 (70点)、テスト (30点) など、総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：シラバスで記した毎回ごとのキーワードを調べておくこと。

事後学習：①授業中に実施したワークシートの復習、②配布した資料を順番にファイル等に整理し閉じておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「現代社会と福祉 1」を履修済みであることが望ましい。受講していない場合は、あらかじめ『新・社会福祉士養成講座 現代社会の福祉』（中央法規）を事前に学習しておくようしてください。

社会福祉士養成課程の指定科目として開講されるため社会福祉士受験資格取得を前提とした内容であるが、その他の 学生にも理解できるように配慮しているので、教養としても学んで欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「今日の社会福祉問題」について、課題の提出と発表を考えています。日頃から社会福祉について関心を持ち、新聞やニュースなどで情報を得るようになってください。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

コミュニティワーク論【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 政孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW210M	◎	○	△		
科目名	コミュニティワーク論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

少子高齢化や地域の連帯感の希薄化、都市部での地域社会の脆弱化、中山間部の限界集落の問題等、公的なサービスだけでは要支援者を支援することは困難になってきています。

担当者自身が社会福祉協議会で地域福祉業務に携わっているため、授業では、パワーポイント、DVD、配布資料を使用して現場の生の声を伝えながら、地域福祉にかかわる社会資源（機関、団体、人材、資金、制度、情報など）を理解し、地域コミュニティの創造に向けて、住民や専門職がどのような役割を果たしているか理解します。

(到達目標)

【知識】地域福祉における基本的考え方からその推進方法まで総合的に理解している。

【技能】地域福祉の推進に関する技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現】地域福祉に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献として、授業の理解を深めるために「社協コミュニティワーカー黒子読本」を推薦します。
栃木県社会福祉協議会ホームページからダウンロードすることができます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【傾聴】【自己覚知】
- 第2回 地域福祉の推進機関【社会福祉協議会】【地域包括支援センター】【共同基金会】
- 第3回 地域福祉の人材①【自治会】【民生委員児童委員】【福祉委員】
- 第4回 地域福祉の人材②【ソーシャルワーカー】【NPO】【ボランティア】
- 第5回 孤立死防止対策【孤立死】【ネットワーク】
- 第6回 認知症支援【認知症サポーター】
- 第7回 震災からの復興・ゼロからの地域づくり【災害ボランティア】【生活支援相談員】
- 第8回 権利擁護【日常生活自立支援事業】【成年後見制度】
- 第9回 日常生活自立支援事業・成年後見制度事例検討【相談援助】【多職種連携】
- 第10回 集合住宅及び集落における支え合い【住民参加型サービス】【住民主体】【介護予防】
- 第11回 ソーシャルワークの方法【タスクゴール】【プロセスゴール】【リレーションシップゴール】
- 第12回 事例検討①
- 第13回 事例検討②
- 第14回 地域福祉活動計画の実際【地域福祉計画】【地域福祉活動計画】
- 第15回 福祉教育の考え方と推進方法

コミュニティワーク論【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・30% 期末試験（レポート）・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：【キーワード】について、理解を深めておいてください。

事後学習：興味関心を持った授業内容について、参考書・福祉関係雑誌・新聞などでさらに調べてみてください。
また、実際に地域のボランティア活動にも参加して、地域住民の熱意を体感してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分が住んでいる地域の、地域福祉にかかわる機関・団体・人材などを調べて積極的に地域行事に参加すると、より理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW220M	◎		○		
科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③高齢化の現状や介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤認知症について理解する。⑥認知症高齢者のケアと施策について理解する。⑦高齢者虐待に関する法と現状について理解する。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

(到達目標)

【知識】 高齢者の生活実態と取り巻く社会情勢に関する知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】 高齢者福祉に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 社会保障の意義と機能
- 第2回 高齢者福祉制度の発展過程【明治から福祉3法まで】
- 第3回 高齢者福祉制度の発展過程【福祉6法から日本型福祉社会】
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程【福祉見直し論から高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程【介護保険制度の成立】
- 第6回 高齢者福祉制度の発展過程【後期高齢者医療制度創設】
- 第7回 高齢者の特性と疾病
- 第8回 少子・高齢社会の現状【高齢化の要因、人口高齢化の現状】
- 第9回 少子・高齢社会の現状【今後の人口構成の動向、人口高齢化の地域差】
- 第10回 少子・高齢社会の現状【人口高齢化の速度と国際比較、家族構成の変化】
- 第11回 高齢者の福祉ニーズと生活実態
- 第12回 介護の概念と介護予防
- 第13回 認知症高齢者の現状
- 第14回 認知症ケアの制度と施策
- 第15回 高齢者虐待と虐待予防の取組み

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 授業への参加態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW221M	◎		○		
科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度IIは介護保険制度を中心に、以下の内容の理解をねらいとして進める。①介護保険制度成立の経緯について理解する。②介護保険制度の仕組みについて理解する。③介護保険法の組織や団体など制度の運営に関わる組織や団体の役割と実際等について理解する。④地域包括支援センターの役割と地域包括ケアシステムについて理解する。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職の役割等について理解することができる。

(到達目標)

【知識】高齢者への支援に関する知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】高齢者福祉に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢化の現状と将来推計(認知症高齢者の将来推計)
- 第2回 介護保険制度創設の背景
- 第3回 介護保険制度創設後の見直し【介護保険法の見直し】
- 第4回 介護保険制度の枠組み【介護保険制度の基本理念】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【保険者、被保険者】【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【介護保険制度の財源構成、保険料】
- 第7回 介護保険制度の仕組み【保険給付、介護度の判定、制度の利用】
- 第8回 介護保険制度の仕組み【給付の仕組みと利用者負担、利用できるサービス】
- 第9回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第10回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における組織及び団体の役割と実際】
- 第11回 介護保険法における介護報酬
- 第12回 介護保険制度の運営【専門職の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 授業への参加態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 /Instructor 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW222M	◎		○		
科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史を学ぶとともに、変遷をたどってきた障害者施策を概観し現在の到達点を知ること、併せて「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を学ぶことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらに「障害者虐待防止法」及び「障害者差別解消法」の内容と背景を学ぶことを通して、障害のある人への権利擁護、「合理的配慮」の意義と目的について理解を深める。

その理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する、援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

(到達目標)

【知識】 障害者の生活実態とその支援に関する知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】 障害者福祉に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編集 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第6版
中央法規出版
その他適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。
- 第2回 障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
- 第3回 「障害」とはなにか。 「障害の概念と構造的理解」
- 第4回 障害福祉施策の変遷 「障害者権利条約に至るまでの歴史」
- 第5回 障害福祉に関する諸制度について 「法律における定義と制度利用との関連」
- 第6回 障害者総合支援法の理念と概要 「理念と目的、支給決定プロセス」
- 第7回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
- 第8回 障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
- 第9回 障害児に対する支援 「障害児福祉施策の経過と現状」
- 第10回 障害のある人の「働きたい」を支える 「就労支援」
- 第11回 障害のある人の権利を守るということ① 「障害者虐待防止法に関連して」
- 第12回 障害のある人の権利を守るということ② 「障害者差別解消法に関連して」
- 第13回 障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
- 第14回 障害のある人への支援に必要な視点と基本姿勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：80% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

様々なメディアや書籍に取り上げられる障害者に関するニュースや話題に関心を寄せること。授業終了後には配布した資料をファイル化し、回復できる状態にしておくこと。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 /Instructor 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW262M	△	◎	○		
科目名	相談援助の理論と方法 1		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「相談援助の理論と方法I」では、相談援助をソーシャルワークと同意語と捉え、人と環境との交互作用に関する理論、対象となる者への理解、及び援助関係構築に関する理論と方法について学習し、ソーシャルワークの基礎理論を深める。
 その学習をもとに実践する場合の展開過程を丁寧に辿り、各段階の目的や内容、展開方法を理解する。さらにソーシャルワークを実践するために重要となる視点と基本姿勢を学び、必要な技術・技法を学習する。
 (到達目標)
【知識】 ソーシャルワーク実践の基礎的な知識を総合的に理解している。
【技能】 ソーシャルワーク実践に関する技術を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】 ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編集「新 社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法I 第3版」
中央法規

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて 授業の中で紹介する。
 その他 適宜 資料プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|------|------------------------|--------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス | 「相談援助の理論と方法I」で何を学ぶのか。全体の講義の概要。 |
| 第2回 | 相談援助とは | 「ソーシャルワークの定義と枠組み・対象の理解」 |
| 第3回 | 相談援助の構造と機能 | 「ソーシャルワーカーの役割」 |
| 第4回 | 人と環境の交互作用 | 「システム理論とソーシャルワーク」 |
| 第5回 | ジェネラリスト・ソーシャルワークについて | |
| 第6回 | 相談援助における援助関係 | 「援助関係の構造や援助者の自己覚知について」 |
| 第7回 | 相談援助の様々な実践モデルとアプローチ | |
| 第8回 | 相談援助の展開過程I | 「ケース発見から問題把握・ニーズ確定まで」 |
| 第9回 | 相談援助の展開過程II | 「アセスメントからプランニングまで」 |
| 第10回 | 相談援助の展開過程III | 「プランニングから支援の実施へ」 |
| 第11回 | 相談援助の展開過程IV | 「モニタリングから地域の課題表出へ」 |
| 第12回 | 相談援助のための面接の技術 | 「面接技術および意義と目的」 |
| 第13回 | 相談面接を展開する基本の技法 | |
| 第14回 | 相談援助における記録の意義と倫理について | |
| 第15回 | 相談援助における個人情報の保護の意義と留意点 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テレビや新聞などのメディアや書籍で扱われている、貧困や労働問題、高齢者や障害者に関すること等々、様々な社会問題について積極的に関心を持ち、どんな機関や専門家が関わっているのかについて知識を深めること。
 授業で配布した資料を見直しができるようファイル化すること。

相談援助の理論と方法 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW263M	△	◎	○		
科目名	相談援助の理論と方法 2		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ソーシャルワークにおける対象者の理解、支援過程の理解、および支援計画やネットワークの重要性について学ぶ。また社会資源の活用やソーシャルアクションの意義についての理解を深める。さらにはそれらを活用し、スーパービジョンやコンサルテーションがおこなえる知識を養う。

(到達目標)

【知識】 ソーシャルワーク実践の基礎的な知識を総合的に理解している。

【技能】 ソーシャルワーク実践に関する技術を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

弘文社『社会福祉士シリーズ 8 相談援助の理論と方法II』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ミネルヴァ書房『社会福祉小六法』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 『オリエンテーション』 ソーシャルワークにおける価値と尊厳
- 第2回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(1)』 個人
- 第3回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(2)』 集団
- 第4回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(3)』 地域
- 第5回 『ソーシャルワークにおける対象の理解(4)』 施策・計画
- 第6回 『ケースマネジメントにおける支援過程の理解(1)』 インテーク
- 第7回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(2)』 アセスメント
- 第8回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(3)』 プランニング
- 第9回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(4)』 支援の実際
- 第10回 『ケースマネジメントにおける支援展開過程の理解(5)』 モニタリングとフィードバック
- 第11回 『さまざまな実践モデル・アプローチ さまざまな実践モデル』
- 第12回 『アウトリーチの活用』
- 第13回 『ネットワーキングと学際的支援』
- 第14回 『ソーシャルアクションについて』
- 第15回 『スーパービジョンとコンサルテーション』

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60%、レポート20%、受講態度20%
 なお講義開始30分を越えての入室は欠席扱いとする
 全講義の3分の2を下回る出席は評価対象としない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定教科書、関連図書、参考文献等に事前に目を通しておくこと
 事後には配布資料、ノートの整理を行ない理解を深めること

相談援助の理論と方法 2 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ケースマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

相談援助の理論と方法3 【夜】

担当者名 /Instructor 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW264M	△	◎	○		
科目名	相談援助の理論と方法3		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

- 講義の主なねらいは、次のとおりです。
 - 地域福祉実践を検証する原理・原則、枠組み・指標について学ぶ。
 - 地域福祉の問題や課題を構造的・総合的に把握する方法について学ぶ。
 - 地域福祉実践を幅広い視野と多面的な角度から捉えることを学ぶ。
 - 地域福祉の実践的援助技術について学ぶ。
 - ソーシャルワーク・アプローチ(実践モデル)の多様性について学ぶ。
 - 理論と技術の社会的背景について学ぶ。
 - “超高齢・少子・人口減少・単身社会”の加速といった社会構造の変化と影響についての認識を深める。
 - 今後の福祉改革を貫く基本コンセプト「『地域共生社会』の実現」に基づく関連法の改正と実践の変容(重層的支援体制整備事業を注視する)について知る。
- 次の7つのテーマに重点を置いて授業内容を構成します。授業内容のメインは、コミュニティソーシャルワーク(CSW)です。
 - 社会的背景を踏まえながら、コミュニティについての基礎理論、地域福祉を進める援助技術の系譜への理解を促す。
 - 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革、施策・事業の統合と再編等を軸とする関連政策動向(大状況)の分析を行い、地域福祉実践の今日的な位置・役割や課題についての認識を深める。
 - 代表的な思考法(有用な「ビジネスフレームワーク」の活用を含む)、住民の流儀による地域福祉推進の考え方や手法について学ぶ。
 - 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 - 地域福祉を進める援助技術の全体像について理解を深める。
 - 実践事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワーカーの役割と機能を学ぶ。
 - 住まい・住まい方、死後委任事務、権利擁護、生活支援、居場所、個人情報、生活困窮者支援、相模原事件に象徴される社会的事象、自然災害への備え等の今日的課題のポイントについて学ぶ。
- 到達目標
 - 知識
ソーシャルワーク実践の基礎的な知識を総合的に理解している。
 - 技能
ソーシャルワーク実践に関する技術を総合的に身につけている。
 - 思考・判断・表現力
ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

相談援助の理論と方法3 【夜】

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。講義資料として、数回に分けて事前にプリントを配布します。必要に応じて、小冊子やリーフレット類を当日配布します。
事後学習のサポートが必要な場合は、授業のテーマへの理解を促す関連資料（地域福祉活動計画の重点項目を説明する資料等）を、当該時事業終了後は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は使用しません。
参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書等を必要に応じて紹介します。
参考書、補助教材ではありませんが、講義の理解度を高めるためには、次の図書が有効です。①三塚武男「生活問題と地域福祉」・「住民自治と地域福祉」、②井岡勉・成清義治「地域福祉論」、③高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘「ソーシャル・ワークを考える」、④久保紘章・副田あけみ「ソーシャルワークの実践モデル」、⑤大橋謙策「ケアとコミュニティ」、⑥小野達也「対話行為を基礎とした地域福祉の実践」、⑦真田是著作集第4巻、⑧コミュニティソーシャルワーク実践研究会「コミュニティソーシャルワークと社会資源開発」、⑨浅井春夫「『子どもの貧困』解決への道」⑩河合雅司「未来の年表」、⑪山崎史郎「人口減少と社会保障」、⑫大牟羅良「ものいわぬ農民」、⑬木下大生・藤田孝典「知りたい、ソーシャルワーカーの仕事」、⑭伊藤周平「消費税増税と社会保障改革」、⑮岡田知弘「地域づくりの経済学入門」、⑯広井良典「人口減少社会のデザイン」、⑰津久井進「災害ケースマネジメントガイドブック」、⑱平松類「老人の取扱説明書」、⑲山崎章郎「死の体験事業」、⑳宮下和裕「地域から創る民主主義」。
※⑩・⑪・⑫・⑬・⑭は単行本で、読みやすい図書です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 認定特定非営利活動法人「抱樸」の存在感
【地域共生社会をつくるための理念、パンデミックを生きる指針、居住支援の意義と視点】
 - 2回 コミュニティソーシャルワーカーの働き(1) コミュニティソーシャルワーカーが応援する地域づくり
【社会的孤立とリスクの連鎖、共生支援、社会的つながりが弱い人への支援あり方】
 - 3回 コミュニティソーシャルワーカーの働き(2) 地域ケア会議の「住民主体の地域づくり」に向けて
【「内省と対話」から「戦略」・「戦術」に至るプロセス、現象・パターン・構造化のプロセス】
 - 4回 コミュニティソーシャルワーカーの働き(3) 社会福祉援助技術上のポイント
：対話実践①ナラティブ・ソーシャルワークの展開 ②オープンダイアログに学ぶ命の支え方
【「御用聞き」という「無知の姿勢」、資源の限界への挑戦】
 - 5回 コミュニティソーシャルワーカーの働き(4) 実践上のポイント
：エンパワメントの理論と技術の活用
【相乗エンパワーモデル、カ動エンパワーモデル、可塑性・多様性・全体性】
 - 6回 コミュニティソーシャルワーカーの働き(5) 困難な危機の時代に生きるソーシャルワーカー像
【人権論的福祉論、津久井やまゆり園事件、IFSWのソーシャルワークの定義】
 - 7回 個別支援と地域支援(1) 個別支援と地域支援の関係
【地域自立生活を支援するベクトル、地域福祉を進める援助技術を有効に機能させる要件】
 - 8回 個別支援と地域支援(2) CSWが行う個別支援の基本
【多重・複合問題の基本的事項、チーム形成とチームアプローチ】
 - 9回 個別支援と地域支援(3) 地域を基盤としたソーシャルワーク(CSW)のポイント
【基本的視座と機能、CSWの機能を展開できるシステム】
 - 10回 個別支援と地域支援(4) 論考の基本
【社会福祉の3元構造論、社会福祉の主体論、自治型地域福祉の提案】
 - 11回 個別支援と地域支援(5) 論考に関連する基本事項
【住民の定義、個人情報保護法制の正しい理解、災害時要援護者支援制度(避難行動要支援者名簿の活用等)】
 - 12回 コミュニティソーシャルワーク実践の具体的プロセス(1) 地域の全体像の把握から戦略の立案まで
【地域アセスメント、フレームワークによる地域の現状分析と取組みの手順・戦略・戦術の立案】
 - 13回 コミュニティソーシャルワーク実践の具体的プロセス(2) 社会資源の開発①原則
【地域を過去・現在・未来の変化のプロセスで捉える、ストレングス・リングの発見】
 - 14回 コミュニティソーシャルワーク実践の具体的プロセス(3) 社会資源の開発②実践知のポイント
【基本的視座、個別支援・地域支援を軸とした開発、開発のプロセス、ナレッジマネジメント】
 - 15回 コミュニティソーシャルワーク実践の具体的プロセス
(4) コロナ禍の地域福祉実践とアフターコロナへの展望
【はなれてつながる実践、コロナ禍での気づき、重層的支援体制整備事業】
- ※授業の様子を見ながら、講義の順番を入れ替えることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、あらかじめ配布したプリントを読み、授業内容についてのイメージづくりを行ってください。
事後学習は、毎回授業の始めに行う前回講義のポイント解説に基づき、重点的に行ってください。
ホワイトボードには、プリントに記載の特に重要な内容に関する詳細な説明や、プリントにはない補足的内容を板書しますので、書き写したノートを読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

相談援助の理論と方法 3 【夜】

履修上の注意 /Remarks

講義のメモを丹念にとること（特に、ホワイトボードに板書した内容）。
授業中の私語は禁止します。
講義の途中で構わないので、不明な点などについてはその都度質問してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の一方的押し付けに終わらないよう、講義内容に関する履修者の希望や意見をできるだけ取り入れた授業にしていきたいと、いつも考えています。どうぞ、いつでも注文をつけてください。授業中でも、授業後でも構いません。努力します。また、講義内容が概念的過ぎても具体的過ぎても伝わりにくいと感じています。興味がある具体的テーマや実践事例などがあれば、ぜひ教えてください。解説します。

キーワード /Keywords

- ・ 地域福祉理念の真髄は・・・社会運動（主権者運動・当事者運動）、住民自治、地域分権、主体形成、人間の尊厳と社会正義、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション
- ・ 援助技術の核心は・・・ソーシャルアクション（“優しい暴力”の排除）、エンパワーメント、創発、合理的配慮、構造主義的援助論
- ・ 地域福祉実践の重点は・・・無縁社会の克服、自然災害への備え、ネットワーキング、権利擁護、地域包括推進体制の確立、総合化・統合化、社会変革と政策提言、「縁」、つながり、排除しないまちづくり、孤立と縮小を乗り越える、寄り添い型・伴走型支援、社会的処方、生活実態の解明、ICTの活用
- ・ 学習のポイントは・・・原理・原則、パラダイム、指標、社会的背景（「貧困」、変化・推移）、援助対象の理解

社会保障論 1 【夜】

担当者名 /Instructor 安川 渉寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW140M	◎				
科目名	社会保障論 1				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得におけるシラバスに基づき、以下の内容で構成される。

- ①現代における社会保障制度の課題
- ②社会保障の概念、理念、対象等
- ③社会保障の歴史的展開
- ④社会保障の構造
- ⑤諸外国における社会保障制度の概要 等

国家試験合格に向けた基本的知識、制度のスキーム等の形式的な知識の習得と、現状の課題等における意識醸成等を実践的な視点をもって展開する。

(到達目標)

【知識】現代社会における社会保障の基礎的な知識を総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

川村匡由編著 「改訂 社会保障(福祉ライブラリ)」 建白社 2,800 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米社会における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障制度の歴史的展開
- 第5回 社会保障の費用と財源
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1 - 年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2 - 雇用、社会福祉
- 第10回 社会保障制度の体系3 - 生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席、課題提出、意欲等)及び期末試験の合算で評価する。
原則割合は、平常点等(30点)、期末試験(70点)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書及び提供資料等の読み込み
事後学習：講義で学んだ内容の復習

社会保障論 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障とは、特別な法制度や特定の対象者のみ関わるものではなく、全てが対象であるとともに、それは身近な何かであると思っています。そのことを踏まえ、まずは現状の社会保障についてインプットし、その後はアウトプットできるような講義を展開したいと考えています。

キーワード /Keywords

社会保障論 2 【夜】

担当者名 /Instructor 安川 渉寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW240M	◎		○		
科目名	社会保障論 2			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得におけるシラバスに基づき、以下の内容で構成される。

- ①現代における社会保障制度の課題
- ②社会保障の概念、理念、対象等
- ③社会保障の歴史的展開
- ④社会保障制度の体系
- ⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容
- ⑥諸外国における社会保障制度の概要 等

国家試験合格に向けた基本知識、制度のスキーム等の形式的知識の習得と、現状の課題等における意識醸成等を実践的な視点をもって展開する。

(到達目標)

【知識】社会保障制度の体系と概要の知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】社会保障に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

川村匡由編著「改訂 社会保障(福祉ライブラリ)」 建白社 2,800円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障の概要 ~役割と範囲、機能~
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題 ~少子高齢化と人口減少~
- 第3回 欧米社会における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障制度の歴史的展開
- 第5回 社会保障の費用と財源 ~部門別、機能別、負担率~
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1 - 年金、医療、介護、労災 ~ケースワーク~
- 第9回 社会保障制度の体系2 - 雇用、社会福祉 ~ケースワーク~
- 第10回 社会保障制度の体系3 - 生活保護、家族手当 ~ケースワーク~
- 第11回 社会保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度【北欧諸国、ドイツ】 ~日本の制度における類似点と今後の課題~
- 第14回 諸外国の社会保障制度【イギリス、アメリカ】 ~日本の制度における類似点と今後の課題~
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席、課題提出、意欲等)及び期末支援の合算で評価する。

原則割合は、平常点(30点)、期末試験(70点)とする。

社会保障論 2 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書及び提供資料等の読み込み
事後学習：講義で学んだ内容の復習

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障とは、特別な法制度や特定の対象者のみ関わるものではなく、全てが対象があるとともに、それは身近な何かであると思っています。その事を踏まえ、まずは現状の社会保障についてインプットし、その後にアウトプットできるような講義を展開したいと考えています。

キーワード /Keywords

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW241M	◎		○		
科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

近年の日本社会では、経済の長期停滞、労働環境の変化、少子高齢化の進展などを背景として、貧困と格差が拡大し、それとともに経済的給付だけでは解決しがたい生活の質に関する諸問題の拡大や深刻化も懸念されています。低所得者支援と生活保護制度に関するこの授業では、以下の内容と到達目標に基づいて講義を行います。

《授業内容の概要》

第1部「現代の貧困問題とその対策」では、現代の貧困問題および低所得者層の福祉需要ならびに福祉国家における対策の全体像について学習します。

第2部「公的扶助の歴史と生活保護制度」では、公的扶助の歴史と生活保護制度の成立、および生活保護制度における保護と自立支援の実際について学習します。

第3部「近年における低所得支援の基調転換と新制度」では、近年の貧困対策と低所得者支援の改革動向について学習し、その現代的課題と新たな諸制度について学習します。

《到達目標》

【知識】低所得階層の生活実態とその支援の知識を総合的に理解している

【思考・判断・表現力】低所得者に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる

教科書 /Textbooks

パワーポイント資料（開講時に配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会「低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版」中央法規 ￥2,376

岩田正美監修・著「公的扶助論-低所得者に対する支援と生活保護制度【第3版】」MINERVA社会福祉士養成テキストブック14 ￥2,600

岩田正美「現代の貧困」筑摩書房（格差社会やワーキングプアなど、現代の貧困に迫るものです）

小山進次郎「改訂増補 生活保護法の解釈と運用」全国社会福祉協議会（立案者による生活保護法の逐条解説です）

柴田滋著「社会法総論」大学教育出版 ￥2800（排除・貧困対策法制の全体像を考察するものです）

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の計画に従って講義を行い、適宜質疑と討議を行います。

【第1部】 現代の貧困問題とその対策

- 第1回 貧困の概念 絶対的貧困と相対的貧困、相対的剥奪、相対的貧困線、社会的排除、潜在能力の欠如
- 第2回 現代の貧困 社会的排除と貧困の拡大、貧困に伴う現代の生活問題、低所得者層の福祉需要
- 第3回 貧困の原因と対策 貧困の社会的要因と個人的要因、社会的リスク、福祉国家と社会権的人権
- 第4回 福祉国家と公的扶助 日本国憲法と生存権、社会保障の4つの保障方法、公的扶助の意義と役割

【第2部】 公的扶助の歴史と生活保護制度

- 第5回 公的扶助の歴史 ヨ - ロッパと日本の救貧の歴史、生活保護制度の誕生と展開、現行生活保護制度の特徴
- 第6回 生活保護制度 (I) 生活保護制度の目的と保護の原理・原則
- 第7回 生活保護制度 (II) 保護給付と保護の実施機関
- 第8回 生活保護制度 (III) 最低生活費の算定
- 第9回 生活保護制度 (IV) 資産調査と収入認定
- 第10回 生活保護制度 (V) 被保護者の権利義務、費用負担
- 第11回 生活保護制度 (VI) 被保護者の現況と援助活動

【第3部】 近年における低所得支援の基調転換と新制度

- 第12回 海外の公的扶助の特徴と改革動向 欧米の公的扶助の特徴、アクティベーション
- 第13回 我が国の低所得者施策の基調転換 「小さな政府」と自立・連帯の推進、国民負担と経済
- 第14回 第2のセーフティネット構想 求職者支援制度、生活困窮者自立支援制度
- 第15回 その他の低所得者支援施策 ホームレス自立支援制度、生活福祉資金貸付制度、無料低額診療制度

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習への取り組み (比重30%)、定期試験 (比重70%) により、評価を行います。
定期試験では、上記の学習到達目標に属する事項について、筆記試験を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

開講にあたって、講義全体の要点をまとめたパワーポイント資料を配布するので、この資料及び参考書などによって予習および事後の学習に心がけてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

現代の貧困問題は複雑化・多様化しつつ拡大する傾向にあるといえます。貧困に関するいろいろな問題のうち、関心を持てるテーマを選択して自分なりの探究を継続しながら授業に臨んでほしいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

疑問や授業についての感想など、積極的にコメントするように心がけてください。自由かつ積極的に質問や意見交換がおこなわれることを期待します。

キーワード /Keywords

絶対的貧困と相対的貧困、潜在能力の欠如、社会的排除、見えない貧困、貧困の連鎖、エリザベス救貧法と恤救規則、残余的と制度的の福祉モデル、生活保護基準と資産調査、福祉事務所、自立支援プログラム、アクティベーション、第二のセーフティネット、生活困窮者自立支援法

人体の構造と機能及び疾病【夜】

担当者名 /Instructor 島 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW230M	◎		○		
科目名	人体の構造と機能及び疾病 <small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>				

授業の概要 /Course Description

講義形式が主体であるが、適時、事例などの資料を活用しGWや演習を行う。
食・活動・排せつ・休養・睡眠などの生活行動を司る人体構造と機能についての概要、生活機能を低下させる主な疾病・障害についての概要、機能低下の回復過程としてのリハビリテーションについての概要を学ぶ内容が主な柱となる。

(到達目標)

【知識】心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】人体に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時、授業内で紹介する。事前準備は不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 人の成長・発達と老化①・・・身体の成長・発達 精神の成長・発達について学ぶ
2. 人の成長・発達と老化②・・・老化について学ぶ
3. 身体構造と心身の機能①・・・人体の部位の名称について・水分と脱水・血液の成分・心臓の構造と循環系について学ぶ
4. 身体構造と心身の機能②・・・呼吸器・消化と吸収・神経の構造と機能について学ぶ
5. 身体構造と心身の機能③・・・内分泌器官・生殖器・支持運動機能・感覚器・皮膚・身体機能の調節について学ぶ
6. 疾病の概要①・・・生活習慣病と未病・悪性新生物・脳血管疾患について学ぶ
7. 疾病の概要②・・・心疾患・高血圧・脳血管疾患について学ぶ
8. 疾患の概要③・・・血液疾患と膠原病・腎臓疾患・泌尿器疾患・骨・関節疾患について学ぶ
9. 疾患の概要④・・・目、耳の疾患・感染症・神経疾患と難病・先天性疾患・その他高齢者に多い疾患・終末期医療と緩和ケアについて学ぶ
10. 障害の概要①・・・視覚障害・聴覚障害・平行機能障害・肢体不自由・内部障害について学ぶ
11. 障害の概要②・・・発達障害・認知症について学ぶ
12. 障害の概要③・・・高次脳機能障害、精神障害について学ぶ
13. リハビリテーションの概要・・・リハビリテーションの定義、対象、リハビリテーションの障害評価、諸段階、4つの側面について学ぶ
14. 健康のとらえ方①・・・健康の概念について、WHO憲章による健康の定義、その他の定義・国民の健康づくりについて学ぶ
15. 健康のとらえ方②・・・感染症対策・労働衛生・歯科保健・環境保健・学校保健について学ぶ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・定期試験・課題レポートで評価する。

課題レポートのテーマは授業内で提示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で配布した資料などを活用し、授業内容の確認、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、予め教科書に目を通しておくこと。

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【夜】

担当者名 /Instructor 金蔵 常一 / 金蔵常一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW231M	◎		△		
科目名	保健医療サービス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業は、社会福祉士国家試験受験資格取得の必須科目となっています。従って、受験対策に向けた内容を盛り込むのは勿論ですが、同時に、近い将来、保健医療施設や社会福祉施設で働くことを目指す学生が最低限度必要な知識を学べる機会にとしたいと考えています。

(到達目標)

【知識】ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療サービスの知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】保健医療サービスに関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

「保健医療サービス」(新・社会福祉士養成講座)第5版、社会福祉士養成講座編集委員会(編集)、中央法規出版、2017.02を主に用います。必ず購読してください。なお、講義では教科書や参考書などの中で重要なポイントをまとめた資料を毎回配布いたします。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「医療福祉総合ガイドブック 2020年度版」編集：NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会、医学書院の購読をお勧めします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに「社会福祉専門職として保健医療サービスを学ぶ意義とは」
- 第2回 戦後の保健医療政策の動向と今日的課題
- 第3回 医療保険制度と診療報酬制度の基本的仕組み
- 第4回 医療・介護費用の負担軽減制度(高額療養費制度、高額医療・介護合算サービス費、自立支援医療制度)について
- 第5回 介護保険・介護報酬制度の基本的仕組み
- 第6回 医療法上の保健医療施設の種類と機能
- 第7回 診療報酬制度上の医療施設の種類と機能
- 第8回 介護保険法上の介護保険施設等の種類と機能
- 第9回 日本における医療ソーシャルワークの歴史と今日的課題
- 第10回 厚生労働省「医療ソーシャルワーカー業務指針」と業務実態
- 第11回 保健医療分野における各専門職の視点と役割(医師・看護師・保健師等)
- 第12回 保健医療分野における各専門職の視点と役割(リハビリ専門職、栄養士等)
- 第13回 保健医療分野における多職種連携の実際
- 第14回 地域包括ケアシステムと多職種連携
- 第15回 地域包括ケアシステムにおける社会福祉士・精神保健福祉士に期待される役割

成績評価の方法 /Assessment Method

評価のウエイトは、学期末試験50%、各回の授業への取り組み50%とします。

学期末試験は、毎回配布する資料の中から出題し、70点以上を合格とします。

各回の授業への取り組みの評価は、2回目以降配布する「質問用紙」と、「受講後の感想用紙」の提出状況で評価します。各用紙の提出が7割未満の場合は不合格とします。ただし、病気や怪我により受講できず、用紙を提出できなかった場合は考慮します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義のテーマについて教科書をもとに事前に予習してください。受講前の学習の時間は60分とします。受講後の復習時間は60分とします。

保健医療サービス【夜】

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

保健医療分野のソーシャルワーカーとして働いてきた経験やその間に学んだことをもとにできるだけ分かりやすい講義になるように努めていきたいと考えています。

諺にもありますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」。学生さんには、是非、積極的に質問や意見を出してもらい、お互いが学び合えるような科目にしたいと思っています。どうかよろしくお願いします。

キーワード /Keywords

その人が望む暮らしの実現、意思決定支援、医療・介護制度改革、医療ソーシャルワーク、医療機能分化と地域連携、地域包括ケアシステム

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW242M	◎		△		
科目名	福祉行財政と福祉計画		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向にて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

(到達目標)

【知識】福祉の行財政の実施体制の知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】福祉行財政に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【】

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2,200円
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
 野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円
 広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として福祉行財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせることでできるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

福祉行財政と福祉計画【夜】

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関する現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW251M	◎		△		
科目名	福祉サービスの組織と経営		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

今の日本社会は、超高齢の環境を見極めながら進まなければならないことが、その経営や専門性にとって重要な課題となっている。地域の崩壊、共働き家庭の保育、親族の介護、高齢期における心身の障がい、8050問題等、特に直接高齢者、障がい者等にサービスを提供する福祉施設等は、20世紀に築かれた措置から21世紀に応じた自立支援運営に改革が求められている。これまで日本の福祉サービス（介護の概念）のあり方は、手厚い施設整備費補助や措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなり、福祉の心という理念に頼った事業が行われてきた。しかし現在、社会保障費の増加や福祉従事者の減少は、日本が築いてきた社会福祉制度とその経営のあり方を根幹から改造しなければならない状況下にある。特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付費用の増大、多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者のBPSDと支え方の確立等、地域包括ケアの構築を確実なものにするという新たな福祉経営がもたらされる時代となった。加えて、福祉施設は人生の高齢期における生活・生命に対するセーフティーネットでもある。利用者の自立や自律ということを運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧に安心が求められる施設経営が必要となっている。地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営とは何か、また経営による利益と地域住民のニーズの関係はどう保たれるべきなのかを学習していく。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステム・保健、医療、福祉による多職種連携による自立支援の効果と経営戦略を学習していく。21世紀型の地域福祉及び福祉経営をわかりやすく講義していく。

(到達目標)

【知識】福祉サービスの経営と管理運営の知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第5版」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。利用者の人権と権利 福祉施設の経営とは
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情受付と対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

福祉サービスの組織と経営【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから社会保障に関するニュースに関心をもってください。また、講義の中で使用される各種統計スライドも興味をもって学んでください。

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何か、またその際のサービスのあり方を学習します。福祉ニーズをポジティブに分析できるアセスメント技術も学習しておくことより理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における経営と利益とは何かを根底に21世紀型の福祉経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営等)を学習します。担当講師は、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、軽費老人ホーム・デーサービスセンター等の事業を運営する社会福祉法人の施設長職を経た現理事(社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員指導者)です。経験した立場から福祉サービスの経営とサービスのあり方を、市民、地域、行政、関係事業者の連携を見据えて講義をしていきます。

キーワード /Keywords

地域包括ケア 法人	多職種連携 組織	ガバナンス ソーシャルワーク	人権擁護 リーダー論	福祉施設経営 人材育成	サービスの質と自立支援 リスクマネジメント	PDCAサイクル 公的介護保険
超高齢者社会	社会保障					

権利擁護と成年後見制度【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 裕之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW250M	◎		△		
科目名	権利擁護と成年後見制度		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

知的障害や精神疾患あるいは認知症等のため、判断能力に問題がある人の日常生活を支える仕組みの現状と課題を学びます。介護保険法・障害者総合支援法により提供される本人の権利擁護のための福祉サービスや、本人に対する権利侵害から本人の生活を守る日常生活支援事業、本人の財産管理能力を補完するための成年後見制度等、福祉職のみならず法律専門職にとって不可欠な法的問題について知識を深めることを目的とします。

(到達目標)

【知識】 ソーシャルワーク実践と法との関わりや成年後見制度の知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】 権利擁護に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」(ミネルバ書房編集部編)等同種のものでも可
「権利擁護と成年後見 実践」(日本社会福祉士会編集)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プロローグ(基本的人権と権利擁護)
- 2回 民法1(権利能力と行為能力)
- 3回 民法2(契約の自由とその修正)
- 4回 民法3(親族と扶養)
- 5回 民法4(相続)
- 6回 福祉サービス~措置から契約へ~
- 7回 介護保険法の仕組み
- 8回 介護保険法と老人福祉法
- 9回 成年後見制度1(法定後見)
- 10回 成年後見制度2(任意後見)
- 11回 障害者総合支援法1
- 12回 障害者総合支援法2
- 13回 高齢者虐待防止法
- 14回 障害者虐待防止法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・60%
期末試験・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書及び実習や活動に関連する情報収集を行うこと。
社会福祉小六法(もしくは同種のもの)は、第6回以降は毎回持参してください。

権利擁護と成年後見制度 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

就労支援サービス【夜】

担当者名 /Instructor 横谷 佳代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW243M	◎		△		
科目名	就労支援サービス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

人が「働く」意義について考え、就労することに支援を必要とする人々について、またその支援の在り方について学びます。相談援助活動の中で必要となる就労支援制度、関連組織そして専門職について知識を得て、理解を深めることがねらいです。

(到達目標)

【知識】

就労につながりにくい人々に対する就労支援に関わる専門的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

就労支援に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新・社会福祉士養成講座第18巻 就労支援サービス 第4版) (中央法規出版) 一般的なテキスト
 「社会福祉士シリーズ18 就労支援サービス 第3版」(弘文堂) 説明が分かりやすい。国試対策用語集付き。
 「新社会福祉士養成課程対応 就労支援サービス」(みらい) 各支援機関の役割などをイメージしやすく紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 就労支援サービスとは？(講義の概要)
- 第2回 現代社会の労働市場と動向
- 第3回 労働に関する法律と制度
- 第4回 障害のある人への就労支援(障害者の雇用・就労の歴史)
- 第5回 障害のある人への就労支援(職業リハビリテーションの実施機関と役割①)
- 第6回 障害のある人への就労支援(職業リハビリテーションの実施機関と役割②)
- 第7回 障害のある人への就労支援(障害福祉サービスにおける就労支援)
- 第8回 障害のある人への就労支援(特別支援教育における就労支援)
- 第9回 障害のある人への就労支援(企業の取り組み・合理的配慮)
- 第10回 障害のある人への就労支援(支援の実際①)
- 第11回 障害のある人への就労支援(支援の実際②)
- 第12回 若年層等・生活困窮者への就労支援
- 第13回 特定求職者への就労支援(母子家庭の母など女性に向けた就労支援)
- 第14回 特定求職者への就労支援(高齢者に向けた就労支援)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 60% ミニレポート(2回) ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示した課題に関してミニレポートを作成し、期日までに提出してください。

履修上の注意 /Remarks

就労支援サービス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

司法福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW244M	◎		△		
科目名	司法福祉論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

(到達目標)

【知識】 罪を犯した人々への福祉的関わりに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 罪を犯した人々の生活支援に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編 (2017) 「新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 第4版」(中央法規)
その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 成人の刑事司法制度①(基礎)
- 第3回 成人の刑事司法制度②(行刑改革)
- 第4回 更生保護制度①
- 第5回 更生保護制度②
- 第6回 触法知的障害者
- 第7回 触法高齢者と地域生活定着支援センター
- 第8回 触法高齢者の社会復帰
- 第9回 精神障害者による触法行為
- 第10回 薬物依存問題への対応①(現状と仕組み)
- 第11回 薬物依存問題への対応②(当事者の声)
- 第12回 子どもの非行①(制度)
- 第13回 子どもの非行②(実践)
- 第14回 被害者支援
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各授業終了後に内容を復習しておくこと。また、定期的に課題を出すので、期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

司法福祉論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW381M		◎	○		△
科目名	相談援助実習指導Ⅰ		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の3点をねらいとする。

- ①相談援助実習の意義について理解する。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

(到達目標)

【技能】ソーシャルワーク実践に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技能を体得している。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【自立的行動力】社会福祉士として求められる専門性等への関心を持ち続け、その改善に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義で適宜紹介します。

相談援助実習指導I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習の意義
- 2.相談援助実習先の理解① 【相談援助実習が可能な機関施設の紹介・説明】
- 3.相談援助実習先の理解② 【高齢者保健福祉分野①】
- 4.相談援助実習先の理解③ 【高齢者保健福祉分野②】
- 5.相談援助実習先の理解④ 【障害福祉分野】
- 6.相談援助実習先の理解⑤ 【福祉事務所・社会福祉協議会等】
- 7.相談援助実習先の理解⑥ 【独立型社会福祉士事務所・医療機関】
- 8.相談援助実習先の決定① 【希望聴取と実習配属】
- 9.相談援助実習先の決定② 【希望聴取と実習配属】
- 10.相談援助実習先の決定③ 【希望聴取と実習配属】
- 11.相談援助実習先の決定④ 【契約書・個人調書（履歴書）等書類の作成】
- 12.相談援助実習先の理解⑦ 【配属先実習分野・機関施設の利用者理解】
- 13.相談援助実習先の理解⑧ 【配属先の根拠・関連法令、運営・経営に関する理解】
- 14.相談援助実習先の理解⑨ 【配属先実習機関施設のある地域に関する理解】
- 15.相談援助実習先の理解⑩ 【配属先実習分野・機関施設の業務理解】
- 16.相談援助実習に向けて 【実習に向けての不安・課題についての話し合い、自己学習計画】
- 17.相談援助実習先の理解⑪ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解①】
- 18.相談援助実習先の理解⑫ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解②】
- 19.相談援助実習先の理解⑬ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解③】
- 20.実習計画の作成① 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 21.実習計画の作成② 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 22.実習計画の作成③ 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 23.実習先事前訪問① 【事前訪問の目的、方法、内容等についての説明】
- 24.実習先事前訪問② 【事前訪問の内容確認】
- 25.実習記録ノートの理解① 【ノートの意義、書き方、取り扱い等に関する説明】
- 26.実習記録ノートの理解② 【ノートの書き方演習】
- 27.巡回指導の理解 【巡回指導の目的と内容・担当教員面接】
- 28.倫理・守秘義務等の理解 【倫理綱領・義務規定・個人情報保護法】
- 29.相談援助実習に向けて最終確認 【事故 / 緊急時対応など】
- 30.実習知識・能力評価 【学習した内容に関する評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

業中の課題・・・50%、期末レポート・・・50%

なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導2」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、自分の実習配属先に関する福祉領域について、文献を読んだり、施設見学したりする等の自主的な学習をしましょう。事後学習としては、実習に臨むにあたってどのような準備が必要なのかを考え、復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目（高齢者保健福祉分野であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を履修しておくこと。

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士

相談援助実習指導Ⅱ【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW382M		△	◎		○
科目名	相談援助実習指導Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の2点をねらいとする。

- ①社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ②具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

(到達目標)

【技能】ソーシャルワーク実践に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技能を体得している。

【思考・判断・表現力】ソーシャルワーク実践に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

【自立的行動力】社会福祉士として求められる専門性等への関心を持ち続け、その改善に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 相談援助実習を終えて
- 2.相談援助実習の振り返り① 【グループワーク、個別面談】
 - 3.相談援助実習の振り返り② 【 ” ” 】
 - 4.相談援助実習の振り返り③ 【 ” ” 】
 - 5.相談援助実習の振り返り④ 【 ” ” 】
 - 6.相談援助実習の振り返り⑤ 【 ” ” 】
 - 7.相談援助実習の振り返り⑥ 【実習報告会に向けての準備、実習総括レポートの作成】
 - 8.相談援助実習の振り返り⑦ 【 ” ” 】
 - 9.相談援助実習の振り返り⑧ 【 ” ” 】
 - 10.相談援助実習の振り返り⑨ 【 ” ” 】
 - 11.相談援助実習の振り返り⑩ 【 ” ” 】
 - 12.相談援助実習の振り返り⑪ 【 ” ” 】
 - 13.相談援助実習の振り返り⑫ 【 ” ” 】
 - 14.相談援助実習の振り返り⑬ 【 ” ” 】
 - 15.実習報告会の開催 【実習報告、全体総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・・・50%、期末レポート・・・50%

なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導1」との連携科目であり、いずれかのみ単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、実習ノートの内容の振り返りをしましょう。

事後学習としては、毎回出される課題に取り組み、次回の講義へ備えましょう。

相談援助実習指導II【夜】

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目（例えば高齢者保健福祉分野を希望する場合であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を履修しておくこと。

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導1」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉士

マクロ経済学入門【夜】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN112M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレ（デフレ）といった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、より専門的なマクロ経済学Ⅱの講義内容を理解するための基礎的素養の習得を目的とする。
(到達目標)

- 【知識】マクロ経済学の入門的知識を身につけている。
- 【技能】マクロ経済分析に必要な概念を活用できる。
- 【思考】日本経済の問題点を考察することができる。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- テキストに沿って講義を行う。
- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 - 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【三面等価の原則】
 - 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【名目と実質】
 - 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【景気】
 - 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【1人当たりGDP】
 - 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
 - 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
 - 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
 - 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
 - 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 - 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【所得税・消費税・法人税について】
 - 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗と政府の役割】
 - 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【日本の財政の問題】
 - 14回 第8章 海外に目を向けてみよう【為替レート】【裁定取引】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全10回の授業内容確認テスト(20%) + 全3回の課題(30%) + 期末試験 もしくは 期末課題(50%)

マクロ経済学入門【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。
授業課題に取り組みましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業時間内の課題に取り組むにあたって、スマートフォンあるいは携帯用パソコンが必要ですので持参しましょう。
授業時間内の課題に取り組むにあたって、電卓の持参を推奨します。
毎回、Moodleコースを閲覧すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN113M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学 I			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

ミクロ経済学I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学Ⅱ【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN210M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学Ⅰ」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ（中級ミクロ経済学）の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学（微分・積分）の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

金融論【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN222M	◎	○	○		
科目名	金融論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【金融とは】
- 2回 金融市場の基礎知識【金融市場の機能】【直接金融と間接金融】
- 3回 金融機関の役割【資産変換】【信用創造】
- 4回 金融機関の分類と再編【金融持ち株会社】
- 5回 金融市場の基礎知識【相対型取引】【市場型取引】
- 6回 短期金融市場と長期金融市場【コール市場】【株式市場】
- 7回 金融市場の変化【日本版ビックバン】
- 8回 株式市場と社債市場の変化【PTS】【格付け会社】
- 9回 金融規制【戦後の金融規制】【護送船団方式】
- 10回 不良債権問題と銀行破綻【不良債権とは】【預金保険制度】
- 11回 プルーデンス政策【事前規制】【事後規制】
- 12回 市場型間接金融【市場型間接金融とは】【アンバンドリング】
- 13回 投資信託【投資信託の仕組み】【投資信託のメリット】
- 14回 資産の流動化と証券化【証券化とは】【SPV】
- 15回 シンジケートローン【シンジケートローンの役割】【メリット・デメリット】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容確認課題... 50%、期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジュメを印刷し、目を通しておく。
講義後には、講義内容について復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

レジユメをMOODLEから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN230M	◎		○		○
科目名	経済地理学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地 【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習と課題 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習と課題 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学II、経済地理学特講や地域経済I・II、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

環境経済学 【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN328M	◎		○		○
科目名	環境経済学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話を聴くだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

(到達目標)

【知識】

環境経済学を (体系的かつ総合的に) 理解している。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、環境・エネルギー政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

【自立的行動力】

環境・エネルギー問題への関心とキャリア意識を持ち続け、持続可能な社会に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木 (2008)、『環境経済学をつかむ』有斐閣
 時政・藪田・今泉・有吉編 (2007)、『環境と資源の経済学』勁草書房○
 日引 聡、有村俊秀 (2002)、『入門 環境経済学』、中公新書○
 マンキュー (2005)、『マンキュー経済学! ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社○
 R. K.ターナー他 (2001)、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

環境経済学 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモنز】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。

経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報科学入門 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 芳博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100M	◎	○	○		
科目名	情報科学入門			<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>	

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営管理論 【夜】

担当者名 /Instructor 岸野 早希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS110M	◎	○	○		
科目名	経営管理論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

皆さんは大学を卒業後、多くの時間を企業組織において過ごすことになります。その企業組織内では日々の人々の相互作用のなかで多くの現象が起こっています。その現象を捉えるとともに、それぞれの現象に対してどのような管理がなされているのかということを中心に学んでいきます。

(到達目標)

【知識】 経営管理に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 経営管理に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】 経営管理に関する諸問題を論理的に考察し、自身の考えを表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織：個人の論理と組織の論理』有斐閣アルマ
上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明『経験から学ぶ経営学入門：第2版』有斐閣
開本浩矢(編)『入門組織行動論:第2版』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 企業で働くこととは
3. 組織への適応
4. 組織文化
5. モチベーションと規則の関係①
6. モチベーションと規則の関係②
7. キャリア開発
8. リーダーシップ
9. 集団のダイナミズム
10. コンフリクト・マネジメント
11. 組織デザイン
12. 環境のマネジメント
13. 組織変革
14. 経営理念
15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前配布のレジュメに目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

講義のレジュメはWeb上でダウンロードして持参してください(初回の講義で案内します)。

経営管理論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス入門【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS111M	◎	○	○		
科目名	ファイナンス入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

金融市場は、事業や消費のために資金を必要とする資金不足主体が、余剰資金を有する主体から資金を調達する場であり、経済活動の活性化や貯蓄手段の提供など非常に重要な役割を果たしている。金融取引を行うためにさまざまな証券が発行され、投資家間で売買されるとともに、金融市場で価格が形成されている。本講義では、金融市場を理解するための基礎的な内容を解説する。講義の前半では、証券の種類や発行規模、証券の発行主体である企業の行動とその分析方法など、基礎知識の理解に重点を置く。後半では、株式価値計算やポートフォリオの効果など、金融市場のメカニズムを理解し、適切な貯蓄や企業経営を行うための基礎的な理論・計算を学習する。本講義は、2年次以降に担当される企業ファイナンスI・II、証券市場論、企業評価論I, IIの基礎となる。

【到達目標】

知識：ファイナンスに関する基礎的な知識を身につけている。

技能：ファイナンスに関する新聞記事・ニュースを理解することができる。

思考・判断・表現力：ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹『コーポレート・ファイナンス』創成社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス【講義の目的・概要、金融市場、成績評価方法】
2. 証券の基礎①【債券、株式、発行市場、流通市場、リスク、リターン】
3. 証券の基礎②【国債、イールドカーブ、社債、IPO、公募、私募、第三者割当、投資家】
4. 企業形態と株式会社【有限責任、無限責任、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社、所有と経営の分離】
5. 企業金融と財務諸表①【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、資金調達、投資、配当】
6. 企業金融と財務諸表②【自己資本比率、ROA、ROE、PBR、PER、配当性向、配当利回り】
7. リスク・リターンの基礎【期待収益率、標準偏差、レバレッジ効果】
8. 中間試験
9. 現在価値計算【現在価値、複利、利子率、割引率、リスクプレミアム】
10. 債券価値の評価【債券価格、利付債、割引債】
11. 株式価値の評価【配当割引モデル、一定配当モデル、一定成長モデル】
12. ポートフォリオ理論①【共分散、相関係数、リスク資産、リスク分散、有効フロンティア】
13. ポートフォリオ理論②【安全資産、CML、シャープレシオ】
14. CAPM【リスク・リターン、ベータ、システムティック・リスク、SML】
15. 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、中間試験40%、期末試験40% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義資料を読んでおくこと。講義終了後、必ず復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

ファイナンス入門【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理論【夜】

担当者名 /Instructor 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS310M	◎	○	○		
科目名	人的資源管理論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

昨今、日本では様々な労働に関する問題がニュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では、その多々ある切り口の一つとして、人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は、企業内の人々をいかに生き生きと働けるようにするかということを人事管理制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで、企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。

この講義を通して、巷にあふれる労働に関する問題について、さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下、各到達目標について

知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。

技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。

思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書：奥林康司・上林憲雄・平野光俊（2010）編著『入門人的資源管理 第2版』中央経済社。
その他適宜配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献：平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理 - 人と企業、ともに生きるために - 』有斐閣ストウディア。

人的資源管理論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。

第2回 経営学の中での人的資源管理論（1）

人的資源管理論とはどういう分野なのか，隣接研究分野との関係等から学びます。

第3回 経営学の中での人的資源管理論（2）

人的資源管理論の主役はあくまでも人事管理というシステムです。この考え方について学びます。

第4回 人事等級制度

人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。

第5回 人事考課制度と賃金制度（1）

人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。

第6回 人事考課制度と賃金制度（2）

人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，賃金制度について考課制度と関連付けながら学びます。

第7回 能力開発

企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。

第8回 雇用管理

日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。

第9回 労働時間（1）

ここまで学んだ日本企業における人事管理の特徴から，労働者の働き方にどのような特徴が出てくるのか，労働時間に着目しながら考えていきます。

第10回 労働時間（2）

日本労働者の労働時間について，今どのような問題が出てきているのか，それはどのような文脈からなのか，これらについて考えていきます。

第11回 労使関係と福利厚生制度

日本的労使関係の特徴および，日本企業における福利厚生の特徴とその変化について学びます。

第12回 非正規労働者

近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に非正規労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。

第13回 女性労働者

近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に女性労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。

第14回 高齢労働者

近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に高齢労働者というカテゴリーに着目して，その問題点等を学びます。

第15回 まとめ

全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験50%，中間レポート50%で評価する。

60点以上の者に単位を与える。

※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。

事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS313M	◎		○		○
科目名	中小企業論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税金など、わが国経済に直結します。

- ・ 企業数の割合 = 99.7%
- ・ 従業員数の割合 = 68.8%
- ・ 付加価値額の割合 = 52.9%

(注：経済センサス(2016)による、個人事業主を含む)

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。
また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

(到達目標)

【知識】

中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】

中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。

【自律的行動力】

中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
 渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
 安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
 商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
 中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 中小企業とは
- 第3回 製造業①…製造業で働きませんか？
- 第4回 製造業②…現状と展望
- 第5回 非製造業(流通業、小売業、サービス業など)…現状と展望
- 第6回 外部講師による講和①
- 第7回 ベンチャー企業
- 第8回 新事業展開
- 第9回 人材の確保と育成
- 第10回 海外展開
- 第11回 ベトナムにおける中小企業支援事例
- 第12回 外部講師による講和②
- 第13回 資金調達と金融機関の役割
- 第14回 国及び地方自治体による中小企業支援政策
- 第15回 まとめ

※授業計画・内容に変更があるときは、事前にお知らせします。

成績評価の方法 /Assessment Method

適宜、レポートを課します(50%)。期末試験は行いません。
授業の取り組み度合についても評価の対象とします(50%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府は何を講じようとしていますか。小規模事業者持続化補助金って何ですか。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。中小企業は、身近な存在です。

- ・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
- ・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
- ・ 自ら起業して経営する。
- ・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード /Keywords

臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY230M	◎				
科目名	臨床心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY220M	◎				
科目名	発達心理学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

発達心理学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

身体適応論 【夜】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS231M	◎	○			
科目名	身体適応論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU223M	◎				
科目名	教育社会学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐると教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐると社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション —教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐると近年の動向 —初等教育
- 第3回学校をめぐると近年の動向 —中等教育
- 第4回子どもをめぐると社会の変化 —少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 —家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 —学校教育
- 第7回諸外国の教育 —青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 —家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 —孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 —メディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 —社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 —地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・ 30%、課題レポート・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

教育社会学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

民法入門【夜】

担当者名 /Instructor 畑中 久彌 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW160M	○	○	◎		
科目名	民法入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

民法とは、私たち一人ひとりの様々な人間関係（財産面と家族面）を対象とした法律です。たとえば、コンビニでお菓子を買う（売買）、結婚や離婚をする、親が亡くなったので財産を相続するなど、私たちの日常生活は、民法と無関係ではられません。このように、民法は幅広い場面を対象とした法律であるため、条文は1050条あり、その内容も多彩です。

そのため、民法の授業は、複数に分かれており、年次・学期に応じて積み上げていく形になっています。

1年2学期「民法総論」、「親族法」

2年1学期「債権総論」、「物権法」、2学期「債権各論I」「担保物権法」「相続法」

3年1学期「債権各論II」

このように授業が3年に及び、分野も幅広いうえ、民法はクロス・リファレンスの多い法律なので、まず全体像をつかみ、かつどの分野の学習にとっても必要となる重要部分を学習することが必要です。1年1学期の「民法入門」は、そのための授業です。

(到達目標)

【知識】民法学の全体像に関する基礎的な知識を身につけている

【技能】民法学を学ぶための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学に関する基礎的な課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

①生田敏康＝畑中久彌＝道山治延＝菱輪靖博＝柳景子『民法入門』（法律文化社、2017年）；定価（2,000円＋税）

②最新年度の小型六法（出版社は特に問いません。）

※上記2点を購入し、毎回必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※さしあたり、○池田 真朗『スタートライン民法総論〔第3版〕』（日本評論社、2018年）；定価（2,200円＋税）を挙げておきます。その他の参考書については、講義の中で、適宜（レジュメにて）紹介します。

民法入門【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード・単元の小項目を示します。)
 ※レジュメ(プリント)を適宜配布しますが、上記指定教科書および六法は、毎回持参してください。
- 第1回：ガイダンス；民法入門【民法とは何を規律する法か？】、【民法の世界を図示する！？】、【私法の一般法】、【財産法と家族法】、【民法の3大原則(基本原理)】
- 第2回：民法を学ぶ上での基礎概念(条文の読み方も含む。)の修得とパンデクテン・システム入門【物権と債権】、【民法典の歴史と債権法改正など】、【法律要件・法律効果・法律事実・要件事実】、【パンデクテン・システム】
- 第3回：「民法総則」の世界①【民法総則という巨大な「共通因数？」】、【自然人と法人】、【権利能力・意思能力・行為能力】
- 第4回：「民法総則」の世界②【法律行為(民法総則の最難関?)】、【意思表示；意思の不存在と瑕疵ある意思表示?】、【代理】、【取得時効と消滅時効】
- 第5回：「物権法」の世界①【物権と債権の違い・物権の種類】、【私権の客体である「物」】、【所有権とその内容】
- 第6回：「物権法」の世界②【物権変動論】、【「公示の原則」と「公信の原則」とは?】、【即時取得】
- 第7回：「担保物権法」の世界と「債権総論」の世界①【担保物権の女王である「抵当権」】、【その他の担保物権】、【債権とは?再論】、【債権の目的と効力】
- 第8回：「債権総論」の世界②【責任財産の保全】、【多数当事者の債権関係】
- 第9回：「債権総論」の世界③と「債権各論」の世界①【債権譲渡・債務引受け・債権の消滅】、【債権各論とは何か?】、【契約とは何か?】、【契約の種類・分類】、【契約の成立・効力】
- 第10回：「債権各論」の世界②【契約の解除】、【典型契約とは?】、【贈与・売買】、【賃貸借・消費貸借】、【請負・委任】、【その他の契約?】
- 第11回：「債権各論」の世界③(最高裁判決を実際に読んでみよう!も予定。)
 【法定債権関係とは?】、【不法行為とは?】、【一般不法行為の要件と効果】、【特殊の不法行為】、【事務管理・不当利得】
- 第12回：「親族法」の世界①【婚姻(夫婦関係の成立とその効果)】、【婚姻の終了(離婚の要件と効果)】
- 第13回：「親族法」の世界②【親子法とは?】、【実親子関係】、【養親子関係】、【親権・後見・扶養】
- 第14回：「相続法」の世界【法定相続】、【遺産分割】、【遺言】、【遺留分とは何か?】
- 第15回：まとめ(債権法改正と相続法改正)【債権法改正の本質(契約法における「過失責任主義の放逐?」)】、【相続法改正がもたらすもの】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※中間レポートの成績(2,000字程度の予定).....20%
 ※期末定期試験の成績(60分間).....80%
 以上の合算(合計100%)で評価します。なお、期末定期試験は、「六法のみ持込み可」とする予定です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】上記指定教科書①の重要部分(レジュメに指定頁を記載予定)を次回授業時まで必ず「通読」してきてください。解からない部分にマーカーなどを付しておく、講義を聴く際に理解すべき点が明確になります。
- 【事後学習】レジュメ末尾に簡単な「理由を付す〇×問題」を掲載予定です。これを必ず解いて、理解度の把握・復習に務めてください。たまに抜打ち「小テスト」や「ミニ・レポート」作成をするかもしれません。

履修上の注意 /Remarks

- この科目は、「法学総論」および「日本国憲法原論」とともに、「導入科目群」として位置づけられています。法学を学ぶ上で、基礎・基本となる重要科目ですから、これらすべてをできる限り並行して受講し、学んだ内容を相互に関連付けられるようにして行ってください。また、六法は毎回必ず持参してください。法学を学ぶ者は、「スマホを忘れても、六法は忘れるな!」です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1年次2学期以降学んでいく、さまざまな民法科目で解からない点が出てきたとき、この授業の内容を思い出してもらえれば幸いです。そのような授業とするためにも、皆さんは、上記【事前学習】および【事後学習】にもしっかりと取り組んで、民法学習の良いスタートを切ってください。
- 講義内容で解からない点が出てきたときは、遠慮なく質問をしてください。

キーワード /Keywords

- 民法とは?、現行民法と改正民法、民法(典)の歴史、私法の一般法、法律要件・法律効果・法律事実・要件事実、物権、債権、親族、相続、民法の解釈(論)

行政法総論【夜】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW222M	◎	○	○		
科目名	行政法総論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

(到達目標)

【知識】行政法学の作用法および組織法に関する知識を体系的に身につけている。

【技能】行政法学の作用法および組織法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】行政法学の作用法および組織法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

行政法総論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法とは
- 第2回 行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
- 第3回 行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
- 第4回 行政組織(1)【行政組織の概念】
- 第5回 行政組織(2)【国、地方の行政組織】
- 第6回 行政立法(1)【法規命令】
- 第7回 行政立法(2)【行政規則】
- 第8回 行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
- 第9回 行政行為(2)【行政行為の効力】
- 第10回 行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
- 第11回 行政行為(4)【職権取消しと撤回】
- 第12回 行政行為(5)【行政行為の附款】
- 第13回 行政裁量(1)【行政裁量の概念】
- 第14回 行政裁量(2)【裁量の存否】
- 第15回 行政裁量(3)【裁量審査】
- 第16回 行政契約
- 第17回 行政指導
- 第18回 行政計画
- 第19回 行政の実効性確保手段(1)【行政上の強制執行】
- 第20回 行政の実効性確保手段(2)【行政罰】、即時強制
- 第21回 行政調査
- 第22回 行政手続(1)【行政手続の意義】
- 第23回 行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
- 第24回 行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
- 第25回 行政情報(1)【情報公開制度】
- 第26回 行政情報(2)【情報公開争訟】
- 第27回 行政情報(3)【個人情報保護制度】
- 第28回 公法と私法
- 第29回 進度調整
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、中間テスト20%
※授業形式(対面/遠隔)によって、変更することがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

NPO論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC114M	○	△	◎		
科目名	NPO論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点も必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

（到達目標）

【知識】NPOに関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】NPOについて必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】NPOについて複眼的に思考し、自分の考えや意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。
坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』(法律文化社、2017年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 地域NPO(1)【多機関連携】
- 15回 地域NPO(2)【地縁団体化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。
遠隔授業になった場合も第1回目の講義で授業の進め方や成績評価について説明しますので、必ず視聴するようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

地方自治論【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PAD211M	○	△	◎		
科目名	地方自治論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、特に歴史面を中心に基礎理解をめざす。

(到達目標)

- DP3 思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。
- DP1 知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。
- DP2 技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【歴史】【明治の地方自治】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【歴史】【明治大正の地方自治】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【歴史】【戦前期の地方自治】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【歴史】【戦後民主改革】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【歴史】【高度経済期】
- 8回 自治体首長と中央地方関係⑥【歴史】【低成長期以降】
- 9回 自治体首長と中央地方関係⑦【歴史】【1990年代以降の改革】
- 10回 地方分権改革①【機関委任事務の歴史】
- 11回 地方分権改革②【地方議会と首長】
- 12回 市町村合併①【平成の大合併】
- 13回 市町村合併②【合併の効果】
- 14回 現代の地方自治の動き①【地方分権一括法の動向】
- 15回 現代の地方自治の動き②【地方創生など】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

地方自治論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。また、後期の地方行政改革論は地方自治論のより具体的な現代的な課題を講義しますので、セットで受講されるとより学習効果が増します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

福祉政策論【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC217M	○	△	◎		
科目名	福祉政策論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

（到達目標）

【知識】社会福祉サービスについて基礎的な知識を身につけている。

【技能】社会福祉サービスを利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会福祉サービスの課題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の民間組織
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 保育所改革（幼保一体化）
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「児童福祉」 少子化対策。男女共同参画をめぐる議論
- 第12回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第13回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第14回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第15回 まとめ

福祉政策論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

第2回～第13回の授業において出席をとります。欠席は3回まで認められます。欠席4回目以降は欠席1回につき、3点減点します。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。大部分はレジュメから出題されます。13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、試験は、レポート試験に変更される場合もあります。

また、受講人数が多い場合、欠席による減点を緩和する場合があります。

大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

遅刻は授業開始から20分まで認められます。20分経過後の入室を禁止します。指示に従わず着席した人には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

特別支援教育論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU263M	◎				
科目名	特別支援教育論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業計画
- オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
 - 特別支援教育の教育制度と教育課程
 - 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
 - 自閉スペクトラム症の当事者研究
 - 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
 - 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
 - セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
 - 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
 - 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援(外部講師)
 - 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
 - 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
 - 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
 - インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
 - インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
 - インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校
- 全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月上旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート25点、平常点25点(+ボーナス点)、期末試験 50点

特別支援教育論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

教育相談【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU261M	◎		○		
科目名	教育相談				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。
また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

- 【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

教育相談【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

生徒指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU262M	◎				
科目名	生徒指導論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト

参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

生徒指導論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールカウンセラーとの連携
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携 - スクールソーシャルワーカーその他との連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点、試験80点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU111M	◎				
科目名	教職論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業に必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点

教職論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提に進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育ててもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像